兵庫県文化財調査報告　第451冊

三田市

大池ノ南遺跡

－県営三田大池住宅第２期建替事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－

平成25（2013）年３月

兵庫県教育委員会

大池ノ南遺跡

兵庫県文化財調査報告　第451冊

兵庫県教育委員会

24教Ⓣ1-031A4

三田市

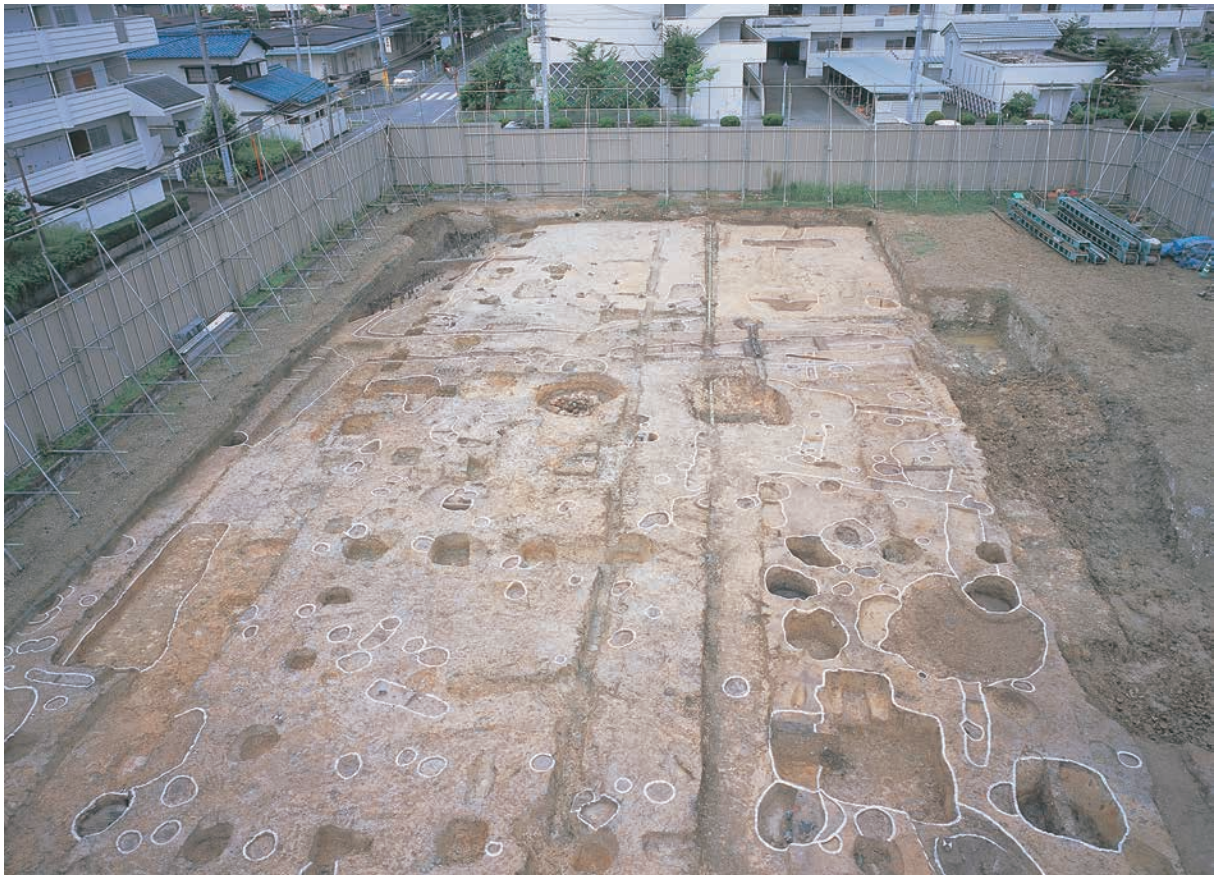
大池ノ南遺跡

－県営三田大池住宅第２期建替事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－

平成25（2013）年３月

兵庫県教育委員会

調査地遠景（南上空から）



調査区全景（東から）

SD03（南西から）

SD03を中心とする出土遺物

例　言

1　本書は、三田市西山１丁目に所在する大池ノ南遺跡の発掘調査報告書である。

2　本調査は、県営三田大池住宅第２期建替事業に伴うもので、兵庫県県土整備部住宅建築局の依頼に基づき、兵庫県教育委員会を主体として、兵庫県立考古博物館を調査機関として実施した。また、出土品整理は、兵庫県県土整備部住宅建築局の依頼に基づき、兵庫県教育委員会を主体として、平成23年度は兵庫県立考古博物館が、平成24年度は公益財団法人兵庫県まちづくり技術センター埋蔵文化財調査部が実施した。

3　調査の推移

（発掘作業）

確認調査　平成６年８月９日・10日・22日

実施機関：兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所

平成21年９月14日

実施機関：兵庫県立考古博物館

本発掘調査　平成20年７月14日～平成20年９月24日

実施機関：兵庫県立考古博物館

工事請負：株式会社　中田工務店

空中写真測量委託：株式会社ジオテクノ関西

本発掘調査　平成22年10月５日～平成22年10月22日

実施機関：兵庫県立考古博物館

工事請負：株式会社　白原工務店

空中写真測量委託：伸栄開発株式会社

（出土品整理作業）

平成23年４月１日～平成24年３月31日

実施機関：兵庫県立考古博物館

平成24年４月１日～平成25年３月31日

実施機関：公益財団法人兵庫県まちづくり技術センター埋蔵文化財調査部

遺物写真撮影委託：株式会社　タニグチフォト

4　本書の編集等に係る作業・執筆は、公益財団法人兵庫県まちづくり技術センター埋蔵文化財調査部久保弘幸・深江英憲・渡辺　昇が担当した。また、各節の執筆分担は、本文目次に記載した。

5　本調査において出土した遺物や作成した写真･図面類は、兵庫県教育委員会（兵庫県立考古博物館）で保管している。

6　本書に使用した方位は国土座標（第Ⅴ系）の座標北を示す。また、標高値は東京湾平均海水面（T.P.）を基準とした。（世界測地系に換算）

本文目次

第１章　調査の経緯と経過……（深江英憲）１
　第１節　調査に至る経過
　第２節　調査の概要
　第３節　整理作業
第２章　遺跡の位置と環境……（深江）３
第３章　発掘調査の成果
　第１節　概要……（深江）４
　第２節　遺構……（久保弘幸・深江）４
　第３節　遺物……（久保・深江）10
第４章　自然科学分析
　第１節　兵庫県大池ノ南遺跡出土木製品の樹種調査結果……（㈱吉田生物研究所）16
　第２節　大池ノ南遺跡（種子同定）報告……（パリノ・サーヴェイ株式会社　辻本裕也・松本美由紀）25
　第３節　大池ノ南遺跡出土遺物胎土分析……（㈱第四紀　地質研究所　井上　巌）27
第５章　まとめ……（深江）34

挿図目次

第１図　確認トレンチ及び本調査区配置図……２
第２図　樹種切片顕微鏡写真……19～24
第３図　種実遺体……26
第４図　Mo-Mi-Hb三角ダイヤグラム……31
第５図　Mo-Ch, Mi-Hb菱形ダイヤグラム……31
第６図　Qt-PI図……32
第７図　SiO_2-Al_2O_3図……32
第８図　Fe_2O_3-TiO_2図……33
第９図　K_2O-Cao図……33
第10図　白洲退蔵の墓……34

表目次

第１表　出土石器一覧表……11
第２表　出土遺物観察表……12～15
第３表　兵庫県大池ノ南遺跡出土木製品同定表……18
第４表　種実同定結果……25
第５表　胎土性状表……30
第６表　化学分析表……30
第７表　タイプ分類表……30
第８表　組成分類表……30

巻頭写真図版目次

巻頭写真図版１　調査地遠景（南上空から）
　　調査区全景（東から）
巻頭写真図版２　SD03（南西から）
　　SD03を中心とする出土遺物

図版目次

図版１　Ａ地区平面図
図版２　調査区南壁断面図
図版３　調査区西壁断面図
図版４　SB03平面図・断面図
図版５　SB03柱穴断面図①
図版６　SB03柱穴断面図②
図版７　SB04平面図・断面図
図版８　SB05平面図・柱穴断面図
図版９　柱穴内根石検出状況平面図・断面図
図版10　土坑平面図・断面図①
図版11　土坑平面図・断面図②
図版12　土坑平面図・断面図③
図版13　土坑平面図・断面図④
図版14　土坑平面図・断面図⑤
図版15　井戸等平面図・断面図
図版16　溝平面図・断面図
図版17　SD03護岸部分平面図・見通し図
図版18　SD03畦断面図
図版19　溝平面図・断面図②　埋甕平面図・断面図
図版20　Ｂ地区平面図
図版21　Ｂ地区遺構図①
図版22　Ｂ地区遺構図②
図版23　Ｂ地区遺構図③
図版24　出土土器①
図版25　出土土器②
図版26　出土土器③
図版27　出土土器④
図版28　出土土器⑤
図版29　出土土器⑥
図版30　出土土器⑦
図版31　出土土器⑧
図版32　出土土器⑨
図版33　出土土器⑩
図版34　出土土器⑪
図版35　出土土器⑫
図版36　出土土器⑬
図版37　出土土器⑭
図版38　出土土器⑮
図版39　出土土器⑯
図版40　出土土器⑰
図版41　出土土器⑱
図版42　出土土器⑲
図版43　出土土器⑳
図版44　出土土器㉑
図版45　出土土器㉒
図版46　出土土器㉓
図版47　出土土器㉔
図版48　出土土器㉕
図版49　出土石器
図版50　出土木器①
図版51　出土木器②
図版52　出土木器③
図版53　出土木器④
図版54　出土金属器

写真図版目次

写真図版１　全景（東から）
全景（西から）
写真図版２　SB01（南西から）
SB02（東から）
SB03（北から）
Ｐ17断面（西から）
Ｐ35断面（北から）
Ｐ15断面（北から）
Ｐ32断面（北から）
Ｐ30断面（東から）
Ｐ26断面（西から）
写真図版３　Ｐ19断面（西から）
Ｐ31断面（東から）
Ｐ34断面（西から）
Ｐ27断面（南から）
Ｐ01断面（北から）
Ｐ28断面（南から）
Ｐ29断面（南から）
SK06（Ｐ46）断面（北から）
SB04（東から）
SB05（東から）
Ｐ36断面（北から）
Ｐ37断面（北から）
Ｐ39断面（西から）
写真図版４　Ｐ23（南から）
Ｐ24（北から）
Ｐ25（西から）
Ｐ40（北から）
上：SK01遺物出土状況（東から）
左：SK01（東から）
SK02断面（西から）
SK04遺物出土状況
SK08断面（西から）
SK11断面（東から）

	SK12断面（南から）
	SK13断面（西から）
	SK16断面（西から）
	SK18（南から）
	SK19断面（西から）
写真図版５	SK21断面（北から）
	SK22断面（北から）
	SK23断面（南から）
	左：SK24（東から）
	左上：SK26（南から）
	右上：SK28（東から）
	SK34・40（南から）
	SK29断面（南から）
	SK30断面（南から）
	左上：SE01（東から）
	中上：SX02（北から）
	右上：SD01断面f-f’（南から）
	左：埋甕（東から）
写真図版６	左上：SD01断面a-a’（北から）
	右上：SD02・14断面（北から）
	左：SD02断面c-c’（南から）
	SD03（西から）
	SD03断面（西から）
	上：SD03（南西から）
	左上：SD03遺物出土状況①
	左：SD03遺物出土状況②・③
写真図版７	SD05断面f-f’（南から）
	SD06断面f-f’（南から）
	SD10断面（東から）
	調査区南壁（北西から）
	調査区西壁（東から）
	現地説明会①
	現地説明会②
写真図版８	Ｂ地区調査区全景（空中写真）
写真図版９	調査区全景（南から）
	調査区全景（北から）
	調査区全景（南東から）
写真図版10	池状遺構（SK21）全景（西から）
	池状遺構（SK21）断面（西から）
	池状遺構（SK21）遺物出土状況（北から）
写真図版11	池状遺構（SK21）遺物出土状況（垂直）
	不明遺構（SX09）断面（南から）
	不明遺構（SX09）礫除去後（南から）
写真図版12	柱穴３断面（南から）
	柱穴５根石検出状況（南から）
	柱穴26遺物出土状況（南から）
写真図版13	柱穴34根石検出状況（南から）
	柱穴38土器出土状況（南から）
	柱穴２断面（南から）
写真図版14	溝１断面（南から）
	溝４断面（南から）
	溝17断面（南から）
写真図版15	溝22（左）・23（右）断面（南東から）
	溝24断面（東から）
	土坑18断面（北東から）
写真図版16	井戸25断面（南東から）
	井戸25検出状況（南東から）
	井戸25断ち割り断面（南東から）
写真図版17	調査前の状況（北から）
	機械掘削状況
	人力掘削状況
写真図版18	出土土器①
写真図版19	出土土器②
写真図版20	出土土器③
写真図版21	出土土器④
写真図版22	出土土器⑤
写真図版23	出土土器⑥
写真図版24	出土土器⑦
写真図版25	出土土器⑧
写真図版26	出土土器⑨
写真図版27	出土土器⑩
写真図版28	出土土器⑪
写真図版29	出土土器⑫
写真図版30	出土土器⑬
写真図版31	出土土器⑭
写真図版32	出土土器⑮
写真図版33	出土土器⑯
写真図版34	出土土器⑰
写真図版35	出土土器⑱
写真図版36	出土土器⑲
写真図版37	出土土器⑳
写真図版38	出土土器㉑
写真図版39	出土土器㉒
写真図版40	出土土器㉓
写真図版41	出土土器㉔
写真図版42	出土石器
写真図版43	出土木器①
写真図版44	出土木器②
写真図版45	出土木器③
写真図版46	出土木器④
写真図版47	出土金属器

第１章　調査の経緯と経過

第１節　調査に至る経過

大池ノ南遺跡は、三田市西山１丁目に所在する。既に埋蔵文化財包蔵地として周知されていた当該地については、兵庫県県土整備部住宅建築局が計画を進める県営三田大池住宅第２期建替事業に伴い、平成６年度及び平成21年度の確認調査（遺跡調査番号：940222・2009209）において遺構を検出した（平成６年度：94－15Ｔ・16Ｔ・17Ｔ、平成21年度：09－2Ｔ）等の調査結果に基づいて、住宅建替に係る掘削範囲における、要本発掘調査範囲を確定した。

当該事業は、事業計画敷地内において２棟の住宅を建設するため、先ず南側の建物（２期－１）の本発掘調査を実施後、住宅を建設し、その後、北側の既存住宅を撤去して、本発掘調査を実施後住宅（２期－２）を建設するといったい二段階方式で実施されることとなった。そして、入居者の退去及び既存住宅の撤去等の条件が整ったため、兵庫県知事からの平成20年２月27日付け　公住第1236号の依頼に基づき、２期－１の本発掘調査（遺跡調査番号：2008079）「Ａ地区」を、同じく兵庫県知事からの平成22年４月12日付け　公住第1012号の依頼に基づき、２期－２の本発掘調査（遺跡調査番号：2010151）「Ｂ地区」を実施した。

確認調査、本発掘調査の体制は、以下の通りである。

１　確認調査（遺跡調査番号：940222）

調査主体：兵庫県教育委員会

調査担当者：兵庫県教育委員会　埋蔵文化財調査事務所　　調査第２班　主査　水口富夫

調査期間：平成６年８月９日・10日・22日

調査面積：102㎡

確認調査（遺跡調査番号：2009209）

調査主体：兵庫県教育委員会

調査担当者：兵庫県立考古博物館　埋蔵文化財調査部　　企画調整班　主査　小川弦太

調査期間：平成21年９月14日

調査面積：９㎡

２　本発掘調査（遺跡調査番号：2008079）「Ａ地区」

調査主体：兵庫県教育委員会

調査担当者：兵庫県立考古博物館　埋蔵文化財調査部　　調査第１班　主査　別府洋二

主査　深江英憲

調査期間：平成20年７月14日～平成20年９月24日

調査面積：847㎡

本発掘調査（遺跡調査番号：2010151）「Ｂ地区」

調査主体：兵庫県教育委員会

調査担当者：兵庫県立考古博物館　埋蔵文化財調査部　　調査第１課　主査　渡辺　昇

主査　久保弘幸

調査期間：平成22年10月５日～平成22年10月22日

調査面積：375㎡

第２節　調査の概要

大池ノ南遺跡は、大池を隔てた北側丘陵上に存在する周知の埋蔵文化財包蔵地である三田城跡及び古城遺跡を臨む丘陵上に位置し、当該事業予定地である三田市西山１丁目は、北側の大池に向かって伸びる傾斜地形南側の平坦地に立地する。

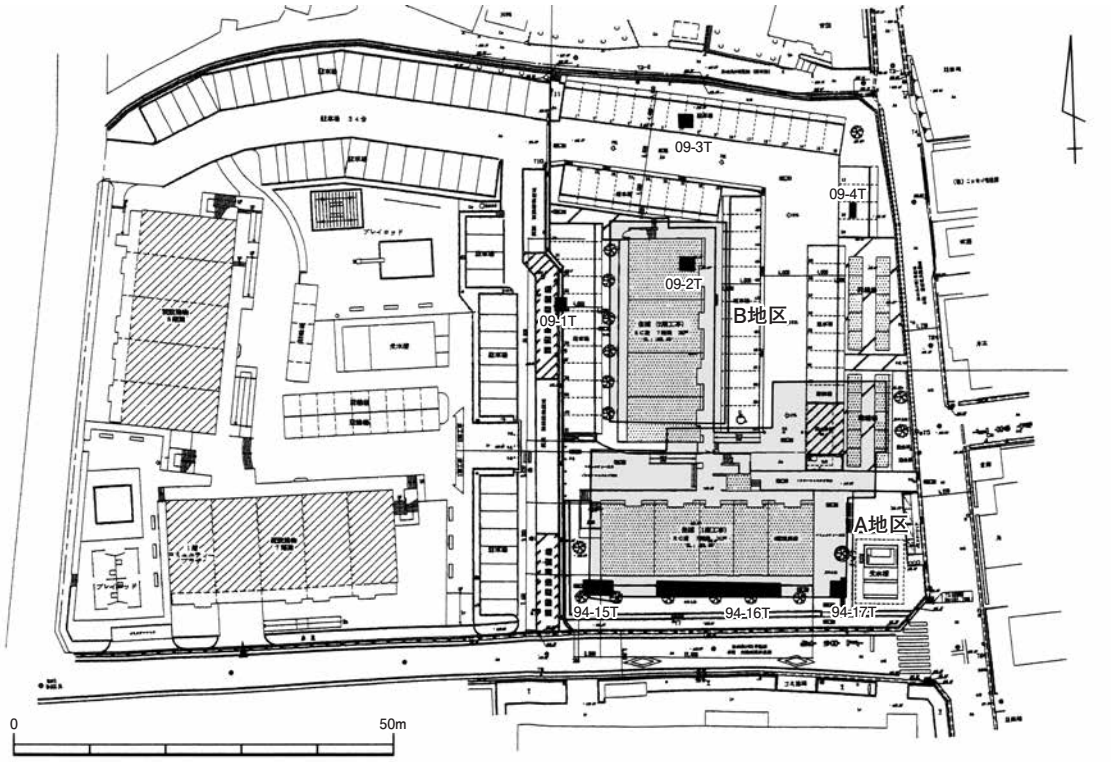
当該事業予定地及びその周辺住宅地は、大池ノ南遺跡及び屋敷町遺跡として周知され、『三田古地図』（三田市立三田小学校蔵）、三田藩屋敷図『摂州三田図絵』（寛文初年　1688年代）等の史料から、三田藩の武家屋敷地であった事が明らかとなっており、その町割りは現在も当時の面影を残している。

当該事業予定地の内、南半部の第２期－１については、幕末の三田藩の大参事（家老職）を務めた白洲退蔵の生誕地として知られ、前述の『三田古地図』では、当該地が退蔵の祖父白洲貞四郎の屋敷であった事が看取される。

また、その後は、退蔵屋敷を含めた敷地内に、兵庫県立三田高等女学校（昭和４年２月、兵庫県三田高等女学校として当地に校舎を構える。昭和６年４月、兵庫県立三田高等女学校に改称。昭和23年９月、兵庫県立三田農業高等学校との統合に伴い、現在の兵庫県立有馬高等学校となる。）の校舎敷地として利用された後、現在の県営住宅敷地となった。

当該調査は、前節の通り事業対象地内において、建替工事計画に合わせて２地区（Ａ地区・Ｂ地区）に分けて実施した。

両地区共に盛土及び撹乱土等を重機掘削によって除去し、包含層を人力によって掘削した後、遺構検出面において精査、遺構検出、遺構掘削を行った。Ａ地区は特に北側、Ｂ地区は全体的に近代以降の撹乱が著しく、遺物の混在等防ぐため、人力による撹乱の掘削を行った。調査では、江戸期屋敷境を示す溝、武家屋敷の屋敷地内を想定させる柱穴や木桶、埋甕、井戸、土坑を検出した。A地区では、調査区南西隅で絵図に符合すると考えられる木杭と竹を組み合わせた護岸を持つ堀跡状の遺構を検出したが、



第１図　確認トレンチ及び本調査区配置図

Ｂ地区では、調査区が屋敷地の外縁部に当たる事と近代以降の撹乱の影響で、近世遺構は少数であった。その他、両地区からは、中世の掘立柱建物や土坑墓、池状遺構、古代の土坑や柱穴を検出した。また、出土遺物では、丹波焼の甕や徳利、三田青磁や地元産、肥前系、瀬戸系、京都系焼物、陶磁器の未製品や焼き台の他、硯・砥石等の石器、簪・庖丁等の金属器、下駄・杓文字・墨書木札等の木器が出土している。また、太型蛤刃石斧の一部等弥生時代の石器も出土しており、周辺の同一丘陵上に当該時期の遺跡も存在する事から、近隣に同時期の遺構が存在する可能性が想定される。

第３節　整理作業

当該事業に伴う出土品整理作業は、平成23・24年度の２箇年で実施した。

１　平成23年度の整理作業

作業は、水洗い、ネーミング、接合補強、遺物実測、復元、遺物写真撮影（木器）、写真整理（木器）、金属保存処理を行った。

整理作業に係る、体制等は以下の通りである。

兵庫県立考古博物館　埋蔵文化財調査部

整理保存課　　主　査　篠宮　正
　　主　査　山本　誠
　　主　査　岡本一秀

非常勤嘱託職員（水洗い・ネーミング）　西口由紀　小林陽子
　　（接合補強・復元）　眞子ふさ恵　三好綾子　奥野政子　藤尾裕子　嶺岡美見
　　吉村あけみ
　　佐々木愛　平宮可奈子　吉田優子
　　（遺物実測・拓本）　八木和子　榎真菜美　岡田美穂
　　（金属保存処理）　桂　昭子　浜脇多規子

２　平成24年度の整理作業

作業は、遺物写真撮影（土器・石器・金属器）、写真整理（土器・石器・金属器）、図面補正、トレース、レイアウト、木器保存処理、報告書印刷・刊行である。

整理作業に係る、体制等は以下の通りである。

公益財団法人兵庫県まちづくり技術センター　埋蔵文化財調査部

整理保存課　　副課長　篠宮　正
　　副課長　岡本一秀

非常勤嘱託職員（図面補正・トレース・レイアウト・写真整理等）　八木和子　榎真菜美
　　（情報処理等）　古谷章子　有田遥香　坂東知奈

第２章　遺跡の位置と環境

本章については、近隣の周知の遺跡である三田城跡及び屋敷町遺跡における、兵庫県教育委員会を主体とする発掘調査について既刊の埋蔵文化財調査報告書があり、重複する部分も多い事から、その内容については以下の調査報告書内各章の記載に委ね、本報告書では割愛する。

・兵庫県文化財調査報告　第189冊　『屋敷町遺跡－県営三田大池住宅建設事業に伴う埋蔵文化財調査報告書－』1999

・兵庫県文化財調査報告　第194冊　『三田城跡発掘調査報告書』1999
・兵庫県文化財調査報告　第356冊　『三田城跡Ⅱ　兵庫県立有馬高等学校校舎建設工事等に伴う発掘調査報告書』2009
・兵庫県文化財調査報告　第421冊　『三田城跡Ⅲ　県立有馬高等学校講義棟新築事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』2112

第３章　発掘調査の成果

第１節　概要

調査区は、前述の通り南側をＡ地区、北側をＢ地区と呼称し、遺構番号等も地区毎に番号を付している。このため、遺構番号の重複が生じる可能性があるが、「Ａ地区のSK○○」、「Ｂ地区のSK○○」等の呼称により地区内で完結する。

本報告書においては、基本的に出土遺物が図化できた遺構及び当該遺跡を特徴付ける性格の遺構の内、遺物等の出土状況があるものは、図面、写真図版を掲載し、それ以外で図化遺物がある遺構については、遺構平面図（図版１・20）に遺構番号のみ掲載している。なお、遺構番号は、発掘調査時と本報告書との混乱を避けるために、調査段階のままで呼称する。

第２節　遺構

１　Ａ地区の調査

遺構の記述については、ほぼ明確な時期判断ができるものに関しては、時代毎の記述を行う。

（１）弥生時代

当該時期の遺構は検出されていないが、包含層より太型蛤刃石斧の残欠が数点出土していることから、近隣に遺構の存在する可能性が想定される。

（２）古代

ア土坑

SK24（図版12　写真図版５）

調査区北西側で検出した。一辺約250㎝の隅丸方形状を呈する土坑で、深度約50㎝を測る。埋土からは、軒平瓦の他、丸瓦片、平瓦片、須恵器、土師器等が出土しており、土師器鍋（26）、陶器壷（27）、丸瓦（135）、平瓦（134・136・137）等を図化し、図化が困難であった土師器甕（270）は写真のみ掲載した。出土遺物から、旧有馬郡唯一の奈良時代創建寺院である金心寺廃寺址関連の遺構と考えられる。

（３）中世

ア掘立柱建物

SB03（図版４～６　写真図版２・３）

調査区北半部中央で検出した。南北約6.5m×東西約8.6mを測る、３間×４間の掘立柱建物である。建物に伴う柱穴には多少のばらつきがあるが、直径約50㎝の比較的大型のもで、特に北東隅の柱穴（Ｐ17）は礎石を伴う。主柱穴は、Ｐ01・Ｐ15・Ｐ17・Ｐ19・Ｐ26～35・Ｐ46・Ｐ47からなる。出土遺物は、図化に至っていない。

SB04（図版７　写真図版３）

調査区ほぼ中央で検出した。南北約6.4m×東西約4.8mを測る、３間×２間の掘立柱建物である。

SB03に近接し、主軸をほぼ同じくする。建物に伴う柱穴は、直径約35㎝である。

イ中世墓

SK01（図版10　写真図版４）

調査区西端で検出した。南北約110㎝（検出長）×東西約190㎝を測る長方形状の土坑で、検出深度は約20㎝である。土坑の南東側には完形の須恵器椀が出土しており、その検出状況から中世墓と考えられる。出土遺物は、副葬品と考えられる須恵器椀（２）を図化している。

SK12

調査区東側で検出した。東西約0.25～0.4m×南北約1.4mを測る、北側がやや窄まる長方形状を呈し、検出深度は約13㎝で、ほぼ完形の須恵器椀が出土した。出土遺物はその須恵器椀（10）を図化している。

（４）近世

ア掘立柱建物

SB01（図版１　写真図版２）

調査区西側で検出した。南北約1.8m×東西約6.0mを測る、１間×３間の掘立柱建物である。

SB02（図版1　写真図版２）

調査区西端で検出した。南北約4.0m×東西約4.5m（検出長）を測る。東西方向の規模は不明ながら、南北２間の掘立柱建物である。

SB05（図版８　写真図版３）

調査区北東側で検出した。一辺約3.0mを測る、１間×１間の掘立柱建物として検出した。柱穴の直径は、約45㎝を測る。検出した４基の柱穴（Ｐ36～39）の内、Ｐ37・39は根石を据えている。屋敷地の東面に比較的近い位置にあることから、門等の施設の可能性も考えられる。

イ根石を据えた柱穴

Ｐ23～25・40（図版９　写真図版４）

調査区南東側で、４基の柱穴を検出した。直径約35～50㎝、検出深度約25～40㎝を測る。柱穴は、やや原位置を留めていないものがあるものの、何れも根石を据えており、SB05に伴うＰ37・39に近似している事から、SB05と同じく屋敷に係る建物の一部と考えられる。

ゥ土坑（図版10～14　写真図版４・５）

SK02

調査区西側で検出した。東西約1.6m×南北約1.3mを測る、長方形状を呈し、検出深度は約20㎝である。

SK08

調査区西側で検出した。東西約1.0m×南北約0.6～0.9mを測る、東側がやや窄まる長方形状を呈し、検出深度は約50㎝である。

SK11

調査区中央やや東よりで検出した。一辺約0.7mを測る隅丸方形状を呈し、検出深度は約35㎝である。

SK13

調査区東側で検出した。東西約1.6m（検出長）×南北約0.8m（検出長）を測る不定方形状を呈し、検出深度は約22㎝である。東側をSK18に切られ、南側は撹乱を受けている。出土遺物は土師器小皿（11）、丹波焼擂鉢（12）、陶器碗（13）、染付磁器碗（14）を図化している。

SK16

調査区南東側で検出した。東西約4.6m×南北約1.0～1.7mを測る、西側がやや窄まる長方形状を呈し、検出深度は約21㎝である。出土遺物は軒丸瓦（132）を図化している。

SK18

調査区東側で検出した。直径約0.7mを測る円形を呈し、検出深度は約17㎝である。遺構の西側では、SK13を切っている。土坑内には、掘方とほぼ同径の木桶を埋設したとみられ、側面及び床面に板材が残る。埋土内には、瓦片、陶磁器類、銅製品、円礫等が認められた。出土遺物は青磁香炉（15）、紡錘車状の銅製品（Ｍ４）を図化している。

SK19

調査区南東側で検出した。直径約1.5mを測る円形状を呈し、検出深度は約24㎝である。

SK21

調査区南端で検出した。遺構の一部が調査区外あって全体は不明だが、直径約0.75mを測る円形状を呈し、検出深度は約52㎝である。出土遺物は白磁紅皿（16）を図化している。

SK22

調査区北西側で検出した。東西約0.7～1.3m×南北約3.9mを測る、南側でやや窄まる長方形状を呈し、検出深度は約35㎝である。出土遺物は丹波焼擂鉢（17）、陶器の甕（18）・碗（19）・鉢（20・21）、染付浅鉢（22・23）、青磁碗（24）、陶器製人形（25）、石製硯（Ｓ1・Ｓ2）、鉄滓（M13）図化している。

SK23

調査区北西側で検出した。東西約1.0m×南北約1.2mを測る不定円形を呈し、検出深度は約32㎝で、東側に深い断面逆直角三角形状を呈する。出土遺物は平瓦（133）を図化している。

SK29

調査区東側で検出した。東西約1.5mを測り、一辺約1.5mの方形状を呈すると考えられ、検出深度は約54㎝である。北側でSK33に切られる。

SK30

調査区東側で検出した。一辺約1.0mを測る隅丸方形状を呈し、検出深度は約35㎝である。出土遺物は土師器焙烙（43）、陶器の捏鉢（44）、鉢（47）、染付磁器小皿（48）、平瓦（149）を図化している。

SK33

調査区東側で検出した。東西約1.9m×南北約1.8m、検出深度約70㎝を測る、ほぼ方形状を呈する土坑の西辺に、東西約0.7m×南北約1.0m、検出深度約40㎝の長方形状小土坑の張り出しが付随する。小土坑は南北方向に階段状のテラスがあり、地下式の室の様な施設の可能性が考えられる。南側でSK29を切る。出土遺物は桟瓦（150）を図化している。

SK34

調査区東側で検出した。直径約1.2mを測る円形状を呈し、検出深度は70㎝である。側面及び床面には板材が残存しており、埋桶と考えられる。南西側でSK40を切る。出土遺物は土師器灯明皿（50）、丹波焼土管（49）、陶器小鉢（51）、青磁小鉢（52）を図化し、絵付小皿（267）を写真のみ掲載している。

SK40

調査区東側で検出した。直径約1.2mを測る円形状を呈し、検出深度は約70㎝である。側面及び床面には板材が僅かに残存しており、埋桶と考えられる。北東側でSK34に切られる。出土遺物は陶器の碗

（55）・甕（57）、染付磁器の瓶（56・59）・碗（61～63）・皿（58・65）・蓋（67・68）・猪口（64）・れんげ（60）、三田焼赤絵付皿（66）を図化し、三田焼皿（269）を写真のみ掲載している。

エ井戸（図版15 写真図版５）

SE01

調査区ほぼ中央で検出した。直径約2.4mを測る円形土坑の中央に、内法直径約1.1mの石組みを設け、石組み上部から約2.7m部分まで確認できたが、床面の確認には至らなかった。白洲家の井戸として使用されたとされ、その後も石組みの積み直しや補修等で旧兵庫県立三田高等女学校の時期まで使用された。また、埋土内には同校の校舎廃絶時の建築部材が多量に廃棄されていた。出土遺物は染付磁器小皿（71）、竹材（W6）を図化している。

SX02

調査区北東側で検出した。直径約2.7mを測る円形状を呈し、検出深度は約2.3mである。床面付近に大型の円礫の散在が認められたが、石組み等は確認できなかった。北西側でSK26に切られる。出土遺物は白磁碗（121）を図化している。

オ溝（図版16～19 写真図版５～７）

SD01

調査区中央やや西側で検出した、南北方向を基本とした溝である。幅（断面e-e'）約20㎝、最大幅（断面a-a'）約90㎝、検出深度は5～25㎝である。東側のSD02とは約1.0mの間隔を持って併行し、屋敷地境に沿った通路西側の溝であることが窺える。調査区南端付近で西方向に屈曲して、SD03に取り付く。出土遺物は染付磁器碗（72）、鉄器小刀（M5）、鉄器釘（M6・M7）を図化している。

SD02

調査区中央やや西側で検出した、南北方向を基本とした溝である。幅（断面d-d'）約40㎝、最大幅（断面c-c'）約130㎝、検出深度は15㎝である。西側で併行するSD01に対して、屋敷地境に沿った通路東側の溝と考えられる。また、南側で屈曲するSD01と異なり、遺構は調査区外へ直進する。出土遺物は土師器小皿（73）、丹波焼盤（73）を図化している。

SD03

調査区南西隅で検出した。東西11.5m（検出長）×南北約4.0m（検出幅）、検出深度約1.3mを測る堀の一部で、堀の内側には木杭列と竹を細かく組み合わせた護岸が設けられている。護岸内には植物遺体を含んだシルト質土層が堆積し、土層中からは、多量の陶磁器類、瓦、木器、金属器が出土した。出土遺物は土師器の焙烙（75）・焼塩壷（76）・ミニチュア杯（77）、陶器の角鉢（78）・急須（79・86）・皿（80）・徳利（81・82）・油壺（83）・秉燭（84）・蓋（85）鉢（87・98・99）・片口鉢（88）・擂鉢（89～91）・甕（92・93・95・96）・壷（94・97）、白磁碗（100・101）、染付磁器の碗（102～104・106～108）・猪口（105）・皿（109・111）・蓋（110）、青磁の碗（112・113）・片口鉢（114）・皿（115～117）、土製品の焼き台（118）・面子（119）・土錘（120）、軒丸瓦（151～156・160）、軒平瓦（157～159・161・162）、丸瓦（166～170）、平瓦（171～174）、隅瓦（163～165・177）、桟瓦（175・176・178～181）の他、金属器（M8・M9・M16）、石器（S3・S4・S6・S7）、木器（W7～W9・W11・W12・W14・W22・W25～W29・W31・W35・W36）を図化している。

SD10

調査区北西側で検出した。東西約5.0m（検出長）×南北80㎝、検出深度約15㎝を測る東西方向の溝

である。

SD12

調査区中央北側で検出した。南北約5.0m（検出長）×東西約45㎝、検出深度約15㎝を測る南北方向の溝である。出土遺物は不明金属製品（M10）を図化している。

SD14

調査区調査区中央南端で検出した。南北約60㎝（検出長）×東西約105㎝、検出深度約30㎝を測る南北方向の溝である。

SD15

調査区中央北側で検出した。南北約2.5m（検出長）×東西約35㎝、検出深度約15㎝を測る南北方向の溝である。SD12とは、約3.5mの間隔を持って併行に伸びている。

カ埋甕（図版19 写真図版５）

調査区北東側の埋桶が集中する範囲で検出した。直径約80㎝の円形土坑内に丹波焼大甕を埋設したものである。便甕等の用途も考えられるが不明である。出土遺物は、丹波焼擂鉢（70）を図化している。

２ Ｂ地区の調査

（１）遺構の概要

平成22年度調査区では、奈良時代～鎌倉時代および江戸時代以降の遺物が出土しており、検出された遺構も、概ねこの間に属するものである。但し明治期以降の撹乱が著しいため、古土壌層（遺物包含層）は全く遺存しておらず、すべての遺構が、黄褐色砂質シルト層（地山）の上面で検出された。

（２）各時期の遺構

ア　近世～近代初頭の遺構

平成22年度の調査区は、三田古地図（三田小学校蔵）等によれば、武家屋敷町の北西端からそのやや外側に位置する。このためか近世の遺構密度は高くなかった。調査区全域にわたって、近代以降の著しい撹乱を受けていたことも、遺構の検出を困難にしたと思われる。

当該期の遺構としては、調査区北部で、多量の陶磁器未製品が投入された、江戸時代末～明治初期と考えられる井戸（SE25）が検出されたほか、複数の柱穴、礎石を埋設した柱穴、溝（SD01・17・22・23・24）、土坑（SK32）等が検出された。

（ア）　井戸（図版20・23　写真図版16）

井戸（SE25）は、調査区北部で検出された。板組の方形枠が設けられた井戸で、一辺が約1.0m、検出面からの深さは70㎝を測る。内部は、還元された粘土～シルトで埋没していたが、第１層中には、大量の磁器未製品が一括廃棄の状況で投入されていた。板組枠は腐朽が著しく、形状を保って取り上げることはできなかった。

（イ）　溝（図版20・24　写真図版14・15）

近世～近代初頭に属すると思われる溝は、5条が検出された。

SD01は、調査区南部に位置する溝で、ほぼ座標南北方向に直線的に延びる。南北両端を撹乱によって破壊されている。幅40㎝、深さ10㎝前後を測る。溝内は、地山の粘土ブロックを含む、締まりの悪い還元されたシルトで埋没していた。

SD04は、調査区南部に位置する。南側を撹乱で破壊されているが、残存部では、幅18㎝、深さ４㎝前後を測る。溝内は黒褐色の砂質シルトで埋没していた。

SD17は、調査区中央部を縦断する溝で、幅40㎝、深さ15㎝前後を測る。溝断面は逆台形状を呈し、底面はほぼ平坦である。溝は、煉瓦造りの集水桝から延びており、溝内には陶器製の土管が設置されていた。溝内の埋土は、地山の黄褐色シルト～粘土のブロックを多量に含む人為埋土である。

SD22・23は、調査区北西部に位置する溝で、ほぼ平行して北西～南東に直線的に延びる。ともに幅20㎝、深さ５㎝前後をはかり、規模・埋土などきわめて似通った溝である。溝内は、いずれも黄灰色の砂質シルトで自然埋没していた。

（ウ）　土坑（図版20・23）

近世～近代初頭に属する土坑は、SK10・11・32の３基である。

SK11は、調査区中央付近に位置する。不整楕円形の土坑で、長径80㎝、深さ２㎝を測る。内部は暗灰黄色の砂質シルトで埋没していた。

SK32は、SD24の南に接するが、SD24との前後関係は判然としない。直径が1.0m前後の、ほぼ円形をなして巡る溝状を呈する。溝内部は黒色のシルト質極細砂で埋没していた。形状から、溝としての機能を想定することができないため、土坑として記録した。

（エ）　柱穴（図版20・22　写真図版12）

Ｐ02・03・07・16・37がこの時期に属する。

Ｐ02は、調査区南部に位置する楕円形の柱穴であるが、南半を撹乱によって破壊されているため、規模は不明である。残存部の深さは10㎝前後を測る。柱穴内は地山ブロックを含む人為埋土で充填されていた。

Ｐ03は、調査区南部に位置する。歪んだ楕円形を呈し、長径45㎝、深さ26㎝を測る、大型の柱穴である。柱穴内は２層に分層されたが、特に下層は地山ブロックを多く含む人為埋土であった。丹波焼の鉢（183）が出土している。

Ｐ37は、礎石を設置した柱穴である。最大径が40㎝を測る不整形な四辺形を呈する石材が設置されており、これに沿った形態の深さ11㎝の設置坑が検出された。礎石下には、礎石上面を水平に保つため、拳大の川原石３個が置かれていた。

イ　古代末・中世の遺構

調査区北東部で池状遺構（SK21）、東部で焼土を含む遺構（SX09）が検出されたほか、柱穴・溝・土坑等が検出された。

（ア）　池状遺構（SK21・図版20・21　写真図版10）

SK21は、調査区北部に位置し、その北辺、東辺が調査区外に広がる。少なくとも１辺が6.0m程度の規模を持つ略方形を呈し、検出面からの深さは、最深部で70㎝程度を測る。遺構の底には炭塊を含む灰混じりのシルト層が堆積しており、北西側の遺構斜面では、十数枚の土師器皿が一括投入された状況で検出された。

（イ）　焼土遺構（SX09・図版20・21　写真図版11）

SX09は、調査区南東部に位置する。不整形で浅い土坑状を呈し、幅1.0m、長径4.8mを測る。若干掘り込まれた地山上に、炭混じりの焼土が堆積をしているが、地山面が焼成されていないことから、焼土は人為的に移動されて堆積したものと考えられる。堆積物の上面には、拳大の川原石が多量に埋没していたが、これらも焼土・炭と同様に人為的に廃棄されたものであろう。

（ウ）　土坑（図版20・22　写真図版15）

SK18は、調査区南東部に位置する。やや歪んだ楕円形の土坑で、長径70㎝、深さ６㎝を測る。土坑内は、灰オリーブ色のシルトで埋没していた。

（エ）　溝（図版20・22　写真図版15）

SD24は、調査区中央東寄りに位置し、概ね東西に延びる溝であるが、東側の大部分を撹乱によって破壊されているため、形状がはっきりしない。残存部のみでは、幅1.0m、深さ15㎝前後を測る。溝内は、黒褐色シルト質砂で埋没していた。

（オ）　柱穴（図版20・22　写真図版12・13）

Ｐ05・08、12～15、26～28、30・33・38・39が当該期に含まれる。柱穴は、直径20㎝前後の一群（Ｐ13・Ｐ26～28）と、直径が40㎝ほどの大型柱穴（Ｐ05）とがある。前者は、出土遺物などから鎌倉時代の所産と考えられ、後者はこれより古く、奈良時代に遡る可能性が高い。やはり著しい撹乱のため、建物跡を明確に復原することはできなかった。

Ｐ05は、調査区南部に位置する大型の柱穴で、柱痕部分には大型の石材が埋設されていた。

Ｐ13は、調査区中央西寄りに位置する。直径35㎝を測る柱穴である。須恵器椀３個体分が出土した。

Ｐ26・27・28は、調査区中央東寄りに位置し、規模や埋土などから、同一建物跡に属していた可能性がある。Ｐ26より土師器皿が出土している。

Ｐ31は、調査区中央部に位置する。柱穴内から土師器皿が出土している。

Ｐ38は、調査区中央東寄りに位置する。直径20㎝ほどの円形の柱穴である。須恵器椀が出土した。

（３）まとめ

調査区内の広い範囲が撹乱を受けており、遺物包含層および遺構の遺存状況は一部を除き不良であったが、遺構は調査区内の広い範囲に分布していた。平安時代以前の遺構としては、数基の大型柱穴が挙げられる。隣接する金心寺廃寺に関連する遺構である可能性が高い。中世の遺構は、掘立柱建物跡を中心に土坑を伴うものと思われる。建物跡の規模は復原できなかった。近世（江戸時代）の遺構は、武家屋敷に伴う可能性が高いが、遺存状況が劣悪なため詳細を把握することができなかった。

第３節　遺物

本調査報告の遺物については、土器、金属器、木器については、掲載枠の関係状やむなく観察表のみの掲載とし、個々の遺物の解説等は割愛する。但し、石器については、細密な観察表現を要するため掲載することとする。

１石器（図版49　写真図版42）

S1は小型の硯であるが、図下半、器長の1/3ほどを折り取っている。また、底面にも、折り取りを意図したと思われるＶ字形の溝が４～５条認められる。これらの溝は、鋭利な刃物によって切られたもので、折断面を見ると、全周に深さ２～４㎜の溝を切った後、折り取ったことがわかる。海部分の縁辺が欠落していることから、破損した硯を、何らかの形で再利用したものと思われるが、その目的は明らかではない。Ａ地区のSK22より出土した。

S2は硯である。海部分の断片であるが、縁がやや厚く作られていることから、S1よりは大型のものであったと思われる。Ａ地区のSK22より出土した。

S3は砥石である。火熱を受けたものと見られ、側面から底面にかけては変色して剝離が著しい。Ａ地区のSD03より出土した。

S4は未使用の砥石と思われる。整った直方体を呈し、両側面には石材の切断に用いられたワイヤーに

よる切断痕が、土器の器表に見られるハケ目のような細い線状となって認められる。また、本来研ぎ面となる部分には、幅２㎜前後の刃物による削り痕が多数付着しており、研磨痕は見られない。こうしたことから、本資料は、切り出されて整形された後、未使用の状態で埋没したものと考えられる。Ａ地区SD03から出土した。

S5は大型の砥石であるが、S4同様、未使用の状態である。全体に整った直方体を呈していたと思われるが、図下部は折損しており、層状に重なる石材構造が観察される。表面にはやはりワイヤーによる切断痕が顕著に認められる。

S6は半折したと思われる、大型で薄手の砥石である。表裏両面に研磨痕が認められる。Ａ地区のSD03から出土した。

S7はやはり半折した砥石である。断面は厚みのある長方形を呈し、表裏両面と側面に研磨痕が見られる。Ａ地区のSD3より出土した。

S8は太形蛤刃石斧の断片である可能性がある。両端を折損しており、その断面と器表面との稜などに顕著な摩耗が認められることから、破断後、長期間にわたって耕作などによる転磨を受けたものと思われる。Ａ地区表土（耕土）層より出土した。

S9は太形蛤刃石斧の断片かと思われる資料である。両端を折損しており、その断面や器表との稜が摩耗していることから、破断後、長期間にわたって耕作などによる転磨を受けたものと思われる。Ａ地区表土（耕土）層より出土した。

第１表　出土石器一覧表

報告番号	調査地区	遺構	層位	種別	器種	石材	長さcm	幅cm	厚さcm	重量ｇ	技術・形態上の特記事項
S1	Ａ地区	SK22		石製品	硯	粘板岩	4.4	4.15	0.85	29.5	硯を擦り切りによって半割している。底面にも擦り切り痕が見られる。
S2	Ａ地区	SK22		石製品	硯	粘板岩	3.4	3.26	0.85	11.2	
S3	Ａ地区	SD03	暗オリーブ灰色シルト	石器	石斧？		7.91	8.14	4.48	412.8	太形蛤刃石斧の断片か
S4	Ａ地区	SD03	暗オリーブ灰色シルト	石製品	砥石	凝灰岩	10.55	3.98	1.61	120.6	未使用の砥石
S5	Ａ地区		耕土	石製品	砥石	凝灰岩	18.78	6.06	3.71	501.0	
S6	Ａ地区	SD03	暗灰色シルト	石製品	砥石	砂岩	11.75	8.45	2.1	274.7	表裏ともに使用
S7	Ａ地区	SD03	暗オリーブ灰色シルト	石製品	砥石		8.15	5.65	4.75	290.4	
S8	Ａ地区		耕土	石器	石斧？		5.68	7.31	5.52	351.4	太形蛤刃石斧の断片か
S8	Ａ地区		耕土	石器	石斧？		6.03	6.89	5.04	296.0	太形蛤刃石斧の断片か

第２表　出土遺物観察表

報告番号	図版番号	写真図版番号	種別	器種	法量（cm）						出土地区	出土遺構
					口径	器高	底径	長さ	幅	厚み		
1	24	24	青磁	碗	17.6	3.5+					A地区	P03
2	24	18	須恵器	椀	14.9	4.9	6.15				A地区	SK01
3	24	24	陶器	鍋	14.6	7.0					A地区	SK04
4	24	24	染付磁器	碗	(8.0)	4.3	3.5				A地区	SK04
5	24	24	染付磁器	碗	6.7	5.1	3.8				A地区	SK04
6	24	24	青磁	碗	6.1	4.55	3.4				A地区	SK04
7	24		磁器	合子蓋	5.0	1.6					A地区	SK01
8	24	24	青磁	小皿	12.0	2.3	4.4				A地区	SK04
9	24	24	青磁	小皿	10.0	2.6	5.0				A地区	SK04
10	24	18	須恵器	椀	12.8	3.75	5.35				A地区	SK12
11	24	18	土師器	小皿	8.6	1.8					A地区	SK13
12	24	24	丹波焼	擂鉢	(39.6)	(8.0)					A地区	SK13
13	24	18	施釉陶器	碗	11.5	4.8	4.6				A地区	SK13
14	24	18	染付磁器	碗	10.35	5.65	4.2				A地区	SK13
15	24	24	青磁	香炉？	5.05	4.15	4.5				A地区	SK18
16	24	18	白磁	紅皿	2.3	1.2	0.95				A地区	SK21
17	24	18	丹波焼	擂鉢	36.7	16.7	19.5				A地区	SK22
18	24	18	丹波焼	甕	27.0	15.7+					A地区	SK22
19	24	24	陶器	皿	20.2	4.7	9.0				A地区	SK22
20	24	24	施釉陶器	鉢	(21.7)	5.45	(14.4)				A地区	SK22
21	24	24	施釉陶器	椀	(9.0)	(7.2)	3.3				A地区	SK22
22	25	18	染付磁器	皿	12.95	4.25	7.6				A地区	SK22
23	25	24	染付磁器	皿	12.6	3.4	8.6				A地区	SK22
24	25	25	青磁	碗	8.85	4.8	4.0				A地区	SK22
25	25	25	陶器	人形				3.2	2.8	1.5	A地区	SK22
26	25	25	土師器	甕	(19.35)	(5.0)					A地区	SK24
27	25	25	陶器	壺	11.3	20.7	11.4				A地区	SK24
28	25	18	三田焼	赤絵付鉢	(36.0)	14.0	11.3				A地区	SK26
29	25	25	丹波焼	擂鉢	(20.2)	7.2	(10.45)				A地区	SK26
30	25	25	施釉陶器	壺		(7.85)					A地区	SK26
31	25	19	染付磁器	花瓶		22.4+	7.6				A地区	SK26
32	25	25	施釉陶器	蓋	(7.2)	2.35					A地区	SK26
33	25	18	施釉陶器	蓋	9.9	3.4					A地区	SK26
34	25	25	磁器	引手				(6.9)	(5.15)	1.9	A地区	SK26
35	25	22	染付磁器	角皿	(14.25)	3.1	9.7				A地区	
36	25	22・25	染付磁器	蓋	(8.5)	2.55					A地区	SK26
37	26	19	丹波焼	甕	46.2	19.0					A地区	SK26
38	26	19	陶器	擂鉢	36.25	16.5	23.35				A地区	SK28
39	26	25	施釉陶器	碗	(9.5)	5.7	(4.65)				A地区	SK28
40	26	25	施釉陶器	碗		(3.35)	3.2				A地区	SK28
41	26	19・25	施釉陶器	皿	11.05	3.05	3.9				A地区	SK28
42	26	25	施釉陶器	皿	(10.8)	2.3	(4.55)				A地区	SK28
43	26	25	土師器	焙烙	30.0	3.6+					A地区	SK30
44	26		陶器	鉢	(40.8)	16.5	20.6				A地区	SK30
45	26	19	白磁	紅皿	4.8	1.4	1.5				A地区	SK28
46	26		染付磁器	皿	10.4	2.4	5.55				A地区	SK28
47	27	19	施釉陶器	鉢	(26.0)	(15.2)					A地区	SK30
48	27	26	染付磁器	皿	13.2	2.95	6.8				A地区	SK30
49	27	19	陶器	土管		(37.4)	11.55				A地区	SK34
50	27	26	土師器	小皿	11.0	2.0+					A地区	SK34
51	27	26	陶器	鍋	15.8	5.5					A地区	SK34
52	27	26	青磁	小鉢	10.0	4.8	4.0				A地区	SK34
53	27	19	土師器	小皿	5.5	1.7					A地区	SK35
54	27	19	白磁	小皿	6.1	2.25	2.6				A地区	SK35
55	27	20	染付磁器	碗		7.0	4.4	3.3			A地区	SK40
56	27	26	染付磁器	花瓶	1.0	12.7+					A地区	SK40
57	27	26	磁器	甕		11.8	5.4+				A地区	SK40
58	27	26	磁器	鉢		2.6+	14.0				A地区	SK40
59	27	20	染付磁器	花瓶		1.8	10.2	3.4			A地区	SK40
60	27	26	染付磁器	れんげ				8.4	4.2	(0.6)	A地区	SK40
61	27	20	陶器	椀	9.8	4.9	4.0				A地区	SK40
62	27	26	染付磁器	碗	9.6	3.9+					A地区	SK40
63	27	20	染付磁器	碗	8.0	4.6	2.6				A地区	SK40
64	27	20	染付磁器	碗	6.4	4.45	2.6				A地区	SK40
65	27	26	染付磁器	小皿		9.2	3.0	4.8			A地区	SK40
66	27	23	三田焼	赤絵付皿		9.8	2.0	5.0			A地区	SK40
67	27	23	染付磁器	蓋	3.4	2.4	8.8				A地区	SK40
68	27	23	染付磁器	蓋	3.6	2.5	9.4				A地区	SK40
69	28	20	丹波焼	甕		(62.0)	28.45		(66.1)		A地区	SK26
70	28	27	丹波焼	擂鉢		5.2+	14.0				A地区	埋甕
71	28	27	染付磁器	小皿	7.6	1.9	3.2				A地区	SE01
72	29		染付磁器	碗	(7.0)	3.5	2.85				A地区	SD01
73	29	27	土師器	小皿	(8.2)	1.65					A地区	SD02
74	29	27	陶器	盤	(42.4)	7.9	(25.1)				A地区	SD02
75	29	27	土師器	焙烙	23.6	5.35+					A地区	SD03
76	29	27	土師器	焼塩壺？		(5.8)	(10.5)				A地区	SD03
77	29	20・27	土師器	ミニチュア	(3.7)	1.7	2.65				A地区	
78	29		京焼	角鉢	(9.6)	8.6	7.0				A地区	SD03
79	29	27	施釉陶器	把手		3.2				1.85	A地区	SD03
80	29	27	陶器	皿	20.2	3.4	11.8				A地区	SD03
81	29	21	丹波焼	徳利	2.6	19.25	8.4				A地区	SD03
82	29	21	丹波焼	徳利	4.1	(13.8)					A地区	SD03

報告番号	図版番号	写真図版番号	種別	器種	法量（cm）						出土地区	出土遺構
					口径	器高	底径	長さ	幅	厚み		
83	29	20	丹波焼?	徳利	3.3	19.0					A地区	SD03
84	29	21	施釉陶器	乗燭	4.6	4.8	4.1				A地区	SD03
85	29	27	施釉陶器	蓋	4.3	(0.6)					A地区	SD03
86	29	21	施釉陶器	急須	(9.5)	(13.15)	16.45				A地区	SD03
87	29	27	施釉陶器	鉢	20.8	5.9+					A地区	SD03
88	29	27	施釉陶器	片口鉢	(34.2)	(10.6)					A地区	SD03
89	29	28	丹波焼	擂鉢	32.2	10.8+					A地区	SD03
90	29	27	丹波焼	擂鉢	42.8	4.7+					A地区	SD03
91	29	28	丹波焼	擂鉢		9.0	18.4				A地区	SD03
92	30	28	丹波焼	甕	(31.6)	(14.4)					A地区	SD03
93	30	21	丹波焼	甕		28.25	19.95		(40.7)		A地区	SD03
94	30	28	施釉陶器	甕	(10.7)	(5.4)					A地区	SD03
95	30	21	丹波焼	甕		(10.65)	12.9				A地区	SD03
96	30	21	丹波焼	甕	20.85	27.2	12.15				A地区	SD03
97	30	21	丹波焼	甕	14.85	26.1	15.95				A地区	SD03
98	31	22	丹波焼?	鉢	26.15	18.9	22.2				A地区	SD03
99	31	22	施釉陶器	鉢	28.7	19.15	17.4				A地区	SD03
100	31	28	白磁	碗	(7.4)	3.7	(3.45)				A地区	SD03
101	31		白磁	碗	10.6	6.4	6.6				A地区	SD03
102	31	28	染付磁器	碗	(8.4)	4.9	(3.6)				A地区	SD03
103	31	28	染付磁器	碗	9.6	6.65	7.9				A地区	SD03
104	31	28	染付磁器	碗	8.4	3.95	2.6				A地区	SD03
105	31	28	染付磁器	碗	(6.25)	4.55	2.95				A地区	SD03
106	31	28	染付磁器	碗	(6.65)	(3.4)					A地区	SD03
107	31	28	染付色絵	碗	8.9	4.75	3.3				A地区	SD03
108	31	22	染付磁器	碗	8.9	4.85	3.55				A地区	SD03
109	31	23	染付磁器	小皿	9.2	2.5	5.0				A地区	SD03
110	31	23	染付磁器	蓋	11.2	2.9	4.0				A地区	SD03
111	31	28	染付磁器	皿	(21.45)	3.75					A地区	SD03
112	31	29	青磁	碗	(8.6)	(4.8)					A地区	SD03
113	31	29	青磁	碗	13.6	5.9+					A地区	SD03
114	31	29	青磁	小鉢	(13.5)	8.55	5.4				A地区	SD03
115	31	29	青磁	角皿	16.1	3.5	11.55				A地区	SD03
116	31	29	青磁	小皿	8.4	2.0	3.6				A地区	SD03
117	31	29	青磁	角皿	8.6	2.0	4.8				A地区	SD03
118	31	29	土製品	焼き台		3.3	10.3				A地区	SD03
119	32	29	土製品	面子				4.8	4.75	1.2	A地区	SD03
120	32	29	土製品	土錘				5.65	2.8	2.65	A地区	SD03
121	32	22	白磁器	碗		2.3+	4.5				A地区	SE02
122	32	30	丹波焼	擂鉢	50.0	11.3					A地区	包含層
123	32	22	陶製品	トチン？		1.8	6.2				A地区	包含層
124	32	30	染付磁器	鉢	(13.8)	5.6	(10.4)				A地区	包含層
125	32	30	絵付陶器	小皿	10.6	2.1	5.6				A地区	包含層
126	32	30	施釉陶器	土瓶	(10.8)	(14.0)	(15.0)				A地区	包含層
127	32	29	土製品	人形				3.45	2.0	1.8	A地区	包含層
128	32	29	土製品	人形				1.75	1.9	1.1	A地区	包含層
129	32	29	青磁	人形		5.0			(4.35)		A地区	包含層
130	32	29	陶器	人形				7.05	3.7	3.05	A地区	包含層
131	33	31	瓦	軒平瓦		7.5		10.5	9.3	6.6	A地区	P10
132	33	31	瓦	菊文桟瓦		(4.9)			(7.8)	1.8	A地区	SK16
133	33	31	瓦	平瓦				(9.2)	(7.3)	3.0	A地区	SK23
134	33	32	瓦	平瓦		1.9		8.3	5.6	1.8	A地区	SK24
135	33	32	瓦	丸瓦		7.0		14.6	13.9	(2.4)	A地区	SK24
136	34	32	瓦	平瓦		3.0		15.4	12.1	2.5	A地区	SK24
137	34	32	瓦	平瓦		8.0		19.0	28.9	(2.4)	A地区	SK24
138	35	31	瓦	軒丸瓦		(10.4)		(15.4)	12.95	1.8	A地区	SK26
139	35	31	瓦	軒平瓦		6.2		4.4	14.0	4.2	A地区	SK26
140	35	31	瓦	桟瓦		6.0		27.2	26.4	1.9	A地区	SK26
141	35	31	瓦	軒平瓦		6.0		26.2	22.6	1.8	A地区	SK26
142	36	31	瓦	軒平瓦		(4.55)		(18.1)	25.5	1.9	A地区	SK26
143	36	31	瓦	一文字軒瓦		(6.5)		(15.0)	(10.3)	1.65	A地区	SK26
144	36	32	瓦	桟瓦		5.8		28.9	28.4	1.9	A地区	SK26
145	37		瓦	桟瓦		6.2		29.0	(28.6)	16.5	A地区	SK26
146	37	32	瓦	平瓦		7.2		31.2	28.35	2.3	A地区	SK26
147	38		瓦	平瓦		4.0		26.2	21.6	1.7	A地区	SK26
148	38	31	瓦	軒平瓦		6.3		(22.8)	(17.6)	2.2	A地区	SK28
149	38	32	瓦	平瓦		4.75		28.8	25.1	1.85	A地区	SK30
150	39		瓦	桟瓦		6.1		27.8	25.1	1.9	A地区	SK33
151	39	34	瓦	軒丸瓦		(5.35)		(2.1)	(6.1)		A地区	SD03
152	39	33	瓦	軒平瓦		2.95		(14.3)	(14.0)	1.4	A地区	SD03
153	39	33	瓦	軒平瓦		5.0		(11)	23.4	1.7	A地区	SD03
154	39	33	瓦	軒平瓦		4.6		(8.0)	(13.7)	1.8	A地区	SD03
155	39	34	瓦	軒平瓦		4.6		(4.0)	(13.0)		A地区	SD03
156	39	33	瓦	軒平瓦		4.25		(6.5)	(11.6)	1.75	A地区	SD03
157	39	34	瓦	軒平瓦		(4.7)		(3.6)	(9.0)	4.6	A地区	SD03
158	39	33	瓦	軒平瓦				(5.05)	(14.5)	1.65	A地区	SD03
159	39	33	瓦	軒平瓦				(7.2)	(12)	(4.1)	A地区	SD03
160	40	33	瓦	軒平瓦		3.7		(18.9)	(14.5)	1.7	A地区	SD03
161	40	33	瓦	軒平瓦		(8.25)		(19.6)	(24.8)	1.65	A地区	SD03
162	40	33	瓦	軒平瓦		4.35		20.1	23.3	(1.5)	A地区	SD03
163	40	35	瓦	隅瓦				(14.8)	(13.9)	1.8	A地区	SD03
164	40	35	瓦	不明		3.2		(16.3)	(12.3)	1.7	A地区	SD03
165	40	35	瓦	不明		5.5		(14.85)	5.5	1.2	A地区	SD03
166	41	34	瓦	丸瓦		7.35		(23.6)	15.4	1.7	A地区	SD03

報告番号	図版番号	写真図版番号	種別	器種	法量（cm）						出土地区	出土遺構
					口径	器高	底径	長さ	幅	厚み		
167	41	34	瓦	丸瓦		6.6		(13.7)	14.55	1.8	A地区	SD03
168	41	34	瓦	丸瓦				(15.3)	14.1	1.7	A地区	SD03
169	42	34	瓦	丸瓦		(7.1)		(11.6)	(7.3)	1.3	A地区	SD03
170	42	34	瓦	丸瓦		7.3		(23.7)	(9.4)	1.8	A地区	SD03
171	42	35	瓦	平瓦		(2.6)		(11.2)	(9.6)	2.3	A地区	SD03
172	42		瓦	平瓦				(24.5)	(18.8)	1.7	A地区	SD03
173	42		瓦	桟瓦				(22.5)	(13.0)	1.9	A地区	SD03
174	42	35	瓦	平瓦		(2.95)		(13.1)	(13.0)	1.6	A地区	SD03
175	43	35	瓦	桟瓦		5.0		25.9	27.1	1.75	A地区	SD03
176	43		瓦	桟瓦		(2.9)		(19.5)	(2.9)	1.8	A地区	SD03
177	43		瓦	桟瓦		(3.8)		(21.6)	(20.8)	1.7	A地区	SD03
178	43		瓦	桟瓦		(3.5)		-16.9	(16.2)	1.7	A地区	SD03
179	43		瓦	桟瓦		(3.7)		(17.55)	(12.05)	1.65	A地区	SD03
180	44		瓦	桟瓦		(3.7)		(29.75)	(14.95)	1.6	A地区	SD03
181	44		瓦	桟瓦		(4.7)		28.0	(13.0)	1.85	A地区	SD03
182	44	35	瓦	平瓦		(4.55)		(10.7)	(12.9)	2.2	A地区	包含層
183	45	37	丹波焼	鉢	(22.7)	(6.2)					B地区	P03
184	45	37	須恵器	椀	(13.3)	(4.1)					B地区	P13
185	45	37	須恵器	椀	(13.65)	(3.2)					B地区	P13
186	45	37	須恵器	椀		(3.35)	(6.4)				B地区	P13
187	45	36	土師器	杯	(10.8)	2.15	(6.7)				B地区	P26
188	45	36	土師器	小皿	(6.9)	(1.5)					B地区	P31
189	45	37	瓦	平瓦		(5.3)		(11.4)	(12.5)	3.1	B地区	P31
190	45	37	須恵器	椀	(14.6)	(3.0)					B地区	P38
191	45		土師器	小皿	7.45	1.5	3.2				B地区	SK21
192	45	36	土師器	小皿	7.1	1.7					B地区	SK22
193	45	36	土師器	皿	10.2	2.4	(丸底)				B地区	SK23
194	45	37	土師器	皿	(11.0)	(2.02)					B地区	SK21
195	45		土師器	皿	10.35	2.4	6.4				B地区	SK21
196	45	37	土師器	鍋		(5.8)					B地区	SK21
197	45	37	須恵器	杯B		(3.65)	(8.6)				B地区	SK21
198	45	37	須恵器	底部		(3.0)	(6.8)				B地区	SK21
199	45	37	須恵器	蓋		(1.8)					B地区	SK21
200	45	37	須恵器	埦	(13.8)	4.05	(8.0)				B地区	SK21
201	45	36	須恵器	坏身	(12.9)	4.1	6.8				B地区	SK21
202	45	38	陶器	擂鉢	(40.0)	(10.5)					B地区	SK21
203	45	38	瓦	平瓦				(4.6)	(7.2)		B地区	SK21
204	45	38	瓦	平瓦				4.7	5.7	2.45	B地区	SK21
205	45	38	瓦	平瓦				(8.53)	(6.05)	1.65	B地区	SK21
206	45	37	須恵器	椀	(13.85)	(2.0)					B地区	SD24
207	45	37	須恵器	杯B		(2.4)	(12.1)				B地区	SD24
208	45	37	丹波焼	擂鉢	(35.4)	(6.05)					B地区	SD24
209	46		土師器	小皿	5.5	1.5	(丸底)				B地区	SE25
210	46	38	陶器	蓋		1.4	(3.35)				B地区	SE25
211	46	38	陶器	徳利	10.0	3.2	4.6				B地区	SE25
212	46	38	陶器	徳利		(7.5)	(0.9)				B地区	SE25
213	46	38	土師器	焜炉？		3.0	22.4				B地区	SE25
214	46	38	丹波焼	壺？底部		(6.75)	(11.2)				B地区	SE25
215	46	38	陶器	壺（底部）		(9.2)	(12.8)				B地区	SE25
216	46	39	丹波焼	擂鉢		5.0	14.0				B地区	SE25
217	46	39	丹波焼	擂鉢	(22.35)	(10.2)	(13.75)				B地区	SE25
218	46	39	陶器	擂鉢		(3.3)	(15.9)				B地区	SE25
219	46	36	丹波焼	酒瓶		21.3					B地区	SE25
220	46	39	施釉陶器	壺	(24.35)	(3.85)					B地区	SE25
221	46	39	陶器	鉢	(31.4)	14.4	(17.0)				B地区	SE25
222	46	39	丹波焼	盤	(29.6)	7.25	(29.8)				B地区	SE25
223	46	39	陶器	甕（底部）		(17.0)	(20.1)				B地区	SE25
224	46	40	青磁	碗		(3.2)	(3.95)				B地区	SE25
225	46	40	白磁	紅皿	(4.7)	1.2	(1.95)				B地区	SE25
226	46	40	白磁	紅皿	4.4	1.5	1/2				B地区	SE25
227	46	36	施釉陶器	花瓶		(11.1)	7.3				B地区	SE25
228	46	40	三田焼	盃	(9.8)	3.4	(6.2)				B地区	SE25
229	46	40	三田焼	碗		(2.4)	(6.1)				B地区	SE25
230	46	40	三田焼	碗		(2.0)					B地区	SE25
231	46	40	三田焼	碗		(2.4)	6.5				B地区	SE25
232	46	40	三田焼	碗		(1.9)	(6.6)				B地区	SE25
233	46	40	三田焼	碗	(6.6)	2.0	(7.0)				B地区	SE25
234	46	40	三田焼	碗		(2.1)	(5.9)				B地区	SE25
235	46	40	三田焼	碗		(3.0)	(6.6)				B地区	SE25
236	46	40	三田焼	碗		(1.8)					B地区	SE25
237	46	40	三田焼	皿		(2.1)	(5.9)				B地区	SE25
238	47	40	染付磁器	小皿	10.0	2.8	5.6				B地区	SE25
239	47	40	磁器	碗	11.4	6.3	4.8				B地区	SE25
240	47	40	染付磁器	碗	(11.0)	(5.1)					B地区	SE25
241	47	40	磁器	円筒	8.2	3.5					B地区	SE25
242	47	40	染付磁器	徳利		(4.9)					B地区	SE25
243	47	40	磁器	人形				6.1	5.25	1.65	B地区	SE25
244	47	41	土師器	皿	(10.8)	2.2	6.2				B地区	SX09
245	47	41	土師器	皿		4.75+					B地区	SX09
246	47	41	須恵器	埦	(22.0)	3.6+					B地区	SX09
247	47	41	須恵器	擂鉢	(22.8)	3.8+					B地区	SX09
248	47	41	丹波焼	擂鉢		4.6+					B地区	撹乱坑
249	47	41	陶器	壺（底部）		(8.3)	(9.1)				B地区	
250	47	41	須恵器	擂鉢	(46.0)	16.6+					B地区	撹乱坑

報告番号	図版番号	写真図版番号	種別	器種	法量（cm）						出土地区	出土遺構
					口径	器高	底径	長さ	幅	厚み		
251	47	41	陶器	擂鉢	(35.6)	(9.7)					B地区	撹乱抗
252	47	41	丹波焼	擂鉢		5.9+	16.6				B地区	撹乱坑
253	47	36	染付磁器	花瓶	11.9	30.65	11.65				確認調査	
254	47	36	陶器	壺		5.7+	8.0				B地区	撹乱坑
255	47	41	染付磁器	蓋	(4.95)	2.0					確認調査	
256	47	41	白磁	火入れ		(2.45)	3.85				確認調査	
257	47	36	白磁	茶碗	7.45	4.8	3.8				B地区	撹乱坑
258	47	41	土製品	土錘				3.6	1.3	1.3	B地区	排土
259	48	48	丹波焼	土管	14.7	513	10.2				B地区	
260	48	48	丹波焼	土管	14.9	51.7	9.8				B地区	
261		30	染付磁器	角鉢							A地区	SD03
262		30	青磁	皿							A地区	SD03
263		30	青磁	把手							A地区	P07
264		30	土製品	土型							A地区	SK04
265		30	野田焼	底部							A地区	SK26
266		30	施釉陶器	碗							A地区	SK28
267		30	絵付磁器	小皿							A地区	SK34
268		30	土製品	土型							A地区	
269		30	三田焼	皿？							A地区	SK40
270		22	土師器	甕							A地区	SK24
S1	49	42	石器	硯				(4.4)	4.15	0.85	A地区	SK22
S2	49	42	石器	硯				3.40	3.26	0.85	A地区	SK22
S3	49	42	石器	砥石				7.91	8.14	4.48	A地区	SD03
S4	49	42	石器	砥石				10.55	3.98	1.61	A地区	SD03
S5	49	42	石器	砥石				18.78	6.06	3.71	A地区	耕土
S6	49	42	石器	砥石				(11.75)	8.45	2.1	A地区	SD03
S7	49	42	石器	砥石				8.15	5.65	4.75	A地区	SD03
S8	49	42	石器	石斧				5.68	7.31	5.36	A地区	耕土
S9	49	42	石器	石斧				6.03	6.89	5.04	A地区	耕土
S10		42	石								A地区	SD03
W1	50	43	木器	不明				7.4	7.6	0.65	B地区	SX09
W2	50	43	木器	容器				(11.6)	(3.85)	0.45	B地区	P03
W3	50	43	木器	不明				12.95	(8.95)	0.7	B地区	SD24
W4	50	43	木器	部材				(23.6)	2.4	0.8	B地区	SE25
W5	50	43	木器	札				19.0	(2.25)	0.65	A地区	SK14
W6	50		木器	竹材/不明				9.5	6.2	(3.5)	A地区	SE01
W7	50	43	木器	札				24.85	(8.2)	0.55	A地区	SD03
W8	50	43	木器	札				9.0	3.8	0.6	A地区	SD03精査
W9	50	43	木器	杓文字				24.85	8.0	1.4	A地区	SD03精査
W10	50	44	木器	箸				(17.4)	0.6	0.6	A地区	P09
W11	50	43	木器	曲物底	(12.8)			12.8	(9.4)	0.65	A地区	SD03精査
W12	50		木器	曲物底				10.65	(3.65)	0.65	A地区	SD03
W13	50	44	木器	曲物				10.2	(8.7)	0.6	A地区	P08
W14-1	50	44	木器	曲物		4.05	11.25	(11.25)	11.25	0.6	A地区	SD03
W14-2	50	44	木器	曲物		4.05	11.25	(11.25)	11.25	0.6	A地区	SD03
W15	51	44	木器	曲物？				28.6	(11.85)	1.7	A地区	P02
W16	51	44	木器	不明部材				19.5	4.3	1.45	A地区	P07
W17	51	44	木器	不明				21.5	5.1	0.95	A地区	西側溝
W18	51	44	木器	札？				(14.65)	4.15	0.7	A地区	SD03
W19	51	44	木器	？				20.85	(4.65)	2.1	A地区	P01
W20	51		木器	容器？				7.9	10.75	0.45	A地区	SE01
W21	51	44	木器	栓？				5.45	4.65	4.3	A地区	SK03
W22	51	44	木器	部材				7.35	5.05	0.5	A地区	SD03
W23	51	45	木器					MAX22.3	7.86	0.8	A地区	SK04
W24	51		木器	不明				6.9	6.3	0.65	A地区	P06
W25	51		木器	曲物？				(11.55)	(1.15)	0.58	A地区	SD03
W26	51		木器	不明				5.55	(6.55)	1.9	A地区	SD03
W27	52	45	木器	下駄				21.0	8.45	2.5	A地区	SD03
W28	52	45	木器	下駄				15.8	7.6	5.25	A地区	SD03
W29	52	45	木器	下駄				(23.1)	8.6	2.45	A地区	SD03
W30	52	45	木器	板材				49.7	(9.3)	(4.7)	A地区	SK02
W31	53	46	木器	部材				(117.8)	(4.4)	0.6	A地区	SD03
W32	53	46	木器	部材				45.5	(14.8)	0.7	A地区	SK12
W33	53	46	木器	杭				(38.8)	5.2	3.65	A地区	面精査
W34	53	46	木器	曲物底				18.8	10.0	1.2	A地区	南側溝
W35	53	46	木器	杭							A地区	SD03
W36	53	46	木器	板材							A地区	SD03
M1	54	47	鉄器	包丁				(21.5)	1.35-4.95	0.3-0.9	A地区	SK04
M2	54	47	鉄器	不明				8.4	2.25	0.65	A地区	SK04
M3	54	47	鉄器	ヤスリ				(0.8)	0.75	0.7	A地区	SK14
M4	54	47	銅製品	紡錘車				径4.05	孔径0.37	1.93	A地区	SK18
M5	54	47	鉄器	小刀				(8.3)	1.55	0.38	A地区	SD01
M6	54	47	鉄器	釘				(2.9)	巾0.45	0.55	A地区	SD01
M7	54	47	鉄器	釘				(2.95)	0.7	0.85	A地区	SD01
M8	54	47	銅製品	簪				(13.4)	0.25-0.91	0.15-0.24	A地区	SD03
M9	54	47	銅製品	不明				1.95	2.25	1.6	A地区	SD03
M10	54	47	鉄器	鎖				(5.3)	1.4	0.5	A地区	SD12
M11	54	47	鉄器	釘				(4.6)	0.85	0.66	A地区	撹乱内
M12	54	47	鉄器	釘				(5.19)	0.95	0.83	A地区	撹乱内
M13	54	47	鉄器	スラッグ				(7.8)	(5.8)	3.45	A地区	SK22
M14	54	47	銅製品?	ペン先				3.05	0.72	0.3	A地区	撹乱内
M15	54	47	銅製品	十銭				径1.91	孔径0.5	0.2	A地区	撹乱内
M16	54	47	金属製品	ボタン				2.0	2.0	0.3	A地区	SD03

第４章　自然科学分析

第１節　兵庫県大池ノ南遺跡出土木製品の樹種調査結果

㈱吉田生物研究所

１．試料

試料は兵庫県大池ノ南遺跡から出土した服飾具３点、食事具２点、容器５点、文房具２点、土木具２点、用途不明品４点の合計18点である。

２．観察方法

剃刀で木口（横断面）、柾目（放射断面）、板目（接線断面）の各切片を採取し、永久プレパラートを作製した。このプレパラートを顕微鏡で観察して同定した。

３．結果

樹種同定結果（針葉樹５種、広葉樹２種）の表と顕微鏡写真を示し、以下に各種の主な解剖学的特徴を記す。

１）イチイ科イチイ属イチイ（*Taxus cuspidata* Sieb. et Zucc.）

（遺物№12）

（写真№12）

木口では仮道管を持ち、早材から晩材への移行は緩やかであった。晩材部は狭く、年輪界は比較的不明瞭である。軸方向柔細胞を欠く。柾目では放射組織の分野壁孔はヒノキ型で１分野に普通２個ずつある。仮道管の壁には螺旋肥厚が存在する。板目では放射組織はすべて単列であった。イチイは北海道、本州、四国、九州に分布する。

２）スギ科スギ属スギ（*Cryptomeria japonica* D. Don）

（遺物№３，６，８，９，11，14，15，17）

（写真№３，６，８，９，11，14，15，17）

木口では仮道管を持ち、早材から晩材への移行はやや急であった。樹脂細胞は晩材部で接線方向に並んでいた。柾目では放射組織の分野壁孔は典型的なスギ型で1分野に１～３個ある。板目では放射組織はすべて単列であった。樹脂細胞の末端壁はおおむね偏平である。スギは本州、四国、九州の主として太平洋側に分布する。

３）ヒノキ科ヒノキ属（*Chamaecyparis* sp.）

（遺物№１，２，７，10）

（写真№１，２，７，10）

木口では仮道管を持ち、早材から晩材への移行が急であった。樹脂細胞は晩材部に偏在している。柾目では放射組織の分野壁孔はヒノキ型で１分野に１～２個ある。板目では放射組織はすべて単列であった。数珠状末端壁を持つ樹脂細胞がある。ヒノキ属はヒノキ、サワラがあり、本州（福島以南）、

四国、九州に分布する。

4）ヒノキ科アスナロ属（*Thujopsis* sp.）

（遺物№4 ,13）

（写真№4 ,13）

木口では仮道管を持ち、早材から晩材への移行は緩やかであった。樹脂細胞は晩材部に散在または接線配列である。柾目では放射組織の分野壁孔はヒノキ型からややスギ型で１分野に２～４個ある。板目では放射組織はすべて単列であった。数珠状末端壁を持つ樹脂細胞がある。アスナロ属にはアスナロ（ヒバ、アテ）とヒノキアスナロ（ヒバ）があるが顕微鏡下では識別困難である。アスナロ属は本州、四国、九州に分布する。

5）針葉樹

（遺物№18）

（写真№18）

木口は採取出来なかった。柾目では放射組織の分野壁孔は圧縮で変形しており、分類は不明。板目では繊維状の仮道管が見られ、放射細胞はすべて単列であった。

6）ブナ科コナラ属アカガシ亜属（*Quercus subgen. Cyclobalanopsis*）

（遺物№5）

（写真№5）

放射孔材である。木口では年輪に関係なくまちまちな大きさの道管（～200μm）が放射方向に配列する。軸方向柔細胞は接線方向に１～３細胞幅の独立帯状柔細胞をつくっている。放射組織は単列放射組織と非常に列数の広い放射組織がある。柾目では道管は単穿孔と多数の壁孔を有する。放射組織はおおむね平伏細胞からなり、時々上下縁辺に方形細胞が見られる。道管放射組織間壁孔は大型で柵状の壁孔が存在する。板目では多数の単列放射組織と放射柔細胞の塊の間に道管以外の軸方向要素が挟まれている集合型と複合型の中間となる型の広放射組織が見られる。アカガシ亜属はイチイガシ、アカガシ、シラカシ等があり、本州（宮城、新潟以南）、四国、九州、琉球に分布する。

7）ブナ科クリ属クリ（*Castanea crenata* Sieb. et Zucc.）

（遺物№16）

（写真№16）

環孔材である。木口では円形ないし楕円形で大体単独の大道管（～500μm）が年輪にそって幅のかなり広い孔圏部を形成している。孔圏外は急に大きさを減じ薄壁で角張った小道管が単独あるいは２～３個集まって火炎状に配列している。柾目では道管は単穿孔と多数の有縁壁孔を有する。放射組織は大体において平伏細胞からなり同性である。板目では多数の単列放射組織が見られ、軸方向要素として道管、それを取り囲む短冊型柔細胞の連なり（ストランド）、軸方向要素の大部分を占める木繊維が見られる。クリは北海道（西南部）、本州、四国、九州に分布する。

◆参考文献◆

林　昭三「日本産木材顕微鏡写真集」京都大学木質科学研究所（1991）

伊東隆夫「日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ～Ⅴ」京都大学木質科学研究所（1999）

島地　謙・伊東隆夫「日本の遺跡出土木製品総覧」雄山閣出版（1988）

北村四郎・村田　源「原色日本植物図鑑木本編Ⅰ・Ⅱ」保育社（1979）

奈良国立文化財研究所「奈良国立文化財研究所 史料第27冊 木器集成図録 近畿古代篇」（1985）

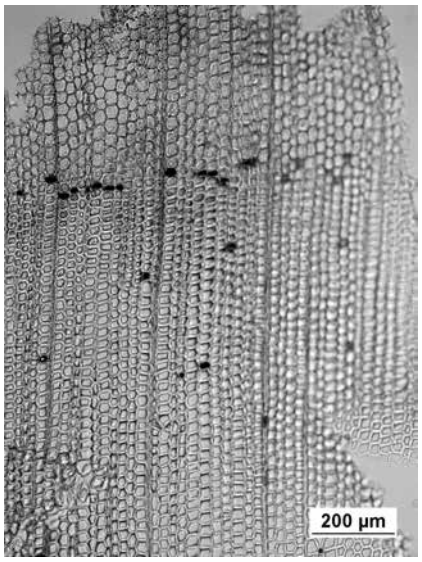
奈良国立文化財研究所「奈良国立文化財研究所 史料第36冊 木器集成図録 近畿原始篇」（1993）

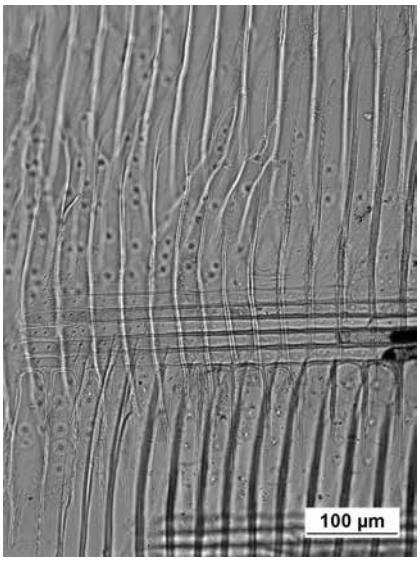
◆使用顕微鏡◆

Nikon DS-Fi1

第３表　兵庫県大池ノ南遺跡出土木製品同定表

No.	報告番号	品名	樹種
1	Ｗ３	不明（容器？）	ヒノキ科ヒノキ属
2	Ｗ２	容器	ヒノキ科ヒノキ属
3	W17	桶	スギ科スギ属スギ
4	W11	曲物	ヒノキ科アスナロ属
5	W21	栓？	ブナ科コナラ属アカガシ亜属
6	W15	桶底？	スギ科スギ属スギ
7	W28	下駄	ヒノキ科ヒノキ属
8	W29	下駄	スギ科スギ属スギ
9	W27	下駄	スギ科スギ属スギ
10	Ｗ９	杓文字	ヒノキ科ヒノキ属
11	W13	曲物	スギ科スギ属スギ
12	W10	箸	イチイ科イチイ属イチイ
13	W32	板材	ヒノキ科アスナロ属
14	Ｗ７	札	スギ科スギ属スギ
15	Ｗ８	札	スギ科スギ属スギ
16	W33	杭	ブナ科クリ属クリ
17	W20	容器	スギ科スギ属スギ
18		SD03護岸材（ひわだ）	針葉樹

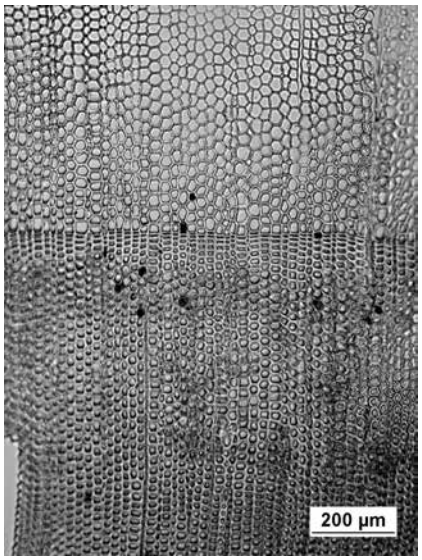


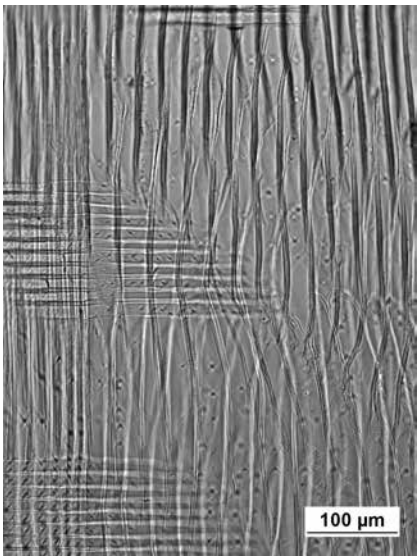


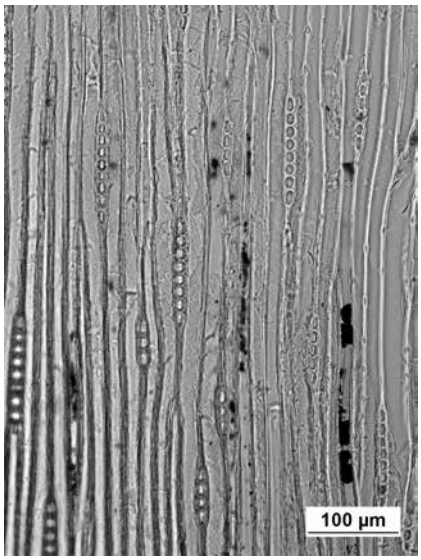
P-1

木口　　柾目　　板目

No-1　ヒノキ科ヒノキ属

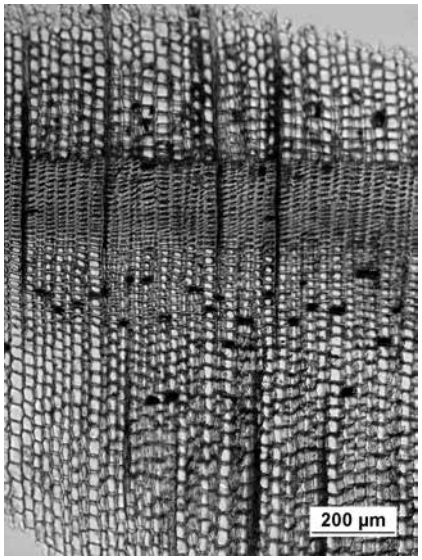


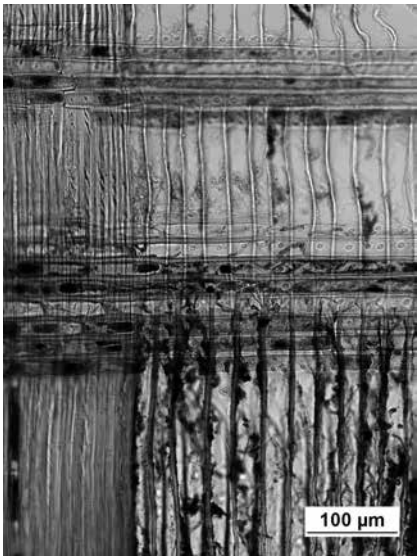


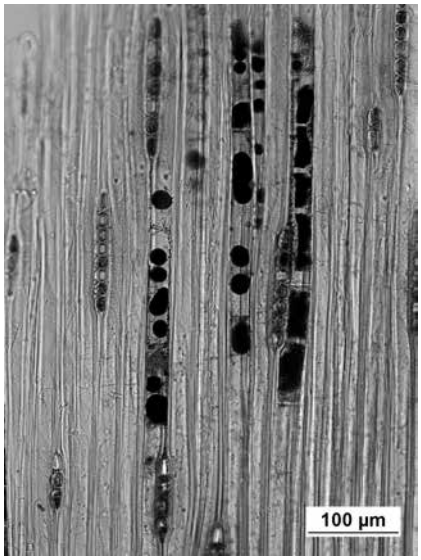


木口　　柾目　　板目

No-2　ヒノキ科ヒノキ属





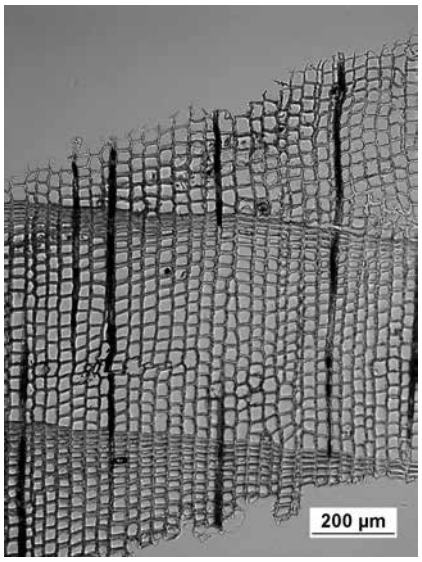


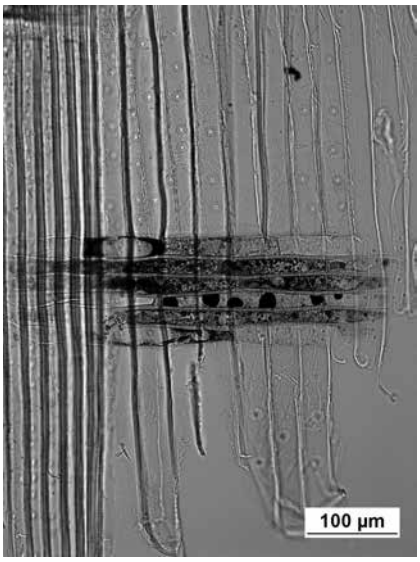
木口　　柾目　　板目

No-3　スギ科スギ属スギ

第２図　樹種切片顕微鏡写真

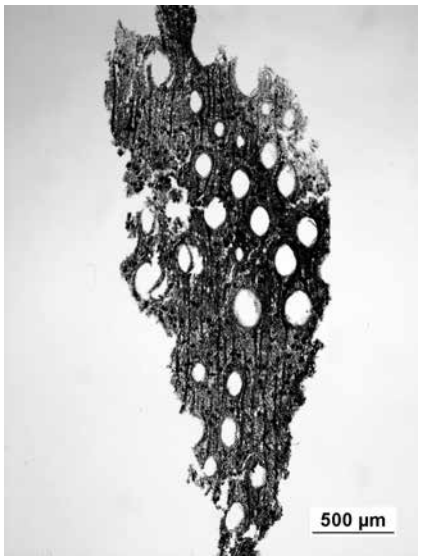
P-2





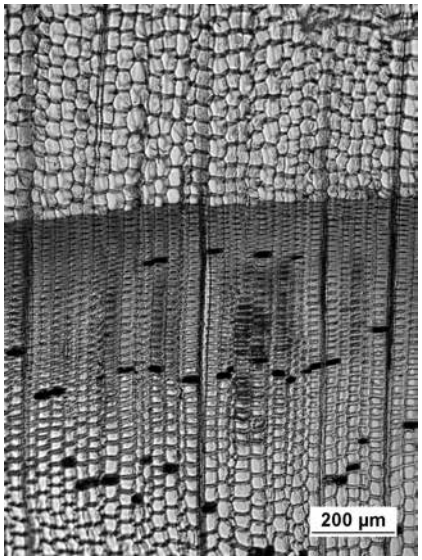
木口　　柾目　　板目

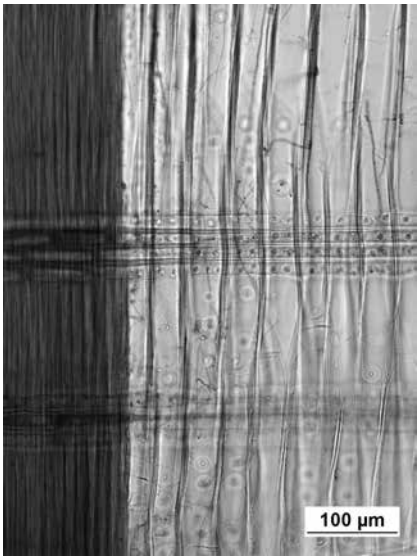
No-4　ヒノキ科アスナロ属

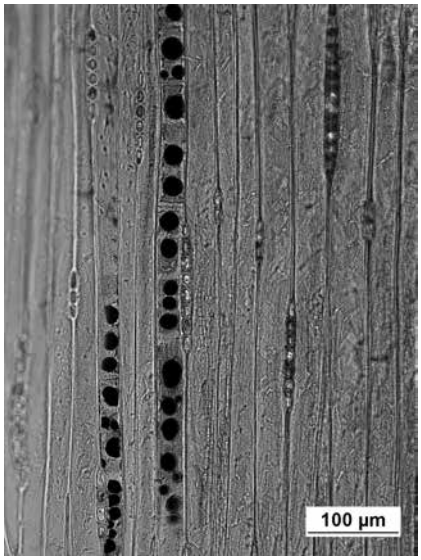


木口　　柾目　　板目

No-5　ブナ科コナラ属アカガシ亜属

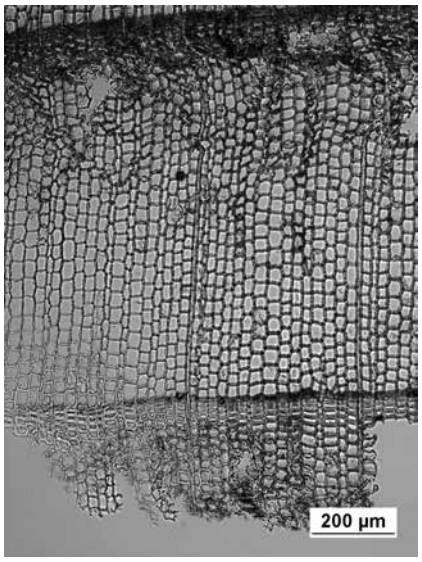


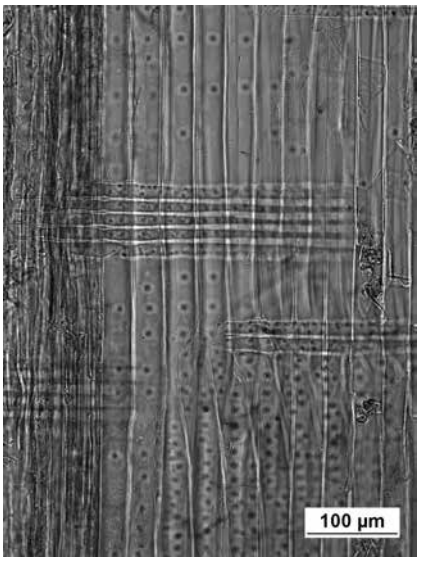


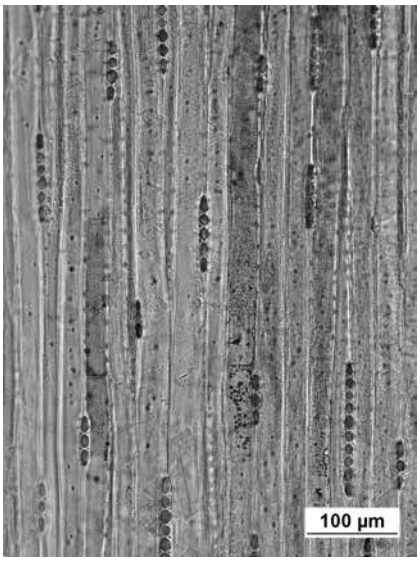


木口　　柾目　　板目

No-6　スギ科スギ属スギ



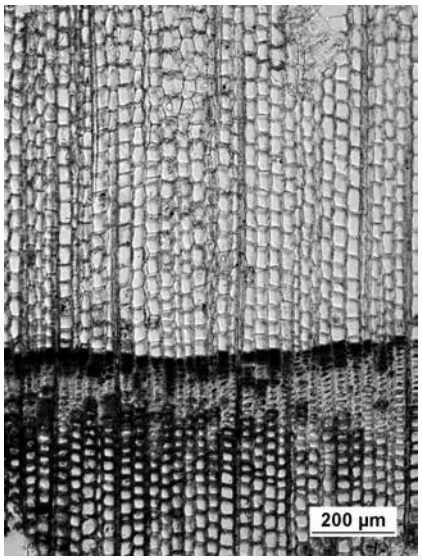


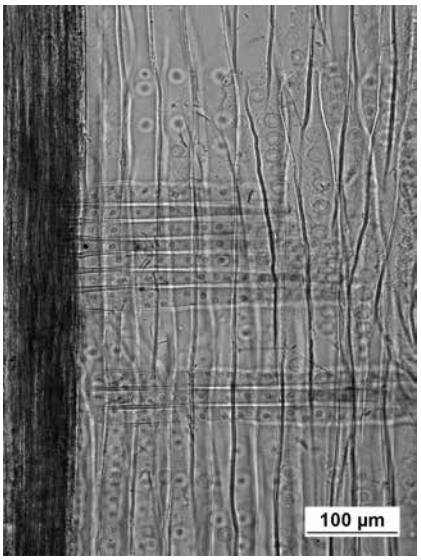


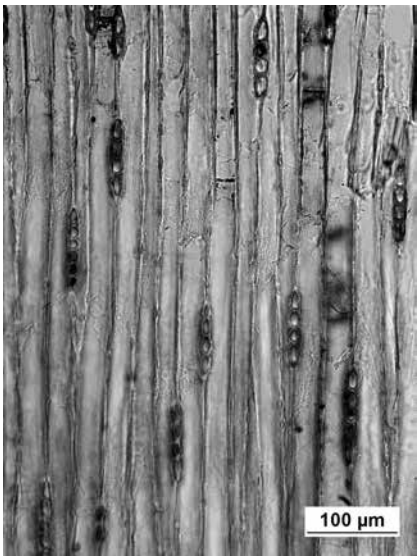
P-3

木口　　柾目　　板目

No-7　ヒノキ科ヒノキ属

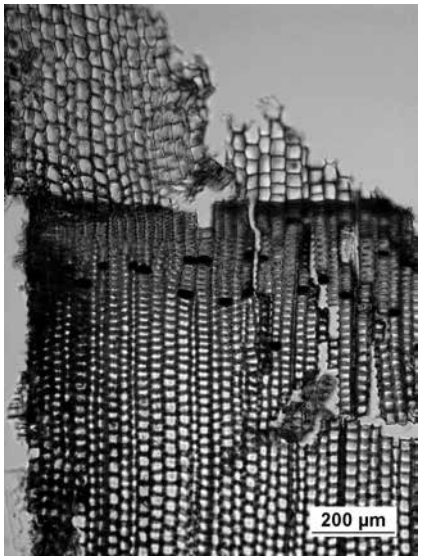


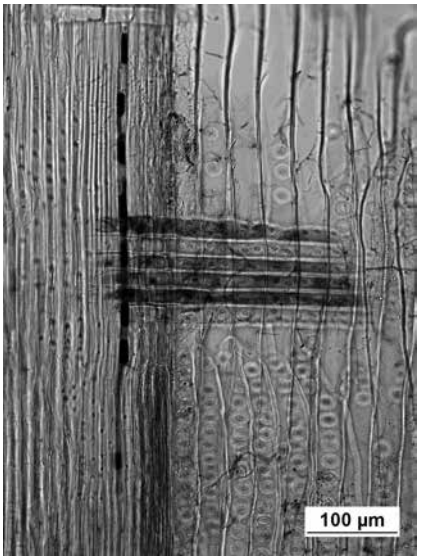


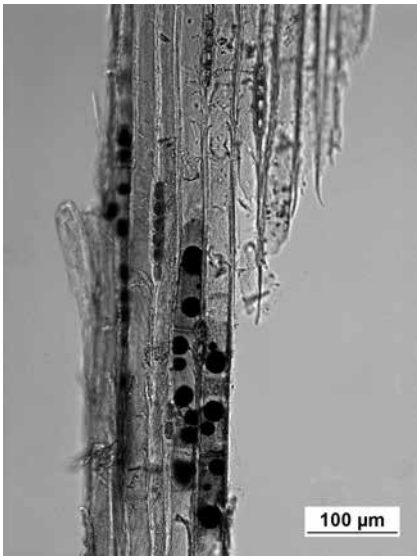


木口　　柾目　　板目

No-8　スギ科スギ属スギ



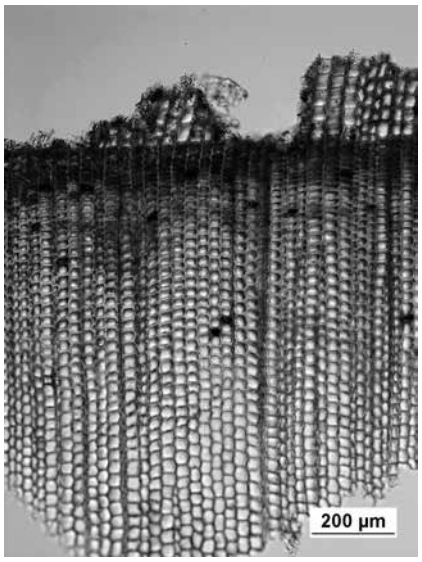




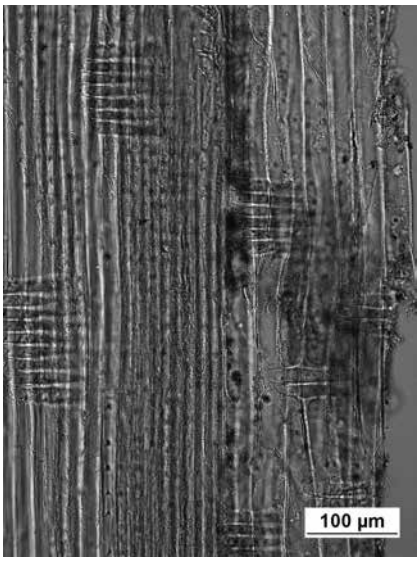
木口　　柾目　　板目

No-9　スギ科スギ属スギ

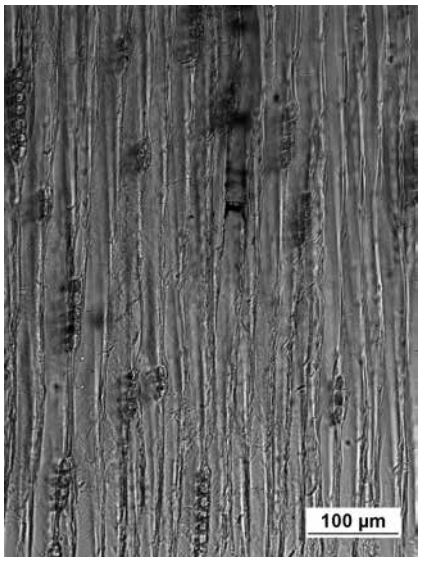
P-4



木口

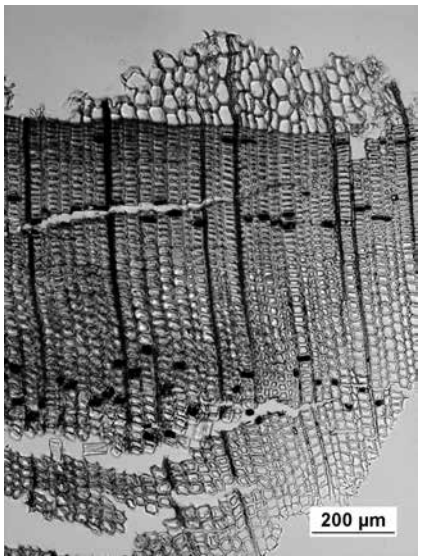


柾目

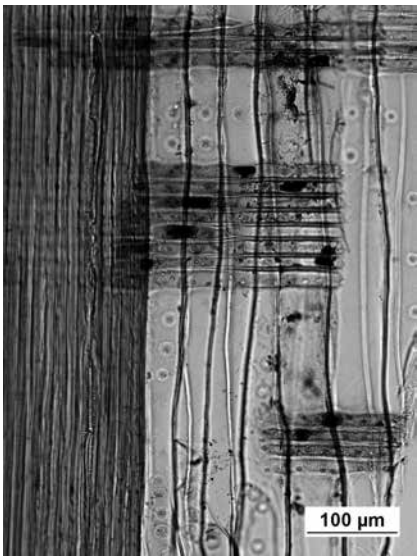


板目

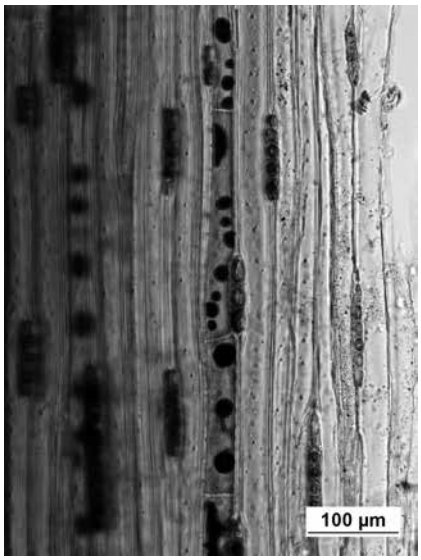
No-10　ヒノキ科ヒノキ属



木口

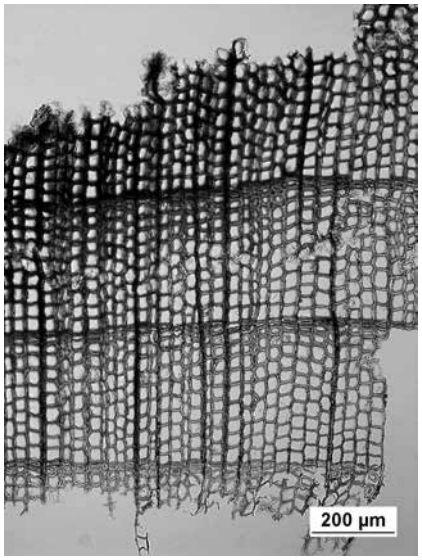


柾目

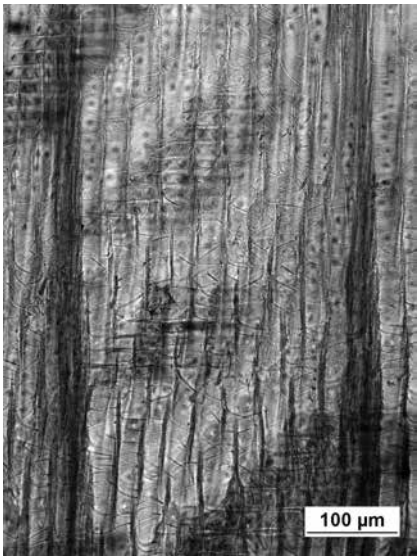


板目

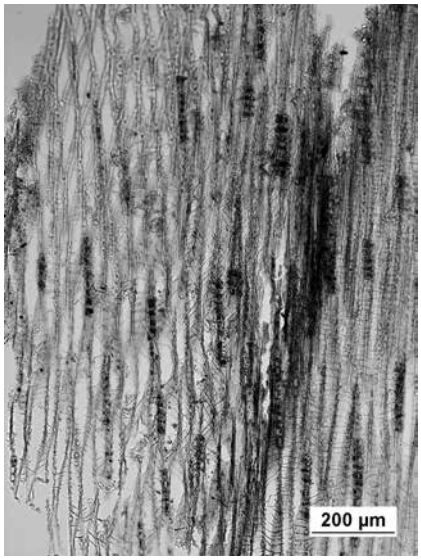
No-11　スギ科スギ属スギ



木口

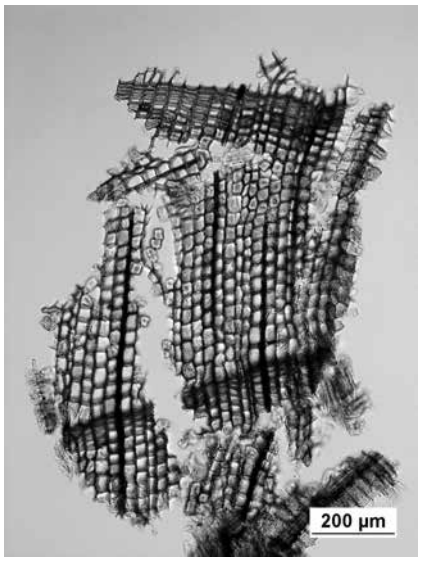


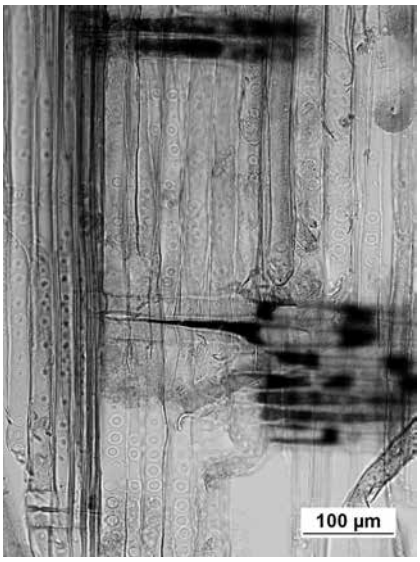
柾目

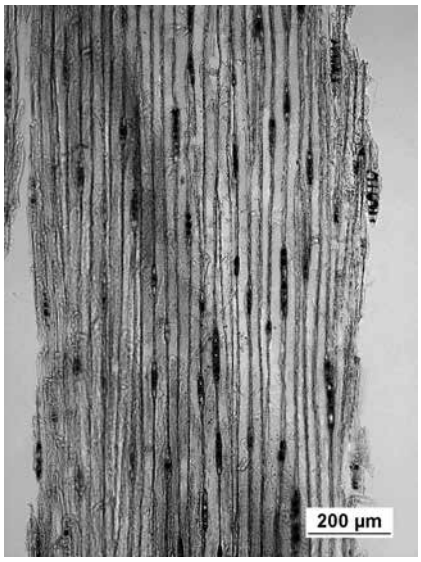


板目

No-12　イチイ科イチイ属イチイ

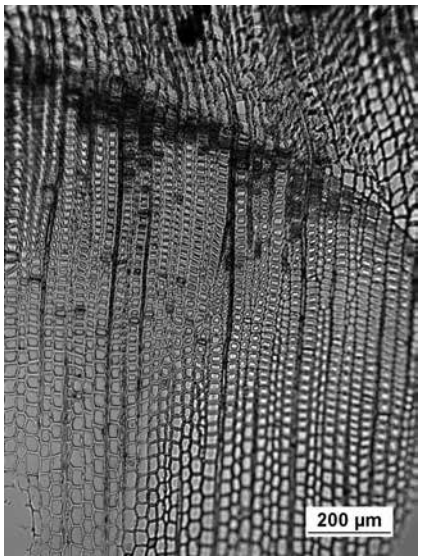


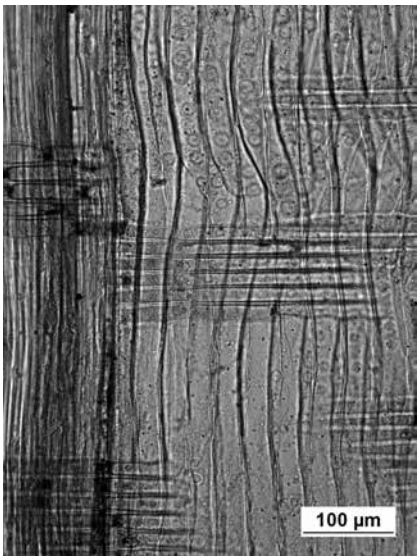




木口　　柾目　　板目

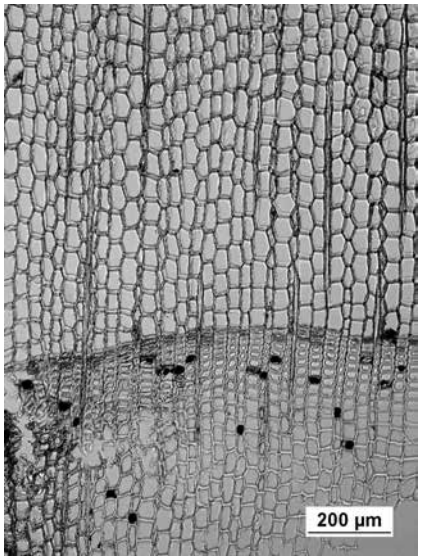
No-13　ヒノキ科アスナロ属

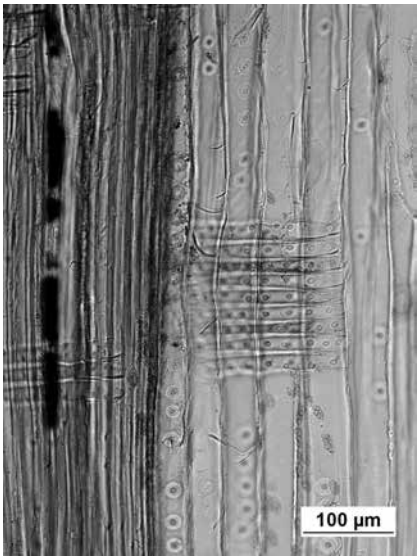


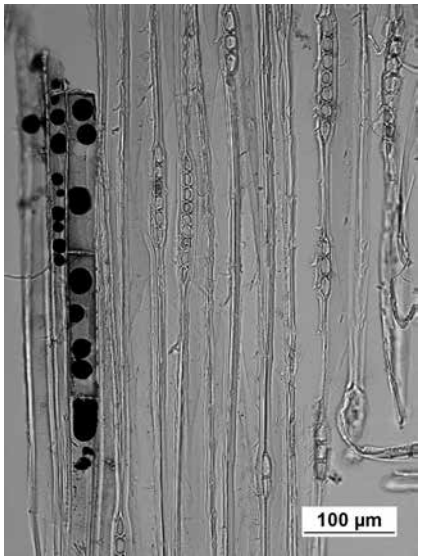


木口　　柾目　　板目

No-14　スギ科スギ属スギ



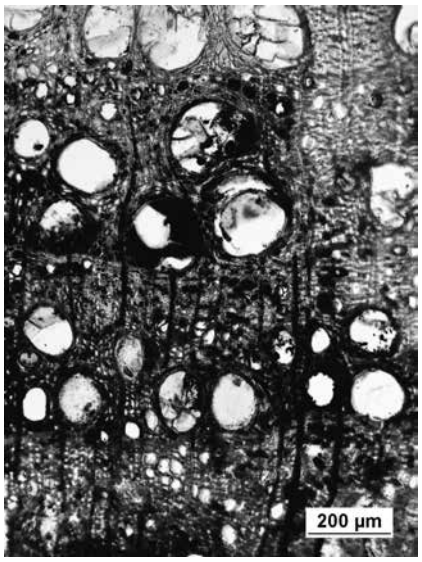




木口　　柾目　　板目

No-15　スギ科スギ属スギ

P-6

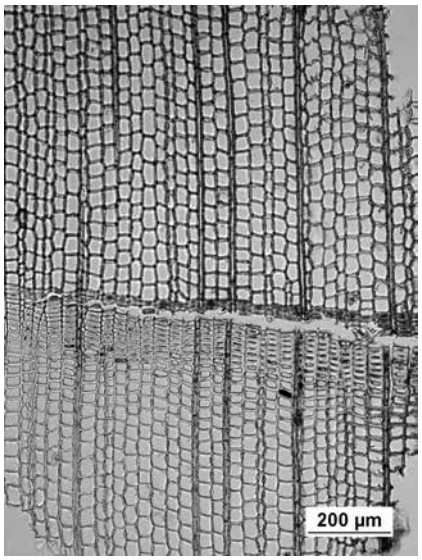


木口

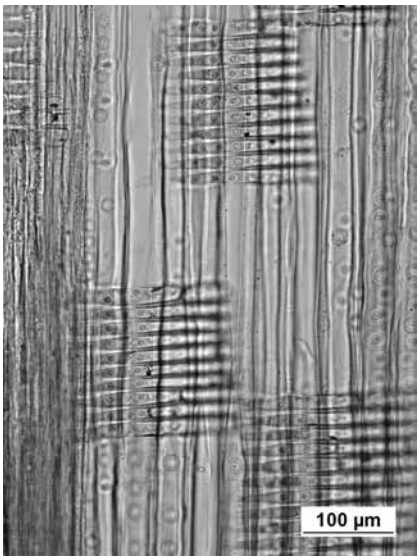
柾目

板目

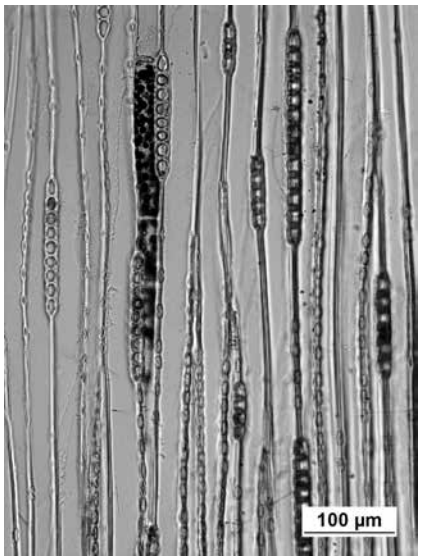
No-16　ブナ科クリ属クリ



木口

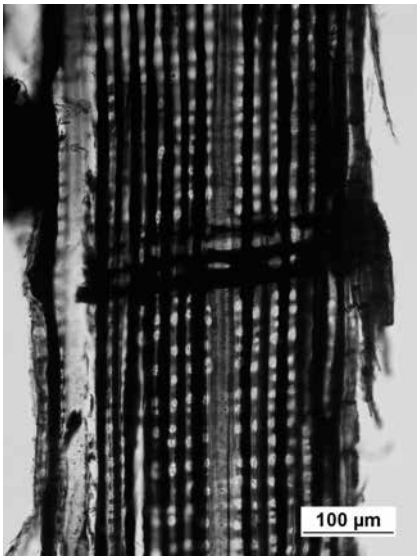


柾目



板目

No-17　スギ科スギ属スギ



柾目

板目

No-18　針葉樹

第２節　大池ノ南遺跡　自然科学分析（種子同定）報告

パリノ・サーヴェイ株式会社　辻本　裕也・松元　美由紀

大池ノ南遺跡（兵庫県三田市西山）は、武庫川右岸の丘陵上に位置し、幕末に三田藩政を担った白洲退蔵の屋敷跡と考えられている。本遺跡の発掘調査の結果、江戸時代の武家屋敷に伴う遺構・遺物や、中世、平安時代以前の遺構が確認されている。

本報告は、発掘調査で検出された江戸時代後期の遺構より出土した種実遺体の同定を実施し、当時の植物利用に関わる資料を作成する。

１．試料

試料は、SD03より出土した種実遺体４試料（№１～４）６個である（表１）。試料は全て乾燥した状態である。

２．分析方法

試料を双眼実体顕微鏡下で観察する。種実遺体の同定は、現生標本と石川（1994）、中山ほか（2000）等の図鑑類を参考に実施し、結果を一覧表で示す。分析後は、種実遺体を容器に戻して返却する。

３．結果

結果を表１に示す。栽培種のウメの核が1個、モモの核が１個、トウガンの種子が２個の、計４個が同定された。残りの２個（№２）は、種実ではない。植物細胞は確認されず、動物の蛹に由来する可能性がある。蛹と考えられる物質は、灰黒褐色を呈し、長さ9.1㎜、4.2㎜、厚さ1.4㎜と、長さ8.5㎜、幅5.0㎜、厚さ1.6㎜のややつぶれた長楕円体。皮は薄い膜状で表面は粗面である。

本分析で同定された種実各分類群の写真を図版１に示し、形態的特徴を以下に記す。

・ウメ（*Prunus mume*（Sieb.）Sieb. et Zucc.）　バラ科サクラ属

核（内果皮）は淡灰褐色、長さ16.3㎜、幅12.2㎜、厚さ10.2㎜のやや偏平な広楕円体。頂部は尖り、基部は切形で中央部に湾入した臍がある。背面正中線上に細い縦隆条が、腹面正中線には浅い縦溝とその両側に幅の狭い帯状部がある。内果皮は厚く硬く、表面には円形の小凹点が分布する（図版1-1）。

・モモ（*Prunus persica* Batsch）　バラ科サクラ属

核（内果皮）は灰褐色、長さ24.8㎜、幅18.3㎜、残存厚13.8㎜のやや偏平な広楕円体。頂部はやや尖り、基部は切形で中央部に湾入した臍がある。背面正中線上に細い縦隆条が、腹面正中線には浅い縦溝とその両側に幅の狭い帯状部がある。側面にネズミ類による食痕と考えられる径1.1㎝の円形の孔がみられる（図版1-2a,d）。内果皮は厚く硬く、表面は縦に流れる不規則な線状の深い窪みがあり、全体として粗いしわ状にみえる（図版1-2）。

第４表　種実同定結果

試料情報						同定結果						
№	調査地区	出土遺構	層位	備考	時代	分類群	部位	個数	長さ（㎜）	幅（㎜）	厚さ（㎜）	備考
1	A地区	SD03		-1,-2 一括	江戸後期	モモ	核（内果皮）	1	24.8	18.3	13.8＋	側面：食痕（径11㎜）
2	A地区	SD03	明青灰色シルト	杭列南側の堆積	江戸後期	―	―	2	9.1	4.2	1.4＋	種実ではない（蛹？）つぶれている
									8.5	5.0	1.6＋	
3	A地区	SD03	暗オリーブ灰色シルト（植物遺体混）	杭列南側の堆積	江戸後期	トウガン	種子	2	10.5	6.8	2.1＋	
									10.1	7.2	2.0＋	
4	A地区	SD03	暗黒灰色シルト及び明青灰色シルト		江戸後期	ウメ	核（内果皮）	1	16.3	12.2	10.2＋	

注）計測値はデジタルノギスによる

・トウガン（*Benincasa hispida*（Thunb. ex Murray）Cogn.）　ウリ科トウガン属

種子は淡灰褐色、長さ10.5㎜、幅6.8㎜、厚さ2.1㎜と、長さ10.1㎜、幅7.2㎜、厚さ2.0㎜の偏平な倒卵体。基部は切形で楕円形の臍がある。両面の全縁には段差があり薄くなる。種皮表面は粗面（図版1-3,4）。

4．考察

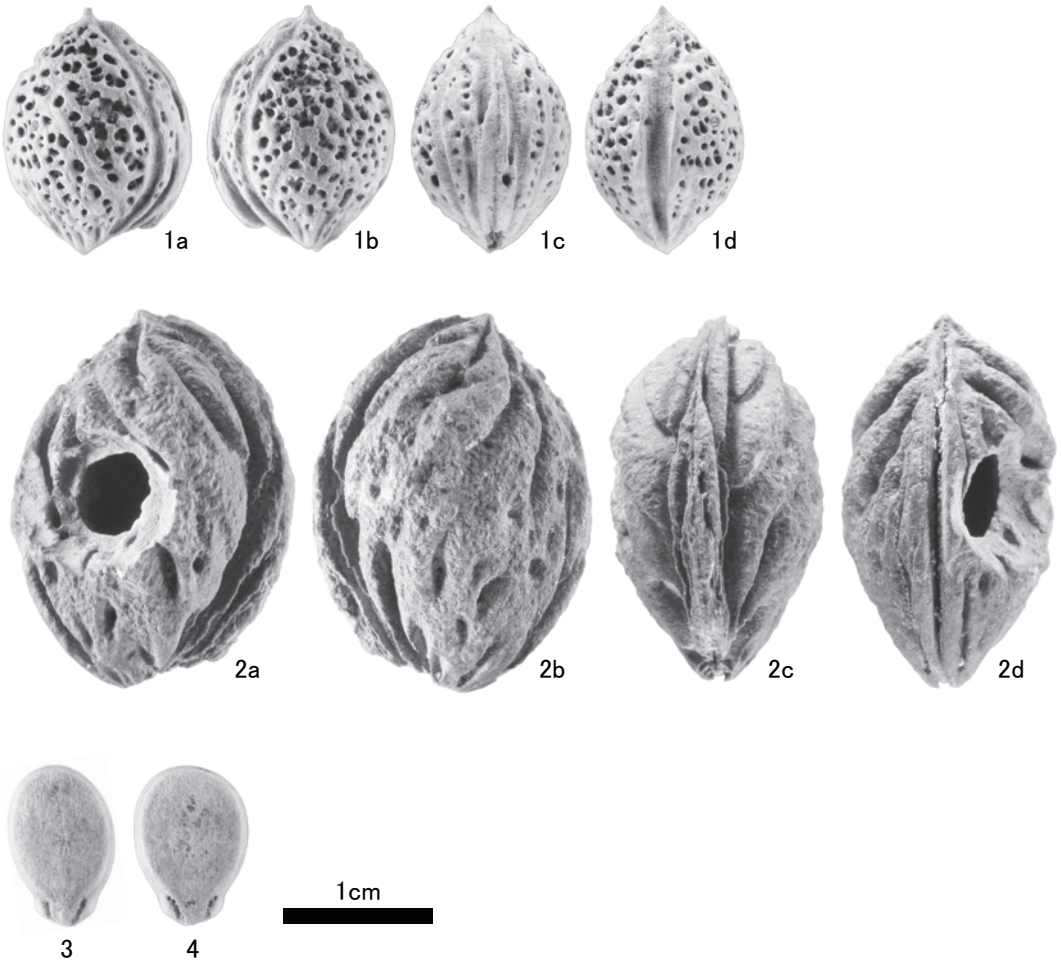
SD03より出土した種実遺体には、栽培種のウメ、モモ、トウガンが確認された。果樹のウメ、モモは、果実や種子が食用、薬用、祭祀等に、花が観賞用に利用される。果菜類のトウガンは、果実が食用に、種子が薬用に利用される。これらの種実遺体は、周辺で栽培されていたか、近辺より持ち込まれたかは不明であるが、当時利用された植物質食料と示唆され、遺構内への投棄または埋納などの人為的行為に由来する可能性がある。

引用文献

石川茂雄，1994，原色日本植物種子写真図鑑．石川茂雄図鑑刊行委員会，328p.

中山至大・井之口希秀・南谷忠志，2000，日本植物種子図鑑.東北大学出版会，642p.

第３図　種実遺体



1．ウメ 核(SD03-1)　　2．モモ 核(食痕)(SD03)
3．トウガン 種子(SD03-1)　　4．トウガン 種子(SD03-1)

第３節　大池ノ南遺跡出土遺物胎土分析

㈱第四紀　地質研究所　井上　巖

Ｘ線回折試験及び化学分析試験

１　実験条件

１－１　試料

分析に供した試料は第１表胎土性状表に示す通りである。

Ｘ線回折試験に供する遺物試料は洗浄し、乾燥したのちに、メノウ乳鉢にて粉砕し、粉末試料として実験に供した。

化学分析は土器をダイヤモンドカッターで小片に切断し、表面を洗浄し、乾燥後、試料表面をコーテングしないで、直接電子顕微鏡の鏡筒内に挿入し、分析した。

１－２　Ｘ線回折試験

土器胎土に含まれる粘土鉱物及び造岩鉱物の同定はＸ線回折試験によった。測定には日本電子製JDX－8020Ｘ線回折装置を用い、次の実験条件で実験した。

Target: Cu, Filter: Ni, Voltage: 40kV, Current: 30mA, ステップ角度：0.02°

計数時間：0.5秒。

１－３　化学分析

元素分析は日本電子製5300LV型電子顕微鏡に2001型エネルギー分散型蛍光Ｘ線分析装置をセットし、実験条件は加速電圧：15kV、分析法：スプリント法、分析倍率：200倍、分析有効時間：100秒、分析指定元素10元素で行った。

２　Ｘ線回折試験結果の取扱い

実験結果は第５表胎土性状表に示す通りである。

第５表右側にはＸ線回折試験に基づく粘土鉱物及び造岩鉱物の組織が示してあり、左側には、各胎土に対する分類を行った結果を示している。

Ｘ線回折試験結果に基づく粘土鉱物及び造岩鉱物の各々に記載される数字はチャートの中に現われる各鉱物に特有のピークの強度を記載したものである。

２－１　組成分類

１）Mont-Mica-Hb三角ダイヤグラム

三角ダイヤグラムを１～13に分割し、位置分類を各胎土について行い、各胎土の位置を数字で表した。

Mont、Mica、Hbの三成分の含まれない胎土は記載不能として14にいれ、別に検討した。三角ダイヤグラムはモンモリロナイト（Mont)、雲母類（Mica)、角閃石（Hb）のＸ線回折試験におけるチャートのピーク強度をパーセント（％）で表示する。

モンモリロナイトはMont/Mont+Mica+Hb*l00でパーセントとして求め、同様にMica, Hbも計算し、三角ダイヤグラムに記載する。

三角ダイヤグラム内の１～４はMont, Mica, Hbの３成分を含み、各辺は２成分、各頂点は１成分よりなっていることを表している。

２）Mont-Ch, Mica-Hb菱形ダイヤグラム

菱形ダイヤグラムを１～19に区分し、位置分類を数字で記載した。記載不能は20として別に検討した。

モンモリロナイト（Mont)、雲母類（Mica)、角閃石（Hb)、緑泥石（Ch）の内、

ａ）３成分以上含まれない、ｂ）Mont, Chの２成分が含まれない、

ｃ）Mica, Hbの２成分が含まれない、の３例がある。

菱形ダダイヤグラムはMont-Ch, Mica-Hbの組合せを表示するものである。Mont-Ch, Mica-HbのそれぞれのＸ線回折試験のチャートの強度を各々の組合せ毎にパーセントで表すもので、例えば、Mont/Mont+Ch*100と計算し、Mica, Hb, Chも各々同様に計算し、記載する。

菱形ダイヤグラム内にある１～７はMont, Mica, Hb, Chの４成分を含み、各辺はMont, Mica, Hb, Chのうち３成分、各頂点は２成分を含んでいることを示す。

３）化学分析結果の取り扱い

化学分析結果は酸化物として、ノーマル法（10元素全体で100％になる）で計算し、化学分析表を作成した。化学分析表に基づいてSiO_2-Al_2O_3図、Fe_2O_3-TiO_2図、K_2O-CaO図の各図を作成した。これらの図をもとに、土器類を元素の面から分類した。

３　Ｘ線回折試験結果

３－１　タイプ分類

第５表胎土性状表には大池ノ南遺跡から出土した土器他が記載してある。

第７表タイプ分類表に示すように土器はＡとＢタイプが検出された。

Ａタイプ：Mica１成分を含み、Mont, Hb, Chの３成分に欠ける。

大池ノ南遺跡の井戸枠と土器が集中する。

Ｂタイプ：Mont, Mica, Hb, Chの４成分に欠ける。

高温で焼成されているために鉱物は分解してガラスに変質している。

検出されたタイプはＢタイプが３個、Ａタイプが１個である。Ｂタイプは磁器で高温で焼成されているために鉱物が分解してガラスに変質している。

３－２　石英（Ｑｔ）－斜長石（Ｐｌ）の相関について

土器胎土中に含まれる砂の粘土に対する混合比は粘土の材質、土器の焼成温度と大きな関わりがある。土器を制作する過程で、ある粘土にある量の砂を混合して素地土を作るということは個々の集団が持つ土器制作上の固有の技術であると考えられる。

自然の状態における各地の砂は固有の石英と斜長石比を有している。この比は後背地の地質条件によって各々異なってくるものであり、言い換えれば、各地の砂はおのおの固有の石英と斜長石比を有していると言える。第６図Qt-Pl図に示すようにQtの強度が小の領域から大の領域にかけて３グループと“その他”に分類された。

Qt：1-Qtが2500～3500、Plが60～200の領域に分布する。

大池ノ南遺跡の井戸枠と土器が集中する。

“その他”大池ノ南遺跡－１の磁器はQtが611、Plが119でQt-1の領域とは明らかに異なる。

４　化学分析結果

第６表化学分析表には大池ノ南遺跡から出土した土器他が記載してある。

分析結果に基づいて第７図SiO_2-Al_2O_3図、第８図Fe_2O_3-TiO_2図、第９図K_2O-CaO図を作成した。

４－１　SiO_2-Al_2O_3の相関について

第７図SiO_2-Al_2O_3図に示すように、大池ノ南遺跡から出土した土器他はＩタイプと“その他”に分類した。

Ｉタイプ：SiO_2が60～65％、Al_2O_3が24～26％の領域に分布する。

大池ノ南遺跡の井戸枠と土器が集中する。

“その他”：大池ノ南遺跡－１の磁器はSiO_2が68.82％、Al_2O_3が18.81％でＩタイプの領域とは明らかに異なる。

４－２　Fe_2O_3-TiO_2の相関について

第８図Fe_2O_3-TiO_2図に示すように、大池ノ南遺跡から出土した土器はFe_2O_3：１に集中する。

Fe_2O_3：1-Fe_2O_3が1.0～2.0％、TiO_2が0.15～0.3％の領域に分布する。

大池ノ南遺跡の井戸枠と土器が集中する。

４－３　K_2O-CaOの相関について

第９図K_2O-CaO図に示すようにK_2OとCaOの値によってK_2O：１と“その他”に分類した。

K_2O：1-K_2Oが7.0～8.0％、CaOが0.1～0.5％の領域に分布する。

大池ノ南遺跡の井戸枠と土器が集中する。

“その他”：大池ノ南遺跡－１の磁器はK_2Oが5.88％、CaOが2.35％でK_2O：１の領域とは明らかに異なる。

５　組成分類

Ｘ線回折試験と蛍光Ｘ線分析結果に基づいて、大池ノ南遺跡から出土した土器を第７表タイプ分類表と第８表組成分類表に示すように分類した。

１）第７表タイプ分類表に示すように、大池ノ南遺跡の磁器は高温で焼成されているため鉱物は分解してガラスに変質している。

２）第６図Qt-Pl図に示すように、Qt-1の領域に井戸枠と土器が集中し、磁器はこの領域に入らず、異質である。

３）第７図SiO_2-Al_2O_3図の分析結果もＩタイプの領域に井戸枠と土器が集中し、磁器はこの領域に入らず、異質である。

６　まとめ

第８表組成分類表のように分類した。

１）「Qt-1：Ｉタイプ・Fe_2O_3・１」は大池ノ南遺跡の井戸枠と土器が集中する。

２）「Qt-2：Ⅱタイプ・Fe_2O_3・１」は磁器でタイプが異なる。

大池ノ南遺跡の井戸枠と土器の組成と磁器の組成は明らかに相違し、関連性はない。

参考文献

井上　巌（1993）「日置荘遺跡中世瓦・土器胎土分析」日置荘遺跡　㈶大阪文化財センター　201-216

井上　巌（2008）近畿・東海地方の古窯跡データ集

第５表　胎土性状表

試料No.	タイプ分類	組成分類		粘土鉱物および造岩鉱物													備考	
		Mo-Mi-Hb	Mo-Ch, Mi-Hb	Mont	Mica	Hb	Ch(Fe)	Ch(Mg)	Talc	Qt	Pl	Crist	Mull	K-fels	Hal	Au	器種名	時期
1	B	14	20							611	119	163	128				磁器	江戸時代後期
2	A	8	20		122					3151	182			587			井戸枠上面	江戸時代後期
3	A	8	20		78					3084	71			641			井戸枠上面	江戸時代後期
4	A	8	20		93					2756	81			679			土器	江戸時代後期

Mont：モンモリロナイト　Mica：雲母類　Hb：角閃石　Ch：緑泥石（Ch：Fe 一次反射、Ch：Mg 二次反射）　Qt：石英　Pl：斜長石　Crist：クリストバライト
Mullite：ムライト　K-fels：カリ長石　Halloy：ハロイサイト　Kaol：カオリナイト　Pyrite：黄鉄鉱　Au：普通輝石　Py：紫蘇輝石　Talc：滑石

第６表　化学分析表

試料	Na_2O	MgO	Al_2O_3	SiO_2	P_2O_5	K_2O	CaO	TiO_2	MnO	Fe_2O_3	Rb_2O	SrO	Y_2O_3	ZrO_2	Total	Rb(I)	Sr(I)	器種名	時　期
No.																			
1	1.538	0	18.812	68.817	0.444	5.880	2.352	0.188	0.037	1.831	0.034	0.028	0.011	0.030	100.0	1892	1516	磁器	江戸時代後期
2	0.674	0	24.059	63.826	1.231	7.501	0.459	0.266	0.053	1.808	0.042	0.031	0.016	0.036	100.0	2202	1562	井戸枠上面	江戸時代後期
3	0.536	0	25.547	64.266	0.465	7.648	0.105	0.218	0.032	1.100	0.038	0.009	0.007	0.030	100.0	2417	544	井戸枠上面	江戸時代後期
4	0.481	0	25.310	63.943	0.627	7.961	0.265	0.224	0.005	1.093	0.040	0.010	0.008	0.035	100.0	2484	573	土器	江戸時代後期

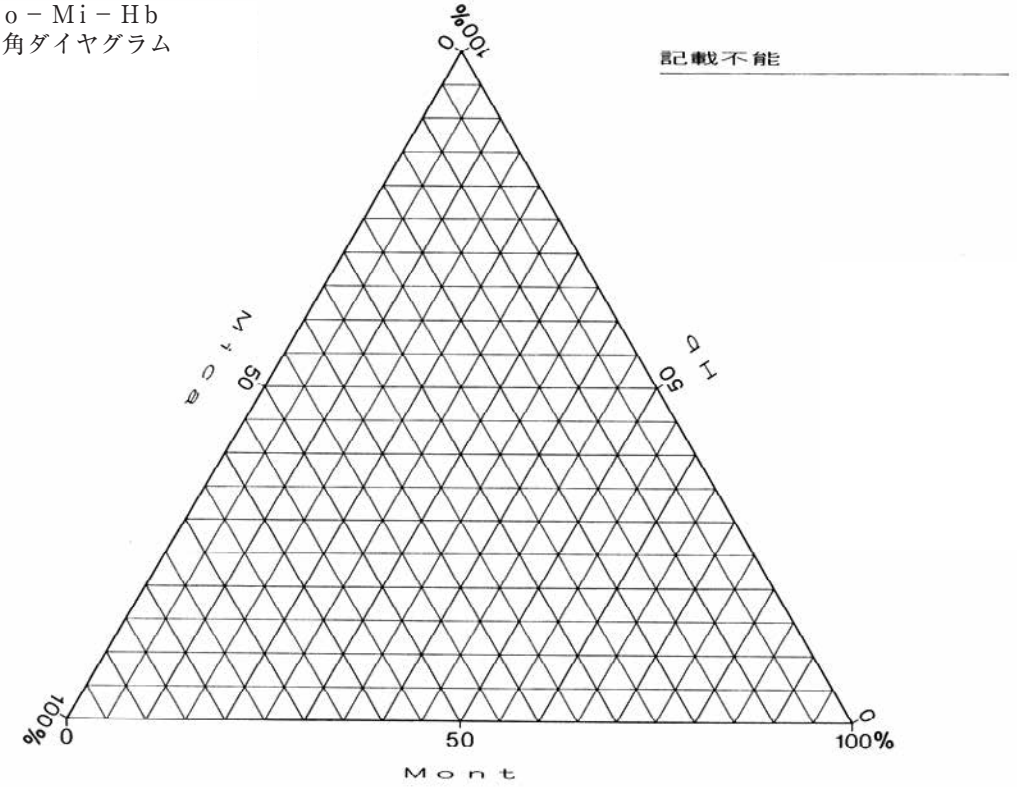
第７表　タイプ分類表

試料No.	タイプ分類	備考	
		器種名	時　期
1	B	磁器	江戸時代後期
2	A	井戸枠上面	江戸時代後期
3	A	井戸枠上面	江戸時代後期
4	A	土器	江戸時代後期

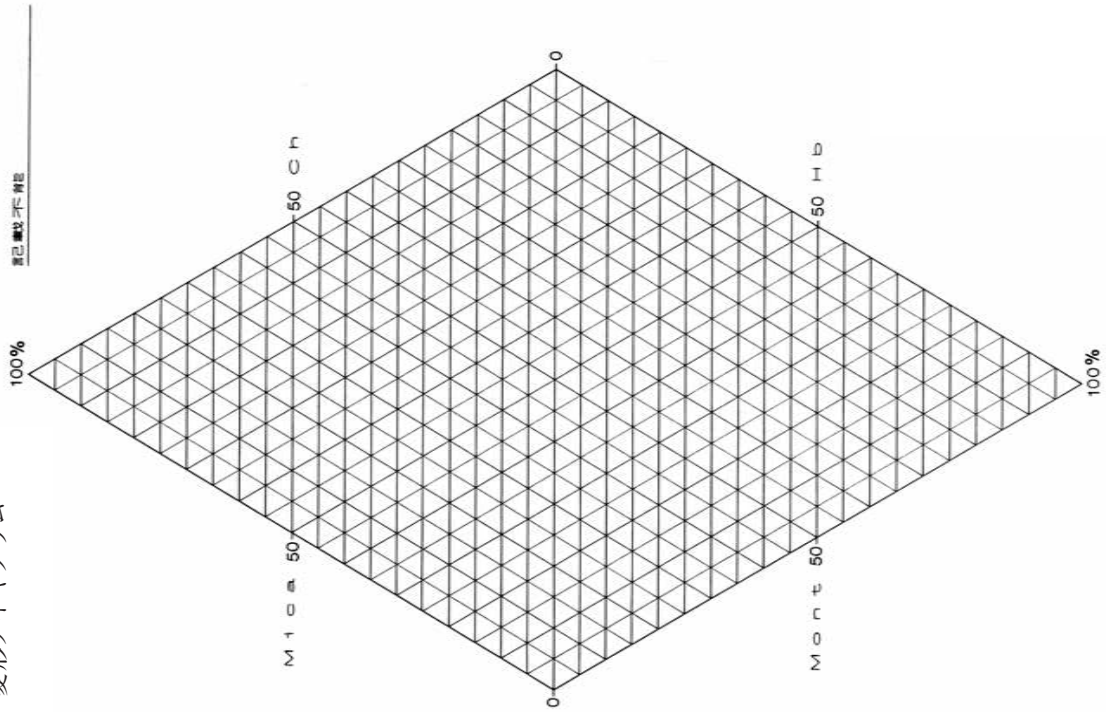
第８表　組成分類表

試料No.	タイプ分類	備考	
		器種名	時期
Qt-1・Ⅰタイプ・Fe_2O_3-1			
2	A	井戸枠上面	江戸時代後期
3	A	井戸枠上面	江戸時代後期
4	A	土器	江戸時代後期
Qt-2・Ⅱタイプ・Fe_2O_3-1			
1	B	磁器	江戸時代後期

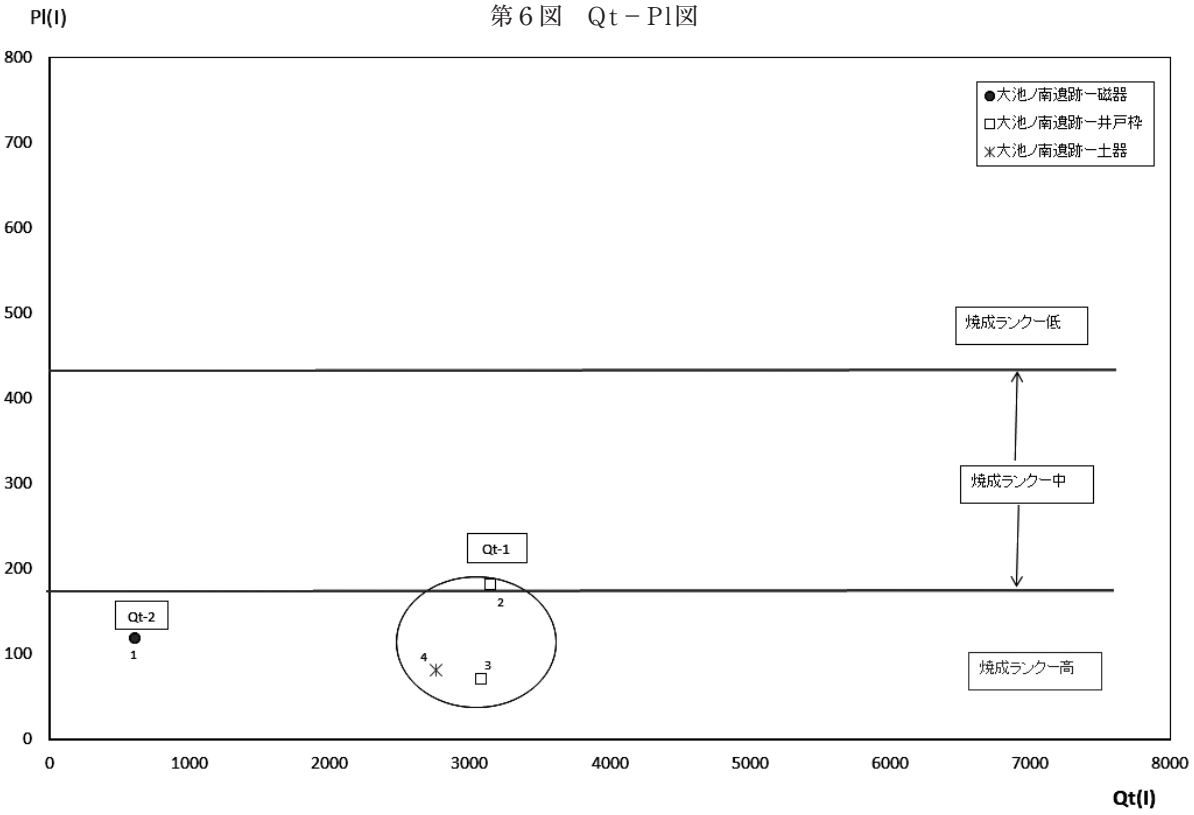
第４図　Ｍｏ－Ｍｉ－Ｈｂ
三角ダイヤグラム



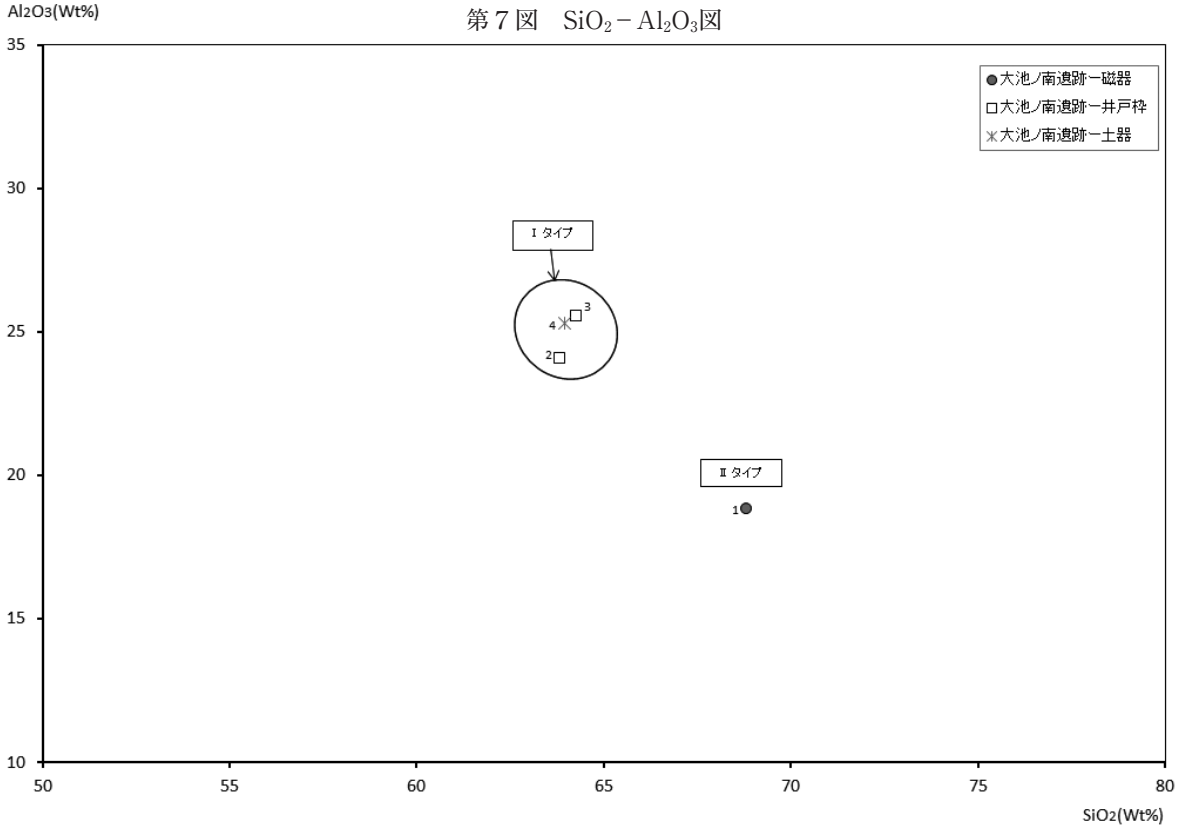
第５図　Ｍｏ－Ｃｈ, Ｍｉ－Ｈｂ
菱形ダイヤグラム



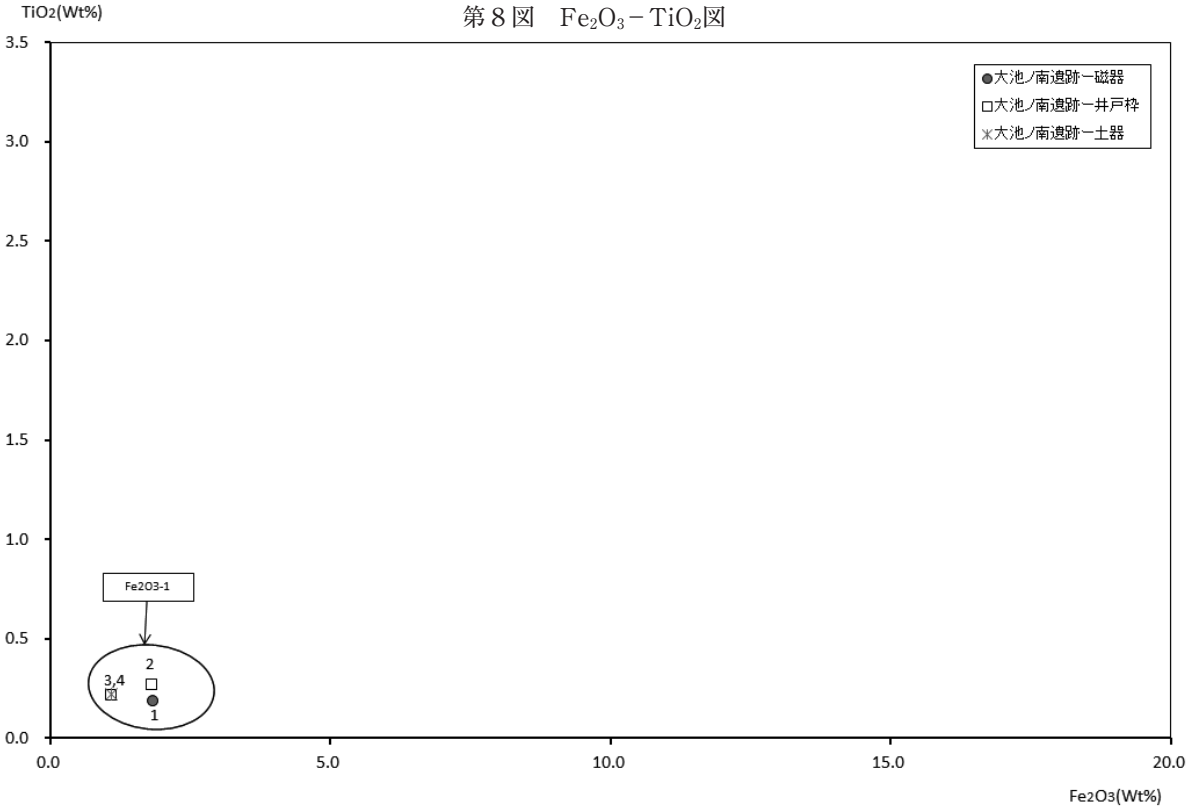
第６図　Ｑｔ－Ｐｌ図



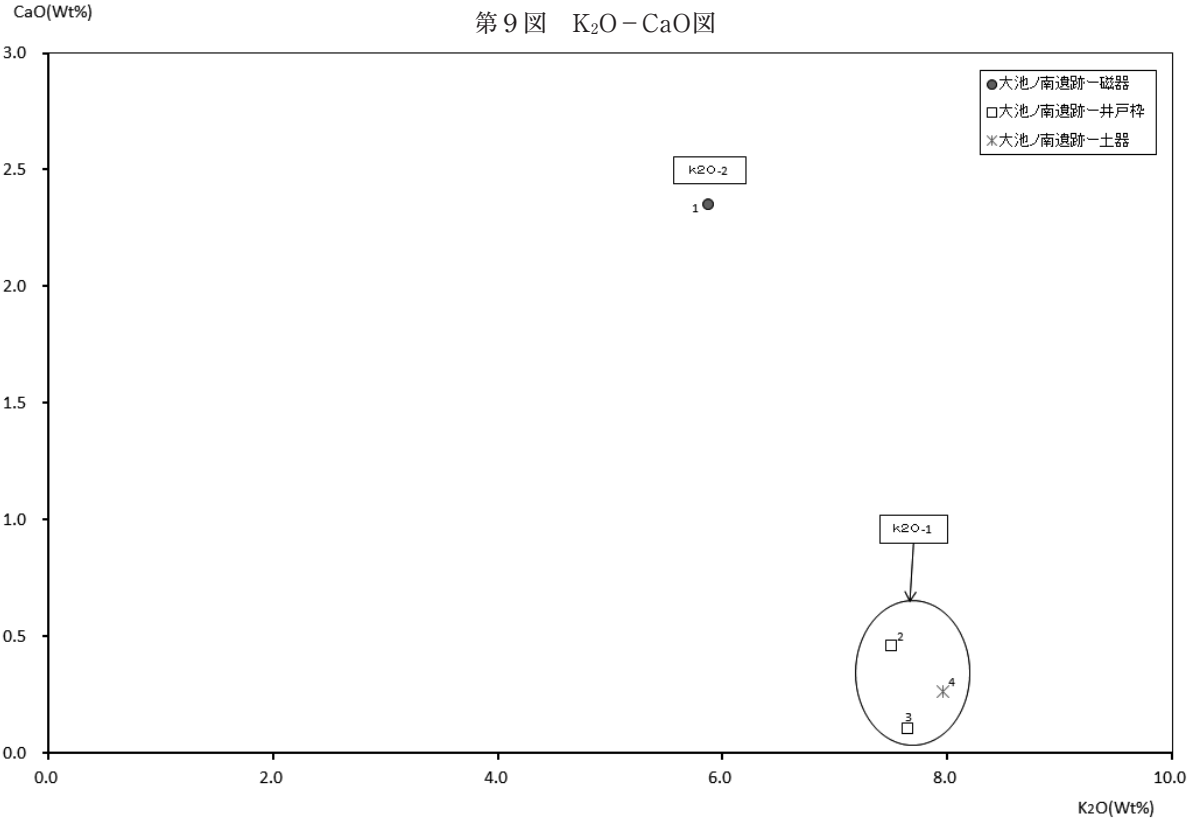
第７図　SiO_2－Al_2O_3図



第８図　Fe_2O_3－TiO_2図



第９図　K_2O－CaO図



第５章　まとめ　－Ａ地区の調査を中心に－

Ａ地区の調査では、『摂州三田図絵』（寛文初年〔1688年代〕・個人蔵）の絵図等に見られる屋敷町街区沿いに設けられた堀跡と推定される区画の一部（SD03）や屋敷地境を示す南北方向に延びる溝（SD01・02）を検出したことから、発掘調査成果と絵図面との符合が確認された。また、屋敷境の溝の東側において埋桶や埋甕、井戸、建物の基礎と考えられる根石を据えた柱穴等、屋敷跡に係る遺構を多数検出した事からも、絵図通り当該地が屋敷地であった事を示すものである。当該地は、『三田古地図』（三田市立三田小学校蔵）において白洲退蔵の祖父白洲貞四郎の屋敷であったことが看て取れ、退蔵自身の生誕地としても知られるが、屋敷跡に係る遺構及び堀等から出土した遺物の殆どが18～19世紀代を中心とするもので、白洲家が屋敷を構えていた時期と重なり、白洲家の暮らしぶりを窺い知る上で貴重な資料となった。検出した遺構の内、絵図に認められる堀跡（SD03）は、平成６年度実施の本発掘調査でも堀の一部を検出しており、恐らく同一遺構と考えられるが、当該調査区で検出したような護岸整備は確認されていない。『三田古地図』では、堀の殆どは埋め立てにより田地等になっており、SD03はその名残と考えられ、堀としての機能を終えた後、排水用の溜池として護岸整備されたものと考えられる。SD03から出土した遺物では、多量の陶磁器類や瓦の他、判読困難ながら墨書が施された木札や杓文字等の木製品や揚羽蝶家紋入りの平打ち簪等の金属製品が特筆される。また、Ｂ地区を含めた遺構からは、三田焼等と考えられる未製品や、その焼成に使用したと考えられる焼き台等も出土しており、近隣に焼成窯が存在する可能性が高い事から、武家の生活にあって、副業的にそれらの生産に従事する必要があった当時の三田藩の財政状況を物語っているようにも思われる。

第 10 図　白洲退蔵の墓

白洲退蔵は、文政12年（1829）にこの地で三田藩代々の儒家の家系に生まれ、「造士館」教授を務めた。藩主九鬼隆義に請われ文久３年（1863）に藩政に携わり、明治初年（1868）には三田県大参事（家老職）となる等、藩政改革に尽力した。また、逼迫する藩の財政再建にも力を尽くし、時にその厳しい政策への反発から、明治2年（1869）の農民一揆の引き金となったとも言われる。廃藩置県後は、神戸において旧藩主九鬼義隆、小寺泰次郎と共に商社「志摩三商会」を設立して事業を行い、その後、明治13年（1883）に横浜正金銀行第３第頭取、同年岐阜県大書記官等を歴任したが、明治23年（1890）には職を辞して、翌年に旧主九鬼義隆が他界するまで看病を続け、義隆が他界した8箇月後に63歳の生涯を閉じた。

白洲家と言えば、第二次世界大戦敗戦後の日本の復興に尽力し、吉田茂首相の懐刀として連合国総司令部（GHQ）との交渉にあたり、総司令官ダグラス・マッカーサーをして「唯一従順ならざる日本人」と言わしめた孫の白洲次郎が知られる。退蔵が「英知」、息子文平が「豪放」、孫次郎が「直情」と表現される等一見共通する所が見られないが、次郎の言う「プリンシプル（原理・原則）」を持った生き方は、藩政改革、財政再建に尽力し、旧主九鬼義隆に一生尽くした退蔵のそれに通じると言えよう。

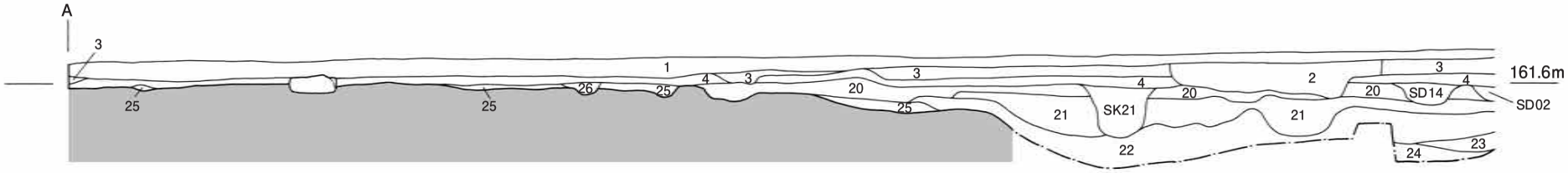
参考文献

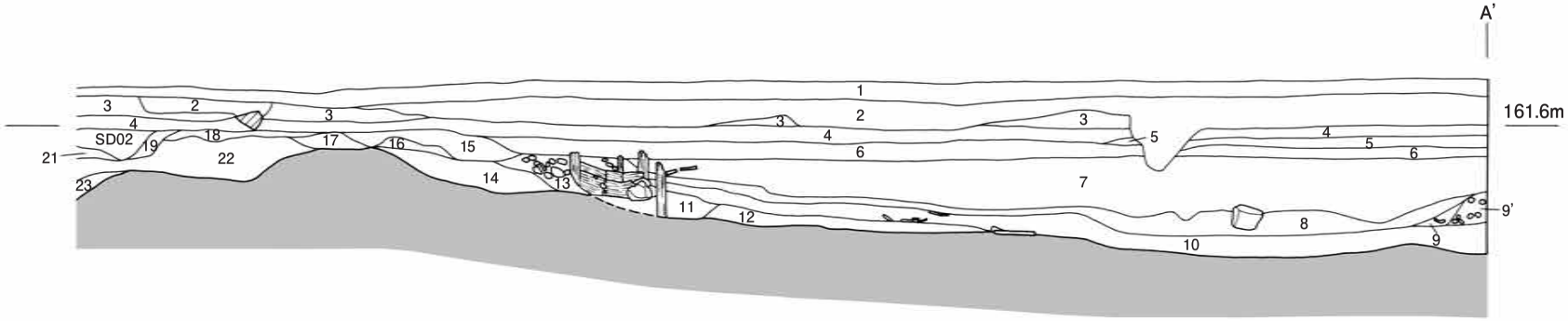
『風の男　白洲次郎』青柳恵介　新潮文庫　2000

図　　版

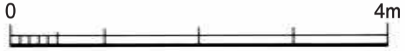
X=−123400
X=−123390
X=−123380
X=−123370
Y=81110
Y=81120
Y=81130
Y=81140
SD03
SK01
SD10
SK22
P02
P03
SB02
SK08
SB01
SK02
SK23
SK24
SD06
SD01
SD05
SD02
P01
SB03
SD02
SD14
P40
SK04
SE01
SD15
SK21
SB04
SD12
SK11
埋甕
SK28
SK26
SX02
SK16
P06
P07
P08
SK13
SK12
SK19
SK29
SK33
P25
SK35
P23
SK30
SK40
P24
SK18
P10
P09
SK14
SK34
SB05
0
10m

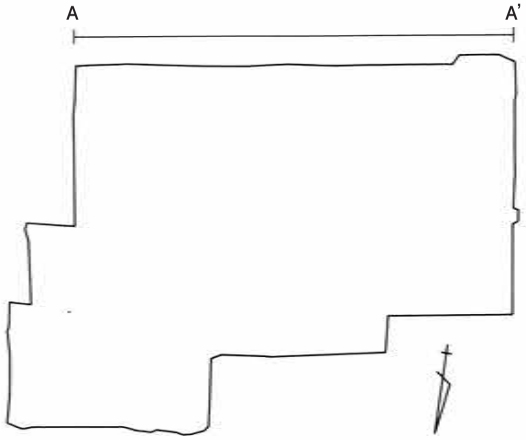
A 地区平面図



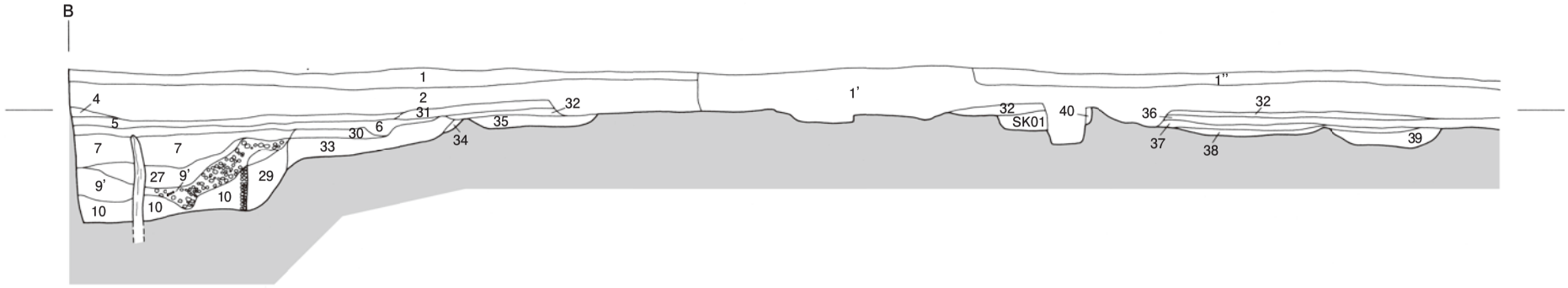


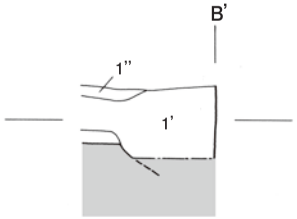
1・1'・1"　表土（砕石・盛土等）
2.　撹乱・盛土等
3.　10YR　4/2　灰黄褐色　細砂～中砂（粗砂含む）炭粒、土器片：盛土
4.　10YR　5/2　灰黄褐色　細砂（中粗砂含む）炭粒、小礫含む
5.　5Y　2/2　オリーブ黒色　シルト質細砂（中粗砂含む）黄灰色シルトブロック多量に混入：整地土か？
6.　5Y　3/2　オリーブ黒色　シルト質細砂（中粗砂含む）細礫、炭粒含む：旧耕土か？
7.　2.5Y　5/3　黄褐色　シルト質細砂（中砂含む）一部瓦片含む　地山ブロック＋オリーブ黒色：客土、
8.　7.5Y　2/1　黒色　シルト 小礫、土器、植物遺体等含む
9.　7.5Y　3/1　オリーブ黒色　シルト　瓦、植物遺体等含む　9'で黒色シルト混小礫～中礫が多量に集積
10.　5Y　2/1　黒色　シルト　小礫～中礫含む　土器、植物遺体等含む
11.　5Y　4/1　灰色　シルト　植物遺体等含む
12.　7.5Y　4/1　灰色　シルト　板材等の木製品、植物遺体等含む
13.　2.5Y　3/1　黒褐色　シルト（粗砂多量に含む）小礫～中礫多量に含む：護岸の裏込めの礫
14.　7.5Y　6/1　灰色　シルト質細砂（中粗砂含む）小礫、炭粒含む
15.　5Y　4/1　灰色　極細砂～細砂（中砂含む）小礫～中礫、炭粒含む　鉄分含む
16.　5Y　5/1　灰色　極細砂～細砂（中砂含む）小礫～中礫多量に含む
17.　10YR　6/6　明黄褐色　細砂（中粗砂含む）灰黄褐色土ブロック、細礫～小礫含む
18.　10YR　5/6　黄褐色　細砂（中粗砂含む）
19.　2.5Y　4/1　黄灰色　細砂（中砂～粗砂含む）小礫～中礫多量に含む
20.　2.5Y　4/2　暗灰黄色　細砂～中砂（粗砂含む）細礫、炭粒含む
21.　2.5Y　4/2　暗灰黄色　細砂～中砂（粗砂～極粗砂含む）小礫～中礫含む
22.　2.5Y　6/3　にぶい黄色　細砂（中粗砂含む）小礫～中礫、土器等含む
23.　5Y　4/1　灰色　シルト質細砂（中粗砂含む）小礫～中礫含む
24.　2.5Y　4/1　黄灰色　シルト質極細砂（中砂含む）小礫含む
25.　2.5Y　6/1　黄灰色　シルト質極細砂（中砂含む）鉄分、マンガン粒少量含む
26.　10YR　5/1　褐灰色　細砂（中粗砂含む）黄灰色シルトブロック、炭粒含む





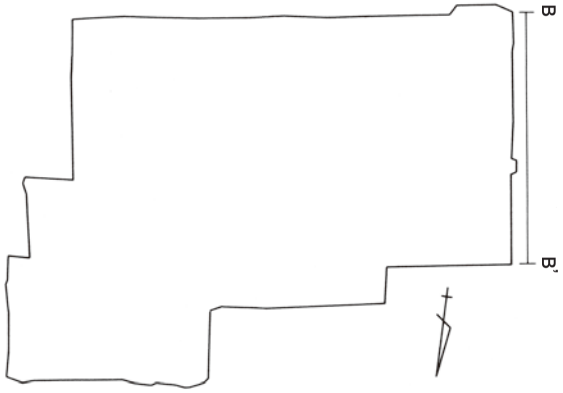
調査区南壁断面図



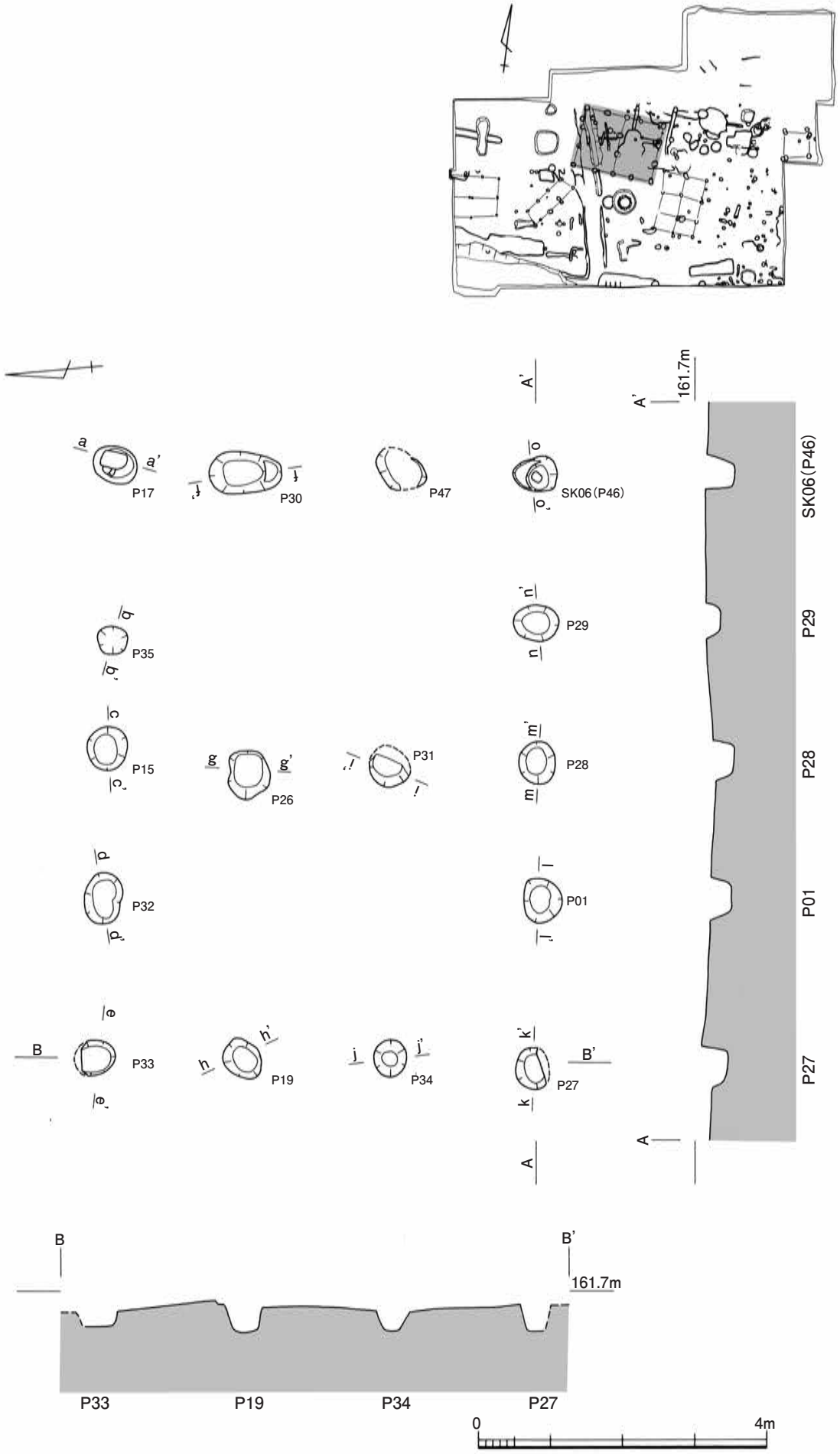


0　4m

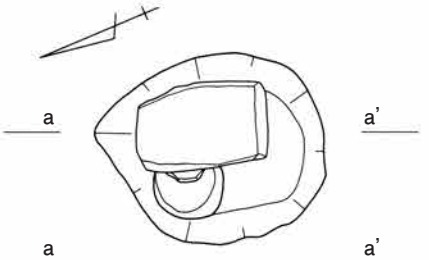
27.　2.5Y　3/2　黒褐色　シルト質極細砂（中砂含む）中礫少量、土器等、植物遺体含む　８層に類似
28.　2.5Y　3/3　暗オリーブ黒色　シルト質極細砂
29.　2.5Y　4/2　暗灰黄色　シルト（中粗砂含む）細礫～中礫含む
30.　2.5Y　5/3　黄褐色　シルト質細砂（中粗砂多量に含む）小礫含む
31.　2.5Y　5/1　黄灰色　中砂（粗砂～極粗砂含む）炭粒含む
32.　2.5Y　5/1　黄灰色　中砂（粗砂～極粗砂含む）黄褐色シルトブロック混入　炭粒含む
33.　2.5Y　7/1　灰白色　シルト（中粗砂多量に含む）細礫～中礫含む　北半部分で粗砂多量に含む
34.　2.5Y　5/2　暗灰黄色　細砂（中粗砂多量に含む）
35.　2.5Y　5/3　黄褐色　シルト質細砂（中砂含む）小礫含む：SD09埋土
36.　5Y　5/1　灰色　中砂（粗砂～極粗砂含む）小礫、炭粒含む：耕土
37.　2.5Y　5/2　暗灰黄色　中砂～粗砂（極粗砂含む）小礫、炭粒含む
38.　10YR　5/2　灰黄褐色　シルト質細砂（中砂含む）
39.　2.5Y　5/1　黄灰色　シルト質細砂（中砂含む）炭粒含む：SD10埋土
40.　2.5Y　6/3　にぶい黄色　極細砂～細砂（中粗砂含む）：SK01埋土の一部か？

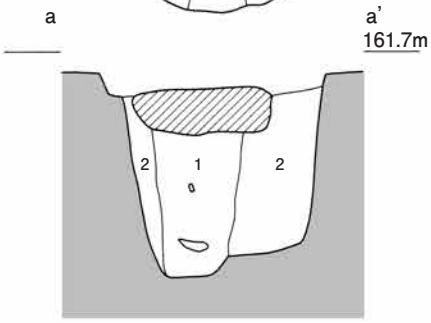


調査区西壁断面図

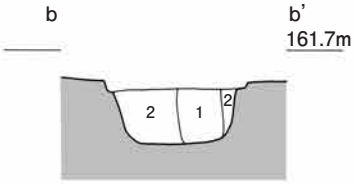

P17
P30
P47
SK06(P46)
P35
P29
P15
P26
P31
P28
P32
P01
P33
P19
P34
P27
A
A'
B
B'
161.7m
SK06(P46)
P29
P28
P01
P27
P33
P19
P34
P27
0
4m

SB03平面図・断面図

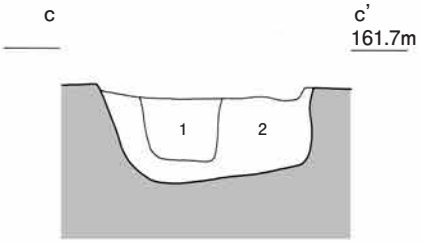




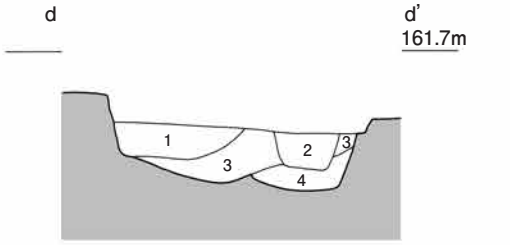
1. 2.5Y 4/1 黄灰色 中砂混細砂（炭多く含む）
2. 2.5Y 4/4 オリーブ褐色 シルト（ベースブロック多く含む）



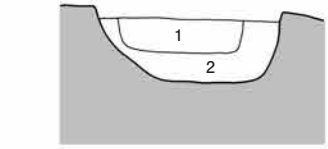
1. 10YR 5/2 黄灰褐色 細砂～中砂（粗砂含む）炭粒、土器片含む
2. 10YR 4/3 にぶい黄褐色 細砂（中砂含む）炭粒含む



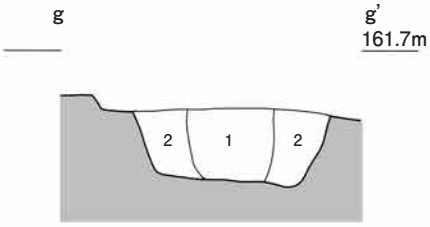
1. 2.5Y 6/1 黄灰色 細砂（中砂含む）炭粒、上面にマンガン粒含む
2. 10YR 5/3 にぶい黄褐色 細砂～中砂（粗砂含む）炭粒、上面にマンガン粒含む



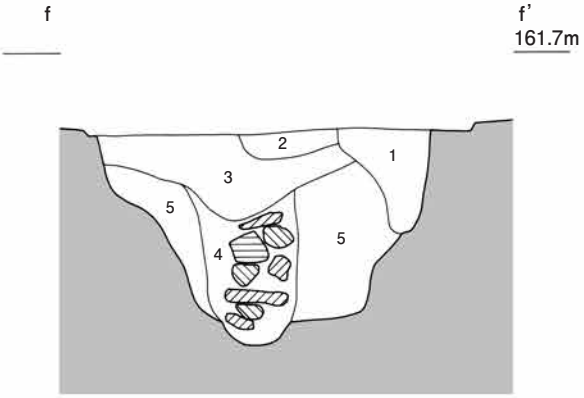
1. 10YR 6/2 灰黄褐色 細砂（中粗砂含む）炭粒、土器含む
2. 10YR 5/2 灰黄褐色 細砂（中粗砂含む）炭粒含む
3. 2.5Y 5/2 暗灰黄色 極細砂（中砂含む）炭粒含む
4. 2.5Y 7/1 灰白色 シルト質細砂（中砂含む）：ベースか？



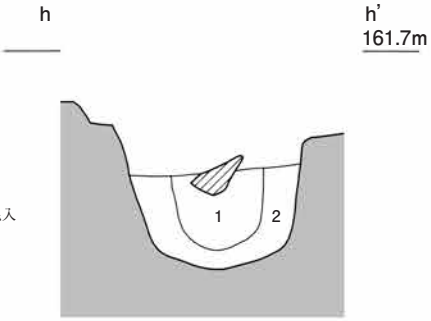
1. 10YR 5/2 灰黄褐色 細砂（中砂含む）炭粒含む
2. 10YR 6/2 灰黄褐色 シルト質細砂（中砂含む）炭粒少量含む



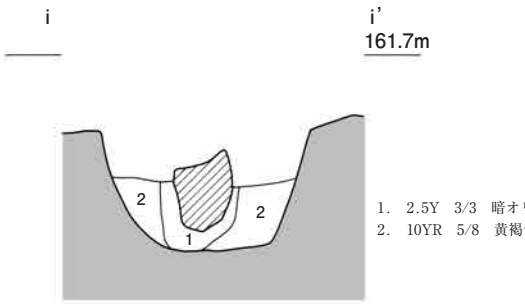
1. 2.5Y 6/2 灰黄色 細砂（中粗砂含む）炭粒、鉄分、マンガン粒含む
2. 10YR 5/8 黄褐色 細砂（中粗砂含む）炭粒少量含む



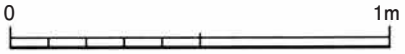
1. 2.5Y 7/2 灰黄色 極細砂～細砂 炭粒少量含む
2. 10YR 4/2 灰黄褐色 細砂（中粗砂含む）炭粒含む
3. 10YR 6/2 灰黄褐色 細砂（中砂含む）炭粒、鉄分含む
4. 2.5Y 5/2 暗灰黄色 細砂（中砂含む）炭粒、灰黄色シルトブロック、礫柱状に混入
5. 10YR 5/1 褐灰色 シルト質細砂（中砂含む）炭粒、灰黄色シルトブロック混入



1. 10YR 6/1 褐灰色 シルト質細砂（中砂含む）
炭粒、黄褐色シルトブロック、上面に礫含む
2. 2.5Y 7/2 灰黄色 シルト質細砂（中砂含む）炭粒含む

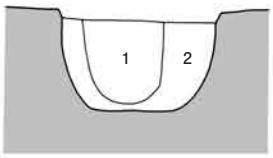


1. 2.5Y 3/3 暗オリーブ褐色 細砂（中砂含む）炭粒、一部ベース土（灰色シルト）、巨礫含む
2. 10YR 5/8 黄褐色 シルト質細砂（中砂含む）炭粒、①層類似土ブロック混入



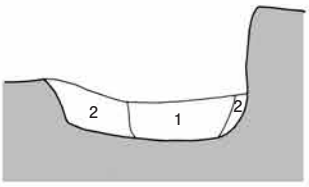
SB03柱穴断面図①

j　　j'
161.7m



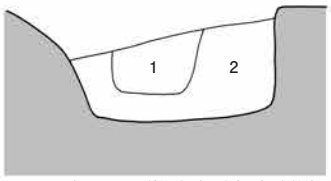
1.　2.5Y　6/1　黄灰色　細砂（中砂含む）炭粒含む　底部付近に灰黄色シルトブロック混入
2.　2.5Y　6/2　暗灰黄色　極細砂（中砂含む）炭粒少量含む

k　　k'
161.7m



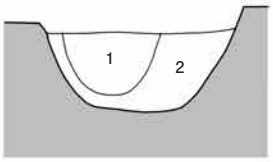
1.　5Y　5/1　灰色　細砂（中砂含む）炭粒少量含む
2.　10YR　6/8　明黄褐色　シルト質細砂（中砂含む）炭粒少量含む　ベース土に近似

l　　l'
161.7m



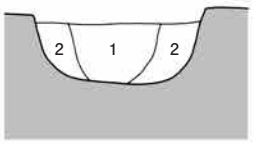
1.　5Y　6/1　灰色　シルト質細砂（中砂含む）炭粒含む
2.　2.5Y　6/2　灰黄色　シルト質細砂～（中砂含む）炭粒少量含む

m　　m'
161.7m



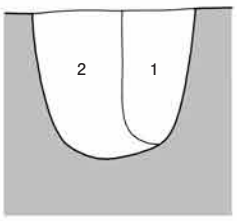
1.　10YR　5/2　灰黄褐色　細砂（中粗砂含む）炭粒少量含む
2.　10YR　6/8　明黄褐色　シルト質細砂（中砂含む）炭粒含む

n　　n'
161.7m

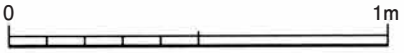


1.　2.5Y　7/2　灰黄色　シルト質極細砂（中砂含む）炭粒少量含む
2.　2.5Y　6/1　黄灰色　極細砂（中砂含む）

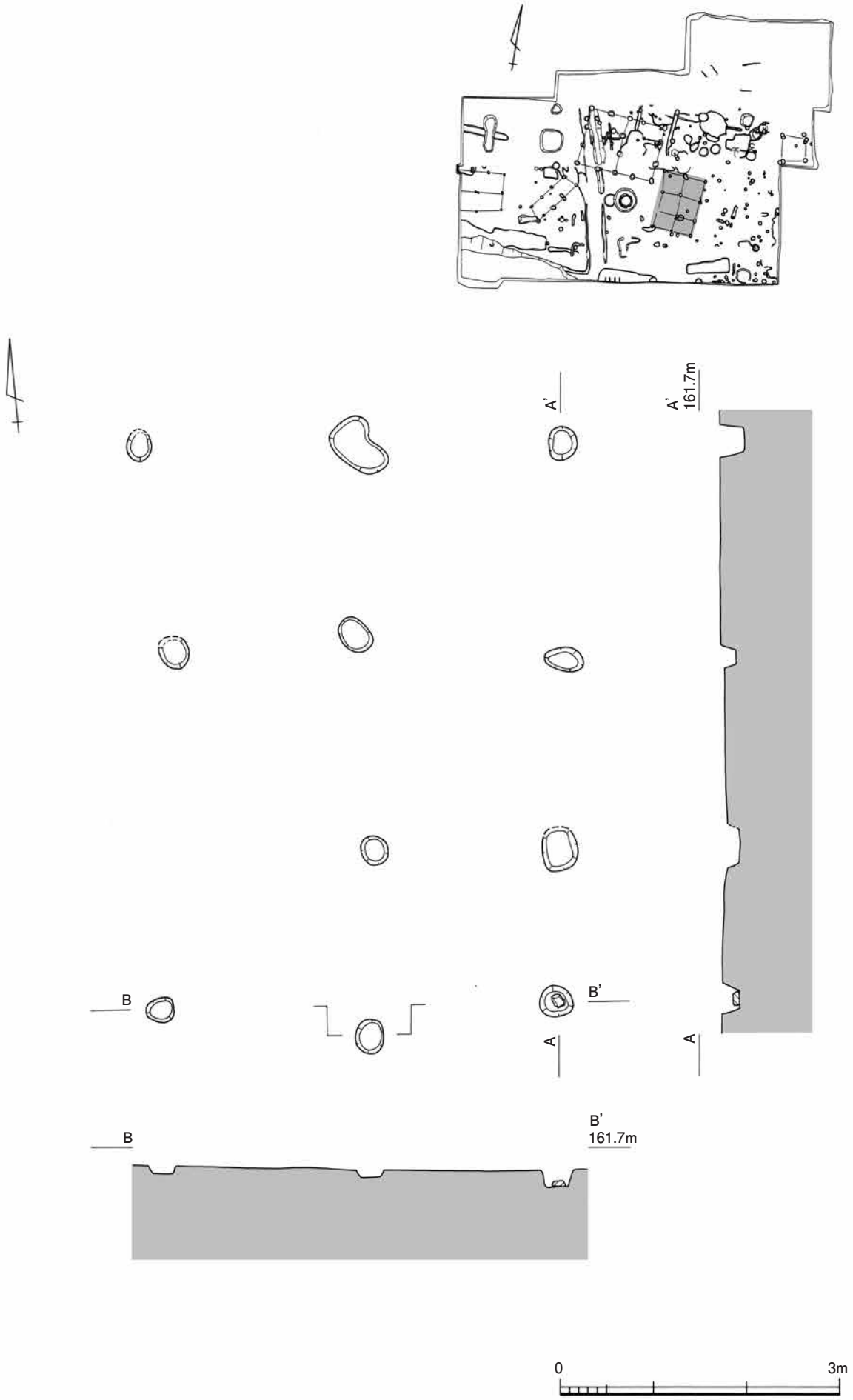
o　　o'
161.7m



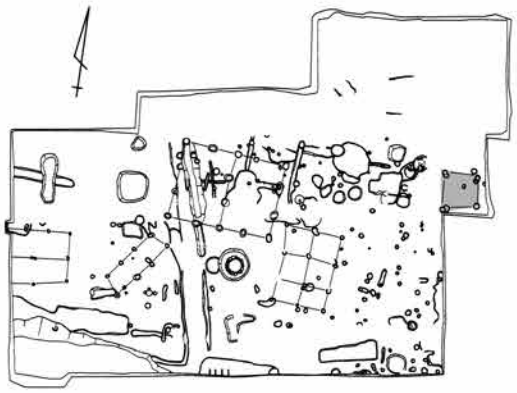
1.　10YR　5/2　黄灰褐色　細砂～中砂（粗砂含む）炭粒含む　黄褐色シルトブロック混入
2.　2.5Y　5/2　暗灰黄色　細砂～中砂（粗砂含む）炭粒含む　黄褐色シルトブロック混入

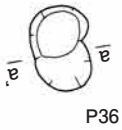


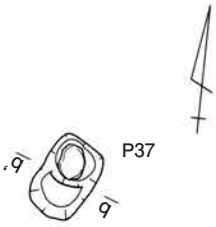
SB03柱穴断面図②



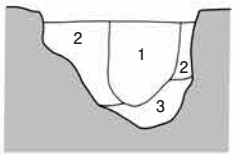
SB04平面図・断面図





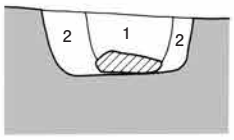


a　　a'
161.7m



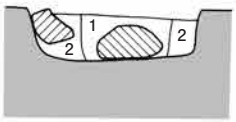
1. 2.5Y 4/2 暗灰黄色 細砂（粗砂含む）炭粒、黄灰色シルトブロック、小礫含む
2. 2.5Y 5/2 暗灰黄色 極細砂（粗砂含む）炭粒、黄灰色シルトブロック含む
3. 10YR 6/2 灰黄褐色 シルト質極細砂（中砂含む）炭粒、黄灰色シルトブロック含む

b　　b'
161.7m

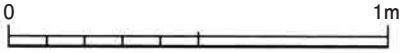


1. 2.5Y 5/2 暗灰黄色 細砂（中粗砂含む）炭粒含む 底部に根石がある
2. 2.5Y 4/1 黄灰色 極細砂（中砂含む）中礫含む

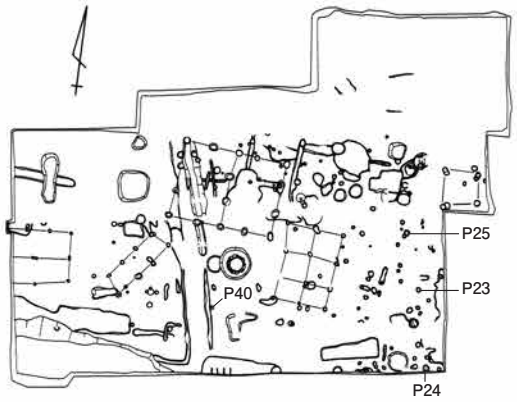
c　　c'
161.7m

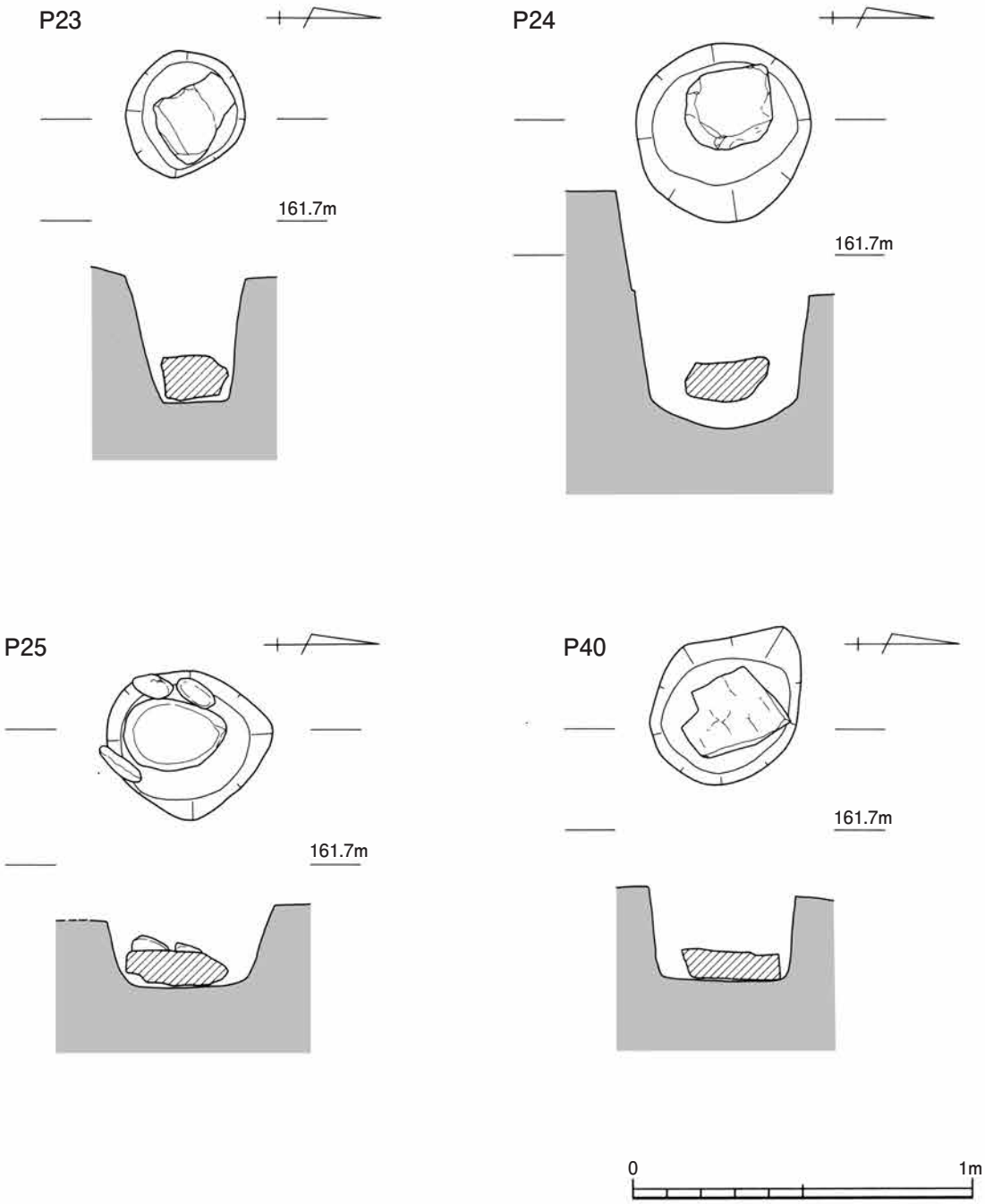


1. 2.5Y 5/2 暗灰黄色 シルト質細砂（中粗砂含む）炭粒含む 底部に根石がある
2. 2.5Y 6/1 黄灰色 シルト質極細砂（粗砂含む）小礫含む

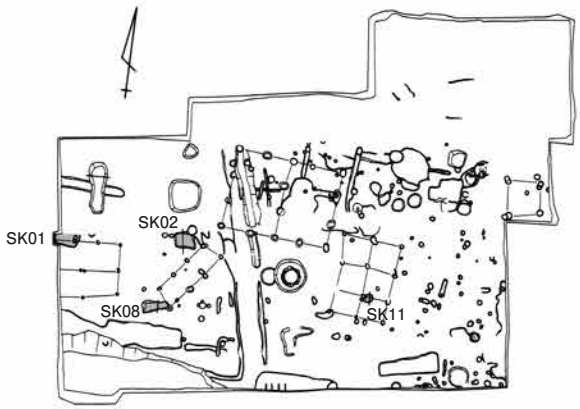


SB05平面図・柱穴断面図

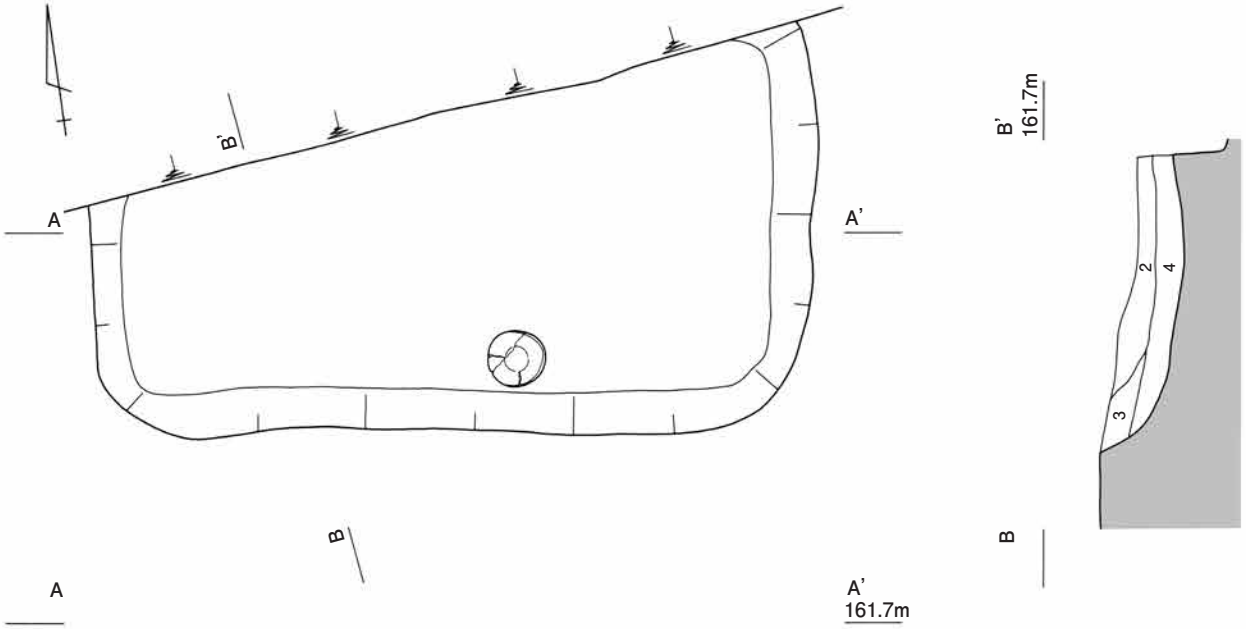




柱穴内根石検出状況平面図・断面図

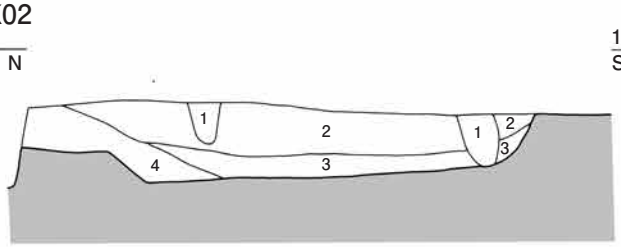


SK01



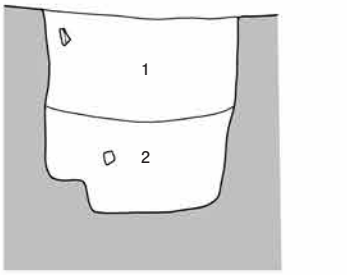
1. 10YR 5/2 灰黄褐色 中砂混シルト 炭含む
2. 10YR 5/1 褐灰色 細砂～シルト（ラミナ）
3. 10YR 5/6 黄褐色 細砂混シルト ：ベースに類似
4. 10YR 6/2 灰黄褐色 細砂混シルト
5. 2.5Y 6/2 灰黄色 シルト
6. 5Y 6/2 灰オリーブ色 シルト：ベース

SK02



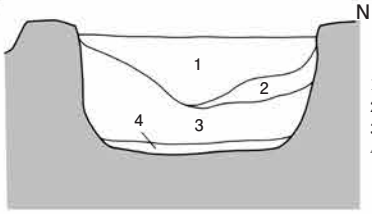
1. 5Y 4/4 暗オリーブ色 中砂混極細砂 （小礫多く含む）
2. 5Y 3/1 オリーブ黒色 中砂～小礫混シルト
3. 5Y 4/1 灰色 中砂混シルト
4. 5Y 4/1 灰色 中砂混シルト 炭片含む

SK08



1. 10GY 6/1 緑灰色 粘土質シルト ベースブロック、②層ブロック含む
2. 5Y 3/1 オリーブ黒色 粗砂混シルト ①層ブロック含む

SK11

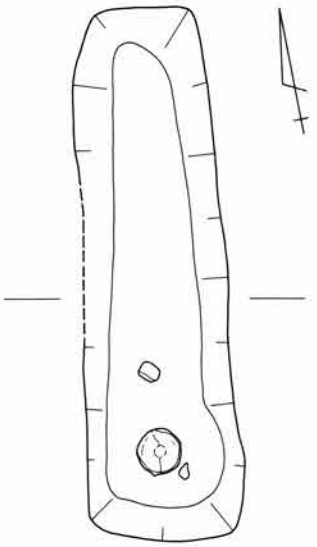


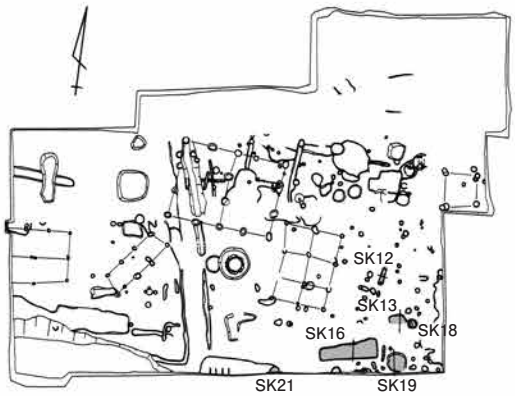
1. 2.5Y 4/3 オリーブ褐色 中砂混極細砂 炭片含む
2. 2.5Y 6/8 明黄褐色 シルト
3. 2.5Y 6/2 灰黄色 中砂混シルト
4. 7.5YR 5/8 明褐色 中砂混シルト 鉄分含む

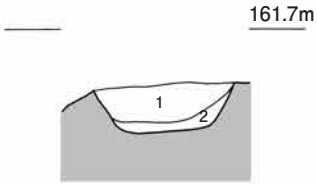
0 1m

土坑平面図・断面図①

SK12

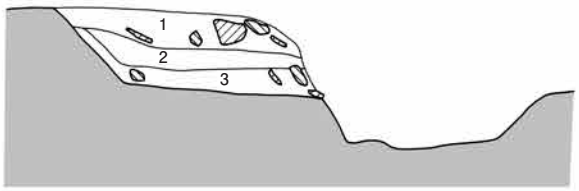






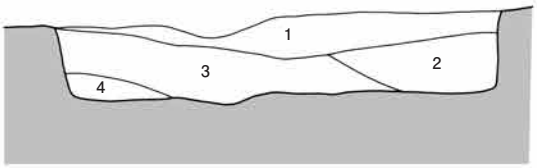
1. 5Y 6/1 灰色 粗砂（ラミナ）
2. 5Y 6/4 オリーブ黄色 シルト 炭片含む

SK13



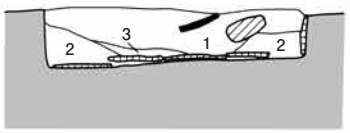
1. 10YR 6/3 にぶい黄橙色 極細砂（中粗砂含む）小礫～中礫多量、土器、炭含む
2. 10YR 5/2 灰黄褐色 細砂（中粗砂含む） 炭粒少量含む
3. 10YR 6/2 灰黄褐色 シルト質極細砂（中砂含む）小礫～中礫、土器含む

SK16



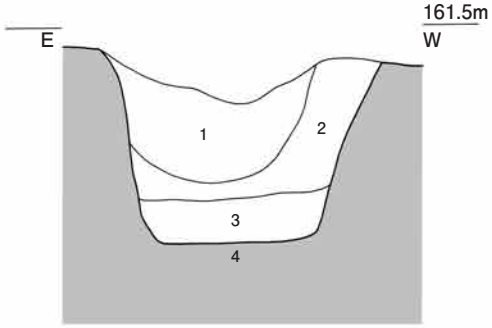
1. 2.5Y 5/1 黄灰色 極細砂（中砂～粗砂含む）細礫含む
2. 10YR 5/1 褐灰色 シルト混粗砂 細礫、炭粒少量含む
3. 2.5Y 5/3 黄褐色 細砂～中砂 小礫、ベースブロック、炭粒少量含む
4. 5Y 5/1 灰色 シルト質細砂 細礫含む

SK18



1. 7.5Y 4/1 灰色 シルト質細砂（中粗砂含む）中礫、瓦片含む
2. 5Y 4/2 灰オリーブ色 シルト混中砂～粗砂 瓦片含む
3. 5Y 3/1 シルト質極細砂（中砂含む）炭粒含む

SK21



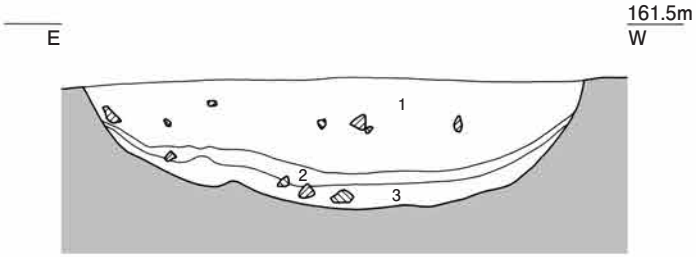
1. 2.5Y 5/2 暗灰黄色 シルト質中砂（粗砂含む） 炭粒含む
2. 2.5Y 3/1 黒褐色 シルト質極細砂（粗砂含む） 炭粒多量含む
3. 2.5Y 7/1 灰白色 シルト質極細砂（中砂含む）
4. 2.5Y 6/1 黄灰色 極細砂～細砂（中粗砂含む）小礫含む：ベース

SK19

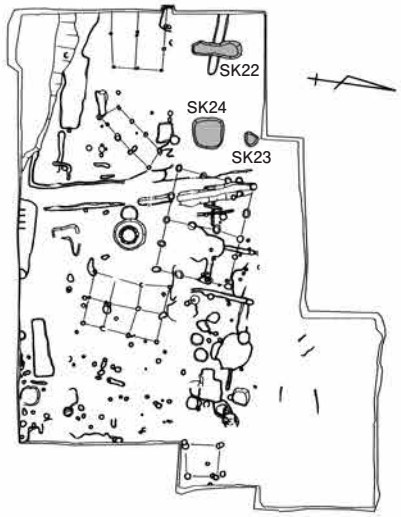
1. 2.5Y 6/2 灰黄色 細砂（中砂含む）細礫、ベースブロック、磁器片含む

土坑平面図・断面図②

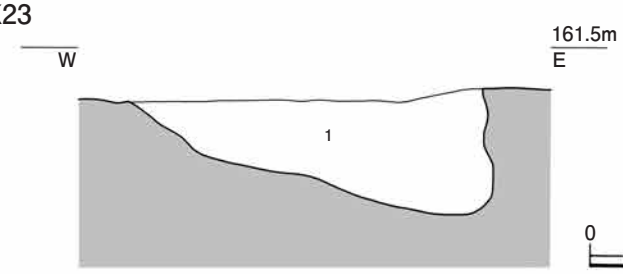
SK22



1. 2.5Y 4/1 黄灰色 シルト混細砂（中粗砂含む）小礫、瓦片、磁器片含む
2. 炭層
3. 5Y 4/1 灰色 シルト（中粗砂含む）小礫、磁器類含む

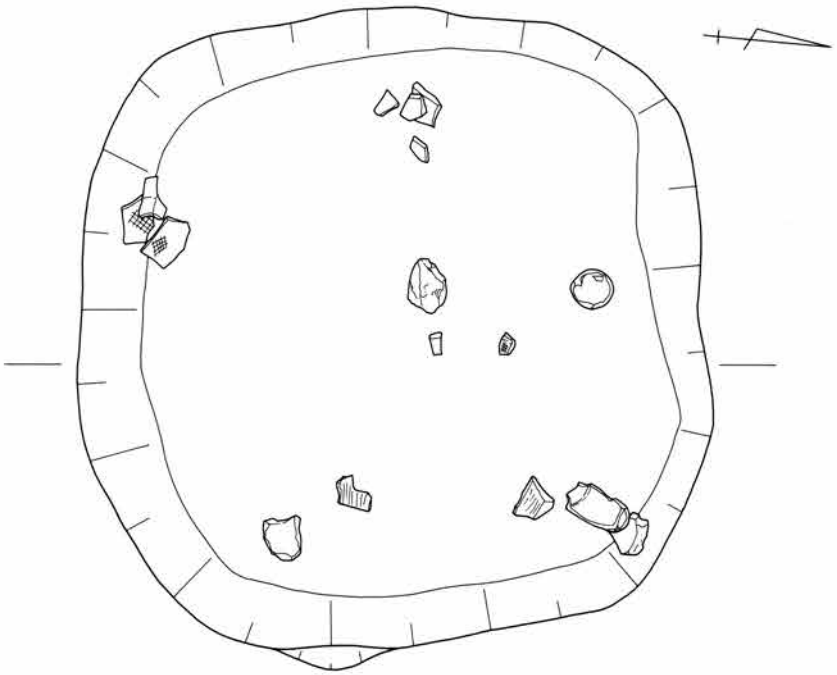


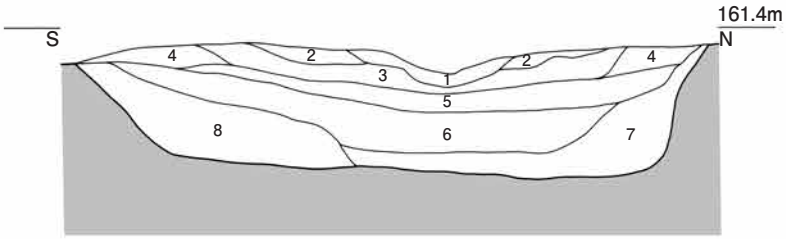
SK23



1. 2.5Y 3/2 黒褐色 シルト質細砂（中粗砂含む）中礫、瓦片含む ベースブロック多量混入

SK24

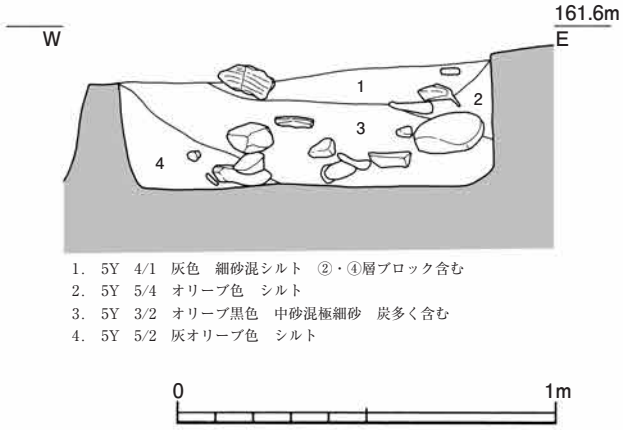




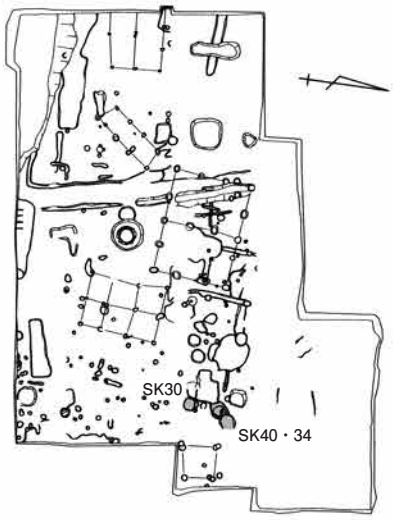
1. 7.5YR 5/1 褐灰色 細砂（中砂含む） 小礫混入
2. 10YR 6/2 灰黄褐色 細砂（中砂含む） 炭粒少量含む
3. 2.5Y 6/2 灰黄色 極細砂～細砂 炭粒少量、土器含む
4. 10YR 6/6 明黄褐色 極細砂（中粗砂多量含む） 炭粒少量含む：ベース層に類似
5. 2.5Y 7/2 灰黄色 極細砂～細砂（中砂含む）鉄分、炭粒少量、土器含む
6. 2.5Y 5/2 暗灰黄色 シルト質極細砂（中砂含む）マンガン粒、中礫含む（下層は微細砂とのラミナ）
7. 2.5Y 7/2 シルト質極細砂 炭粒少量含む
8. 2.5Y 7/1 灰白色 シルト質細砂（中砂含む）鉄分含む：ベース層の二次堆積

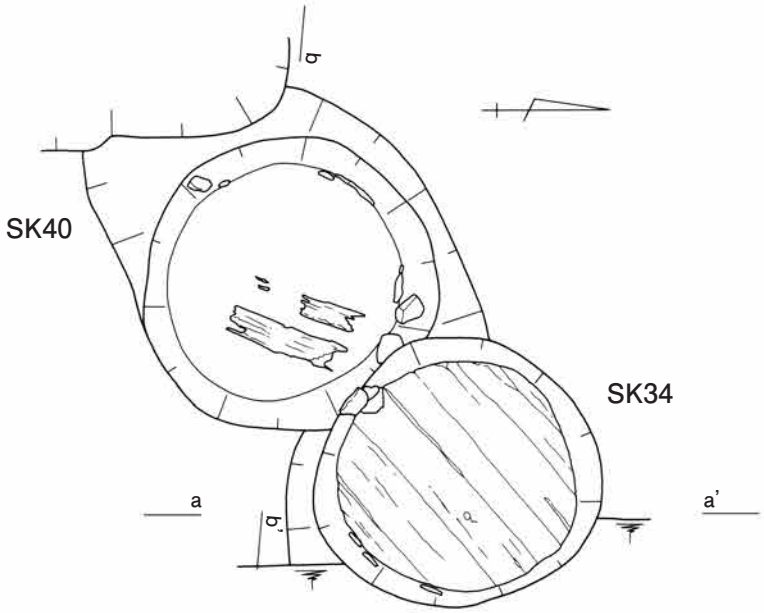
土坑平面図・断面図③

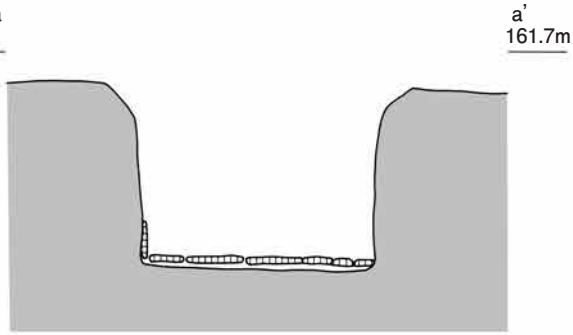
SK30

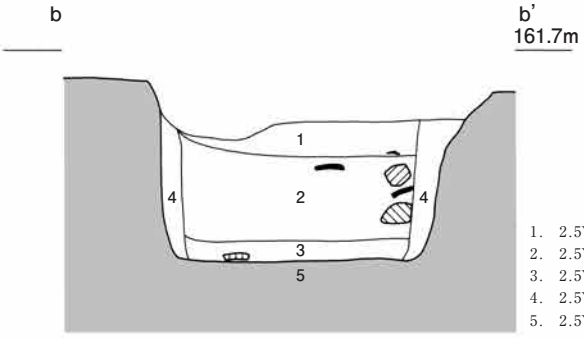


1. 5Y 4/1 灰色 細砂混シルト ②・④層ブロック含む
2. 5Y 5/4 オリーブ色 シルト
3. 5Y 3/2 オリーブ黒色 中砂混極細砂 炭多く含む
4. 5Y 5/2 灰オリーブ色 シルト





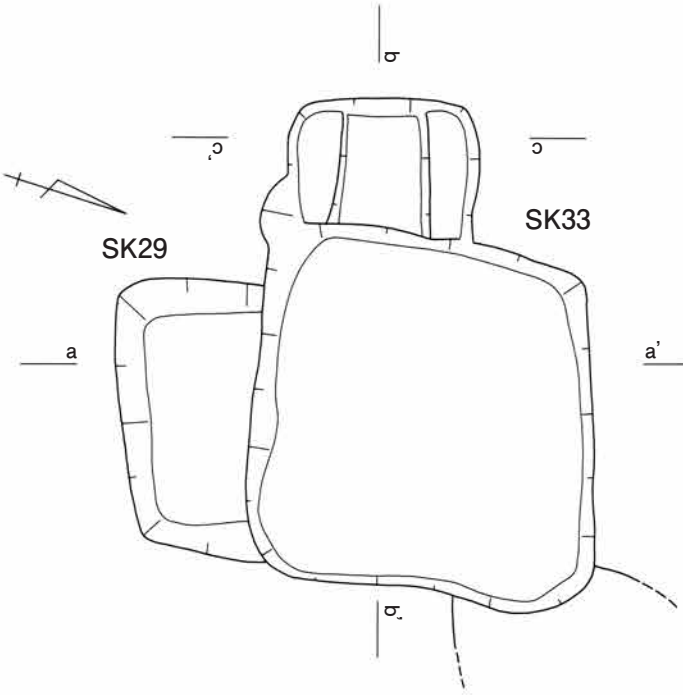


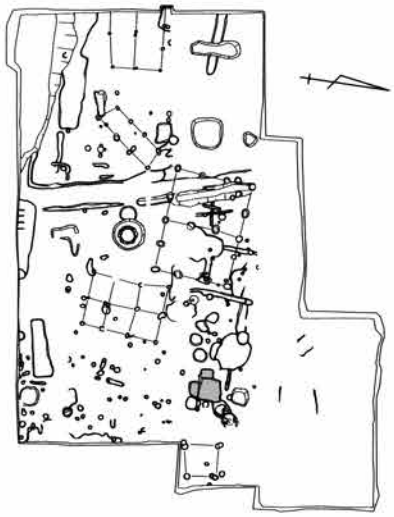


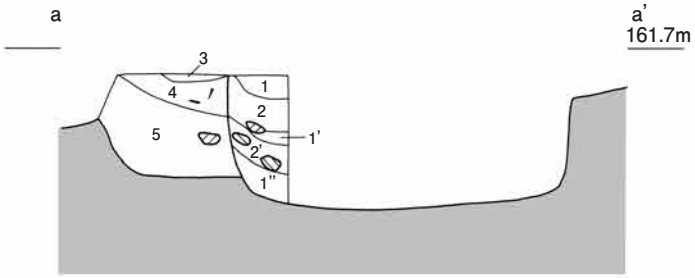
1. 2.5Y 4/3 オリーブ褐色 粗砂混極細砂
2. 2.5Y 3/2 黒褐色 粗砂混極細砂 直径10㎜大の礫、土器多量含む
3. 2.5Y 2/1 黒色 シルト質極細砂 有機質多量含む
4. 2.5Y 5/2 暗灰黄色 シルト ベースブロック含む
5. 2.5Y 6/1 黄灰色 粗砂 ：ベース

0 2m

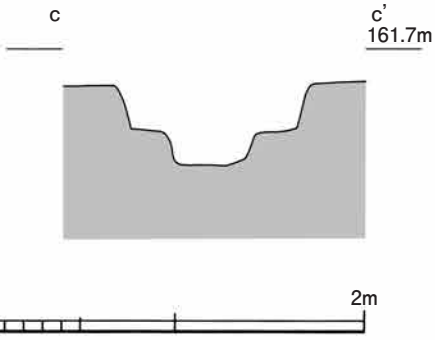
土坑平面図・断面図④





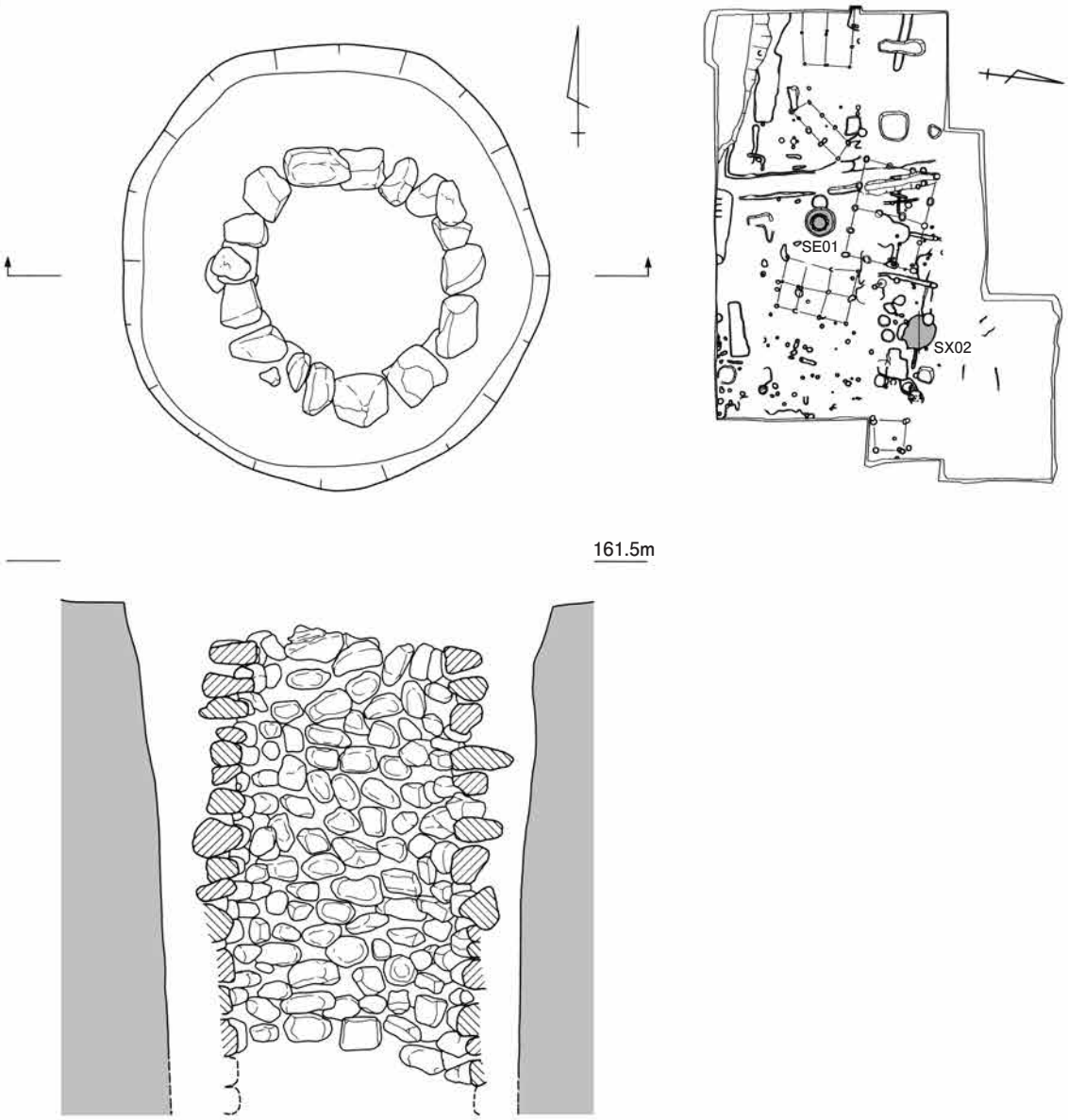


1. 2.5Y 4/6 オリーブ褐色 シルト ベースブロック（①'・①''は同質層）：SK33埋土
2. 2.5Y 4/3 オリーブ褐色 粗砂混極細砂 （②'は同質層）：SK33埋土
3. 2.5Y 5/1 黄灰色 粗砂混シルト：SK29埋土
4. 2.5Y 4/3 オリーブ褐色 粗砂混シルト：SK29埋土
5. 2.5Y 4/3 オリーブ褐色 ベースブロック：SK29埋土

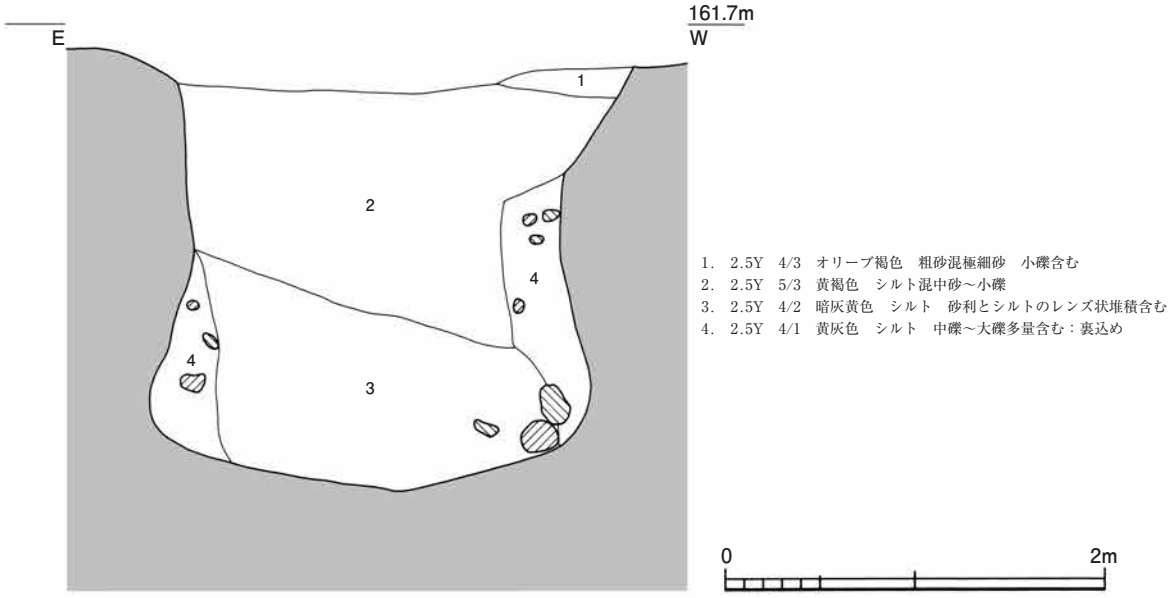


土坑平面図・断面図⑤

SE01

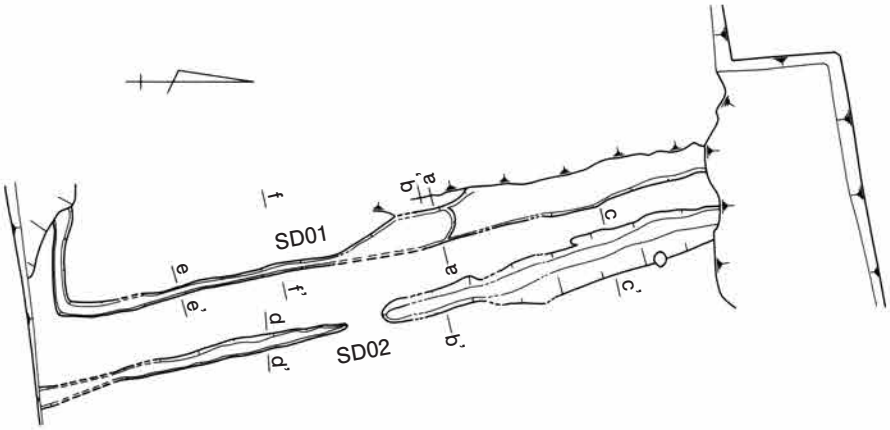


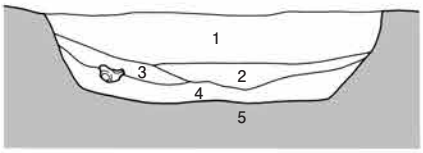
SX02



1. 2.5Y 4/3 オリーブ褐色 粗砂混極細砂 小礫含む
2. 2.5Y 5/3 黄褐色 シルト混中砂～小礫
3. 2.5Y 4/2 暗灰黄色 シルト 砂利とシルトのレンズ状堆積含む
4. 2.5Y 4/1 黄灰色 シルト 中礫～大礫多量含む：裏込め

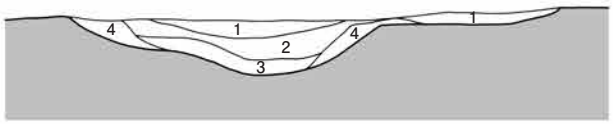
井戸等平面図・断面図



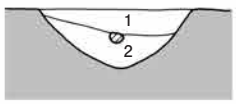


1. 2.5Y 3/2 黒褐色 シルト
2. 2.5Y 5/2 暗灰黄色 シルト
3. 2.5Y 6/4 にぶい黄色 シルト
4. 2.5Y 6/3 にぶい黄色 シルト
5. 2.5Y 5/6 黄褐色 シルト

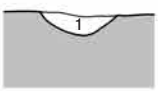
1. 2.5Y 4/2 暗灰黄色 中砂混シルト
2. 2.5Y 4/2 暗灰黄色 中砂多量混シルト
3. 2.5Y 3/1 黒褐色 シルト



1. 10YR 4/4 褐色 細砂（中砂含む）小礫少量、炭粒含む
2. 10YR 5/2 灰黄褐色 細砂（中粗砂含む）炭粒含む
3. 10YR 5/2 灰黄褐色 シルト質細砂（中砂含む）
4. 10YR 4/3 にぶい黄褐色 細砂（中砂含む）ベースブロック混入

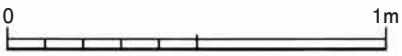


1. 2.5Y 3/1 黒褐色 中砂混シルト 炭多く含む
2. 2.5Y 4/1 黄灰色 中砂混シルト ベースブロック含む

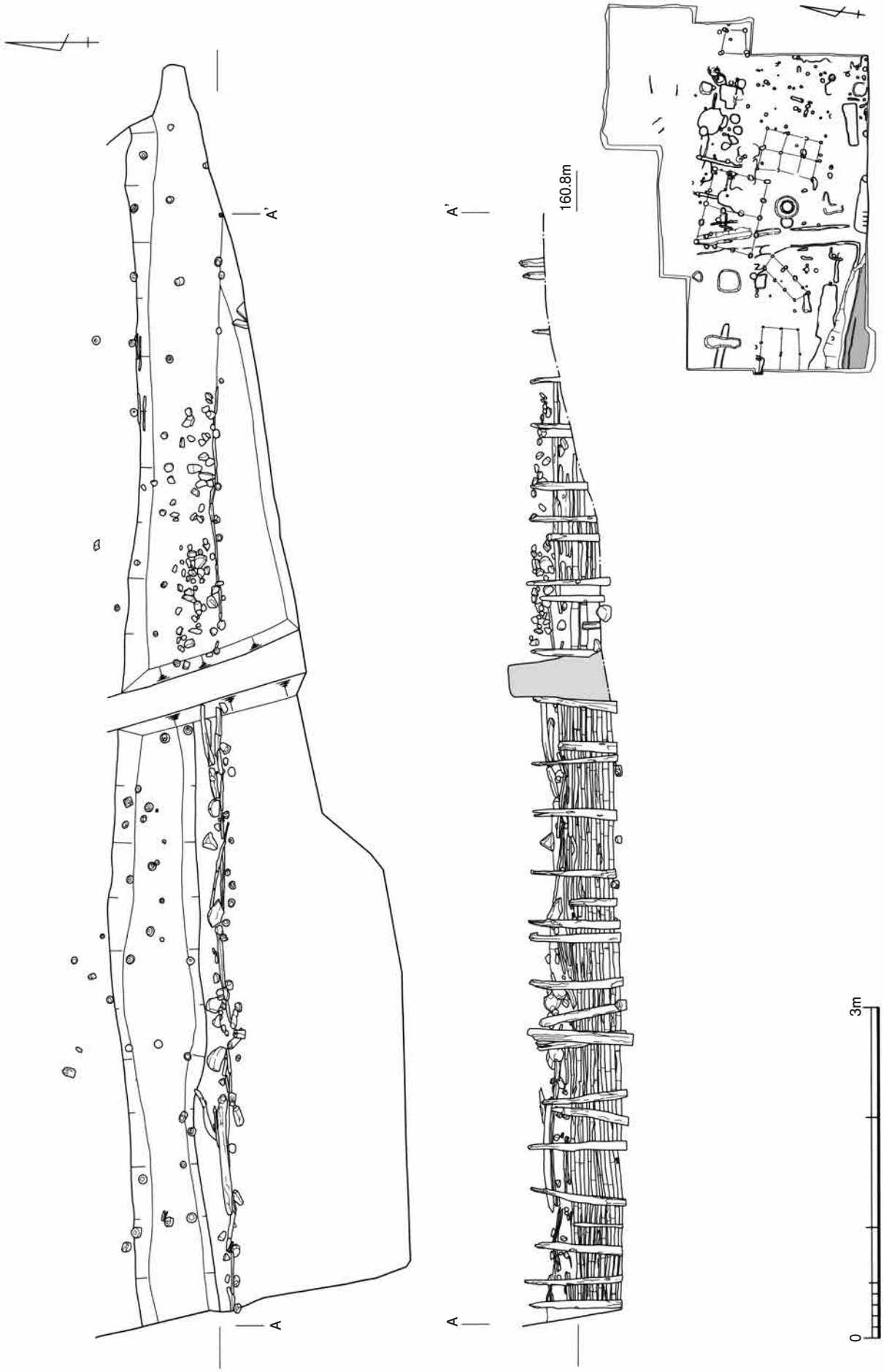


1. 2.5Y 5/2 暗灰黄色 シルト

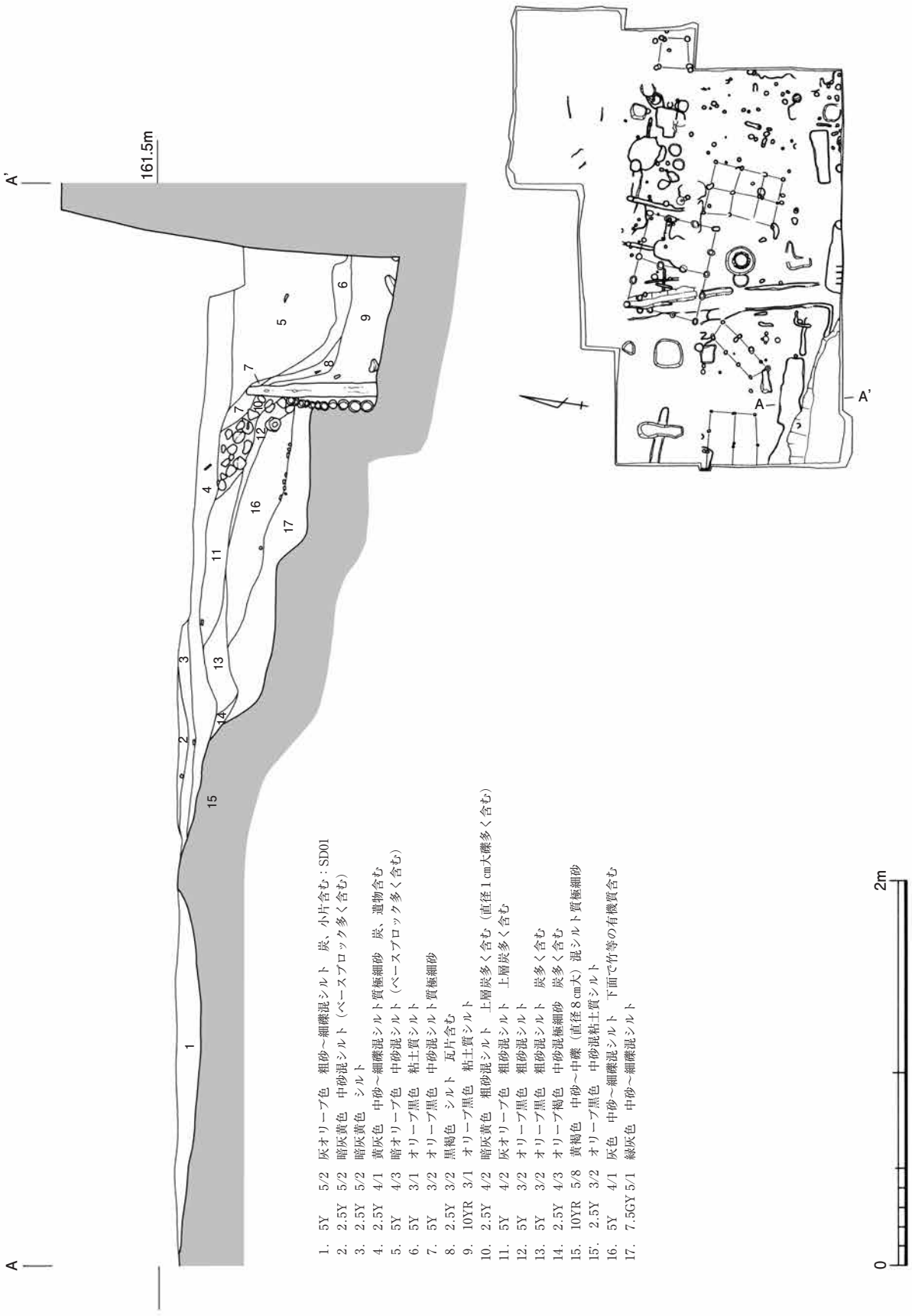
1. 5Y 3/2 オリーブ黒色 シルト：SD01埋土
2. 10Y 4/1 灰色 シルト 炭含む：SD05埋土
3. 5Y 3/2 オリーブ黒色 中砂混シルトSD06埋土



溝平面図・断面図

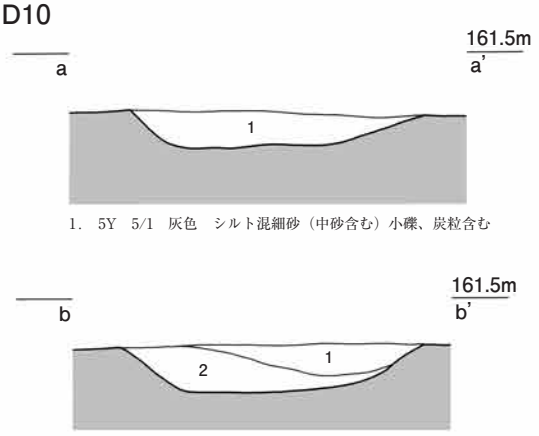


SD03護岸部分平面図・見通し図


A
A'
161.5m
1. 5Y 5/2 灰オリーブ色 粗砂～細礫混シルト 炭、小片含む：SD01
2. 2.5Y 5/2 暗灰黄色 中砂混シルト（ベースブロック多く含む）
3. 2.5Y 5/2 暗灰黄色 シルト
4. 2.5Y 4/1 黄灰色 中砂～細礫混シルト質極細砂 炭、遺物含む
5. 5Y 4/3 暗オリーブ色 中砂混シルト（ベースブロック多く含む）
6. 5Y 3/1 オリーブ黒色 粘土質シルト
7. 5Y 3/2 オリーブ黒色 中砂混シルト質極細砂
8. 2.5Y 3/2 黒褐色 シルト 瓦片含む
9. 10YR 3/1 オリーブ黒色 粘土質シルト
10. 2.5Y 4/2 暗灰黄色 粗砂混シルト 上層炭多く含む（直径1cm大礫多く含む）
11. 5Y 4/2 灰オリーブ色 粗砂混シルト 上層炭多く含む
12. 5Y 3/2 オリーブ黒色 粗砂混シルト
13. 5Y 3/2 オリーブ黒色 粗砂混シルト 炭多く含む
14. 2.5Y 4/3 オリーブ褐色 中砂混極細砂 炭多く含む
15. 10YR 5/8 黄褐色 中砂～中礫（直径8cm大）混シルト質極細砂
15'. 2.5Y 3/2 オリーブ黒色 中砂混粘土質シルト
16. 5Y 4/1 灰色 中砂～細礫混シルト 下面で竹等の有機質含む
17. 7.5GY 5/1 緑灰色 中砂～細礫混シルト
0
2m

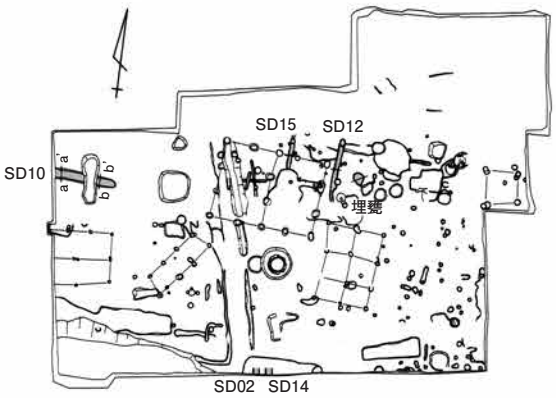
SD03畦断面図

SD10

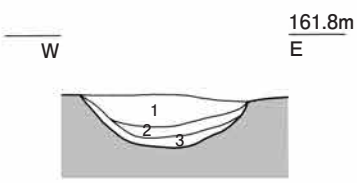


1. 5Y 5/1 灰色 シルト混細砂（中砂含む）小礫、炭粒含む

1. 2.5Y 5/2 暗灰黄色 シルト混細砂（中砂含む）炭粒少量含む
2. 5Y 7/1 灰白色 シルト質極細砂 炭粒少量含む：ベース土の二次堆積

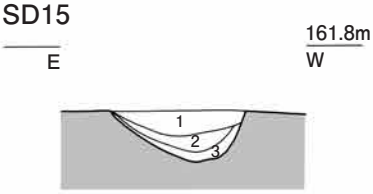


SD12

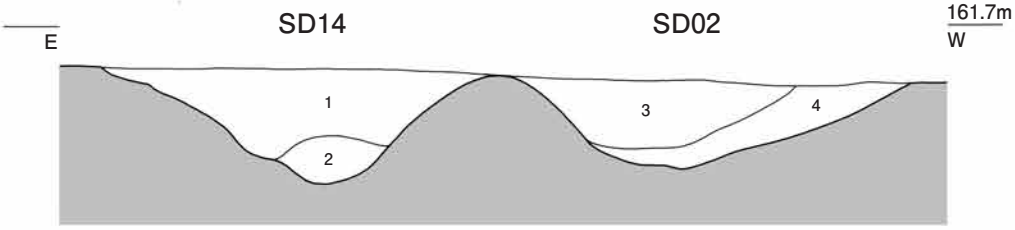


1. 2.5Y 6/1 黄灰色 細砂～中砂 鉄分含む
2. 10YR 4/2 灰黄褐色 細砂～中砂 炭粒含む
3. 2.5Y 7/1 灰白色 シルト質細砂 ベース土の二次堆積か

SD15

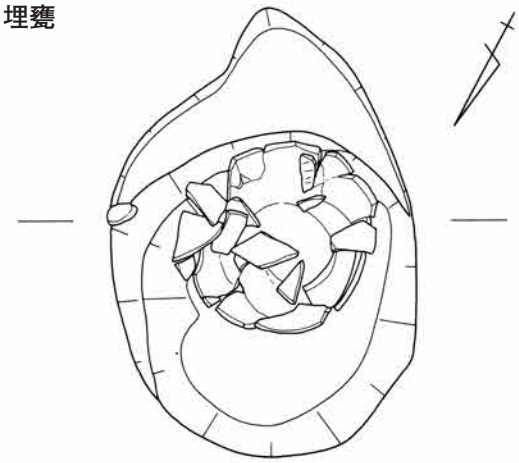


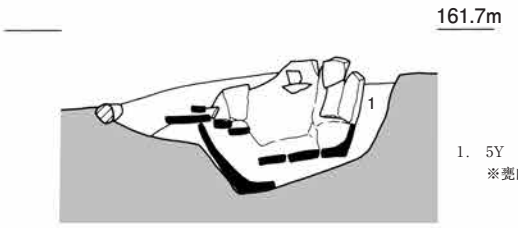
1. 10YR 5/1 褐灰色 細砂（中砂含む）炭粒少量含む
2. 10YR 6/2 灰黄褐色 シルト質細砂（中砂含む）
3. 10YR 6/4 にぶい黄橙色 シルト質細砂（中砂含む）



1. 2.5Y 4/1 黄灰色 極細砂（中粗砂含む）小礫、炭粒含む：SD14埋土
2. 2.5Y 5/1 黄灰色 シルト質細砂（中粗砂含む）炭粒少量含む：SD14埋土
3. 2.5Y 5/1 黄灰色 細砂（中粗砂含む）小礫、炭粒含む：SD02埋土
4. 2.5Y 3/2 黒褐色 極細砂～細砂（中砂含む）：SD02埋土

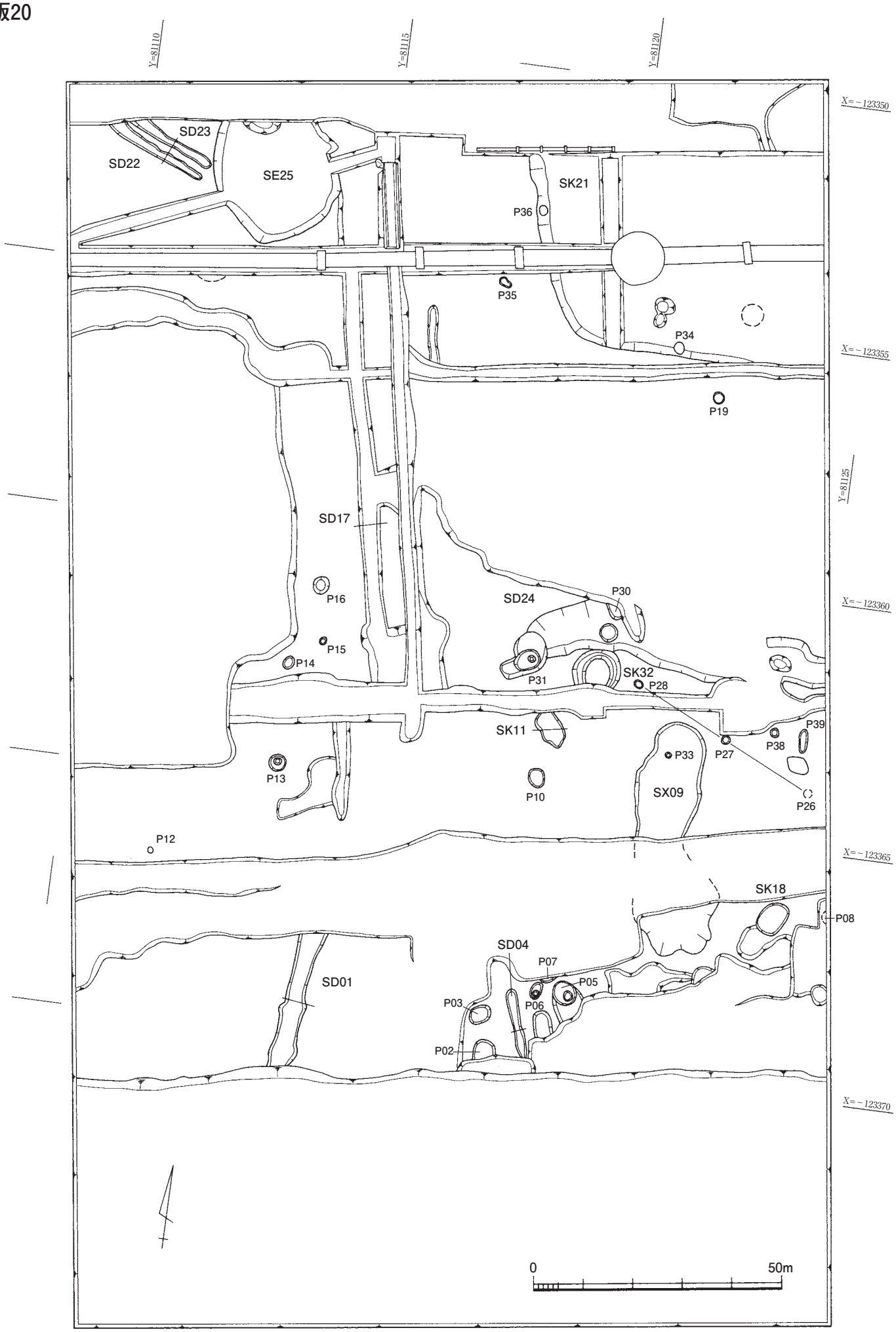
埋甕





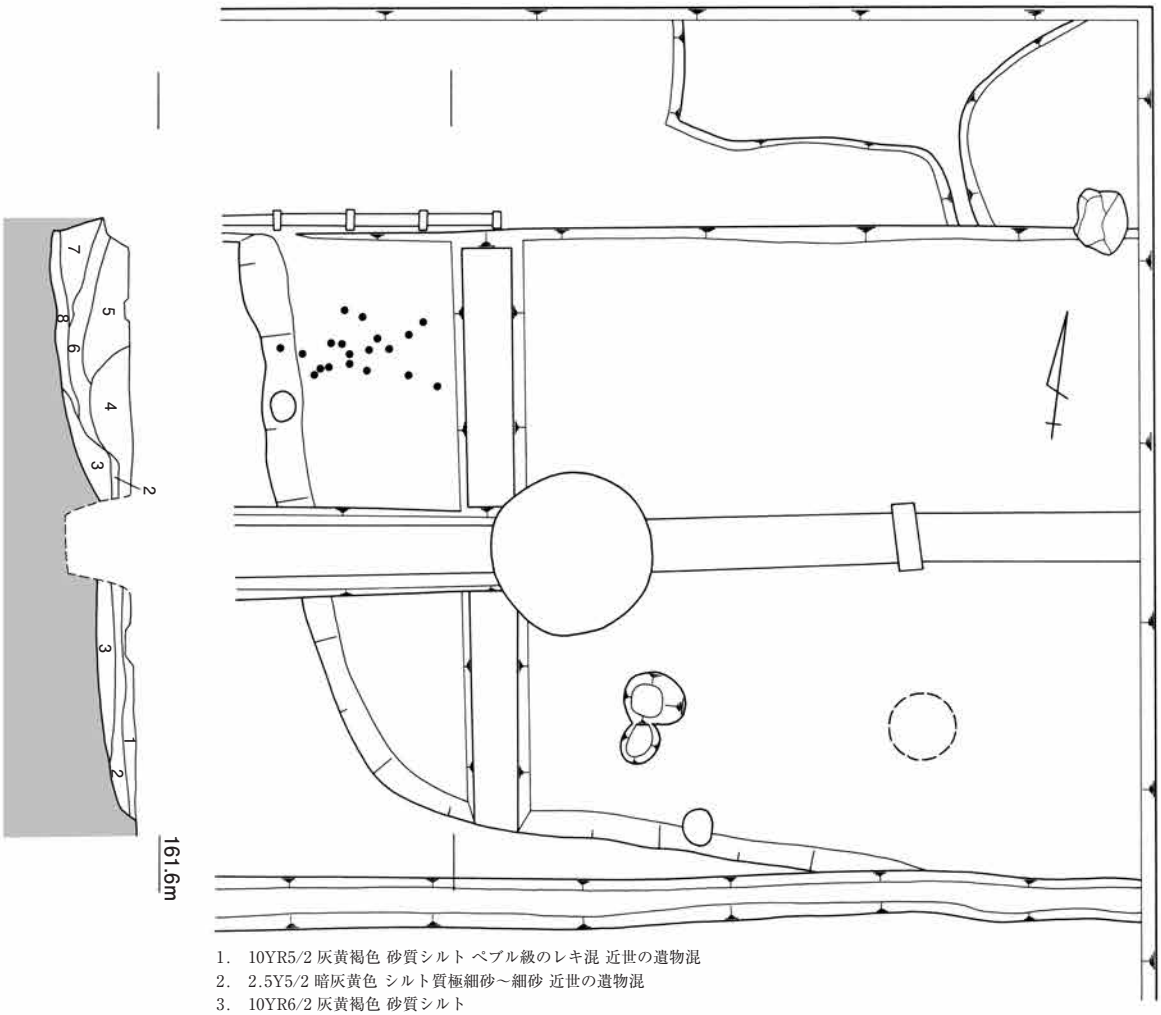
1. 5Y 4/3 暗オリーブ色 中砂混シルト（炭含む）中礫
※甕内埋土：2.5Y 4/4 オリーブ褐色 中砂混シルト

溝平面図・断面図② 埋甕平面図・断面図


Y=81110
Y=81115
Y=81120
Y=81125
X=-123350
X=-123355
X=-123360
X=-123365
X=-123370
SD23
SD22
SE25
SK21
P36
P35
P34
P19
SD17
P16
P15
P14
SD24
P30
P31
SK32
P28
SK11
P39
P38
P27
P33
P13
P10
SX09
P26
P12
SK18
P08
SD04
P07
P05
P06
P03
P02
SD01
0
50m

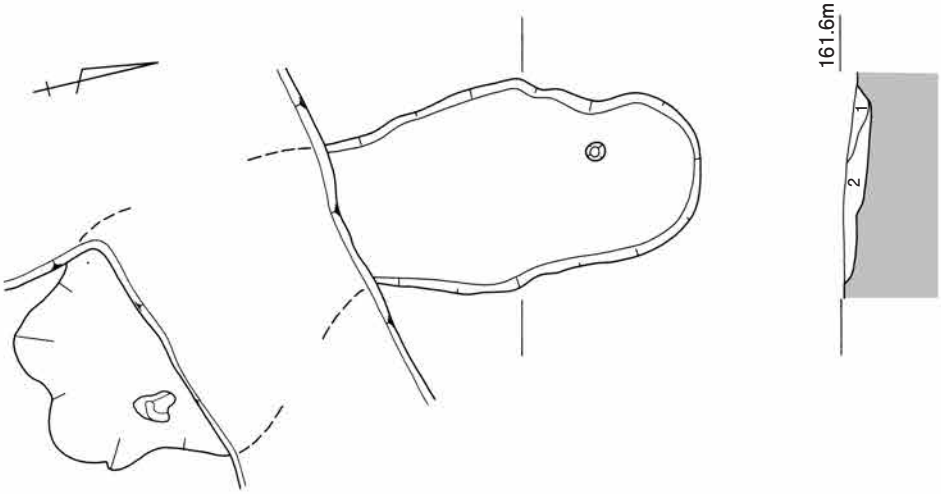
B地区平面図

SK21



1. 10YR5/2 灰黄褐色 砂質シルト ペブル級のレキ混 近世の遺物混
2. 2.5Y5/2 暗灰黄色 シルト質極細砂～細砂 近世の遺物混
3. 10YR6/2 灰黄褐色 砂質シルト
   2.5Y6/4 にぶい黄色 砂質シルト（地山）のブロック混
4. ①層と同一
5. 10YR5/2 灰黄褐色 シルト質極細砂～細砂
6. おそらく②層と同じ
7. 2.5Y6/4 にぶい黄色 砂質シルト（地山）による人為埋土 地山とまぎらわしい
8. 10YR4/1 褐灰色 砂質シルト 炭片を多量に含む灰層

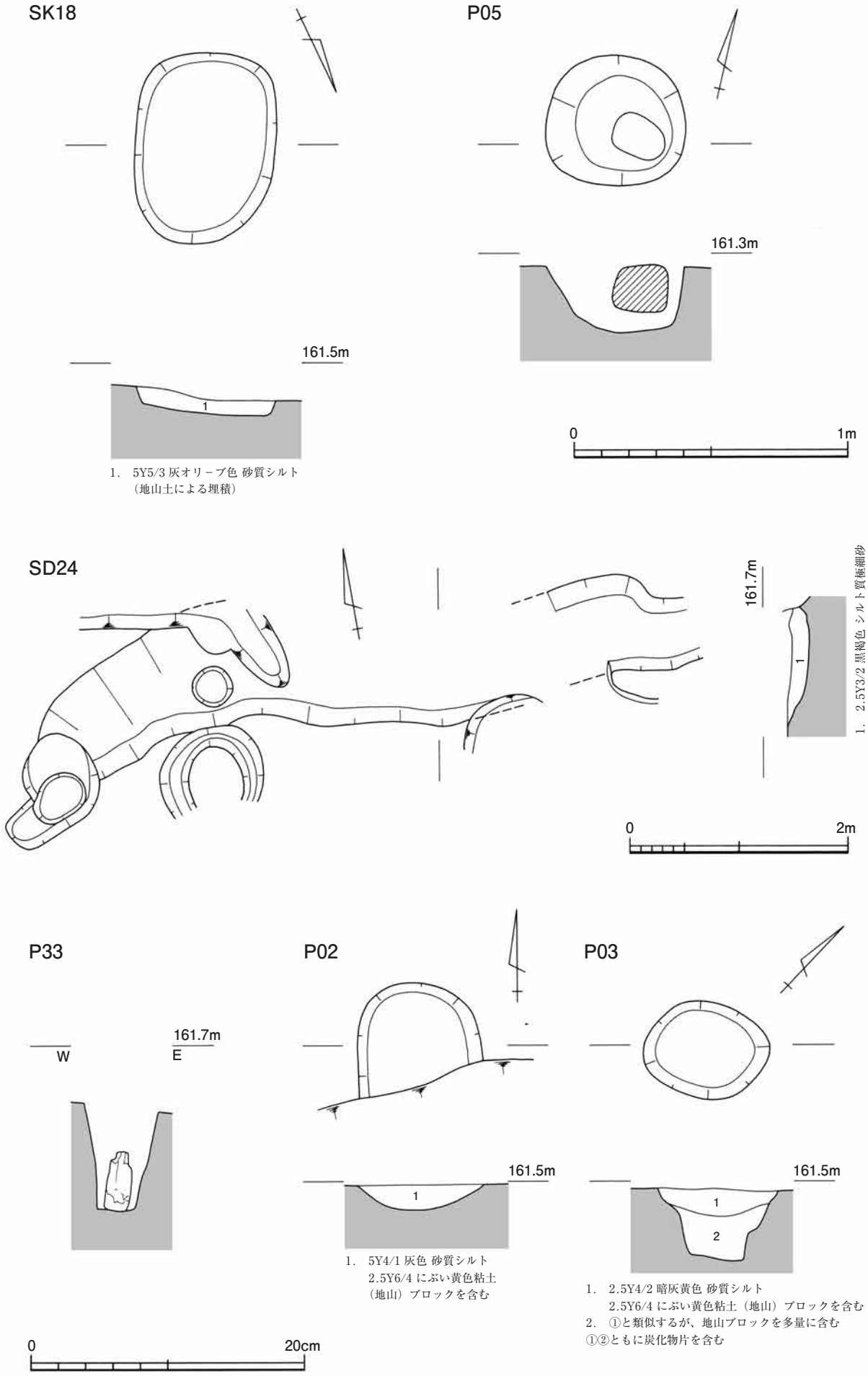
SX09



1. 2.5Y6/3 にぶい黄色 砂質シルト（地山土による人為埋積土）
2. 2.5Y5/2 暗灰黄色 シルト質極細砂 指頭大の炭・地山ブロック混

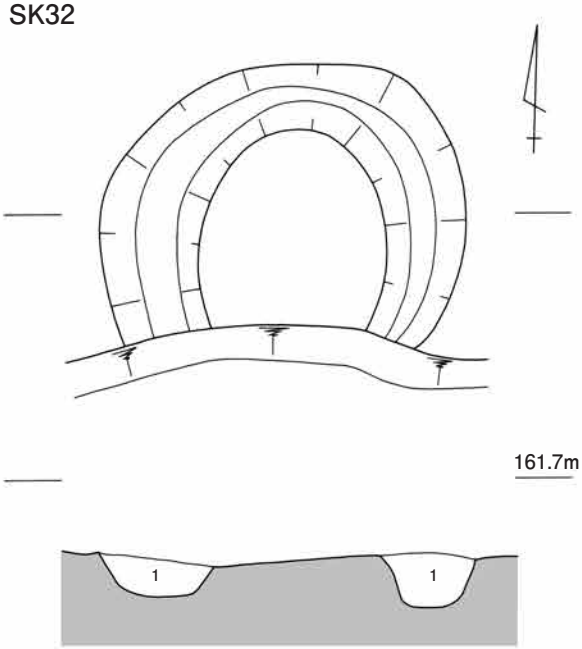
0 2m

B地区遺構図①


SK18
161.5m
1
1. 5Y5/3 灰オリーブ色 砂質シルト
（地山土による埋積）
P05
161.3m
0
1m
SD24
161.7m
1
1. 2.5Y3/2 黒褐色 シルト質極細砂
0
2m
P33
161.7m
W
E
0
20cm
P02
161.5m
1
1. 5Y4/1 灰色 砂質シルト
2.5Y6/4 にぶい黄色粘土
（地山）ブロックを含む
P03
161.5m
1
2
1. 2.5Y4/2 暗灰黄色 砂質シルト
2.5Y6/4 にぶい黄色粘土（地山）ブロックを含む
2. ①と類似するが、地山ブロックを多量に含む
①②ともに炭化物片を含む

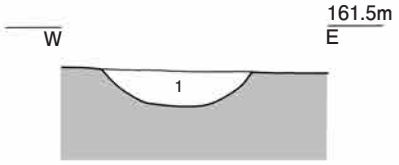
B地区遺構図②

SK32



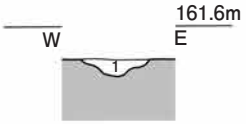
1. 10YR2/1 黒 シルト質極細砂

SD01



1. 5Y4/2 灰オリ-ブ色 細砂～シルト
   2.5Y6/4 鈍い黄色 粘土（地山）ブロックを多く含む

SD04

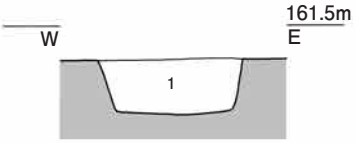


1. 2.5Y3/2 黒褐色 砂質シルト 炭化物片を多く含む

SK11

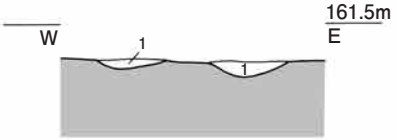
1. 2.5Y5/2 暗灰黄色砂質シルト

SD17

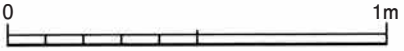


1. 2.5Y4/1 黄灰色砂質シルト
   2.5Y6/6 明黄褐色シルト（地山）
   ブロックを含み、所によっては殆
   ど地山ブロックで埋めている

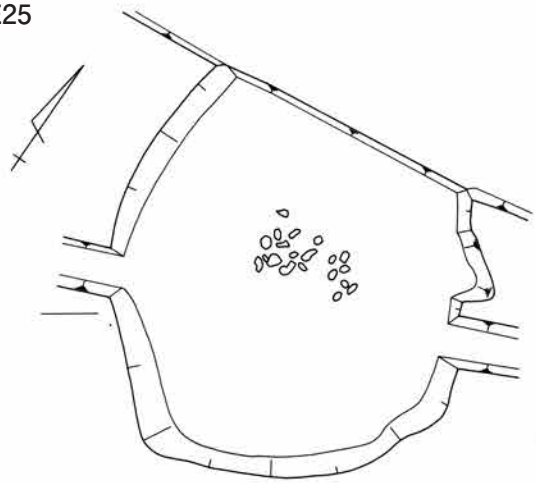
SD22　SD23

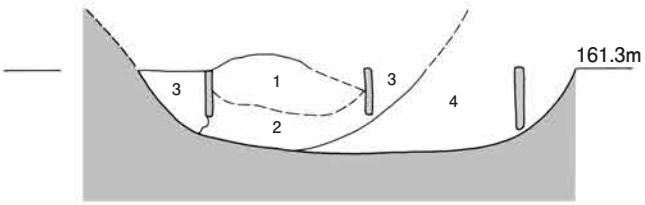


1. 2.5Y4/1 黄灰色砂質シルト



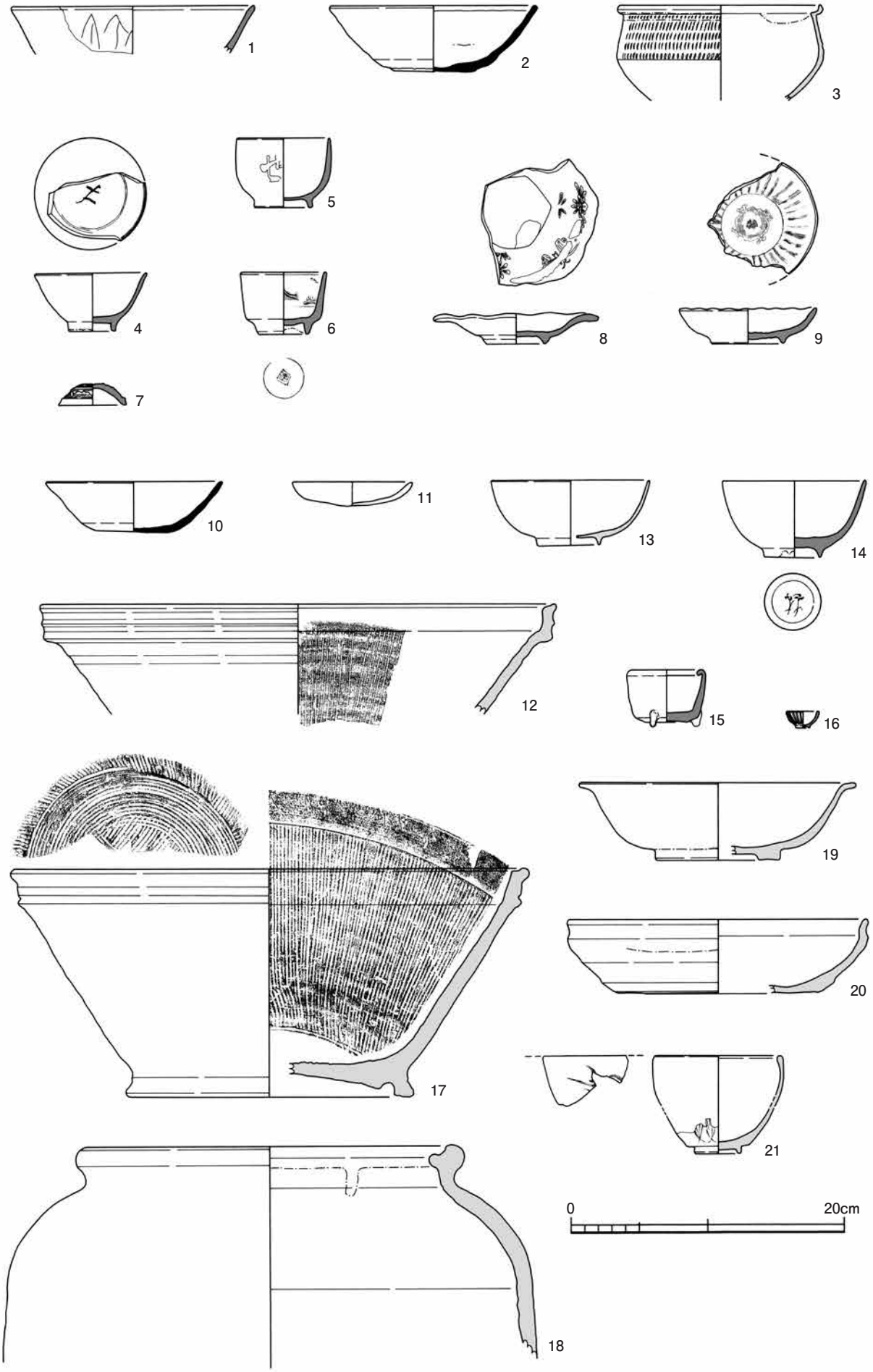
SE25



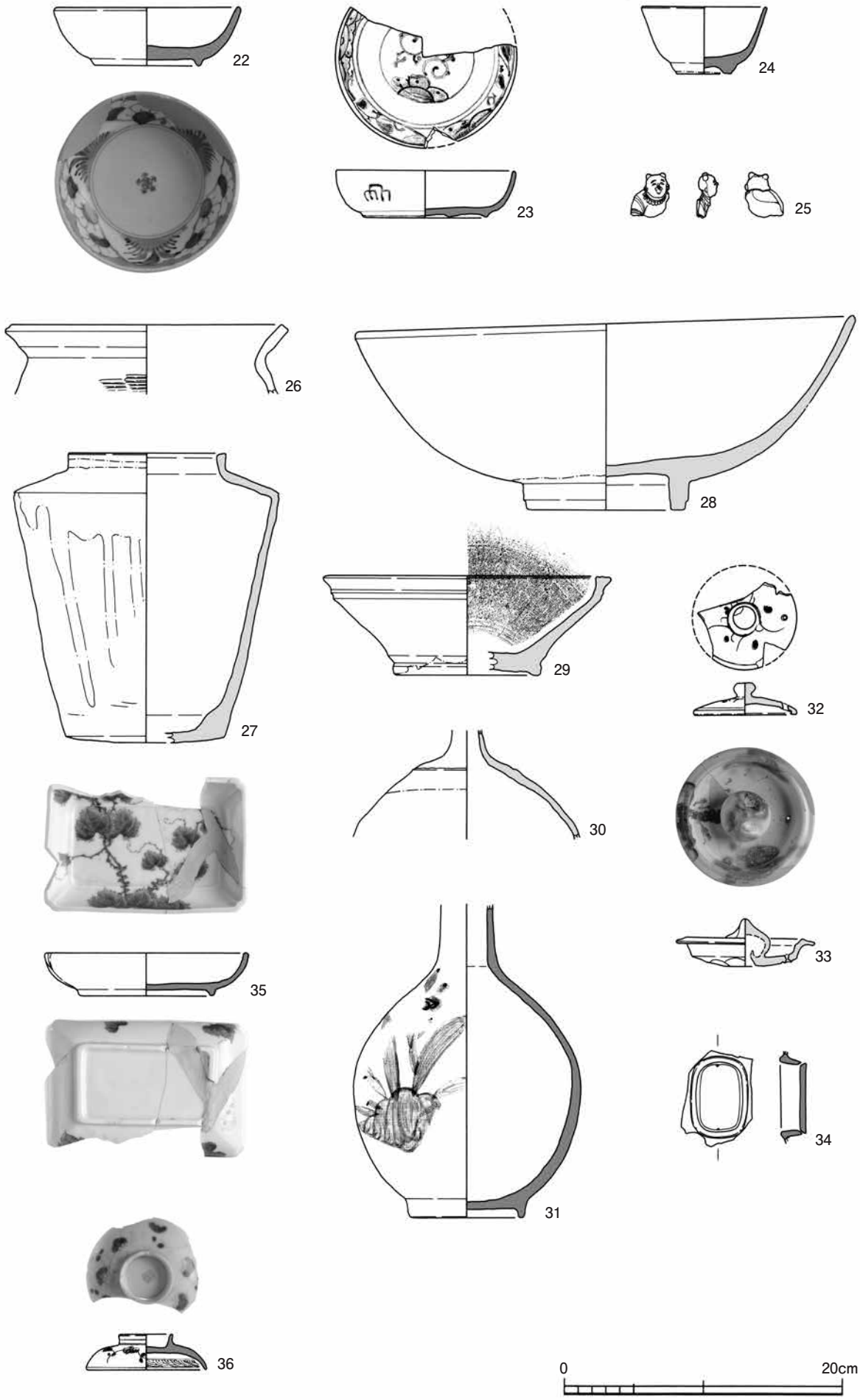


1. 7.5Y6/2 灰オリーブ色粘土
   多量の土器を含む人為投入土
2. 2.5Y3/2 黒褐色粘土～シルト
   含水比の高い泥土腐植質を含む
3. 5Y4/1 灰色 粘土（地山）ブロックを多量に含む
   材の裏込め
4. 2.5Y6/3 にぶい黄色粘土（地山）
   井戸直下は還元色（青色）を呈する

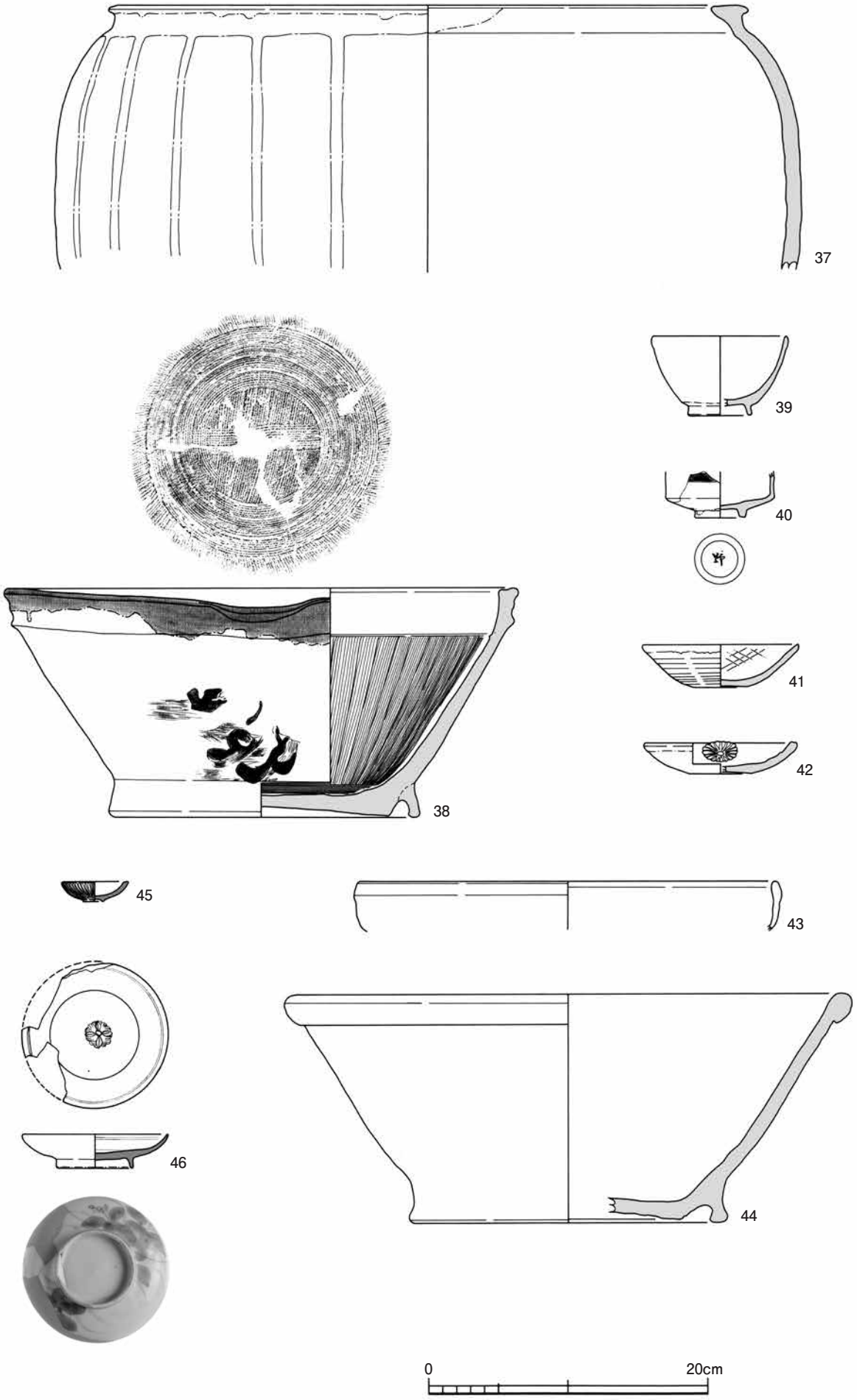
B地区遺構図③



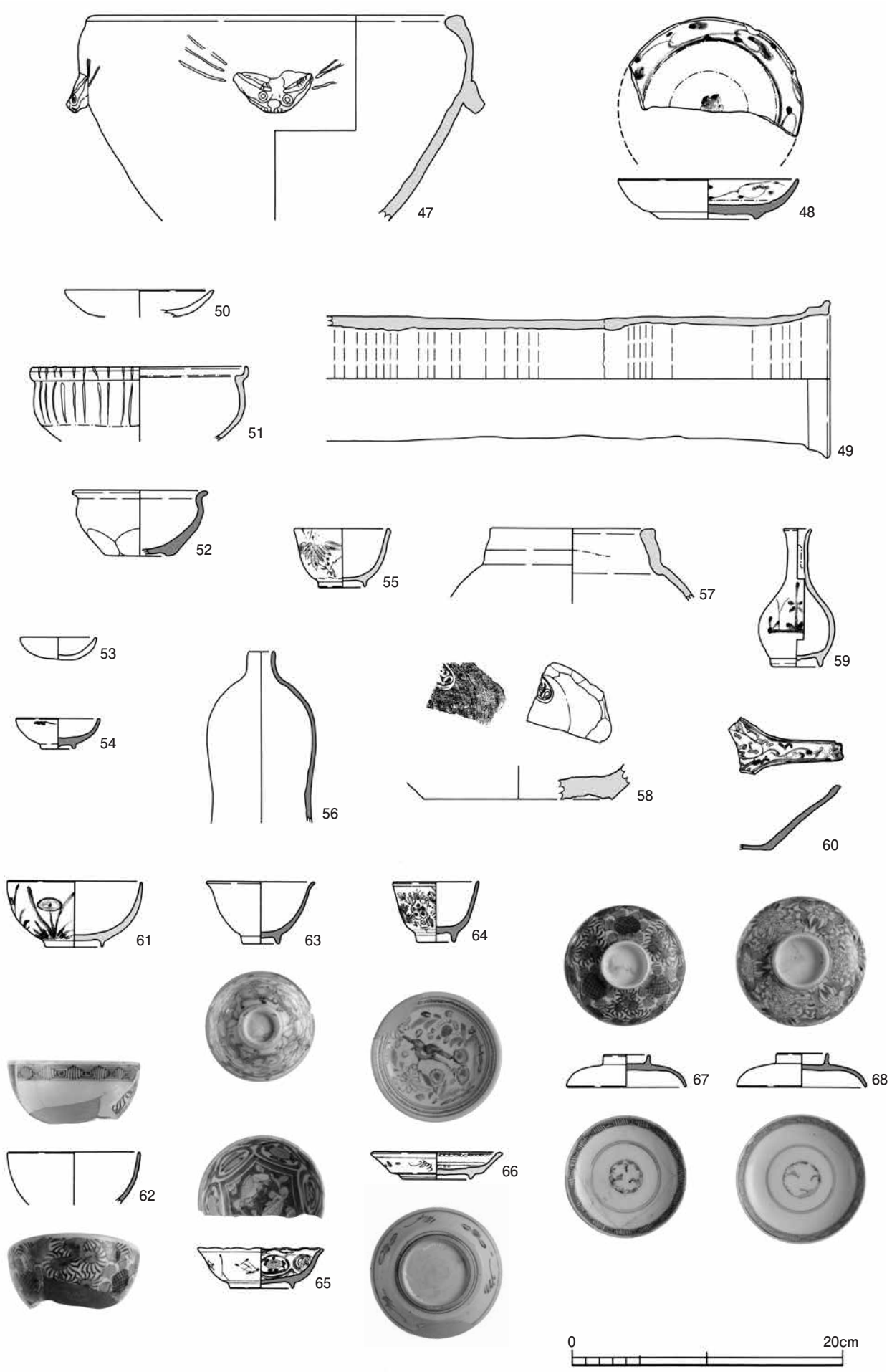
出土土器①



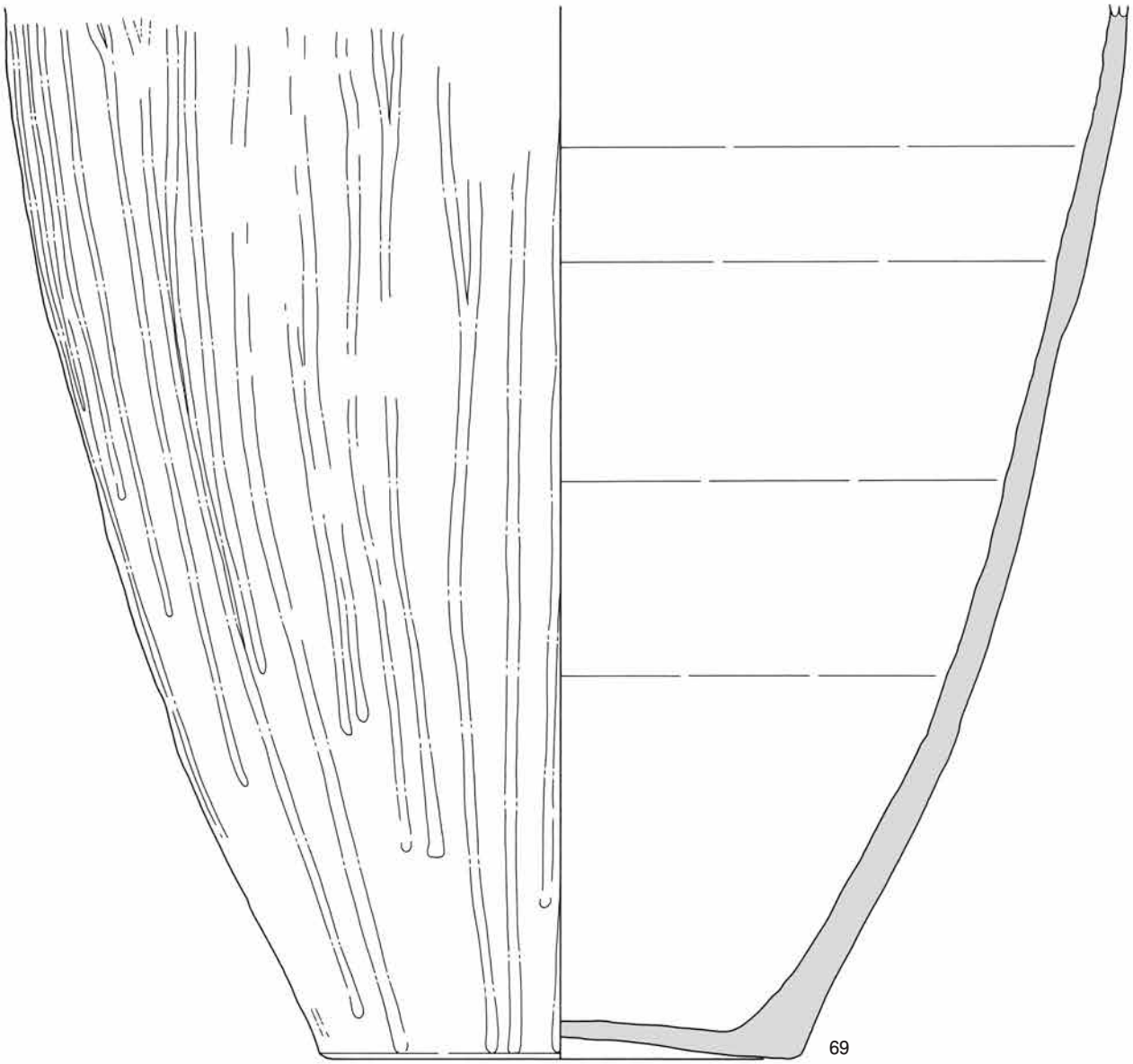
出土土器②

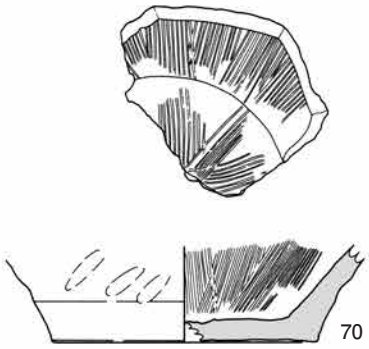


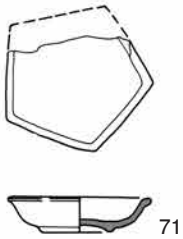
出土土器③



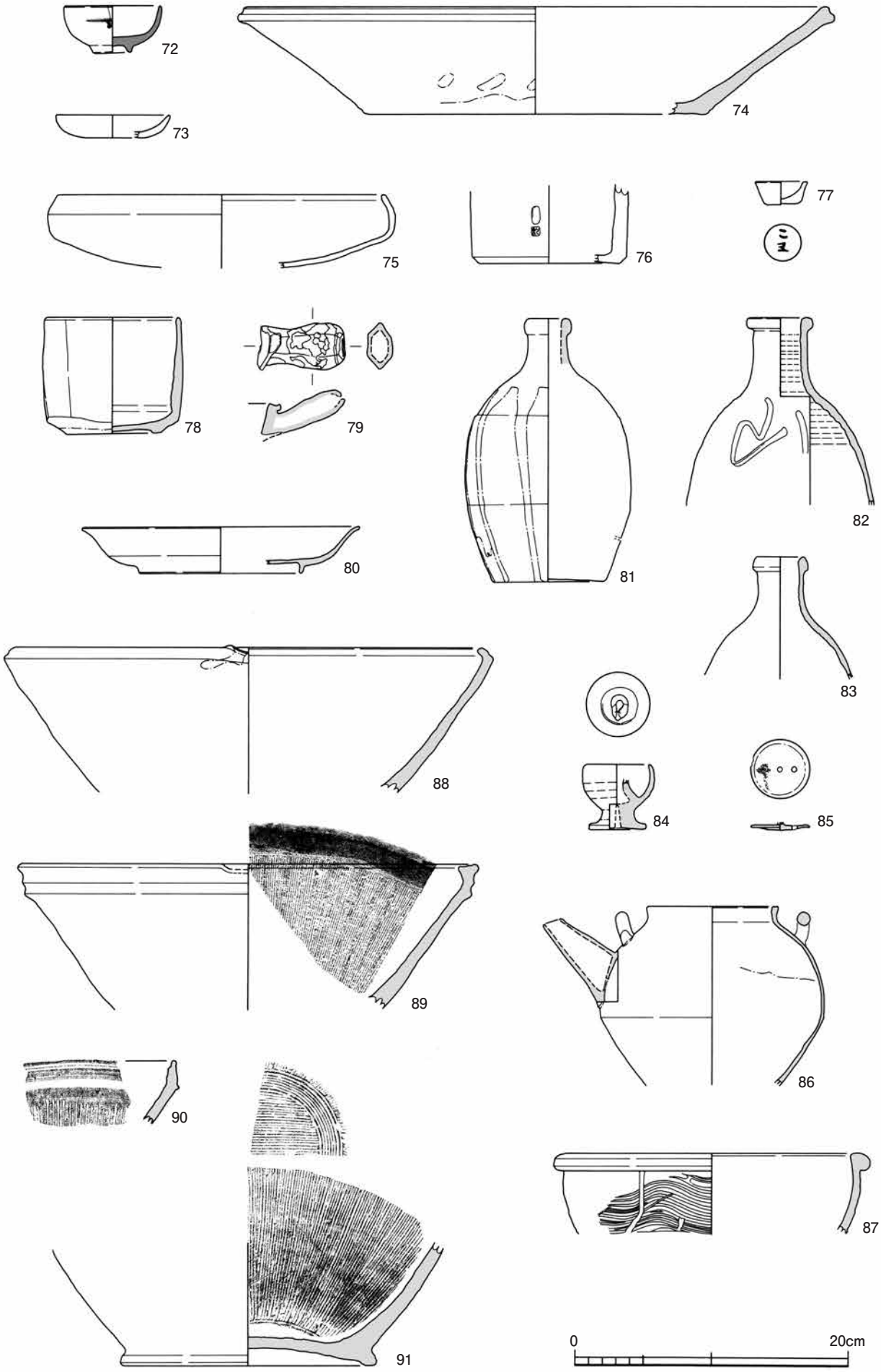
出土土器④



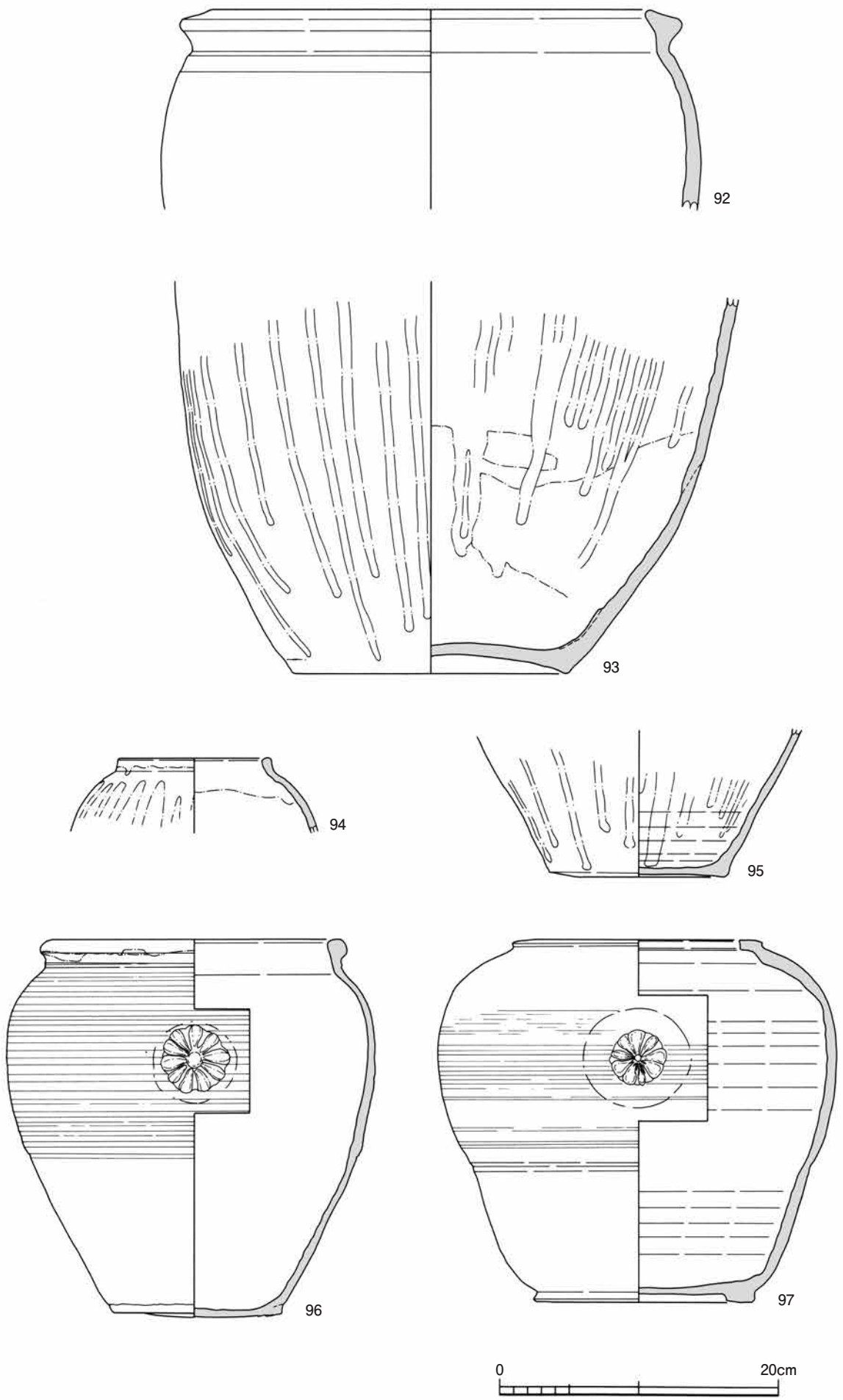




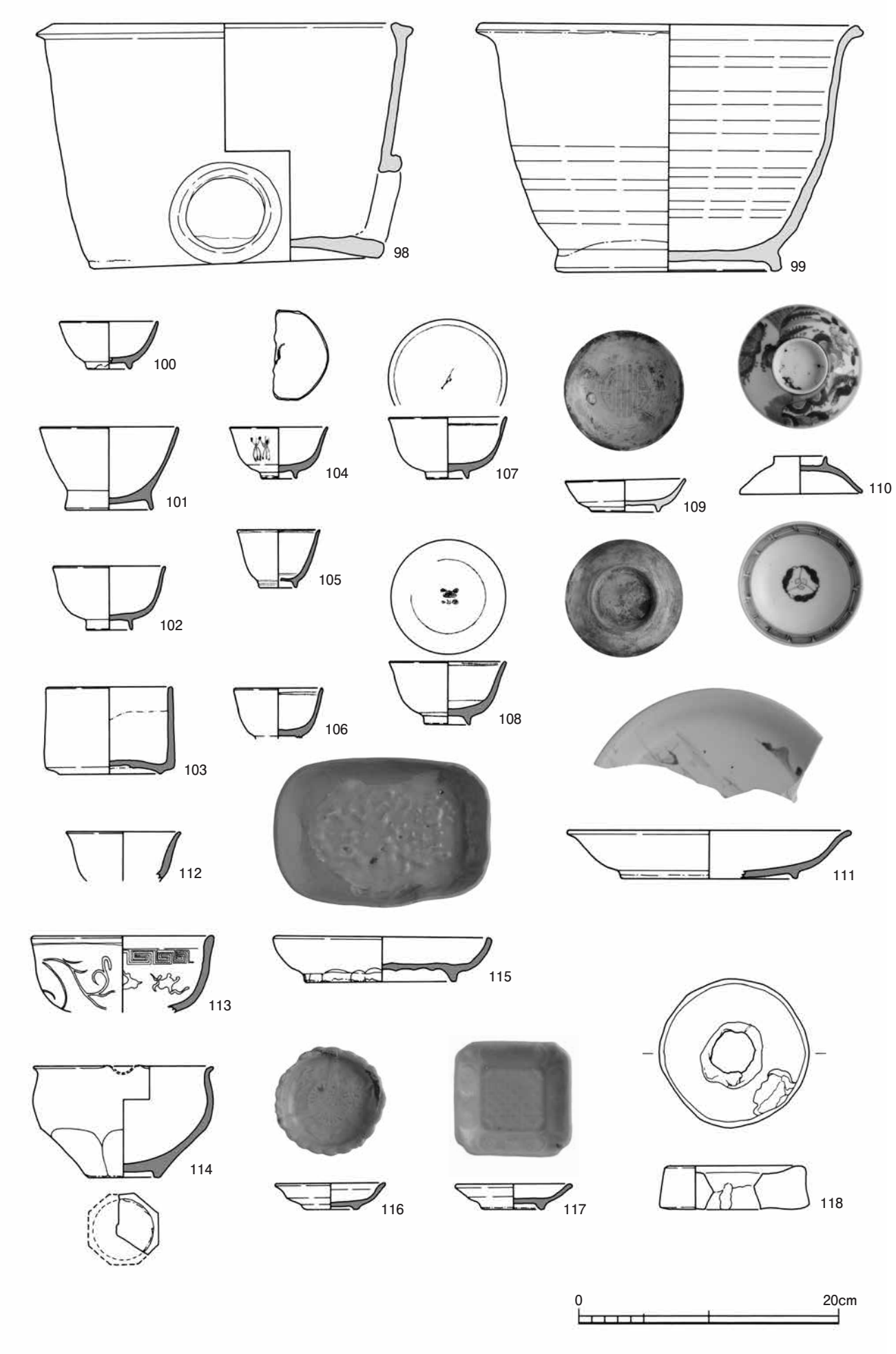
出土土器⑤



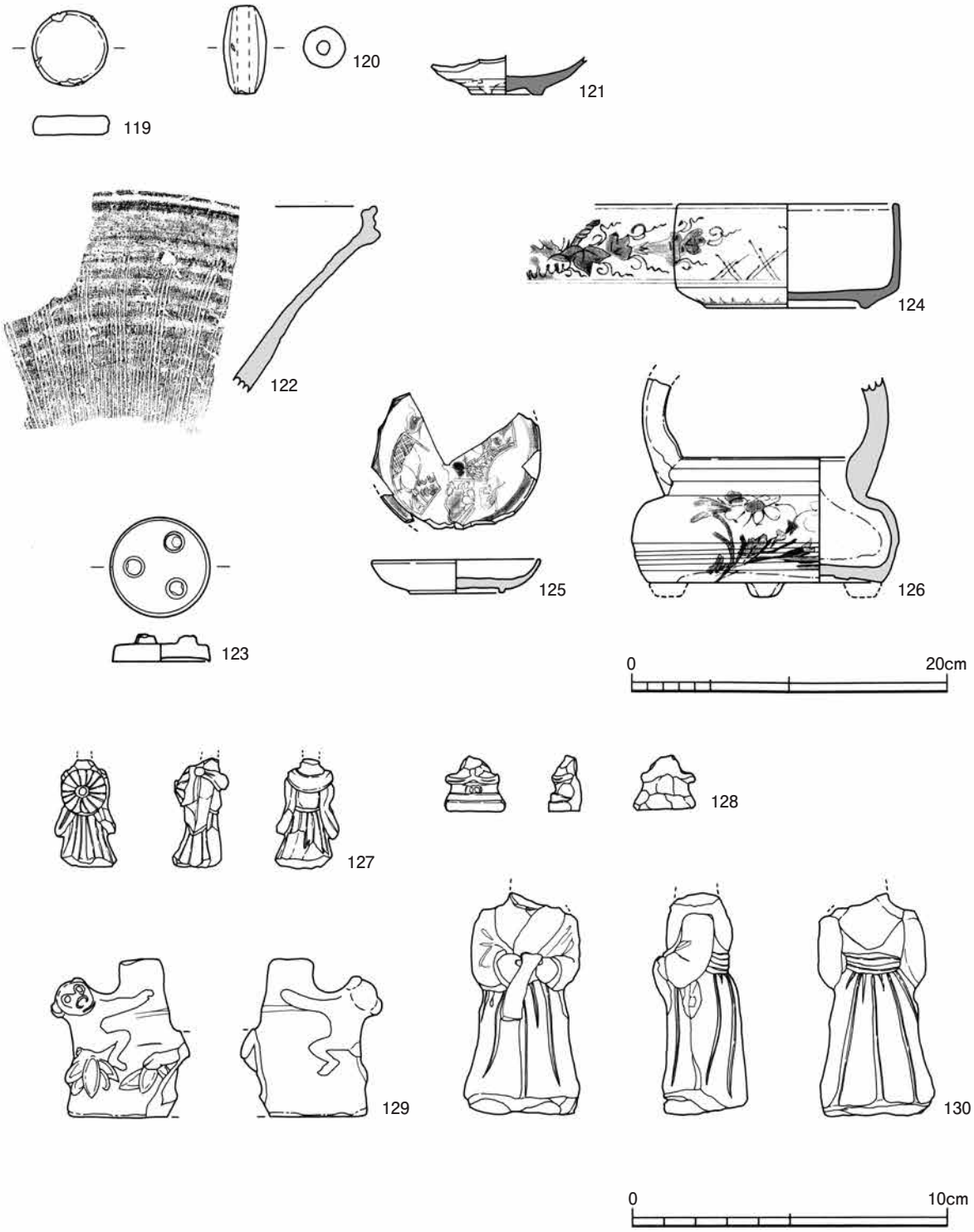
出土土器⑥

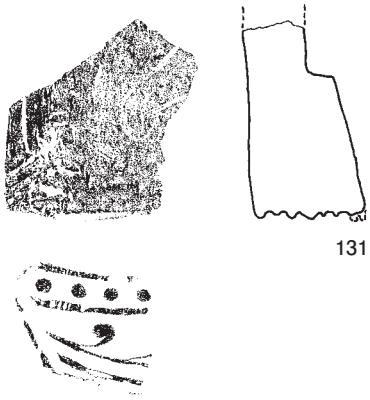


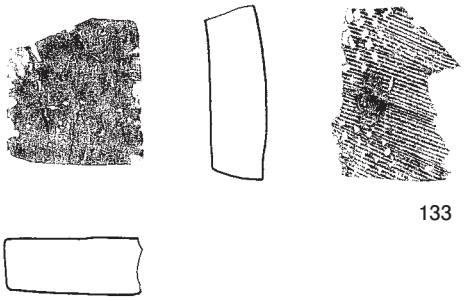
出土土器⑦


98
99
100
101
102
103
104
105
106
107
108
109
110
111
112
113
114
115
116
117
118
0
20cm

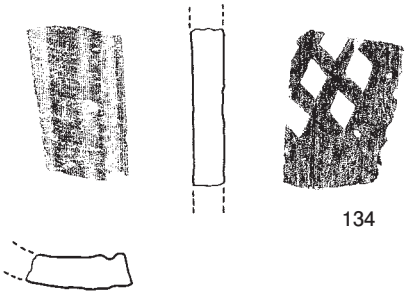
出土土器⑧

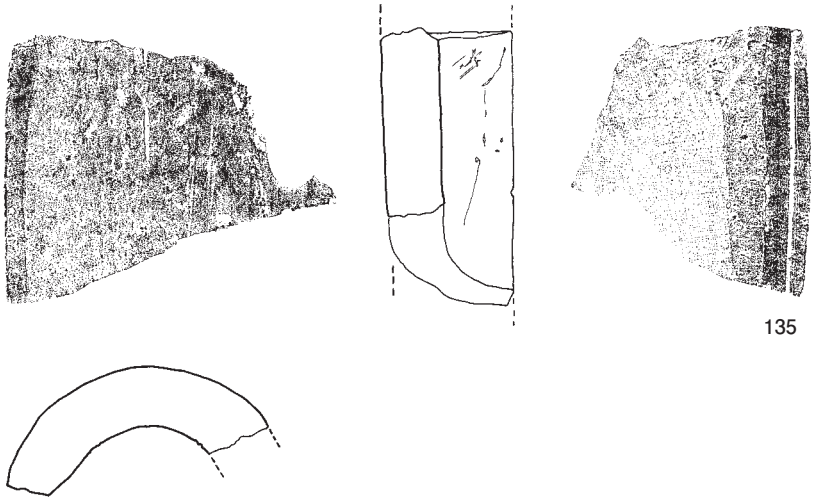

119
120
121
122
123
124
125
126
0
20cm
127
128
129
130
0
10cm


131

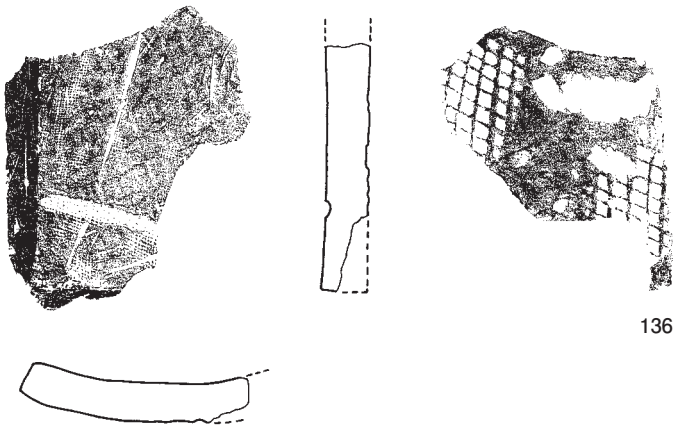

133

132

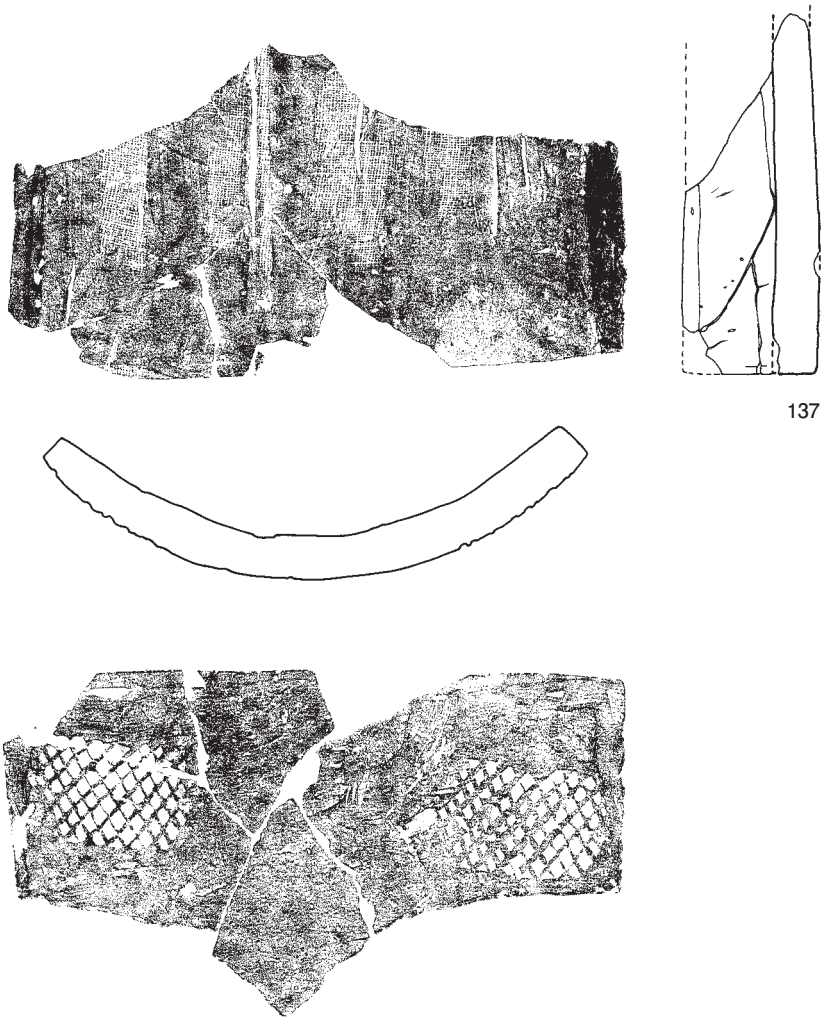

134


135

0
20cm



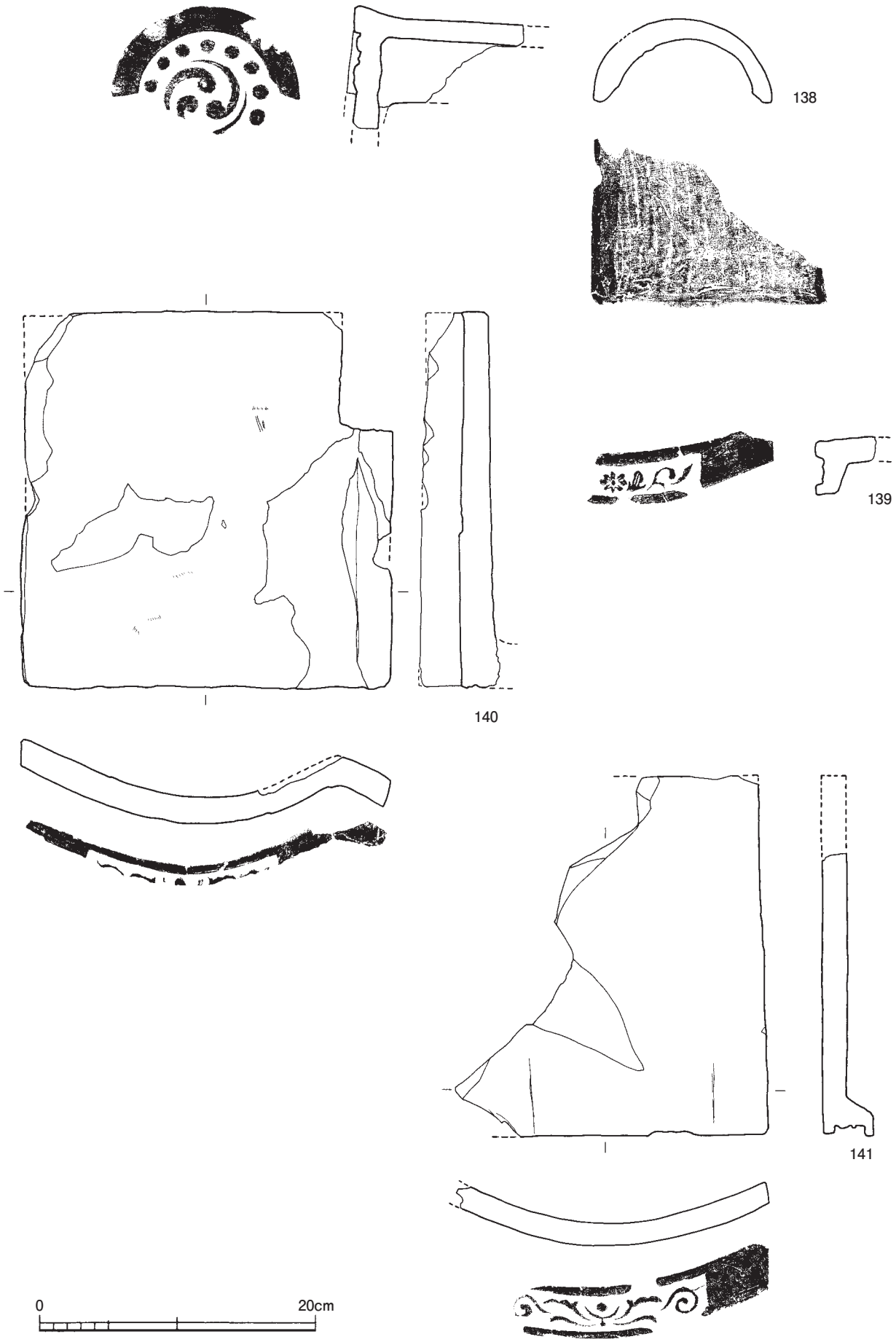
136



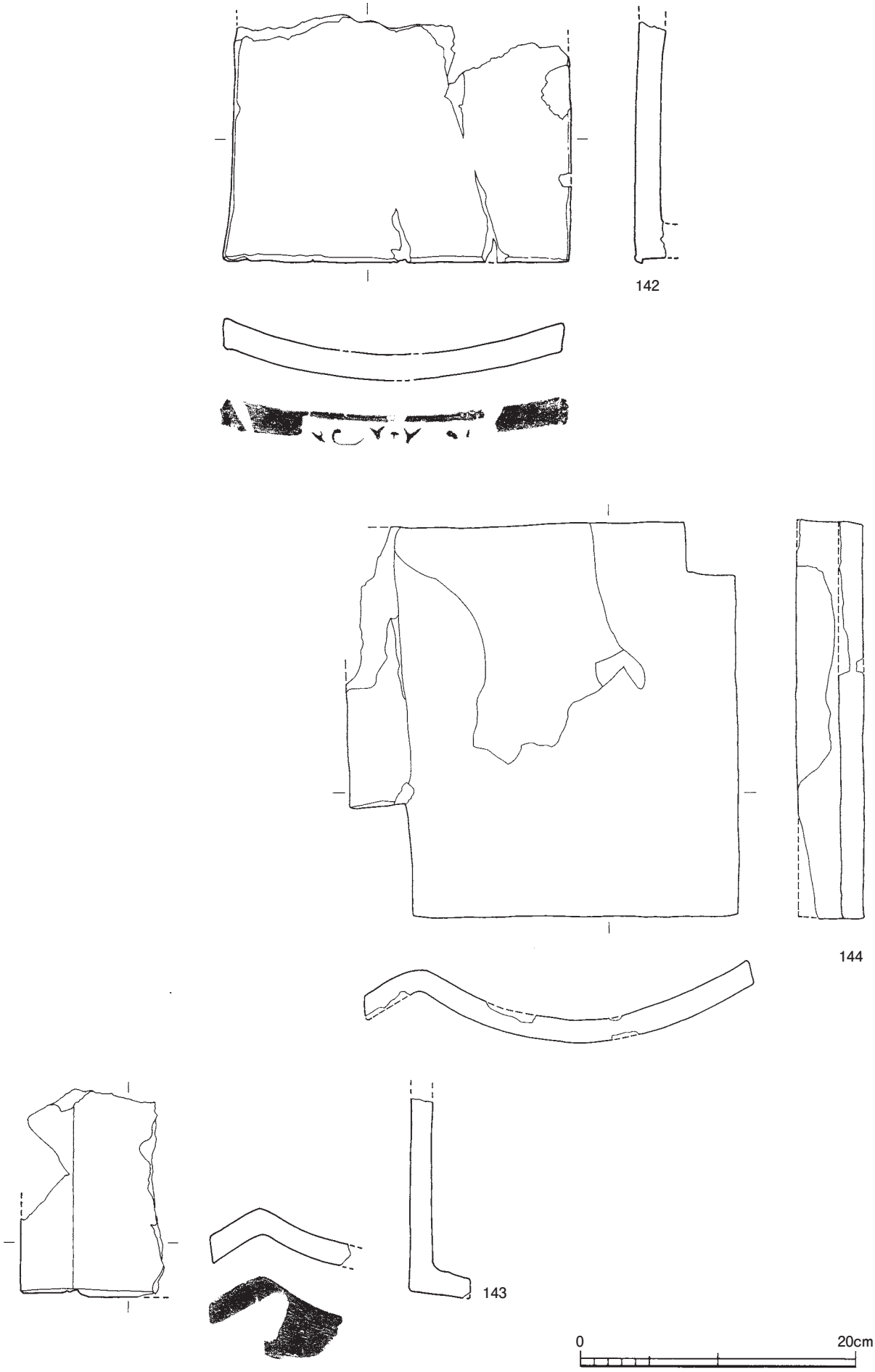
137

0 20cm

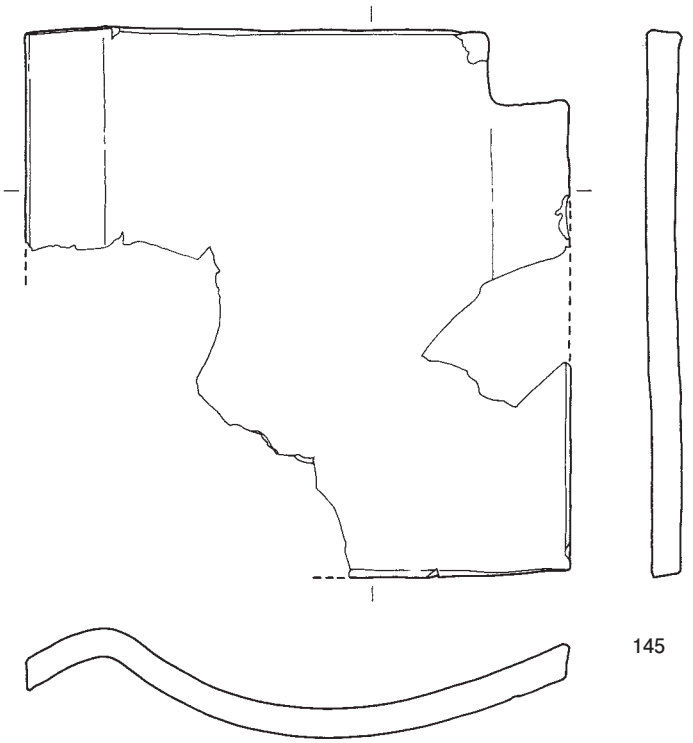
出土土器⑪



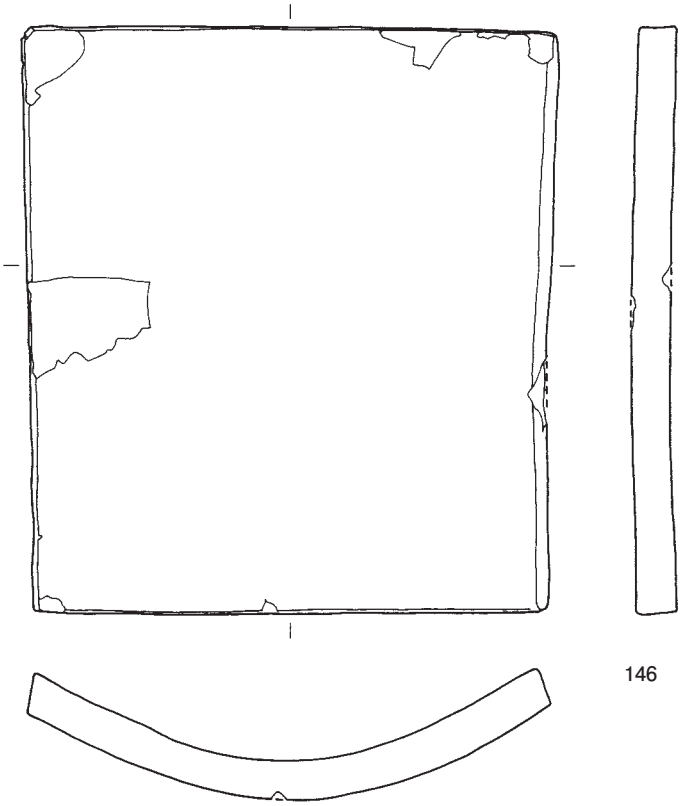
出土土器⑫



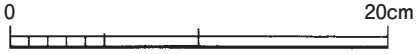
出土土器⑬

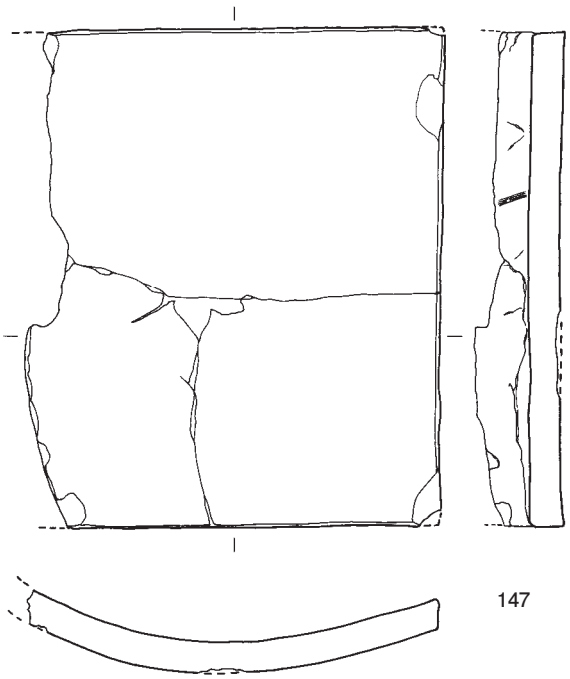


145

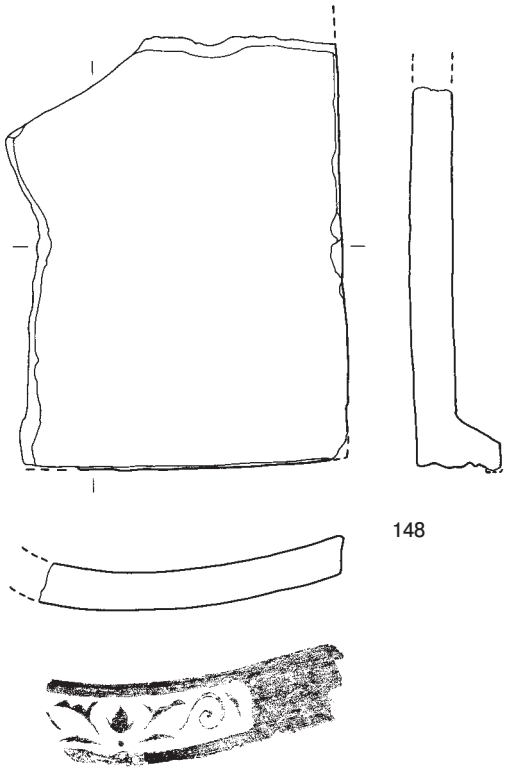


146

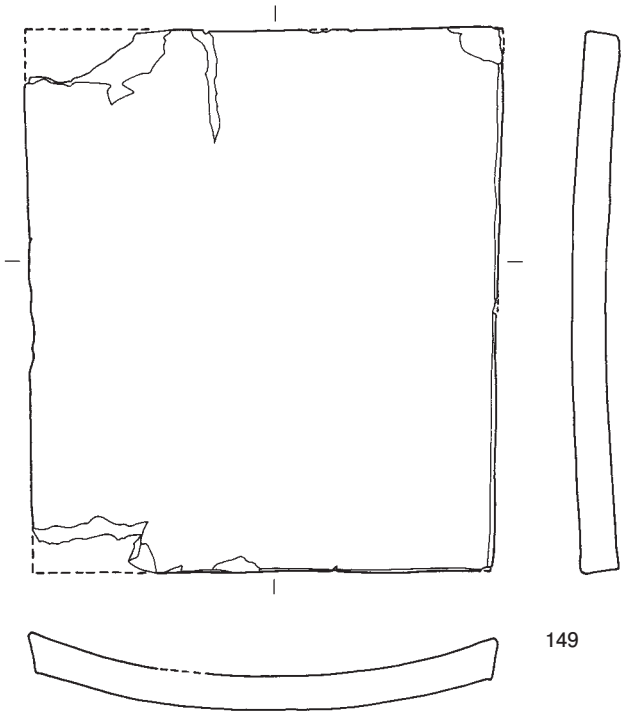




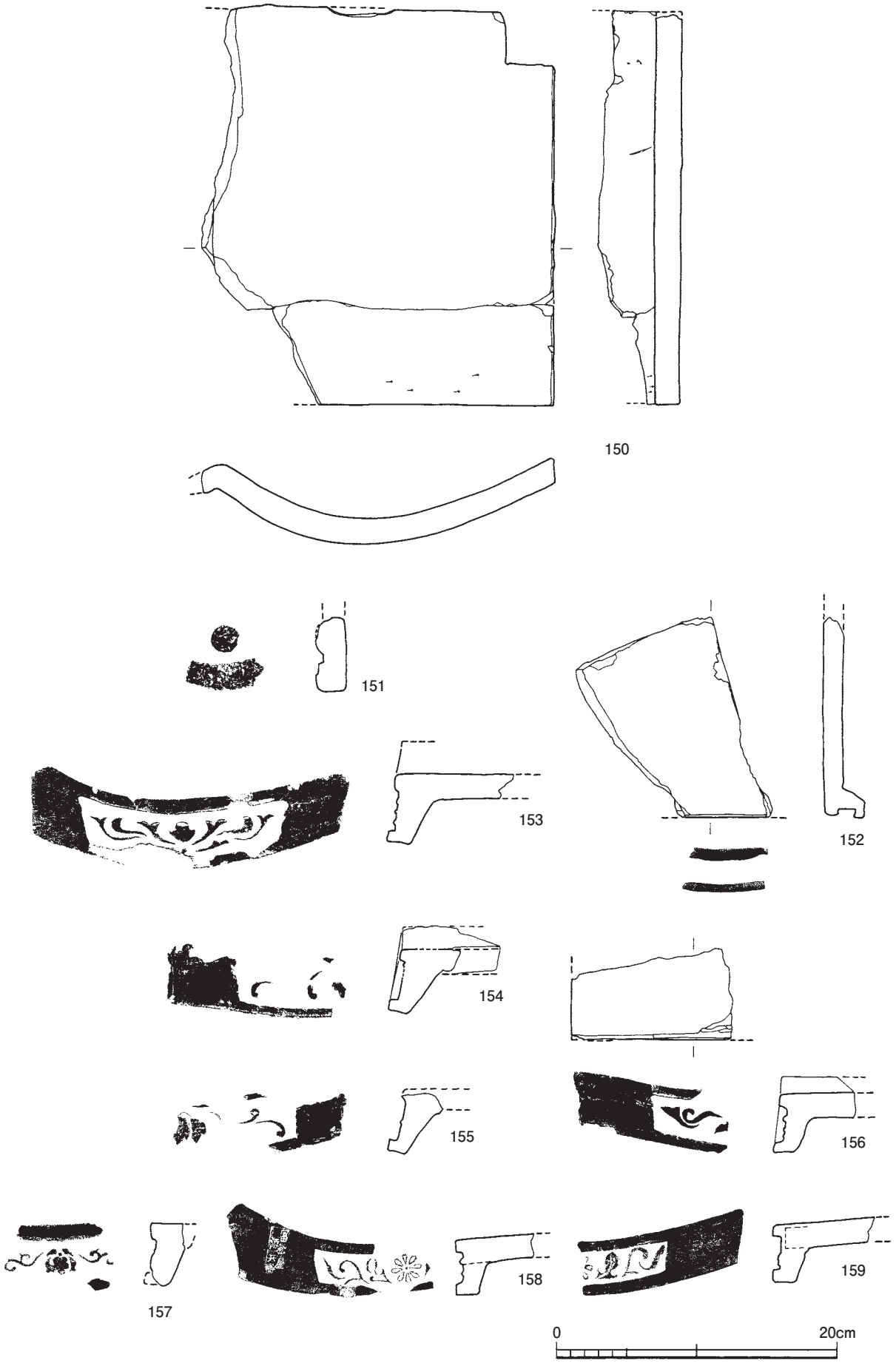
147



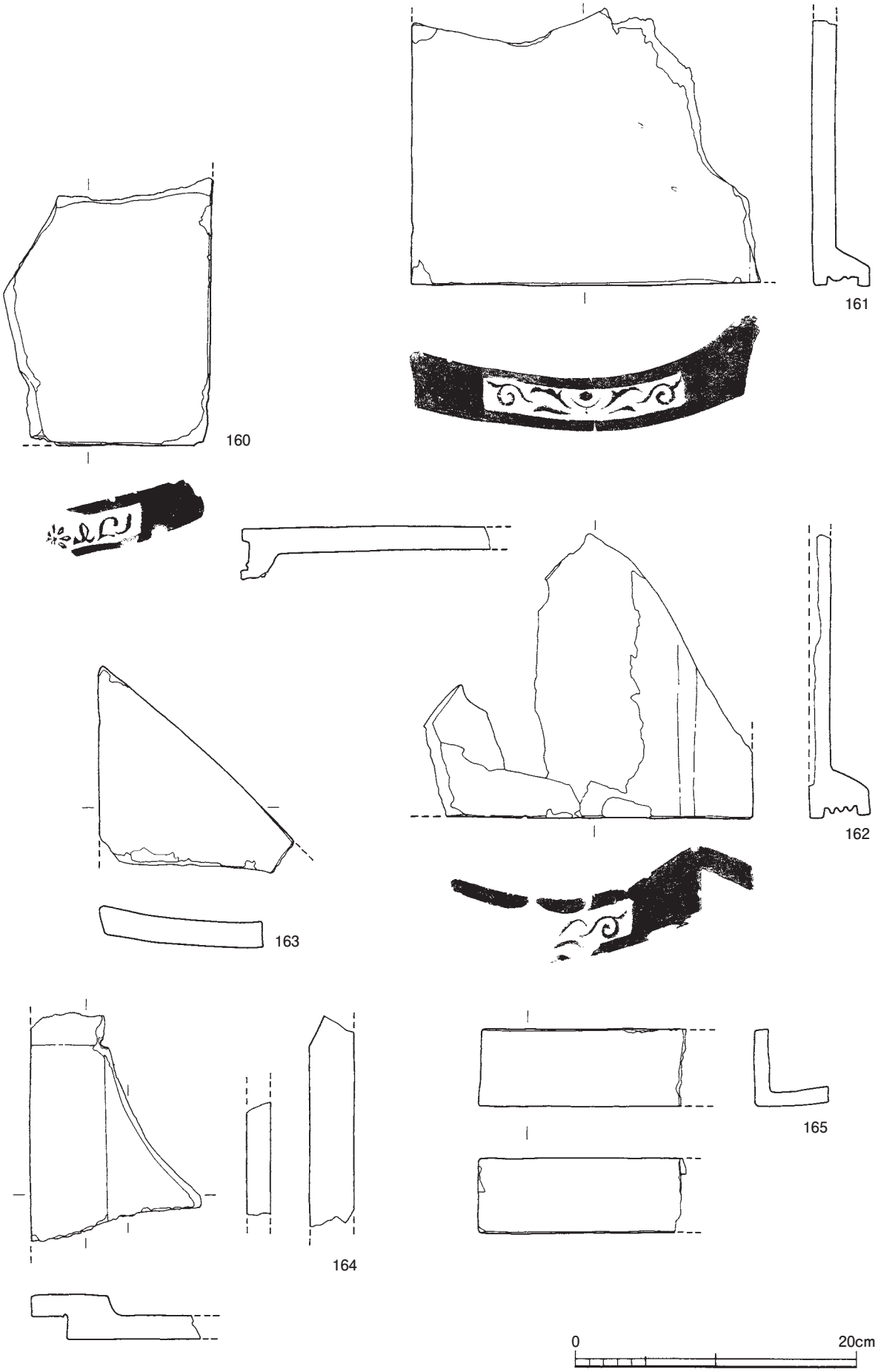
148



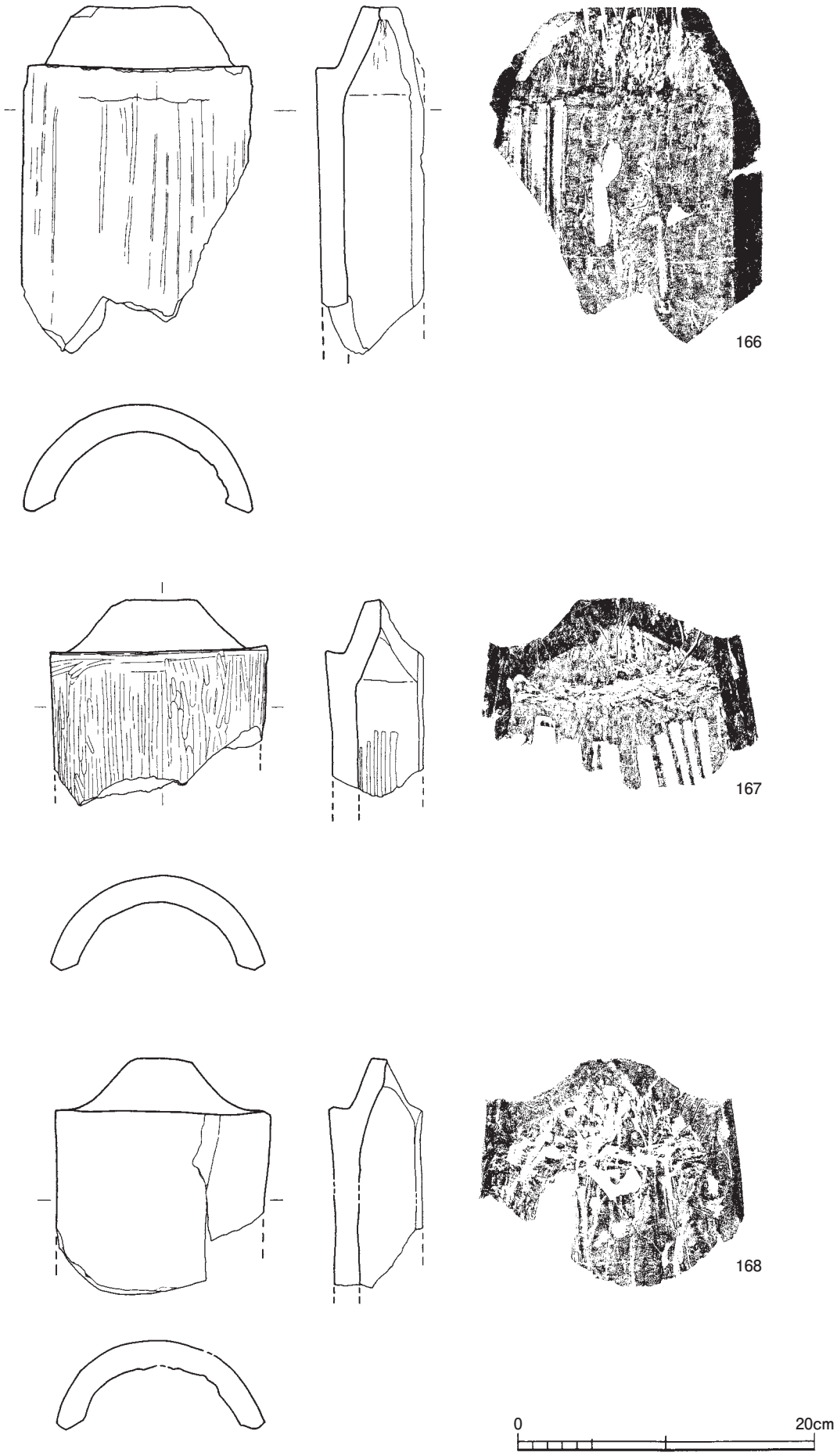
149



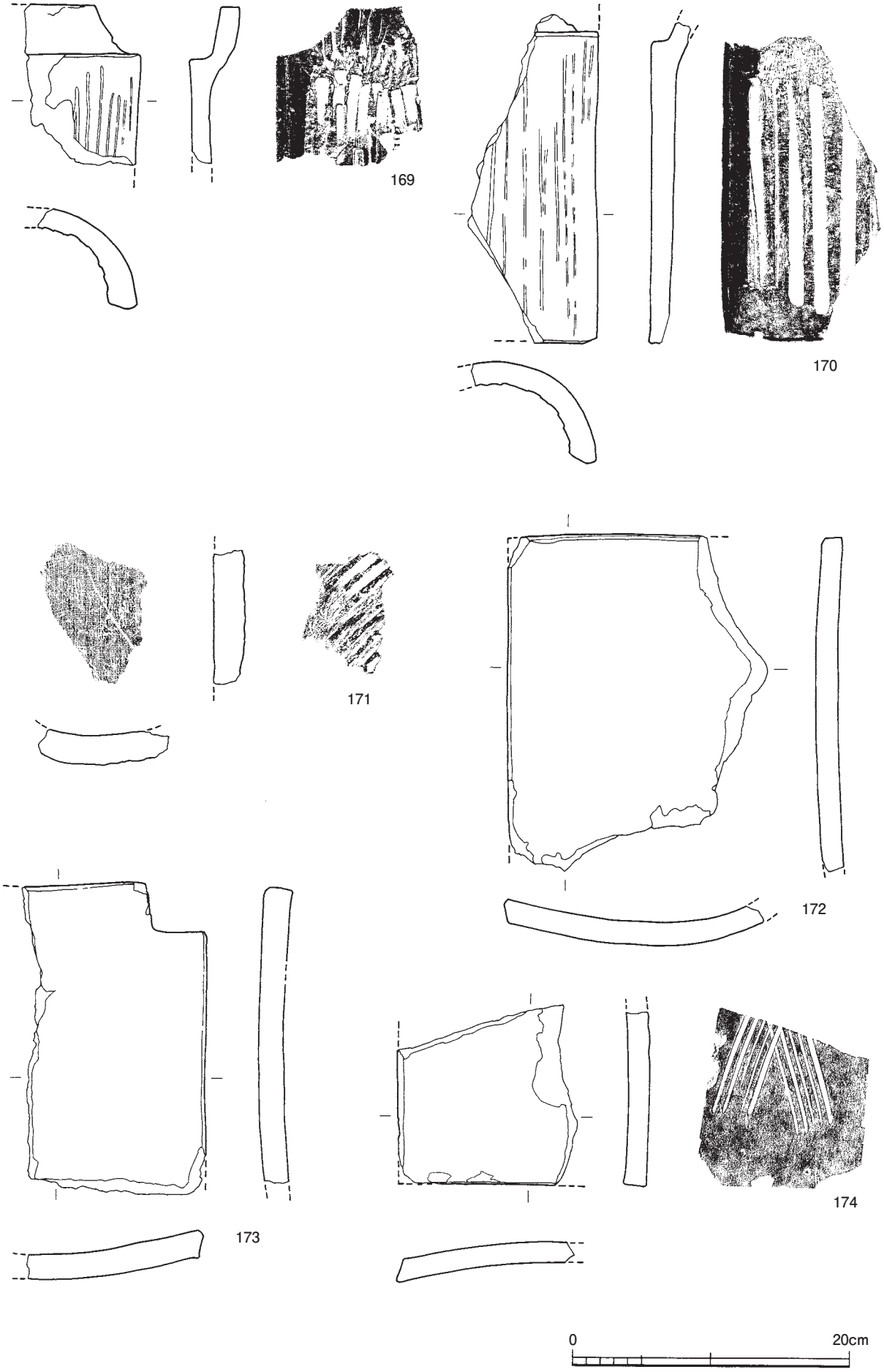
出土土器⑯



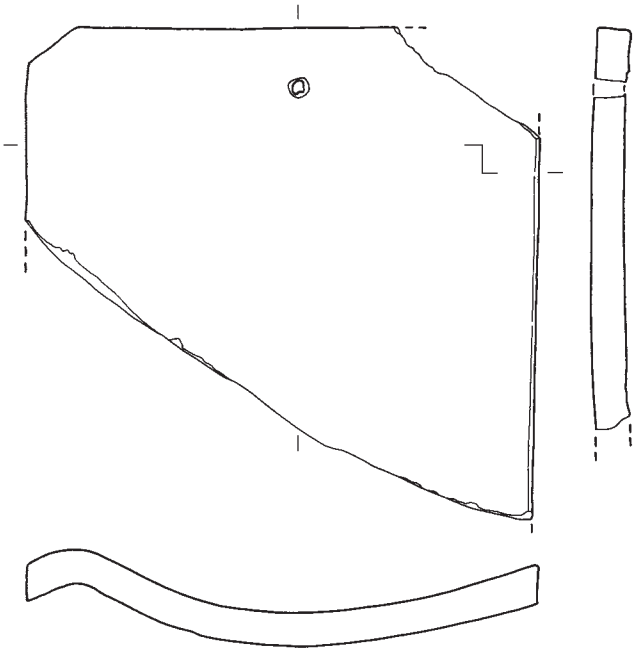
出土土器⑰

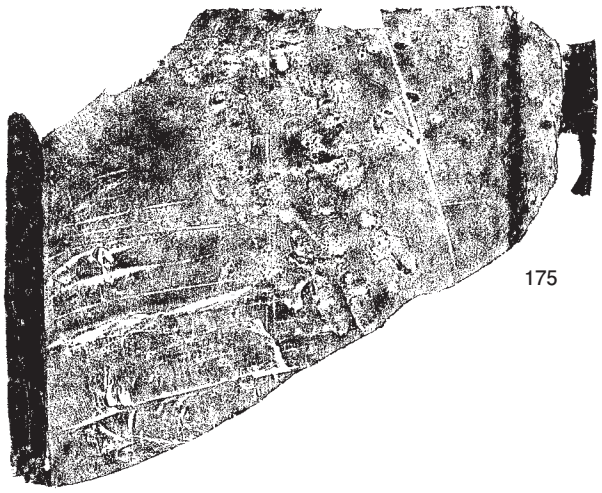


出土土器⑱

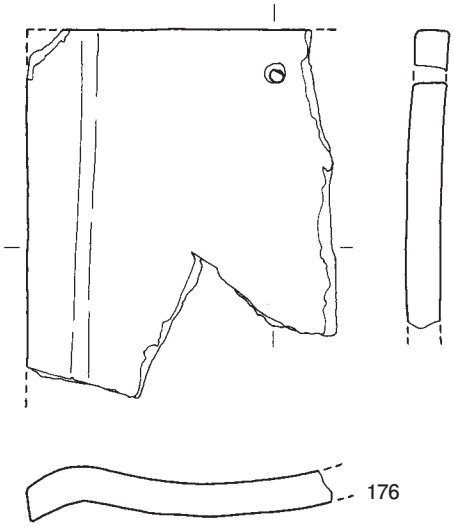


出土土器⑲

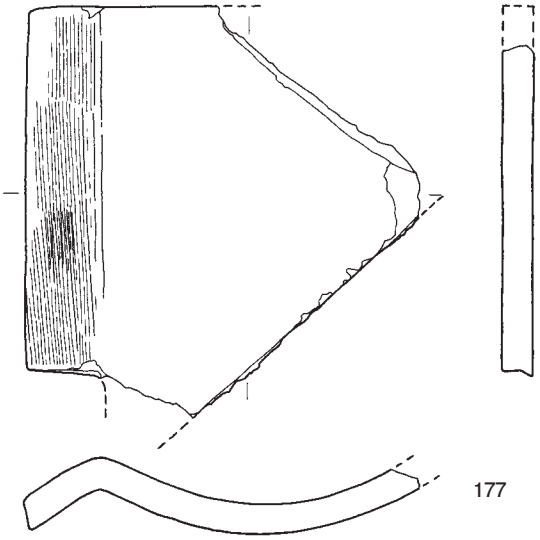




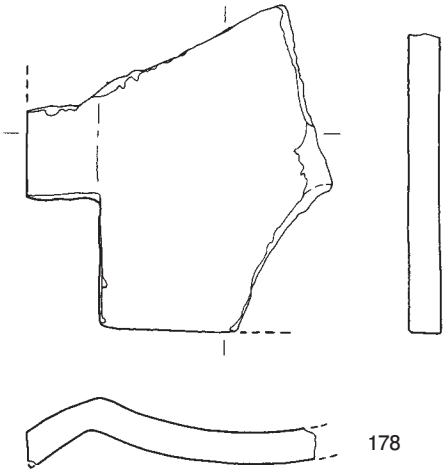
175



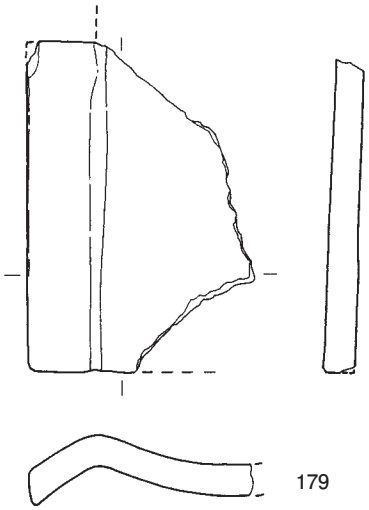
176



177



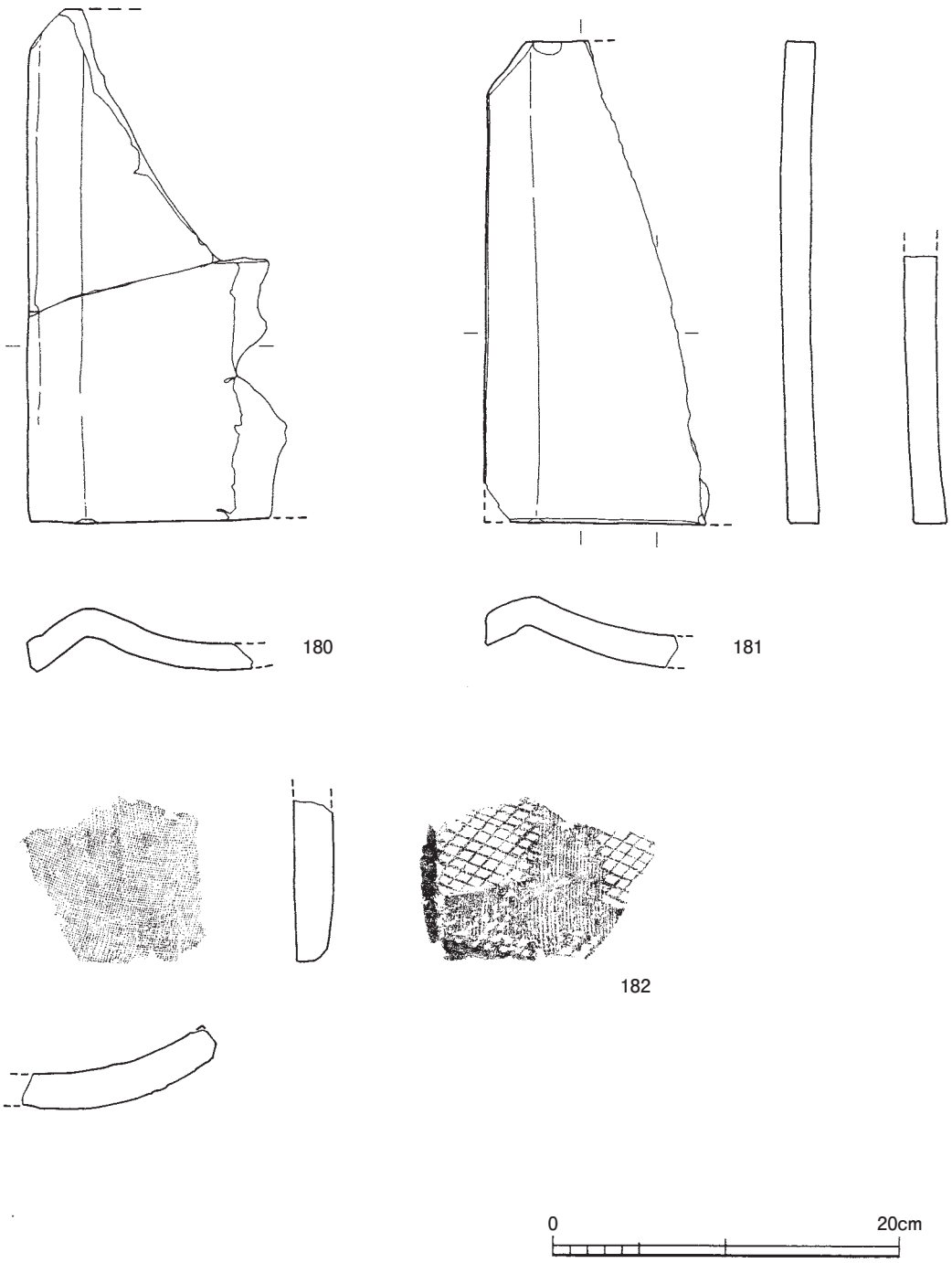
178



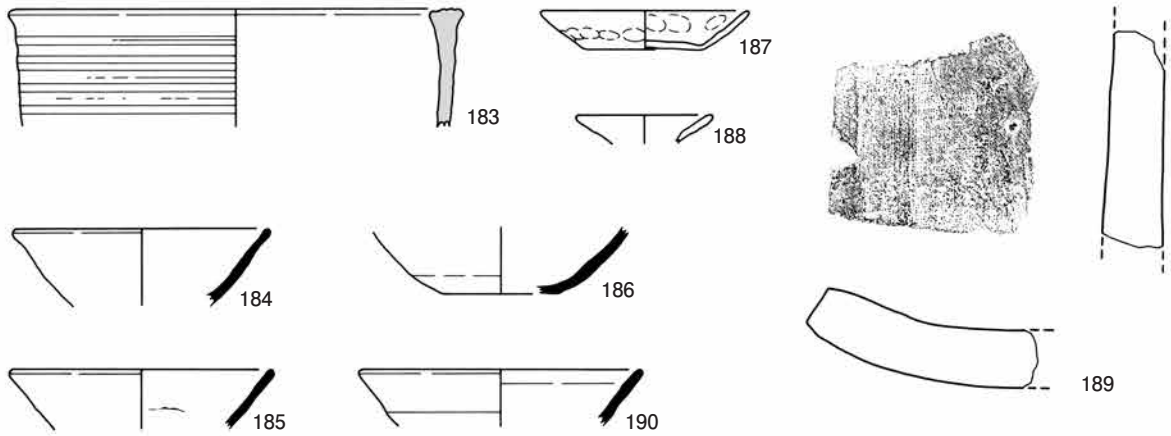
179

0 20cm

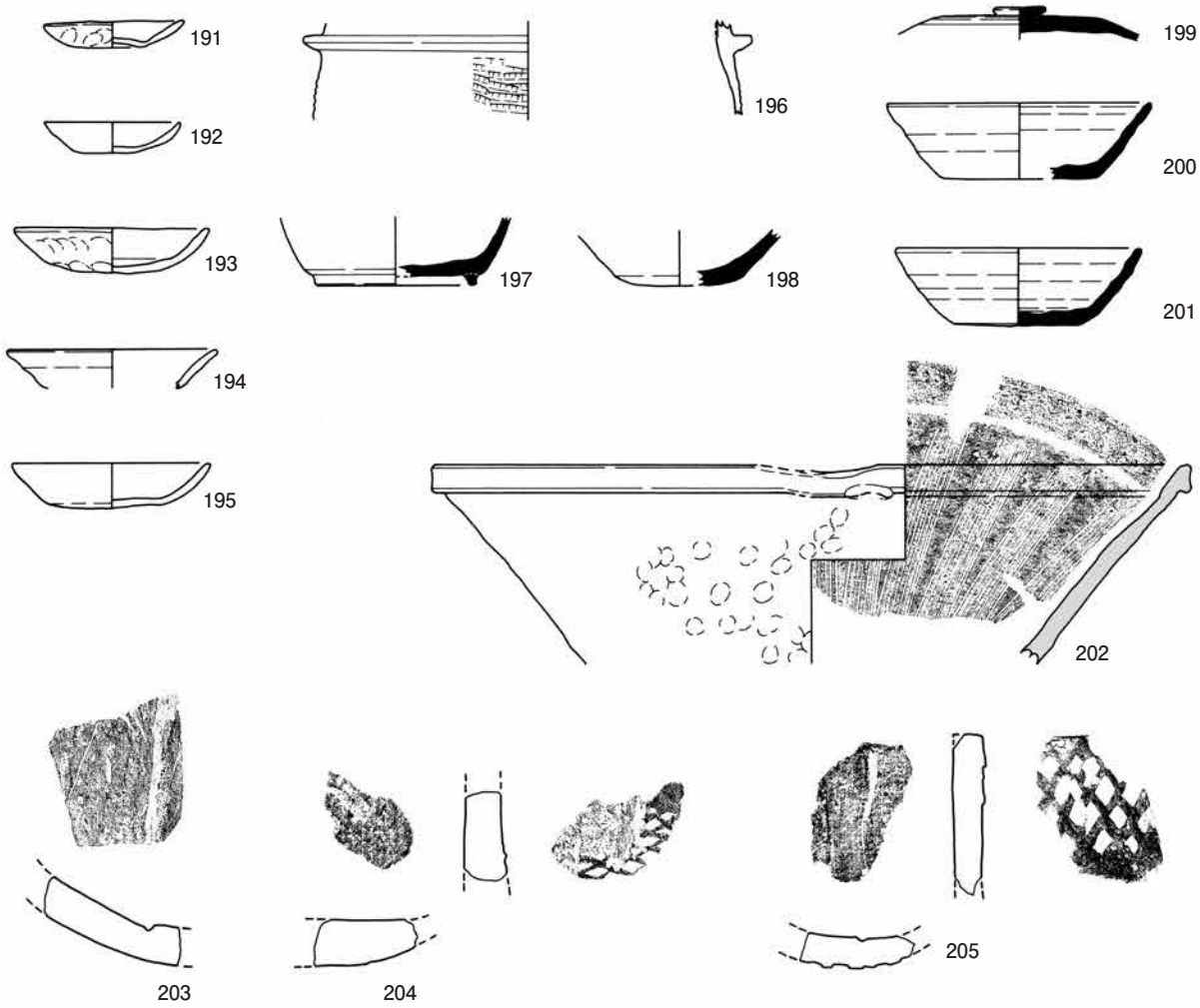
出土土器⑳


180
181
182
0
20cm

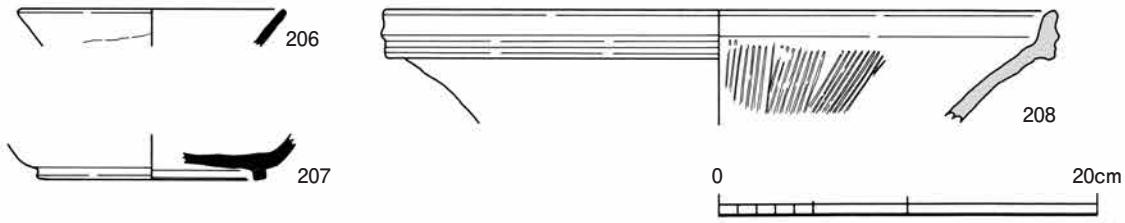
Pit



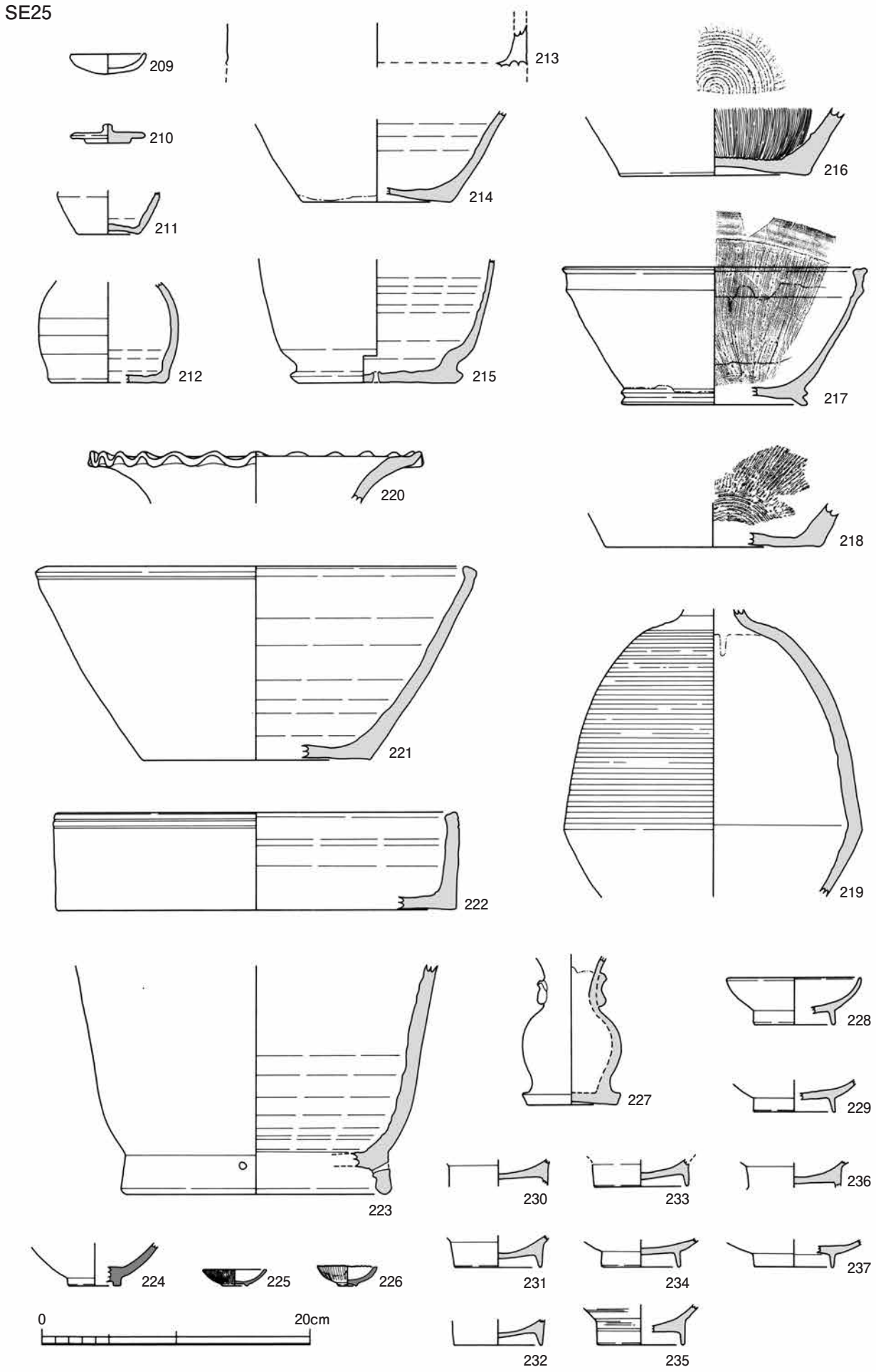
SK21



SD24

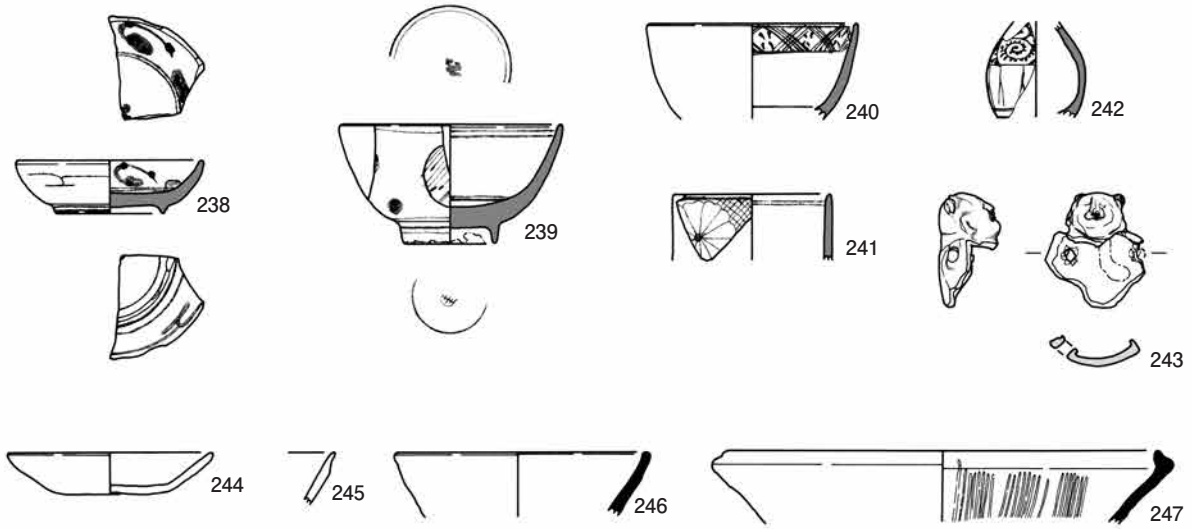


SE25

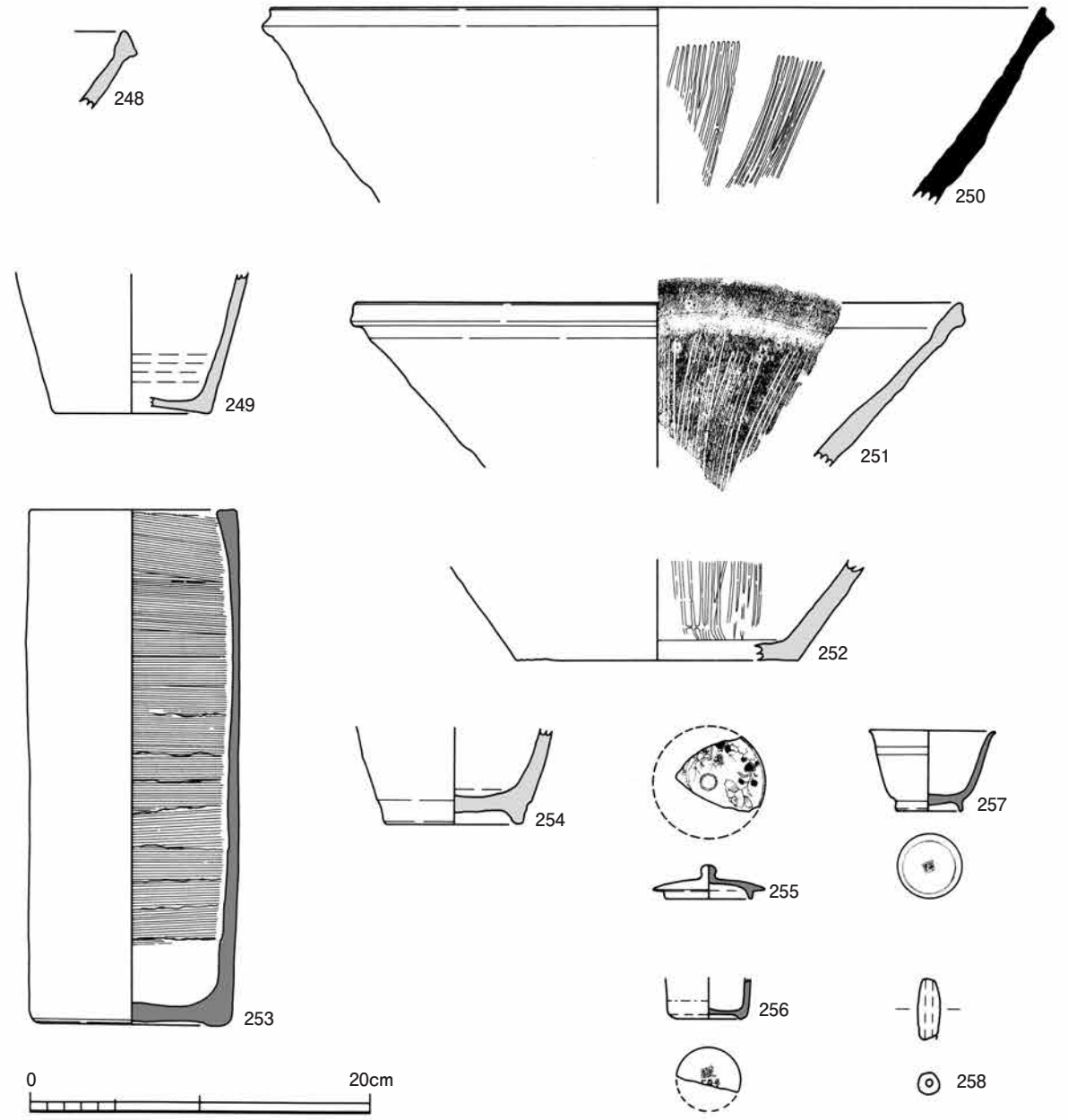

209
210
211
212
213
214
215
216
217
218
219
220
221
222
223
224
225
226
227
228
229
230
231
232
233
234
235
236
237
0
20cm

出土土器㉓

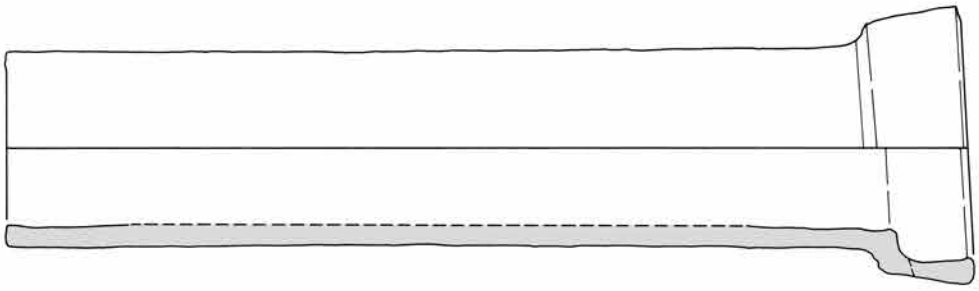
SE25



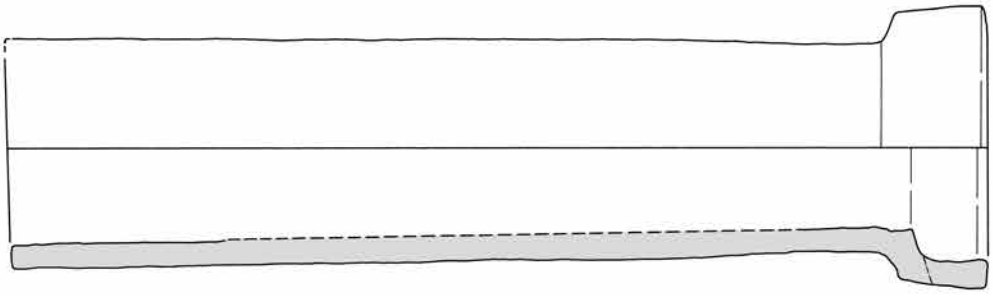
撹乱坑・包含層



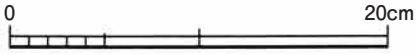
出土土器㉔

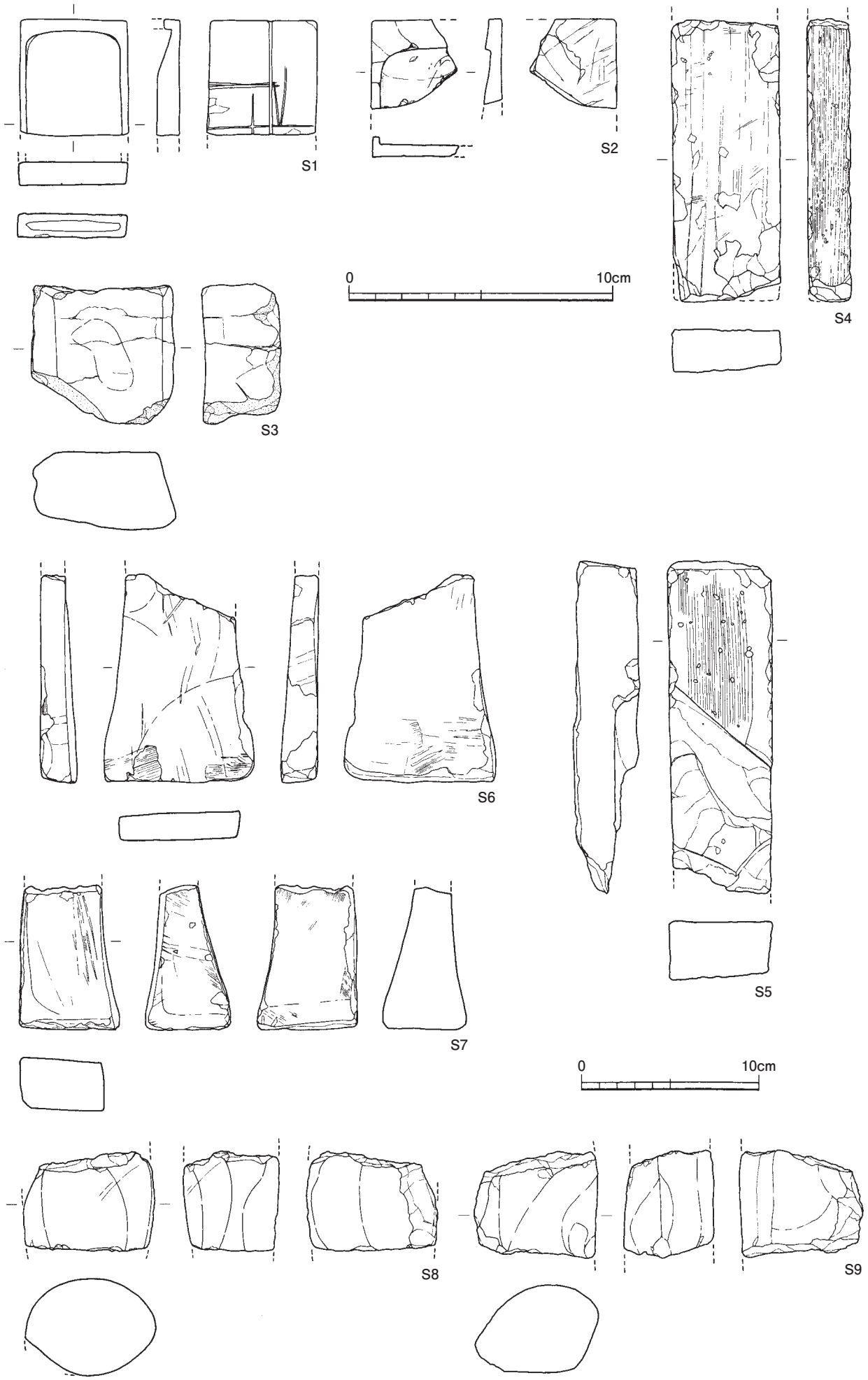


259

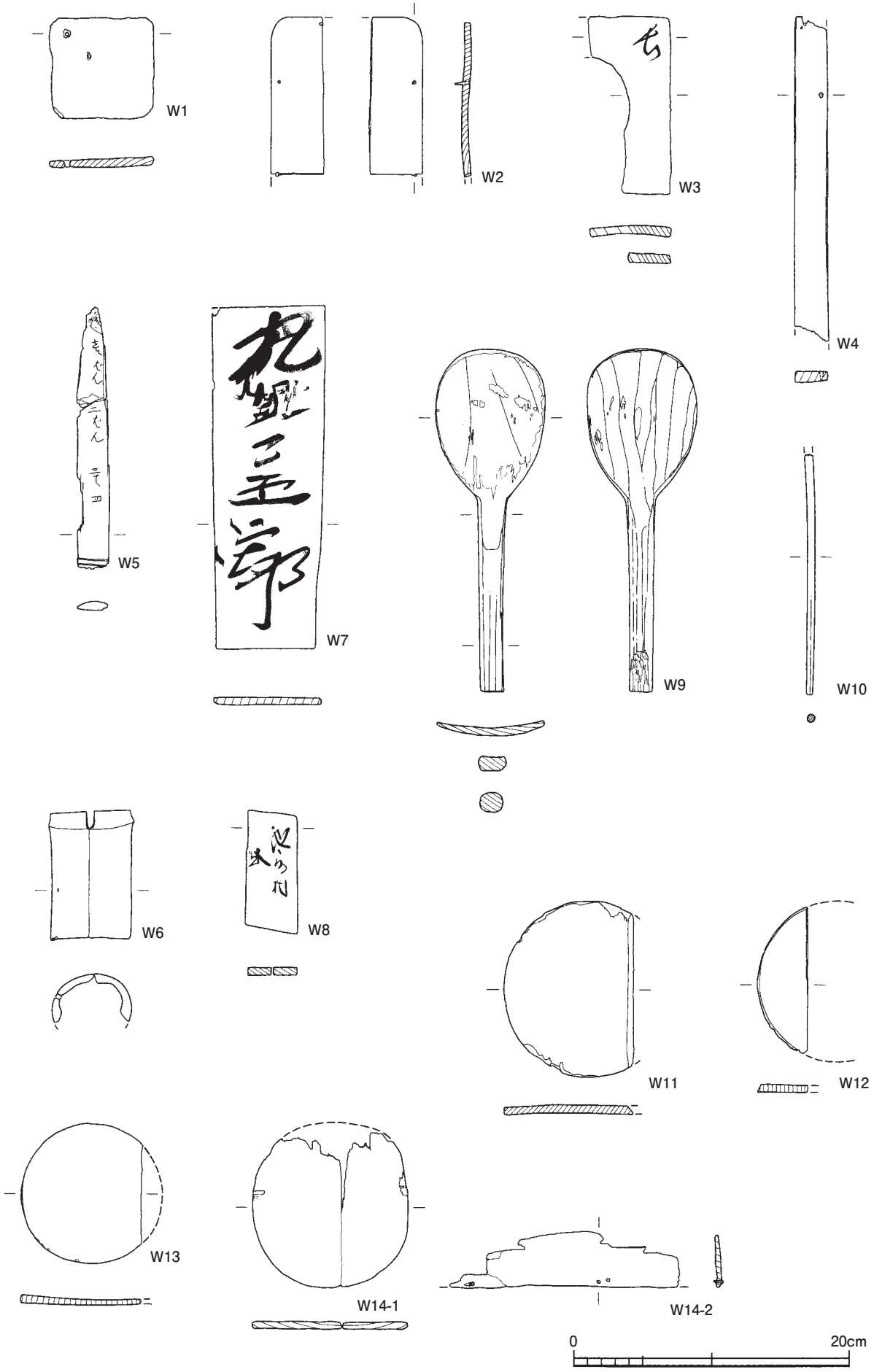


260

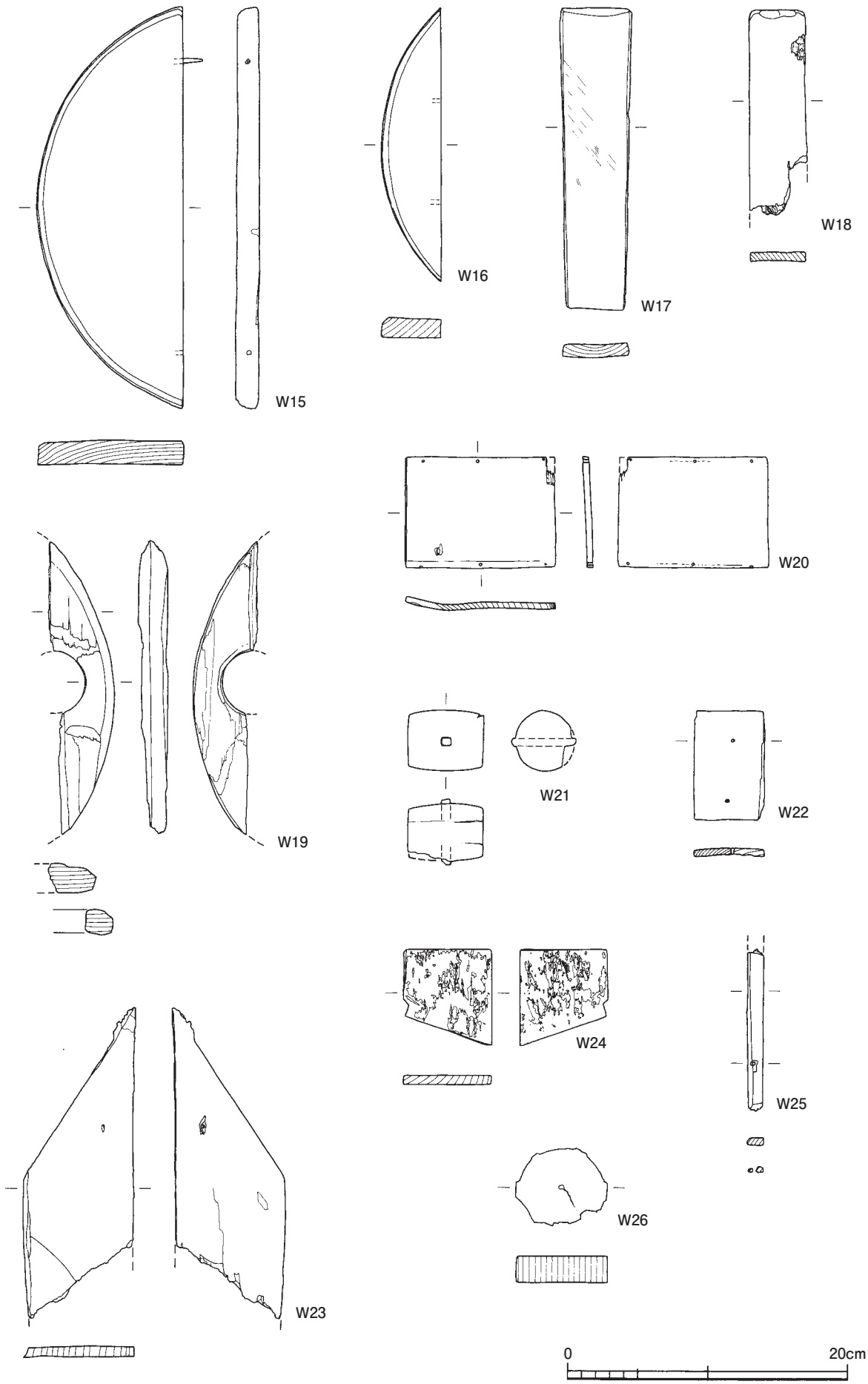




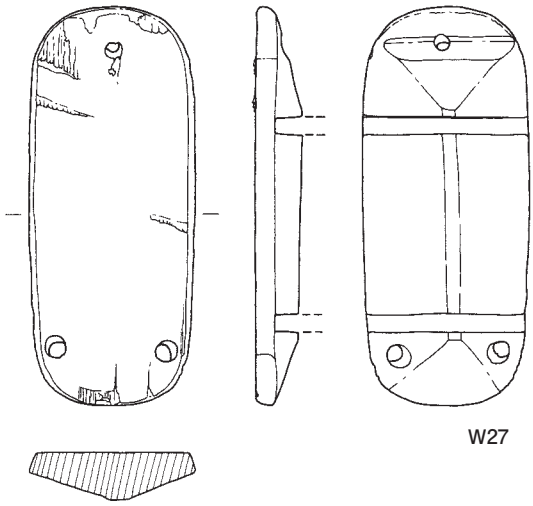
出土石器



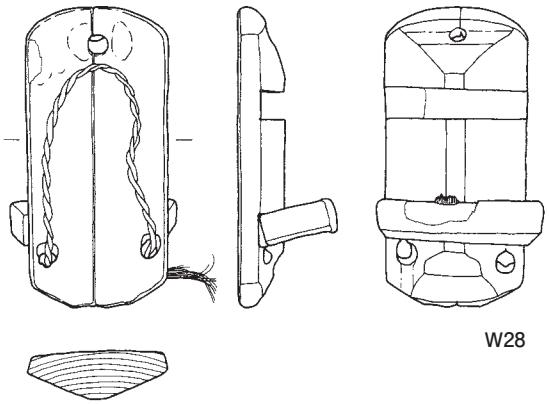
出土木器①



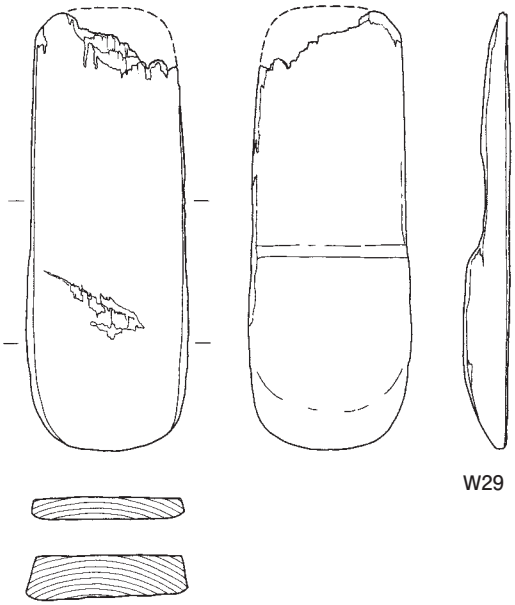
出土木器②



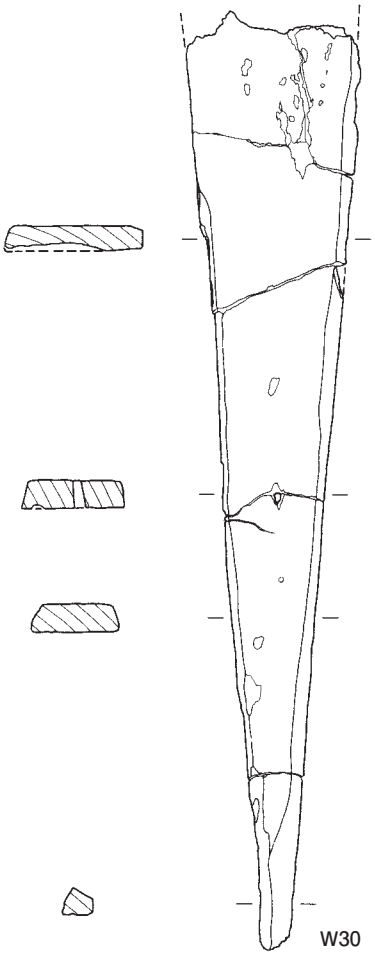
W27



W28

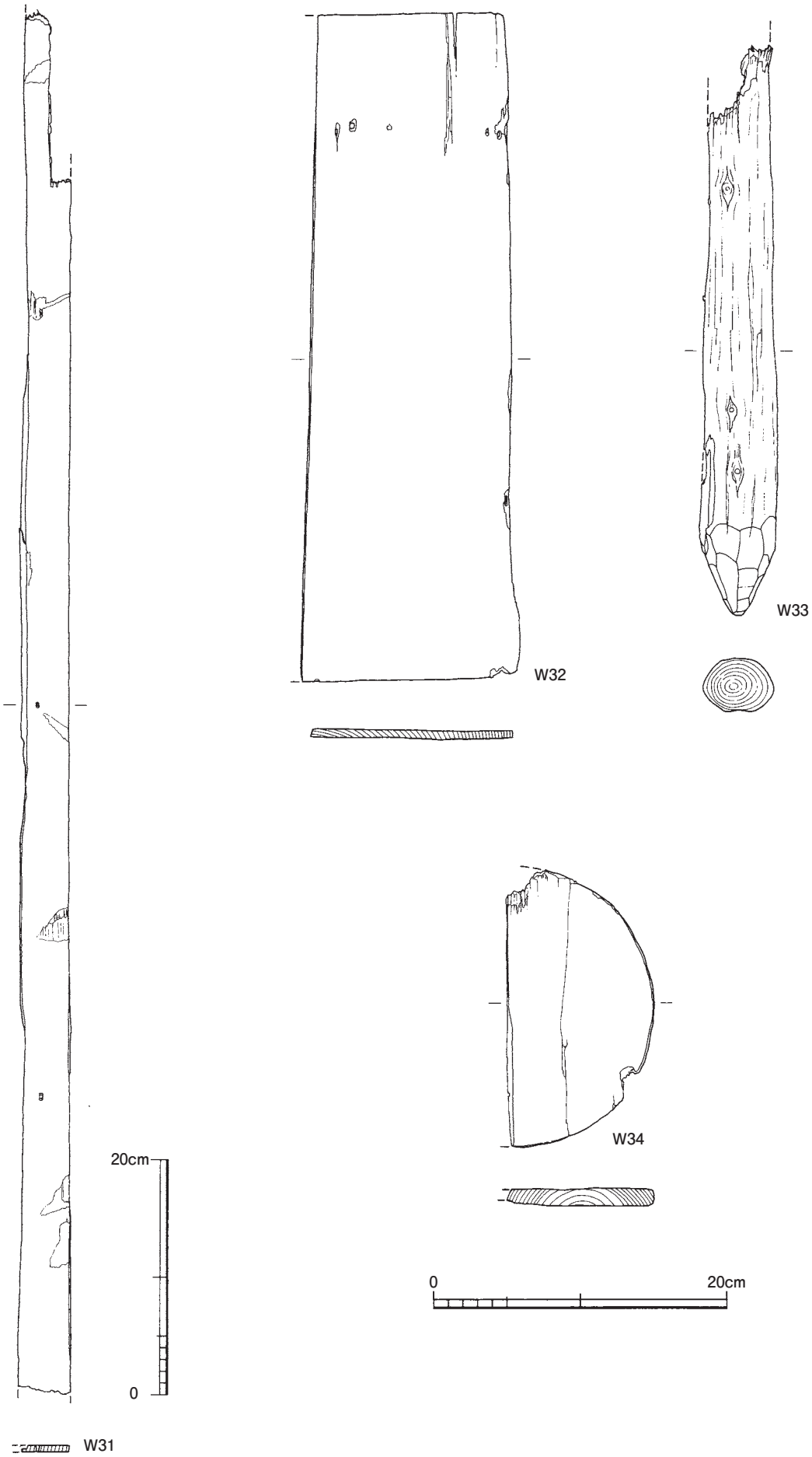


W29

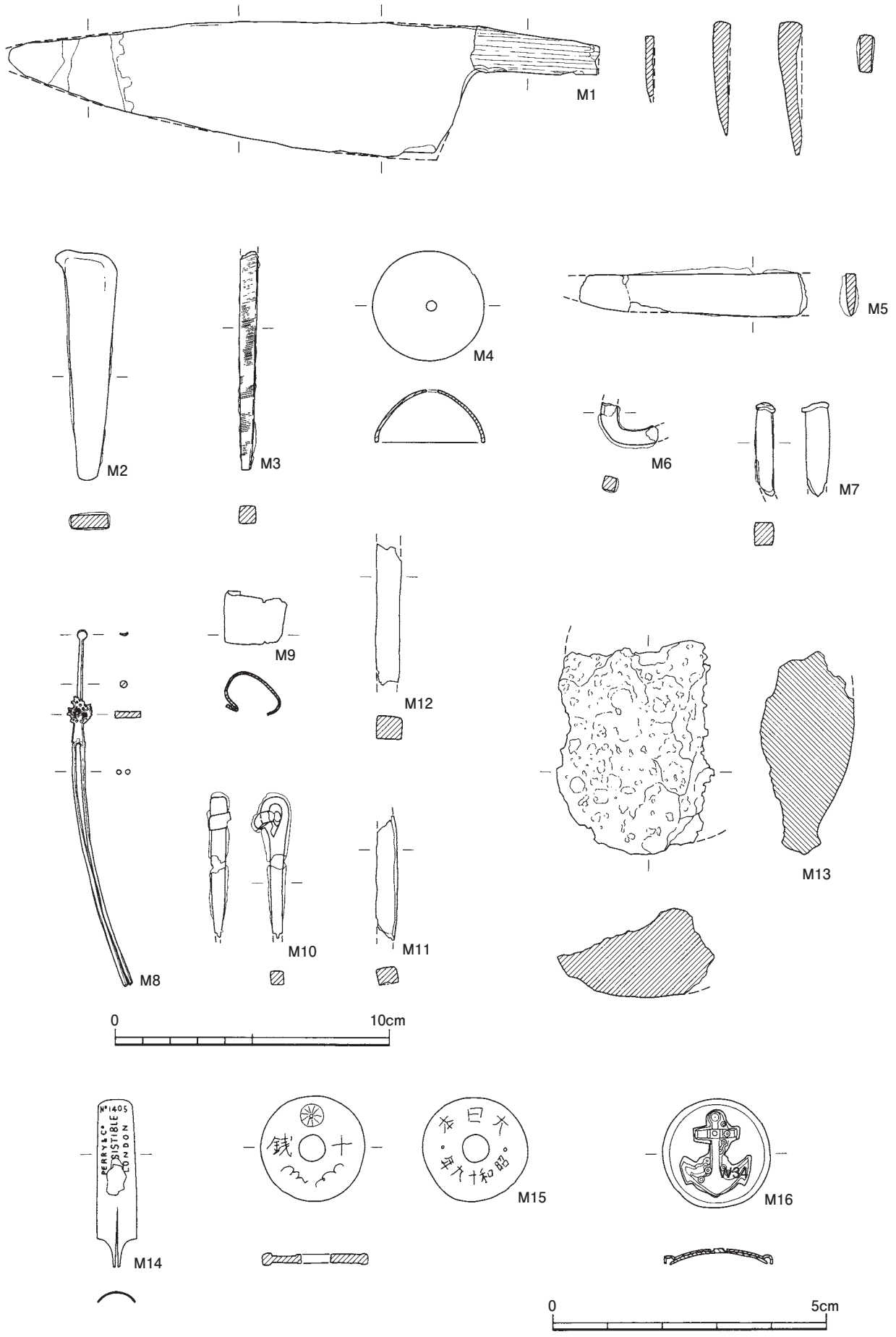


W30

出土木器③



出土木器④

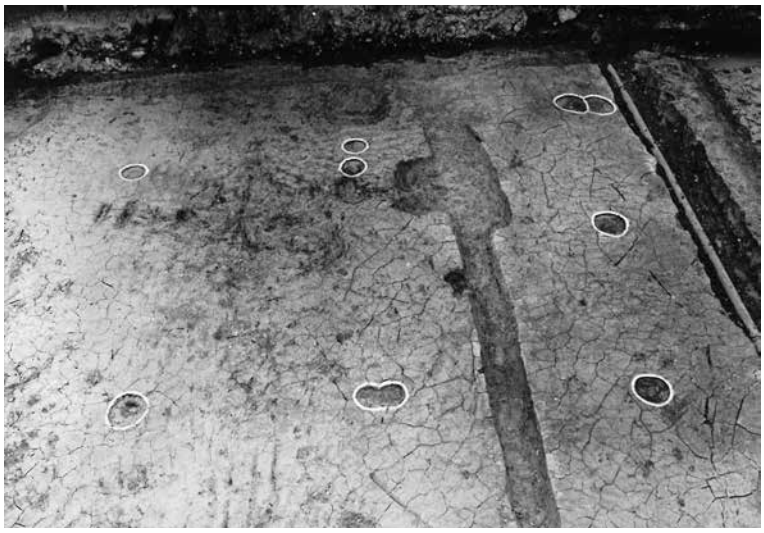


出土金属器

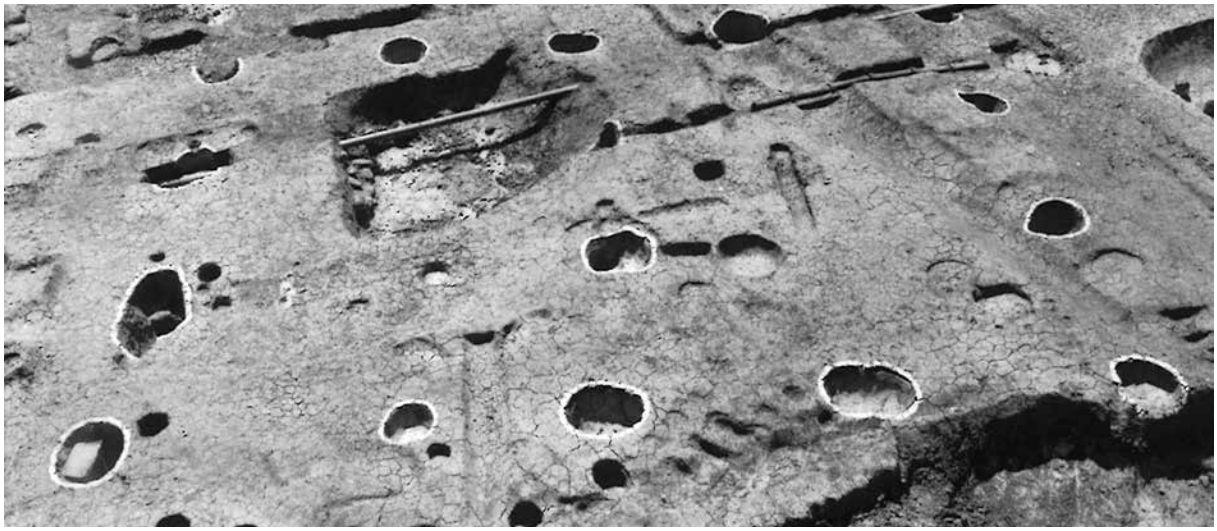
全景（東から）

全景（西から）

SB01（南西から）



SB02（東から）



SB03（北から）

P 17断面（西から）

P 35断面（北から）

P 15断面（北から）

P 32断面（北から）

P 30断面（東から）

P 26断面（西から）

P 19断面（西から）

P 31断面（東から）

P 34断面（西から）

P 27断面（南から）

P 01断面（北から）

P 28断面（南から）

P 29断面（南から）

SK06（P 46）断面（北から）

SB04（東から）

SB05（東から）

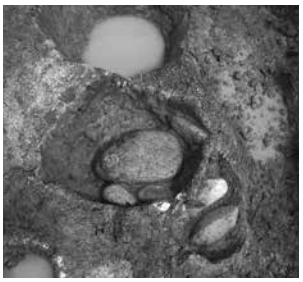
P 36断面（北から）

P 37断面（北から）

P 39断面（西から）

P 23（南から）

P 24（北から）


P 25（西から）

P 40（北から）

上：SK01遺物出土状況（東から）
左：SK01（東から）

SK02断面（西から）

SK04遺物出土状況

SK08断面（西から）

SK11断面（東から）

SK12断面（南から）

SK13断面（西から）

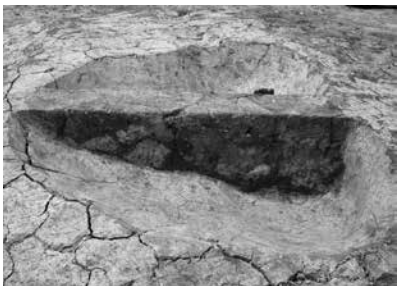
SK16断面（西から）

SK18（南から）

SK19断面（西から）

SK21断面（北から）

SK22断面（北から）

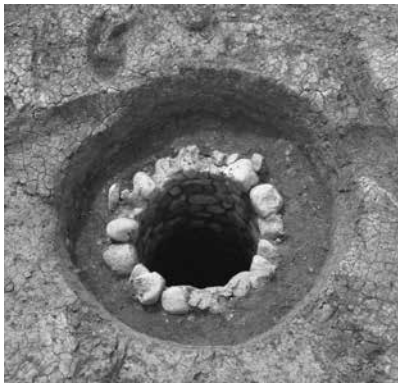

SK23断面（南から）

左：SK24（東から）
左上：SK26（南から）
右上：SK28（東から）

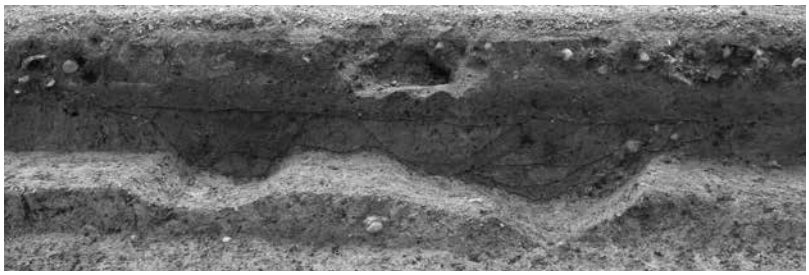
SK34・40（南から）

SK29断面（南から）

SK30断面（南から）



左上：SE01（東から）
中上：SX02（北から）
右上：SD01断面f-f’（南から）
左：埋甕（東から）



左上：SD01断面a-a’（北から）
右上：SD02・14断面（北から）
左下：SD02断面c-c’（南から）

SD03（西から）

SD03断面（西から）

右上：SD03（南西から）
左上：SD03遺物出土状況①
左：SD03遺物出土状況②・③

SD05断面f-f'（南から）

SD06断面f-f'（南から）

SD10断面（東から）

調査区南壁（北西から）

調査区西壁（東から）

現地説明会①

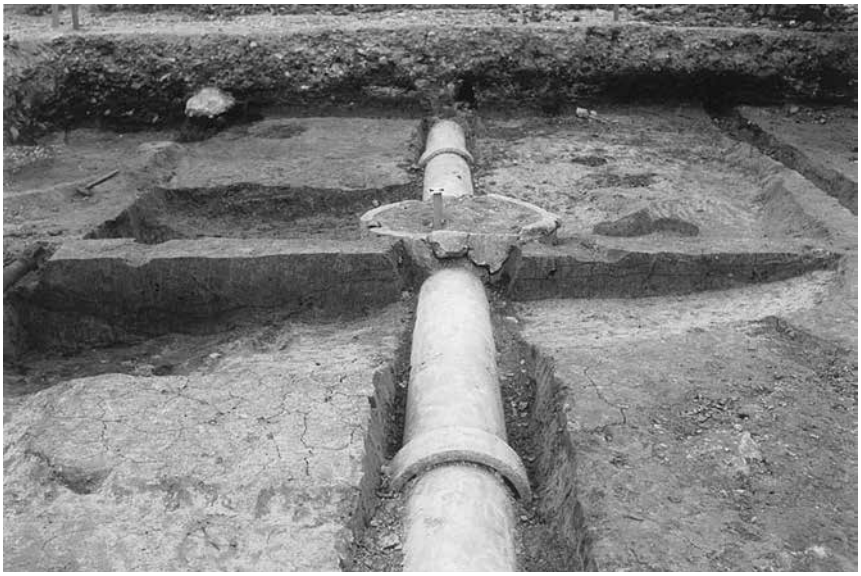
現地説明会②

Ｂ地区調査区全景（空中写真）

調査区全景（南から）

調査区全景（北から）

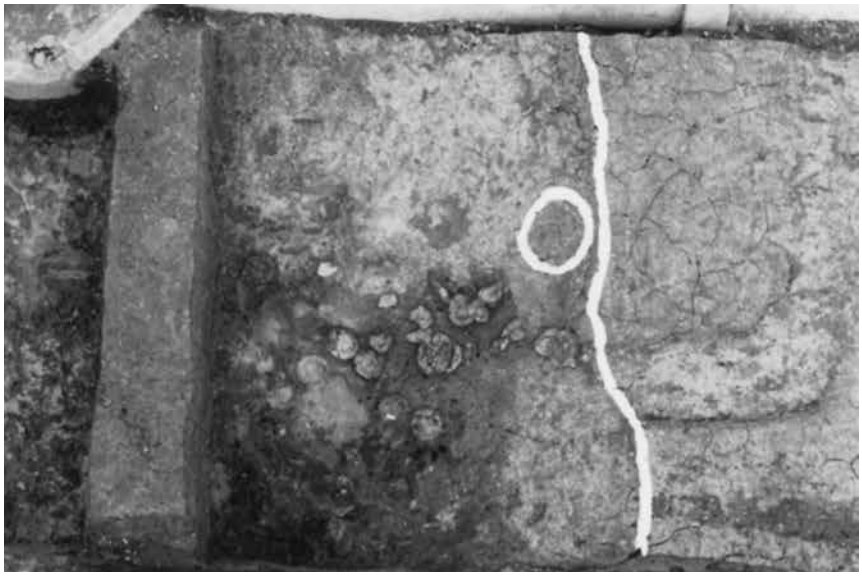
調査区全景（南東から）



池状遺構（SK21）
全景（西から）

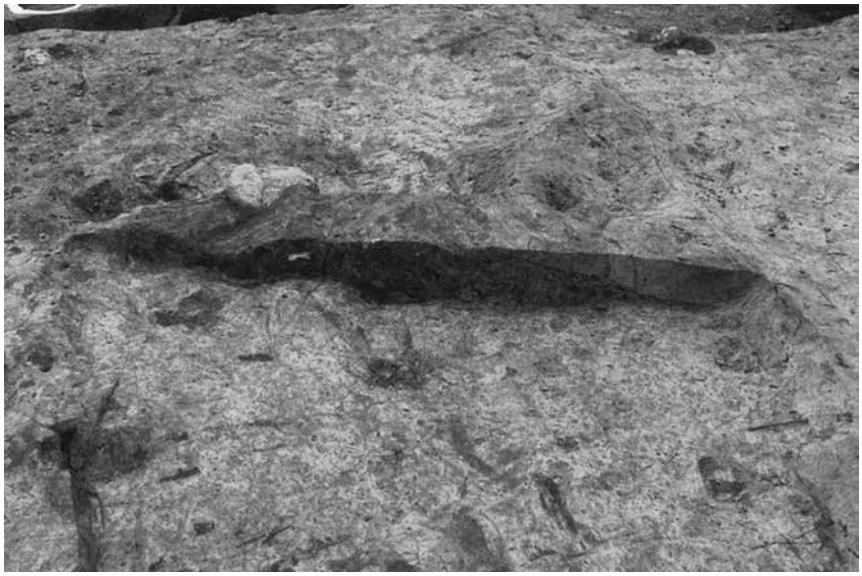
池状遺構（SK21）
断面（西から）

池状遺構（SK21）
遺物出土状況（北から）



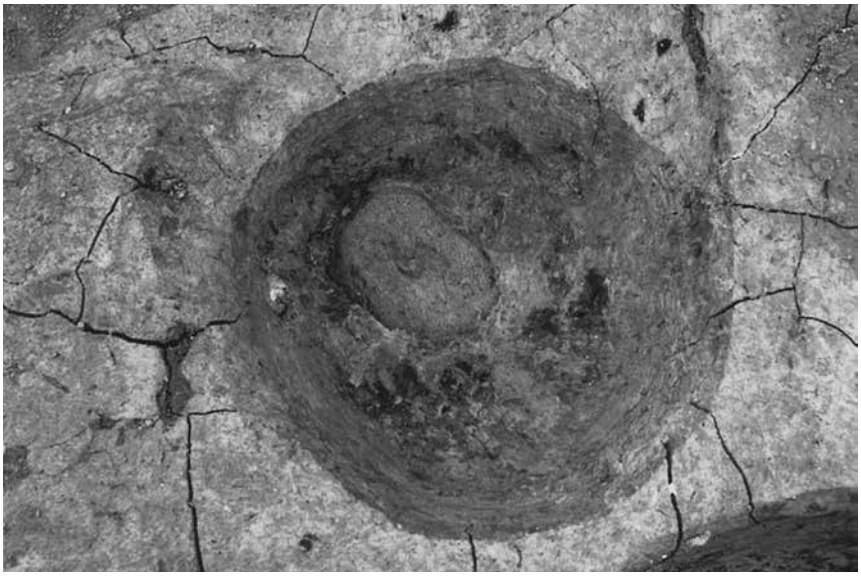
池状遺構（SK21）
遺物出土状況（垂直）

不明遺構（SX09）
断面（南から）



不明遺構（SX09）
礫除去後（南から）

柱穴３断面（南から）



柱穴５
根石検出状況（南から）

柱穴26
遺物出土状況（南から）

柱穴34
根石検出状況（南から）

柱穴38
土器出土状況（南から）

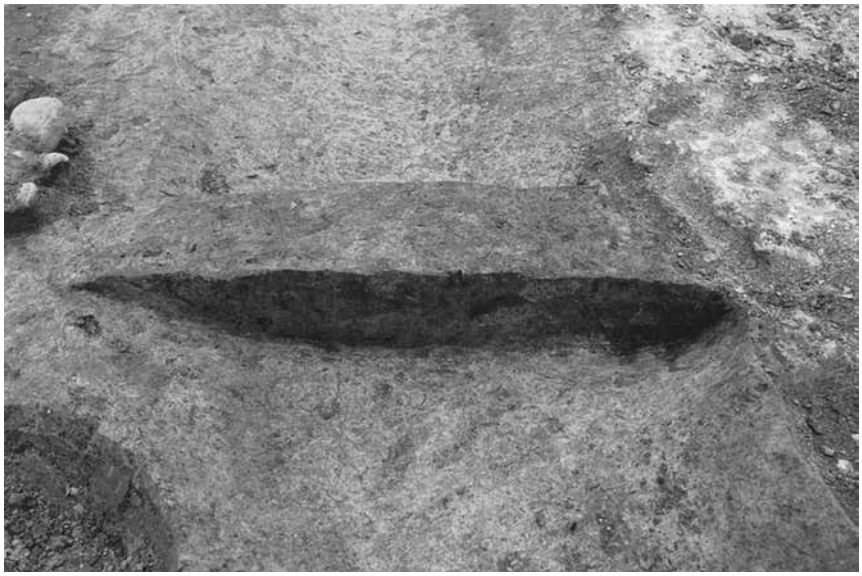
柱穴２断面（南から）

溝１断面（南から）

溝４断面（南から）

溝17断面（南から）

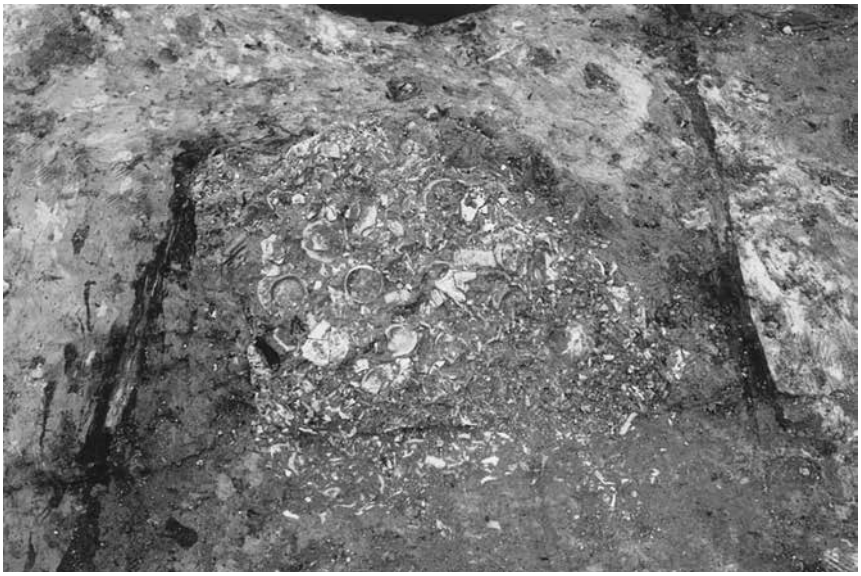
溝22（左）・23（右）
断面（南東から）



溝24断面（東から）

土坑18断面（北東から）

井戸25断面（南東から）



井戸25検出状況
（南東から）

井戸25断ち割り断面
（南東から）

調査前の状況（北から）

機械掘削状況

人力掘削状況

2

10

11

13

14

22

16

18

28

17

33

出土土器①

31

37

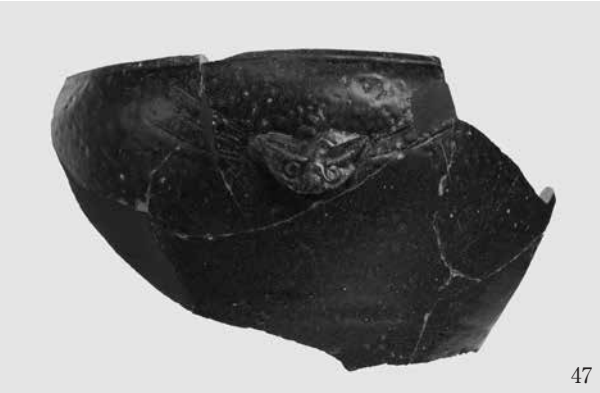
38

45

41

53

54


47

49

出土土器②

59

69

61

77

55

78

63

64

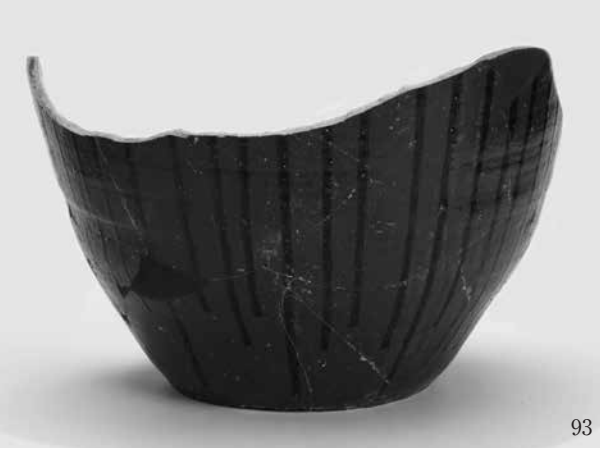
出土土器③

81

82

84

86


93

95

96

97

出土土器④

99

98

121

123

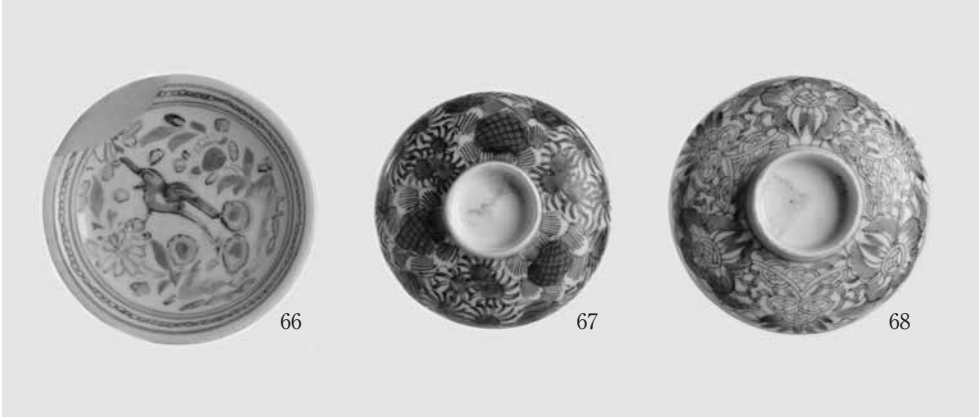
108

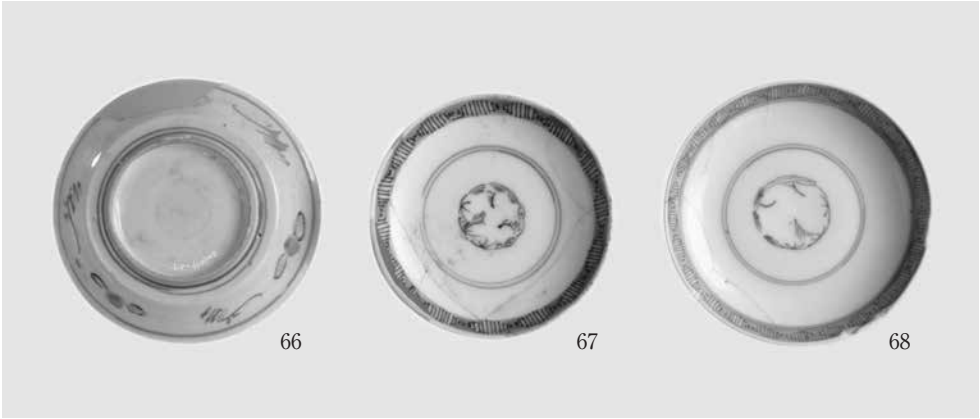
270

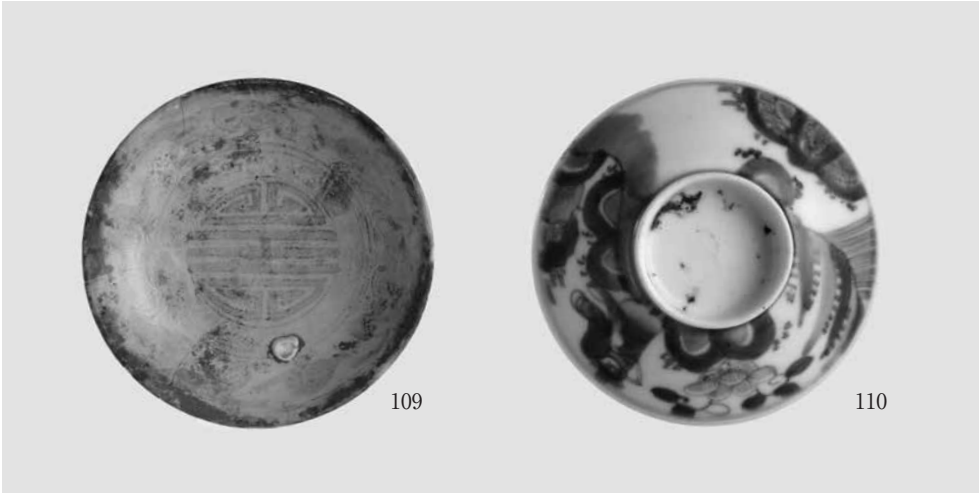
22

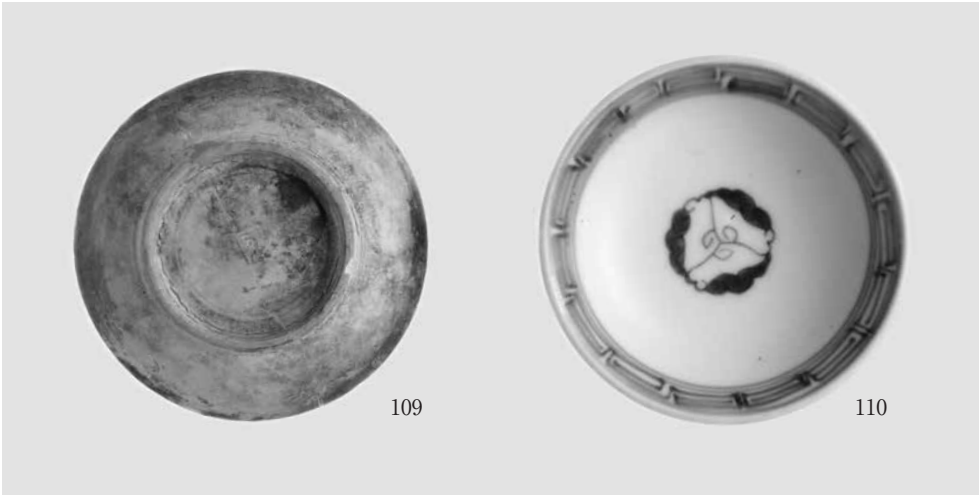
35

出土土器⑤

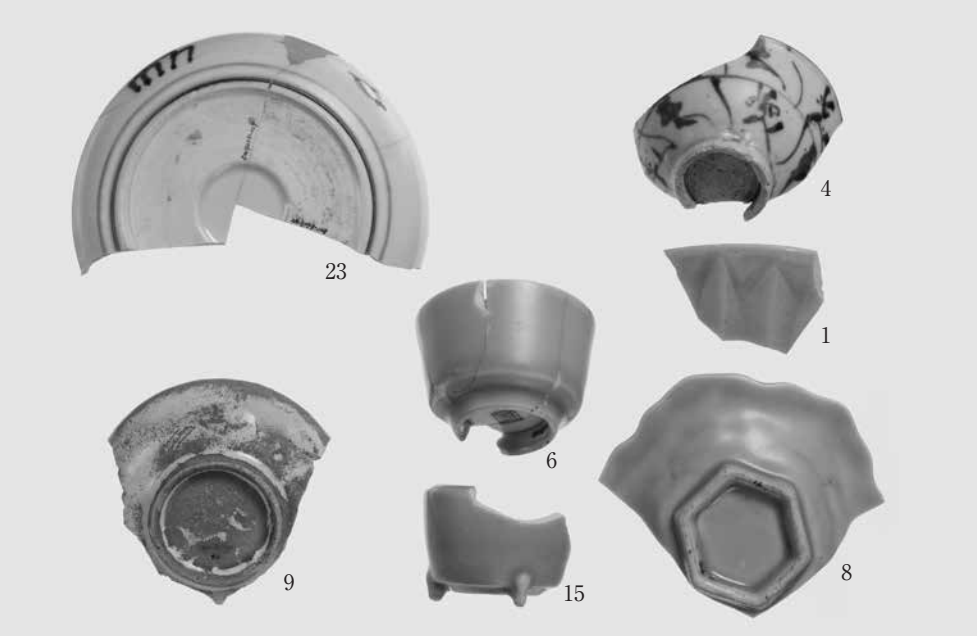


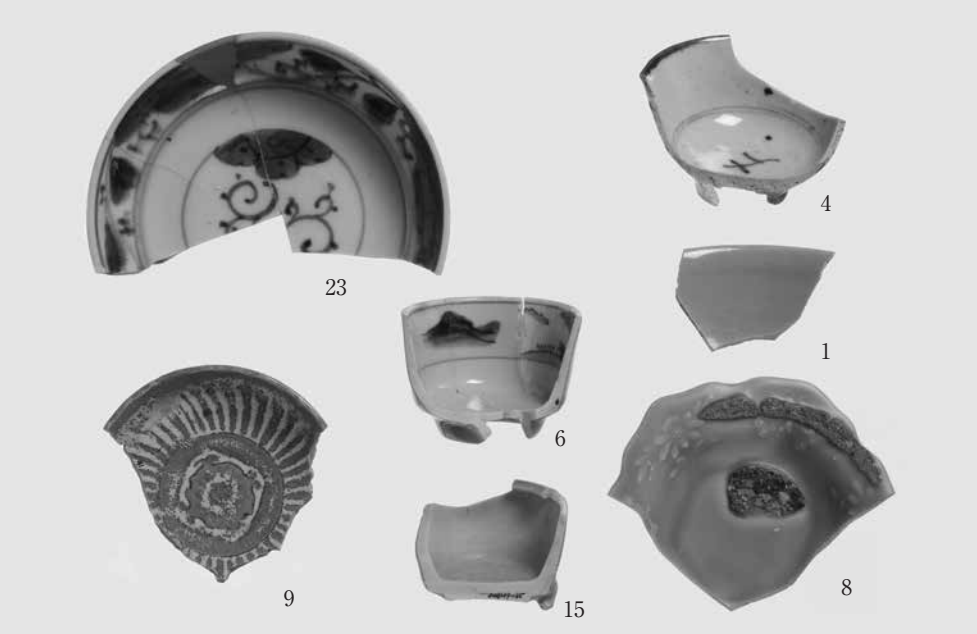


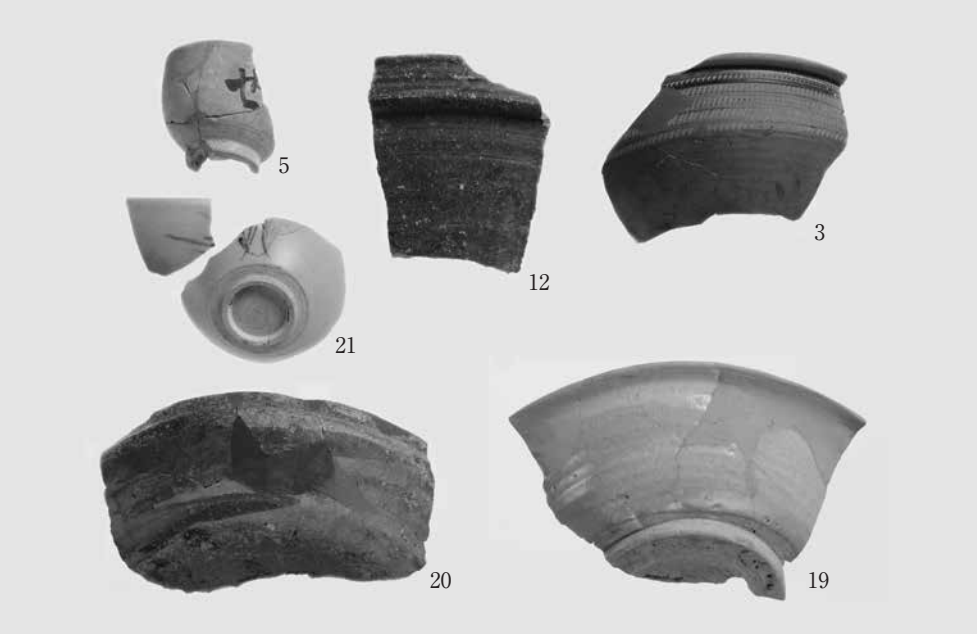




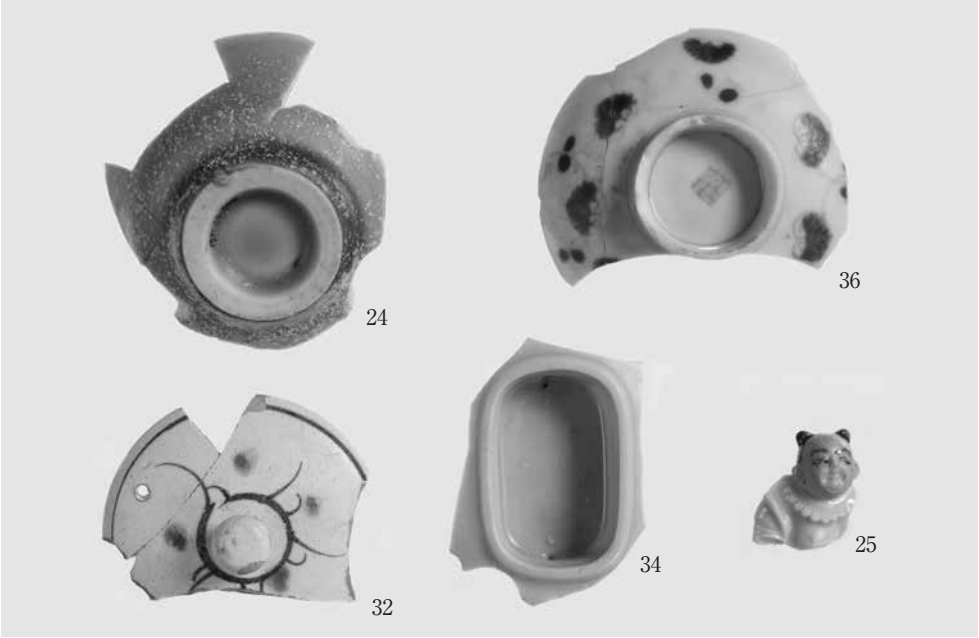
出土土器⑥

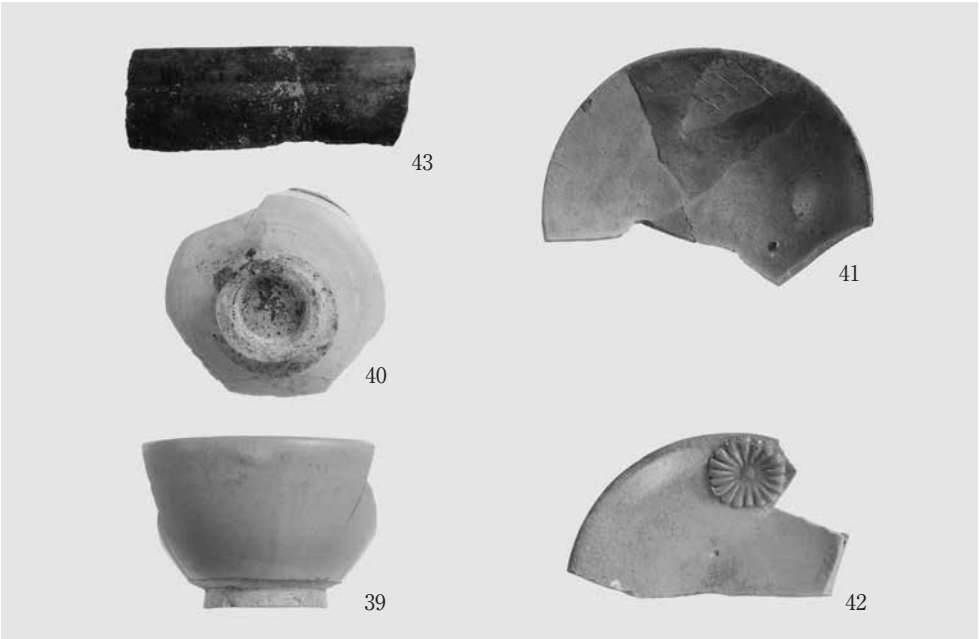




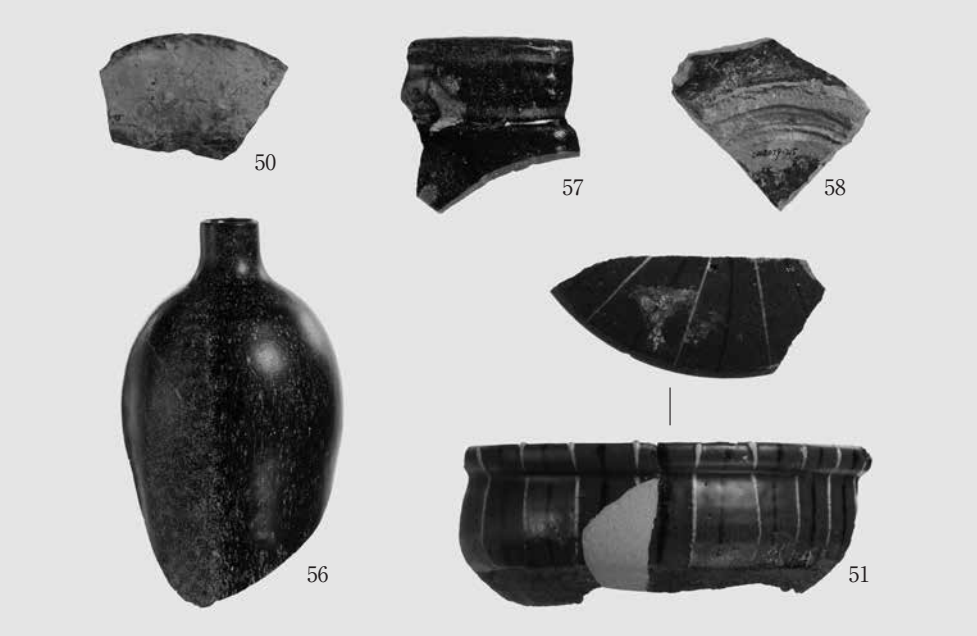


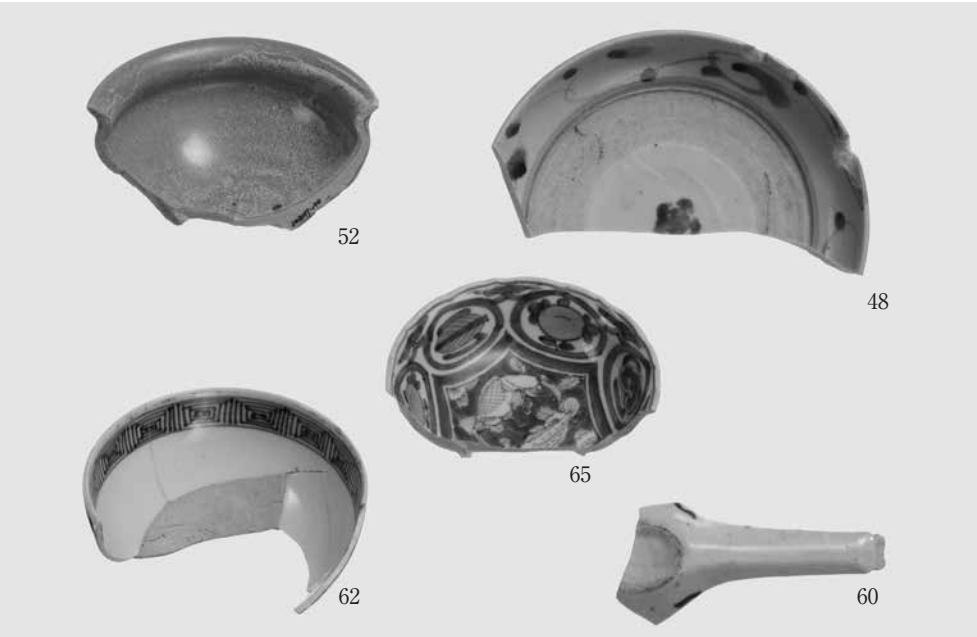
出土土器⑦



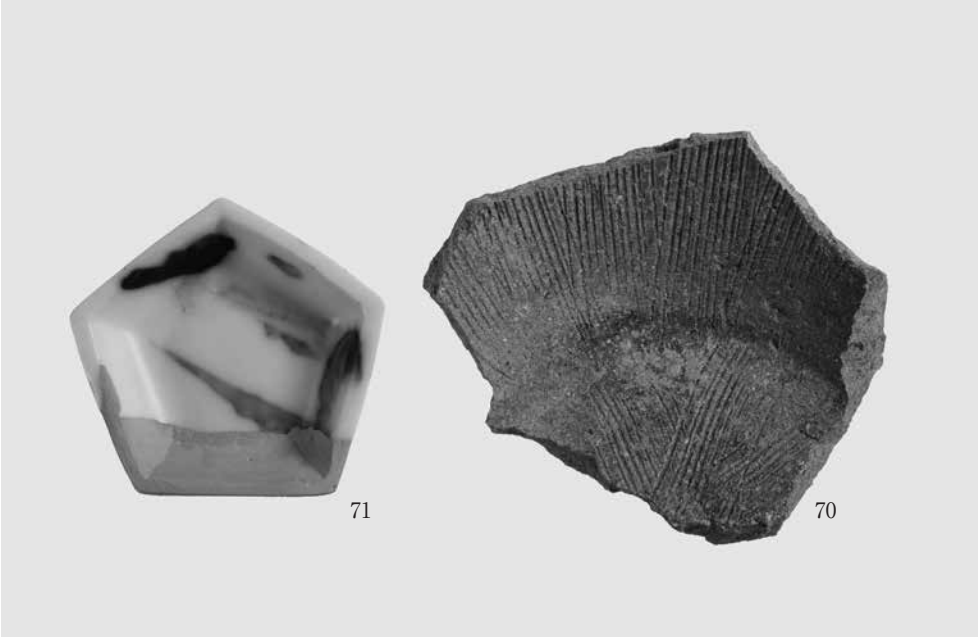


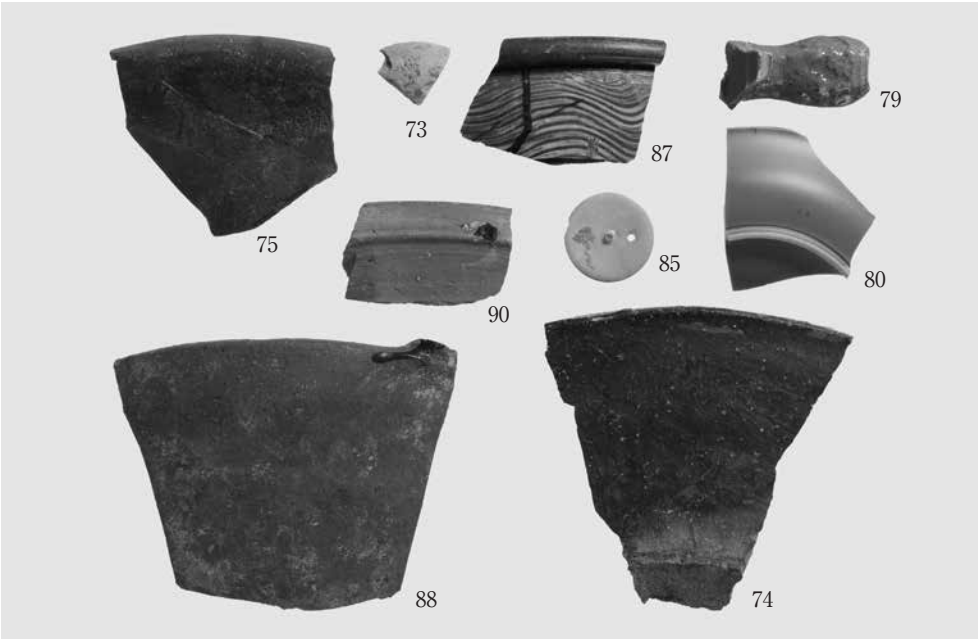
出土土器⑧



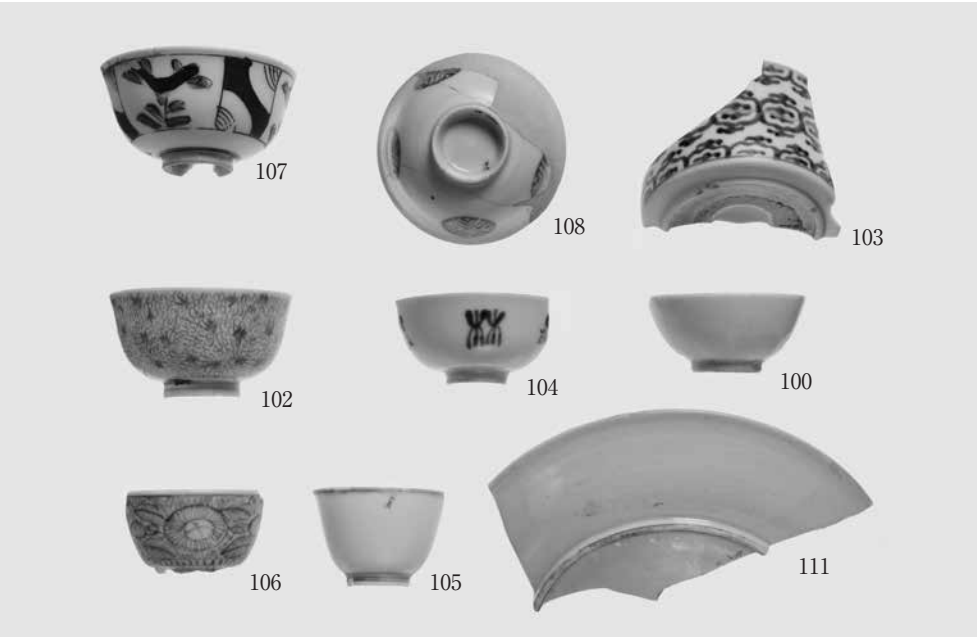


出土土器⑨

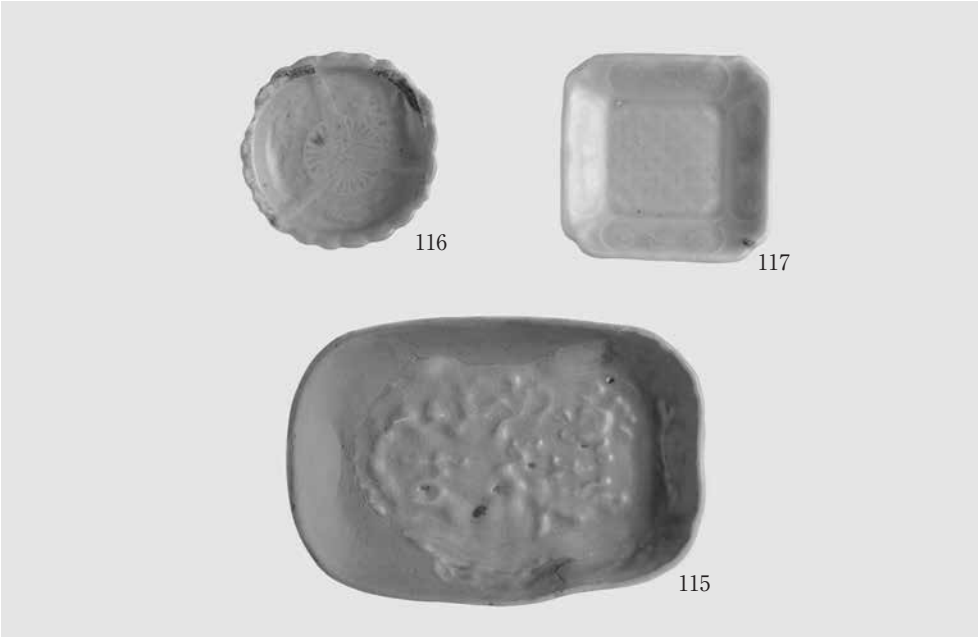




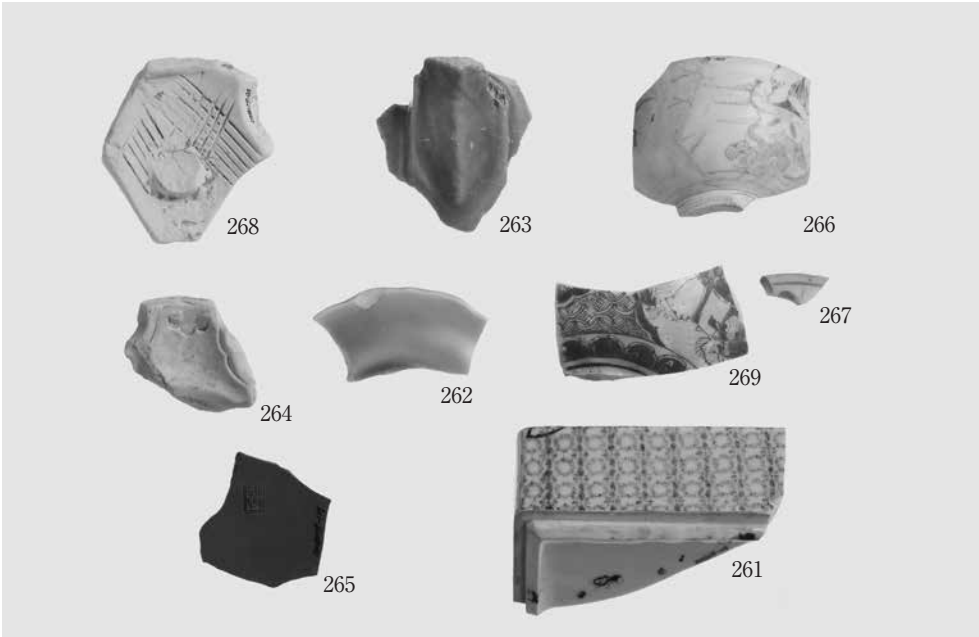
出土土器⑩



出土土器⑪



出土土器⑫



出土土器⑬

131

132

133

140

139

141

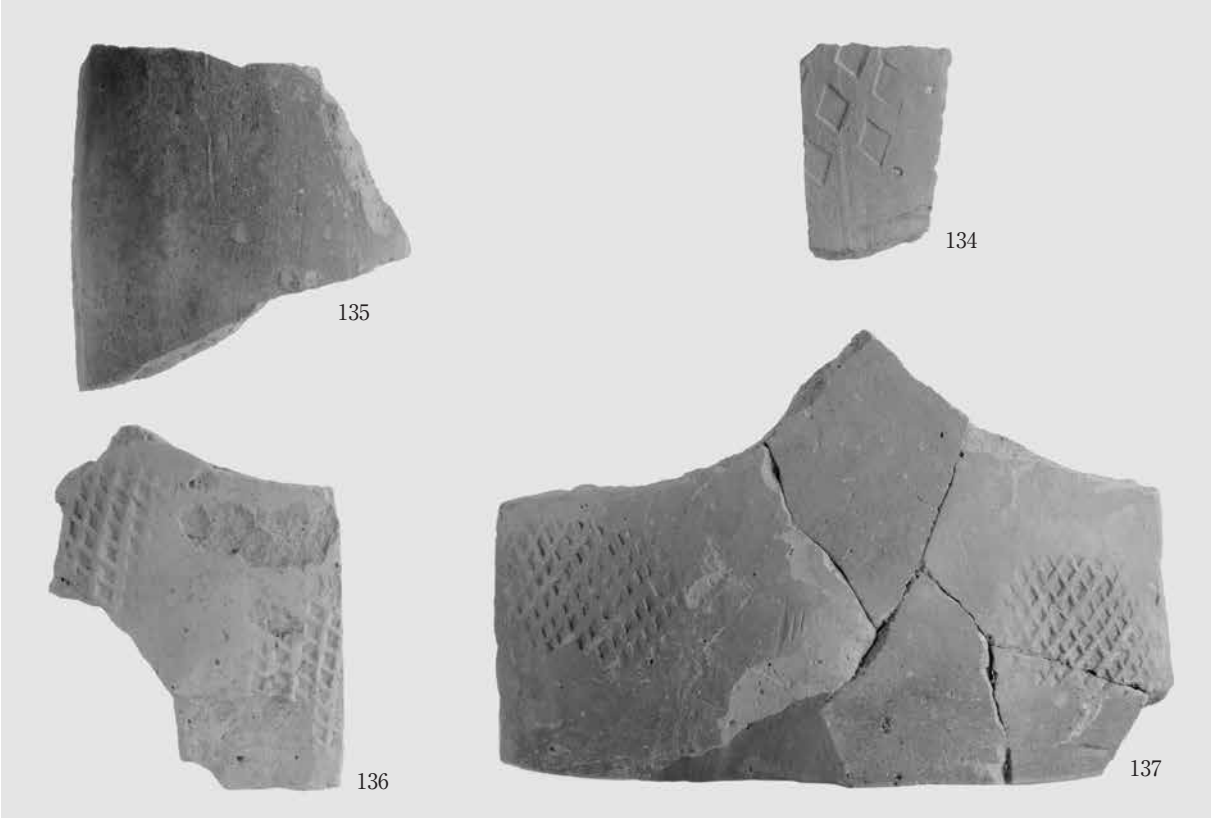
143

142

148

138

出土土器⑭



出土土器⑮

152

153

154

156

159

160

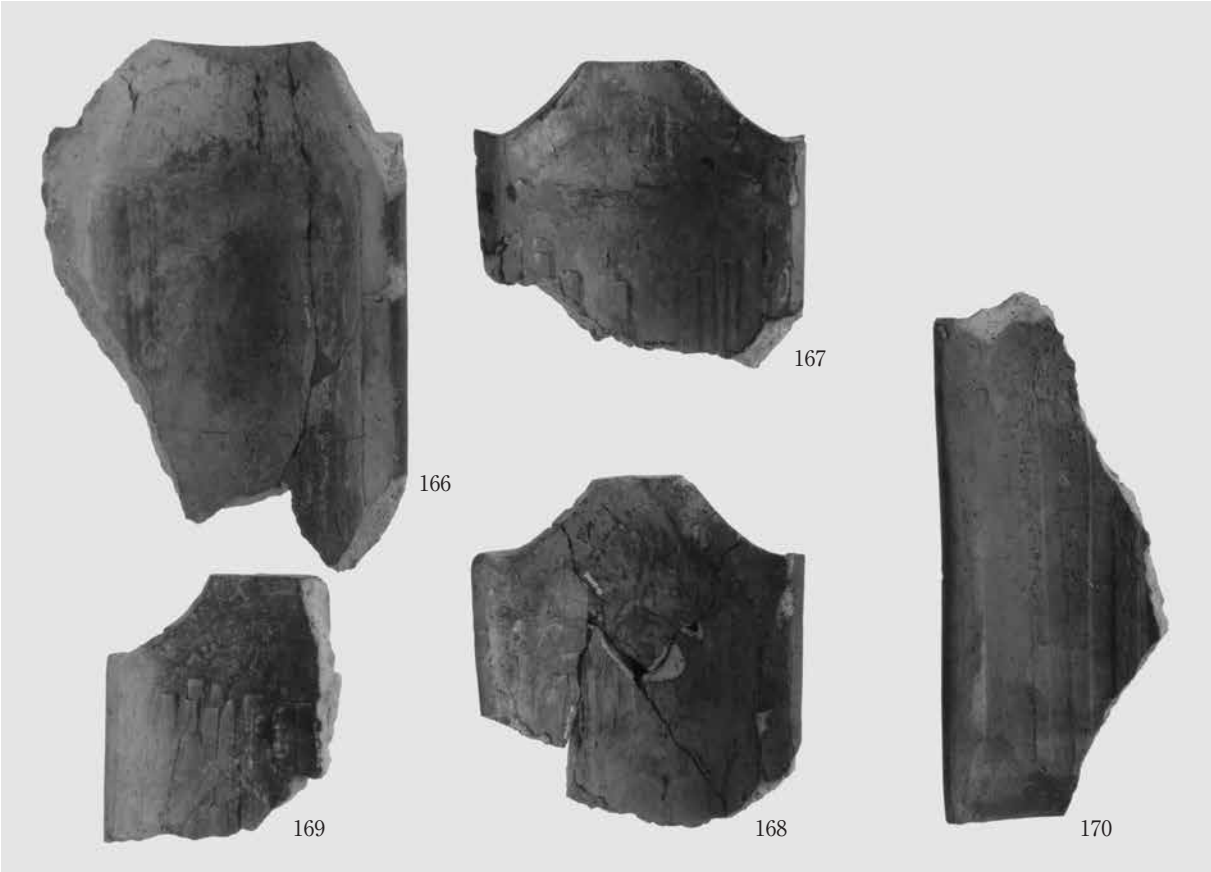
158

161

158

162

出土土器⑯



出土土器⑰

164

163

165

171

174

175

182

出土土器⑱

187

188

192

193

201

253

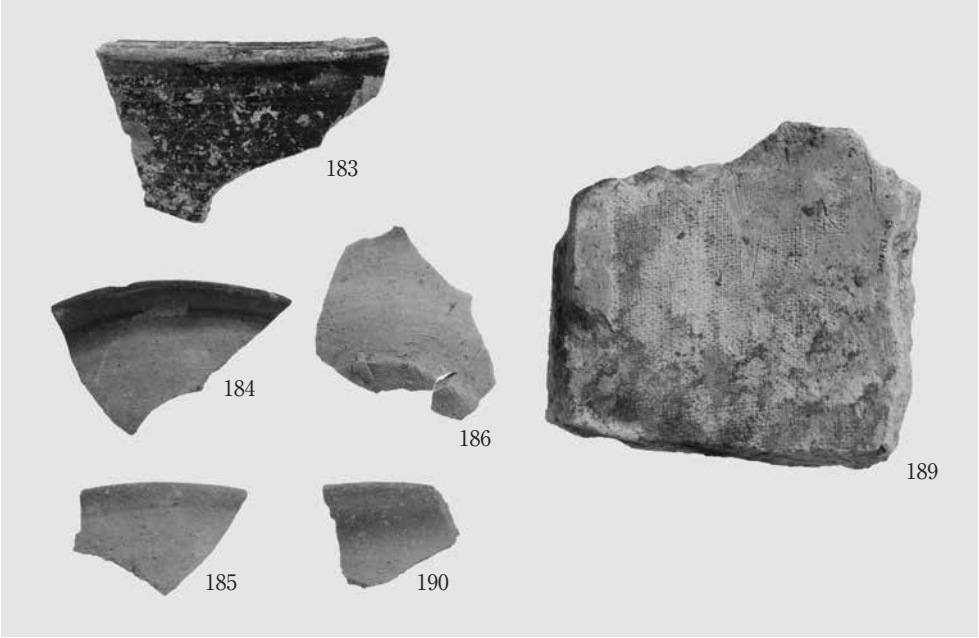
219

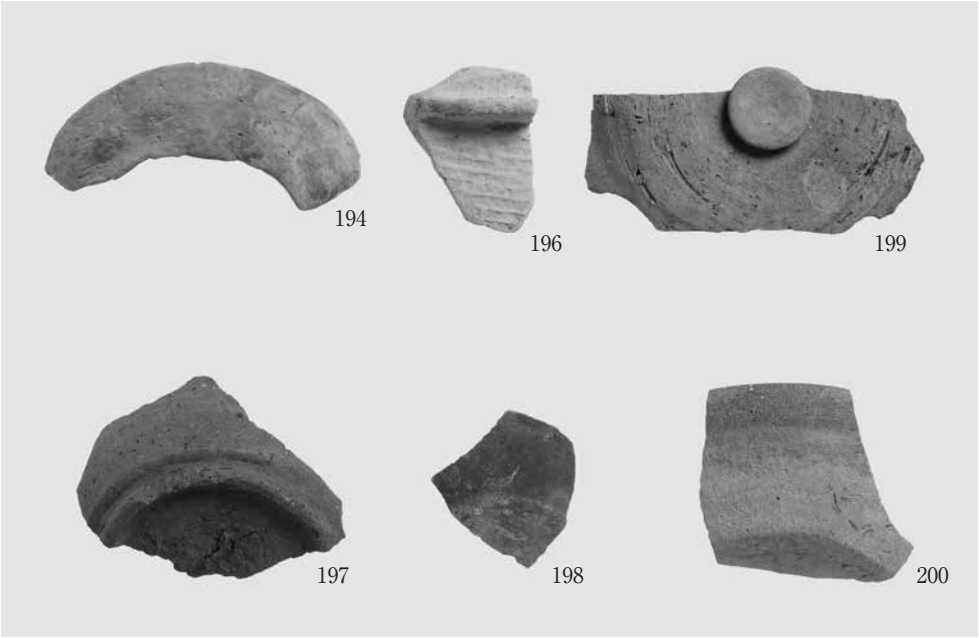
254

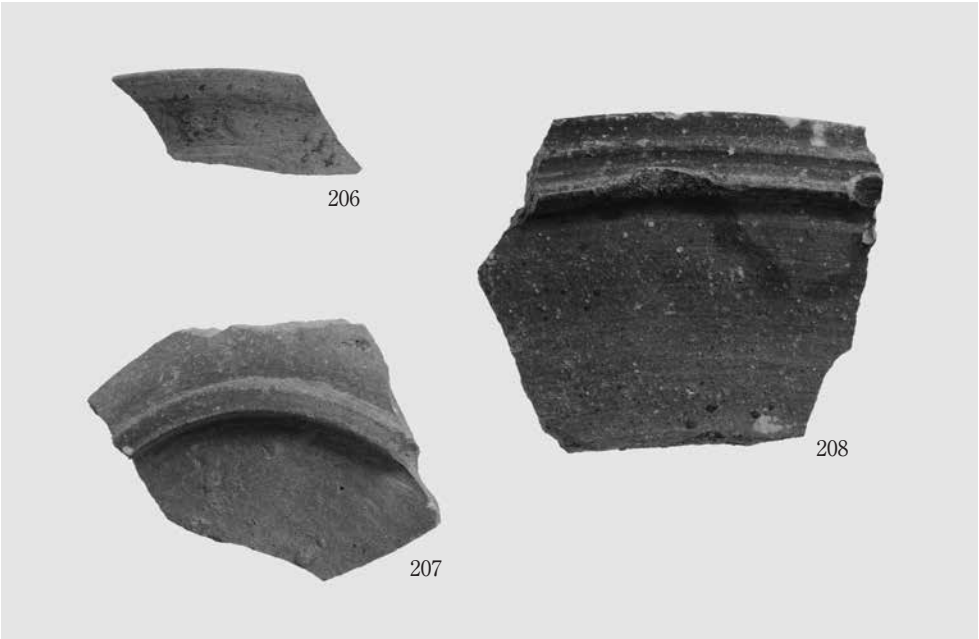
227

257

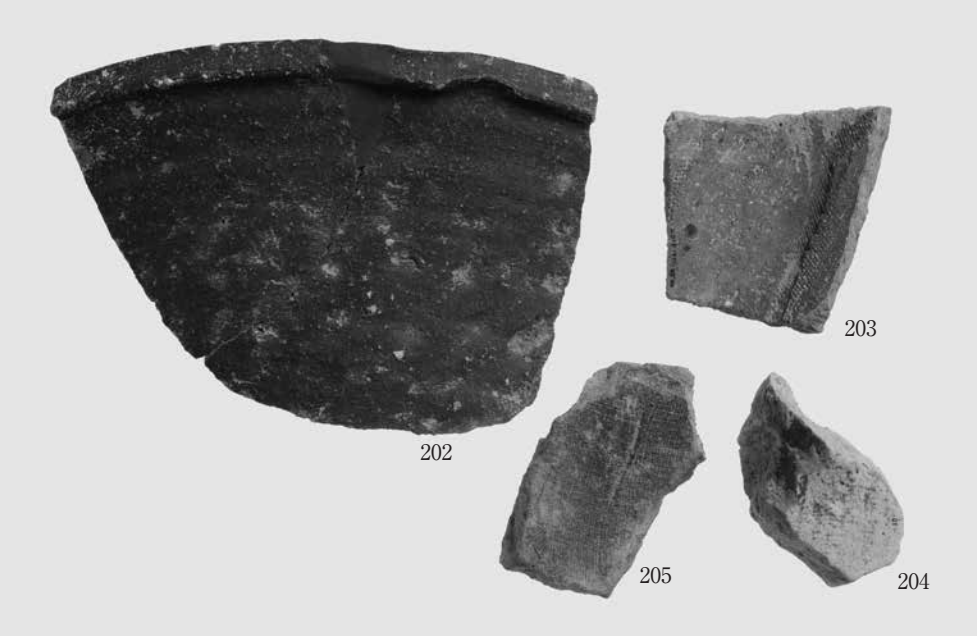
出土土器⑲



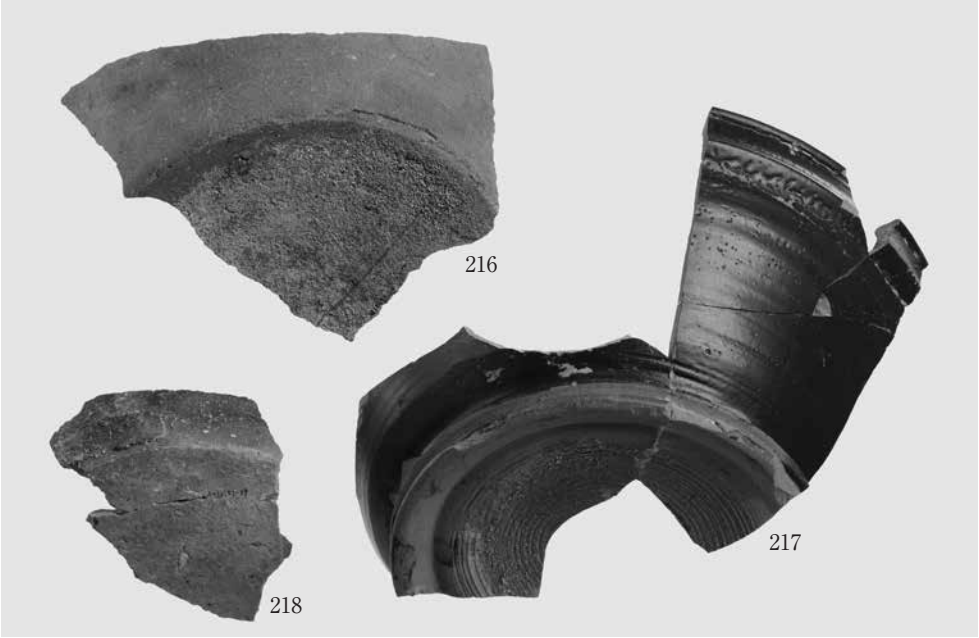


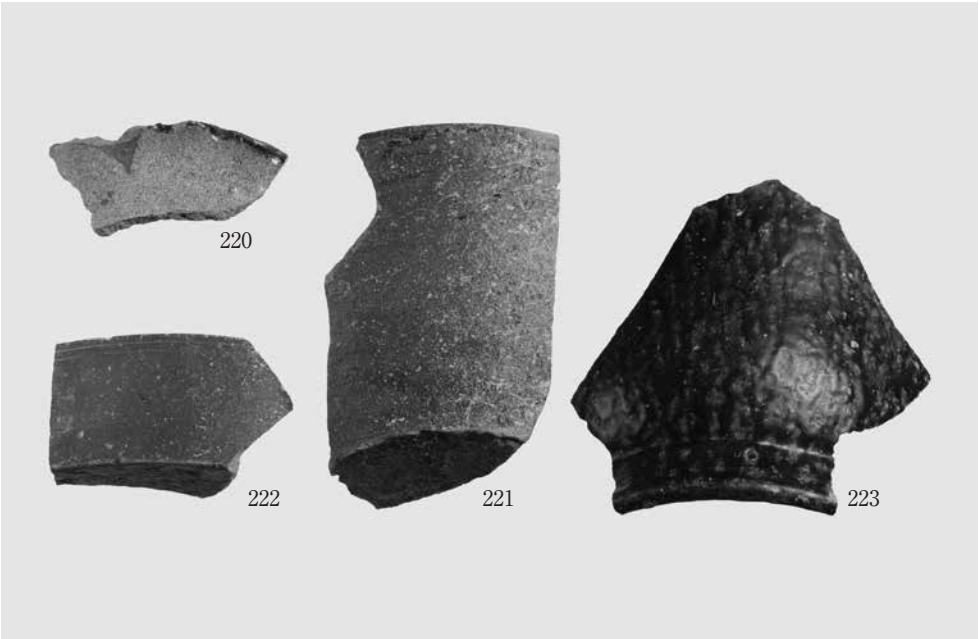


出土土器⑳

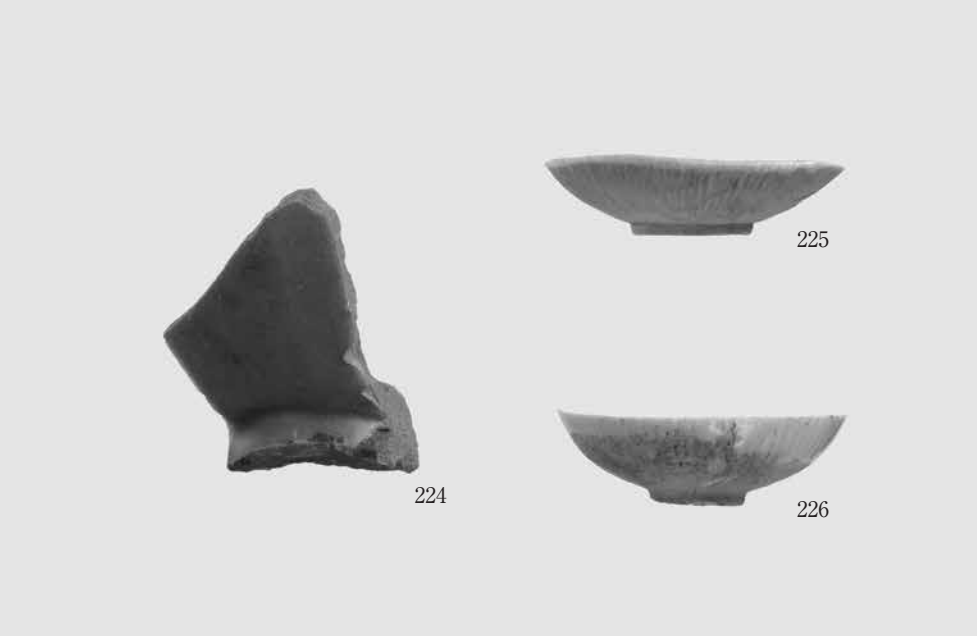


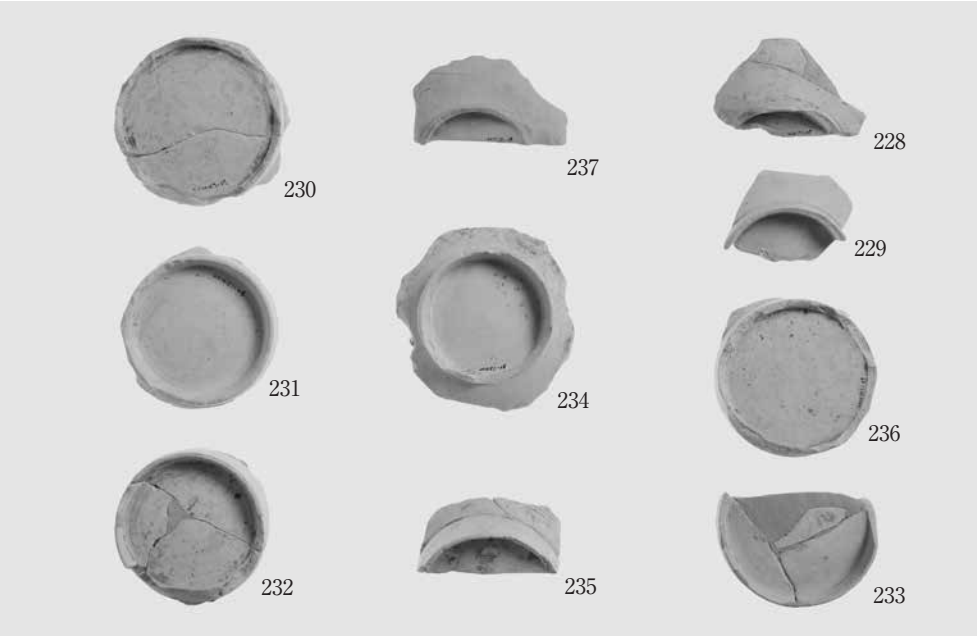
出土土器㉑

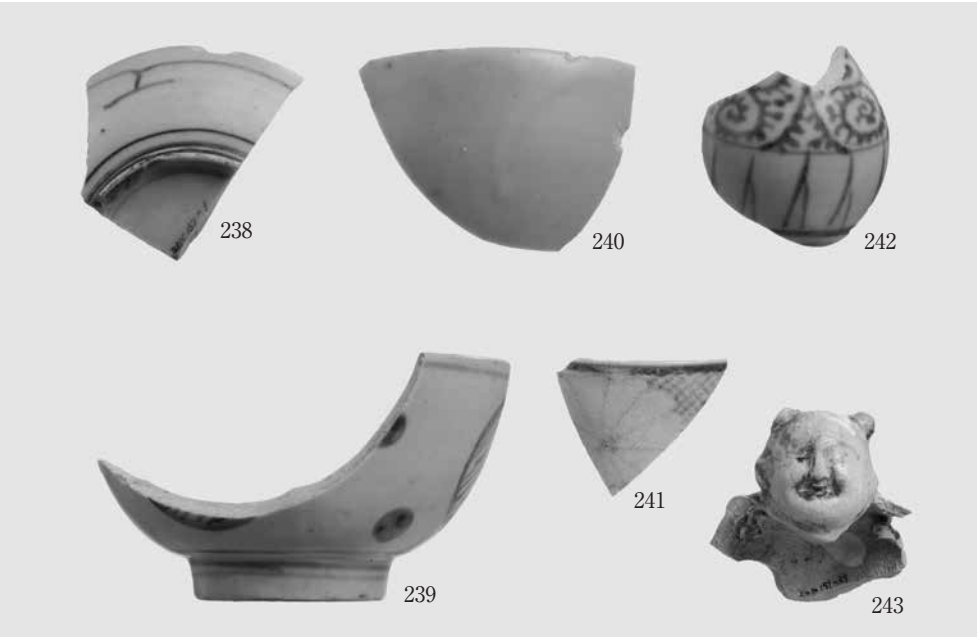




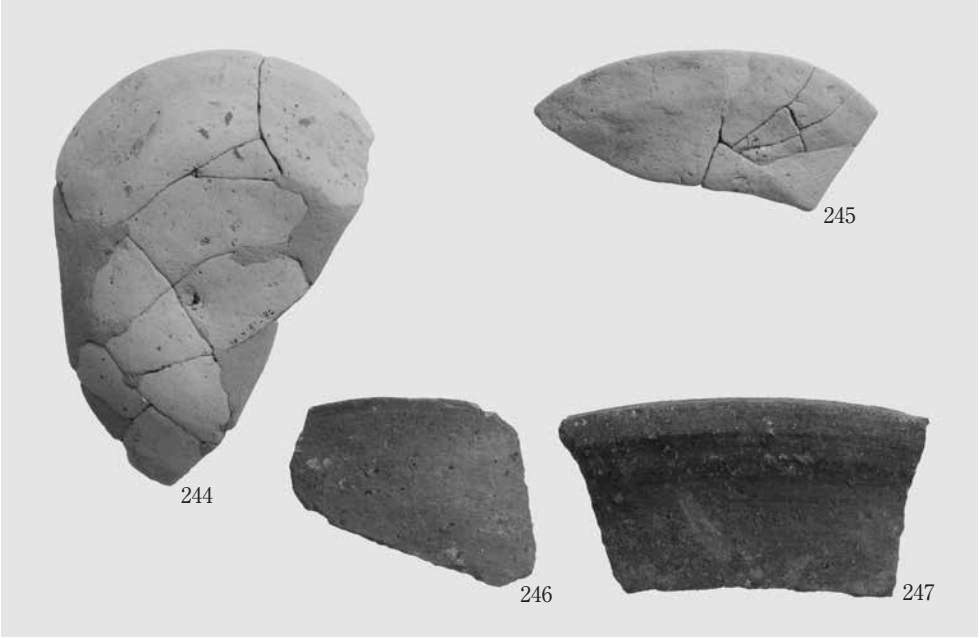
出土土器㉒

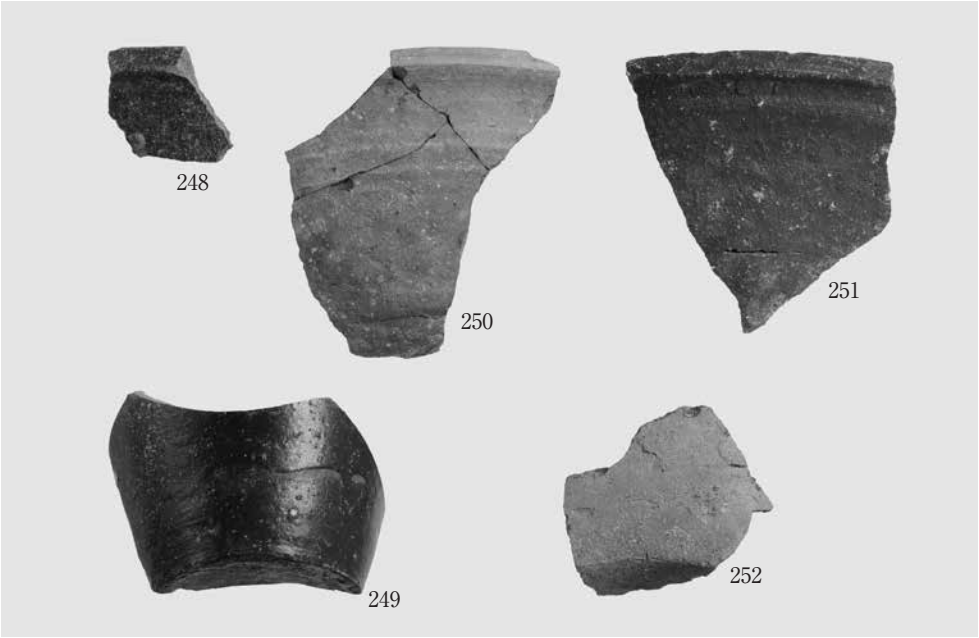

224
225
226

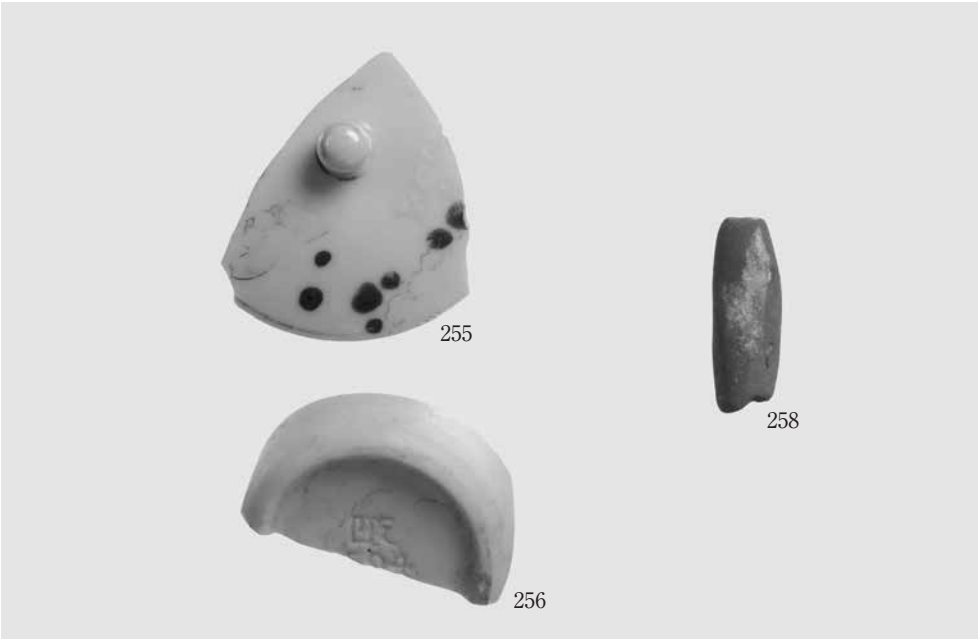

230
237
228
229
231
234
236
232
235
233


238
240
242
239
241
243

出土土器㉓



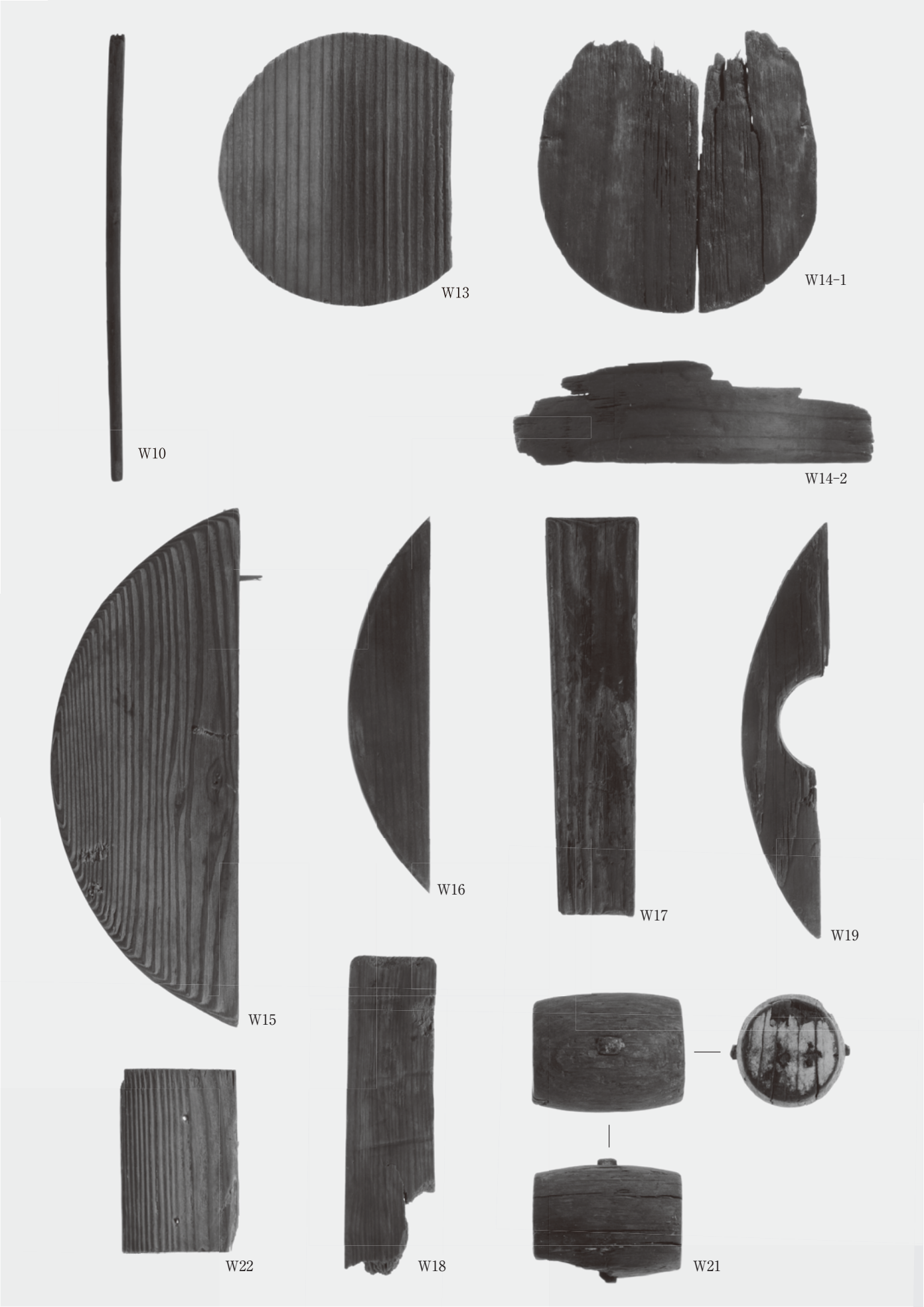




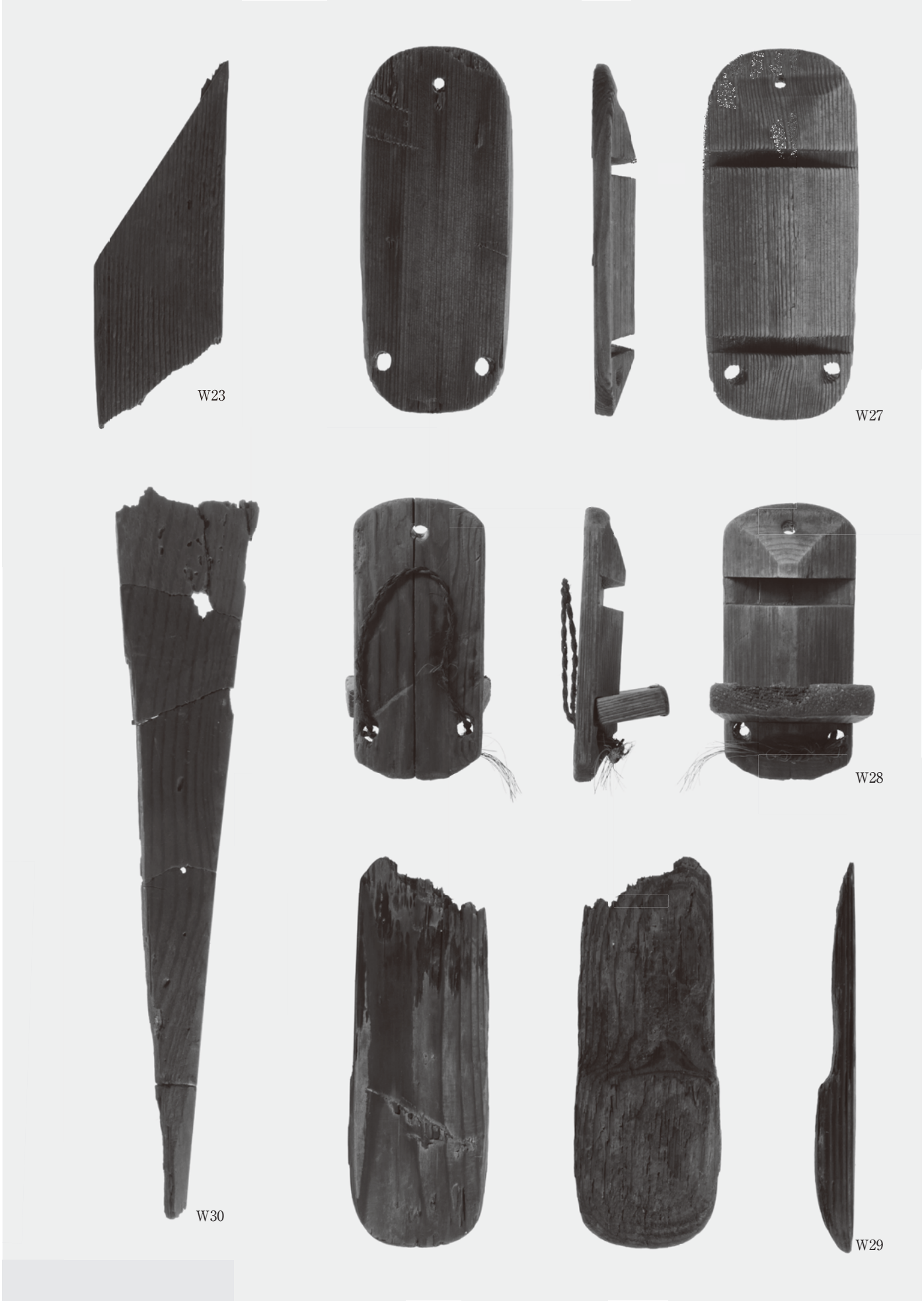
出土土器㉔

出土石器

出土木器①

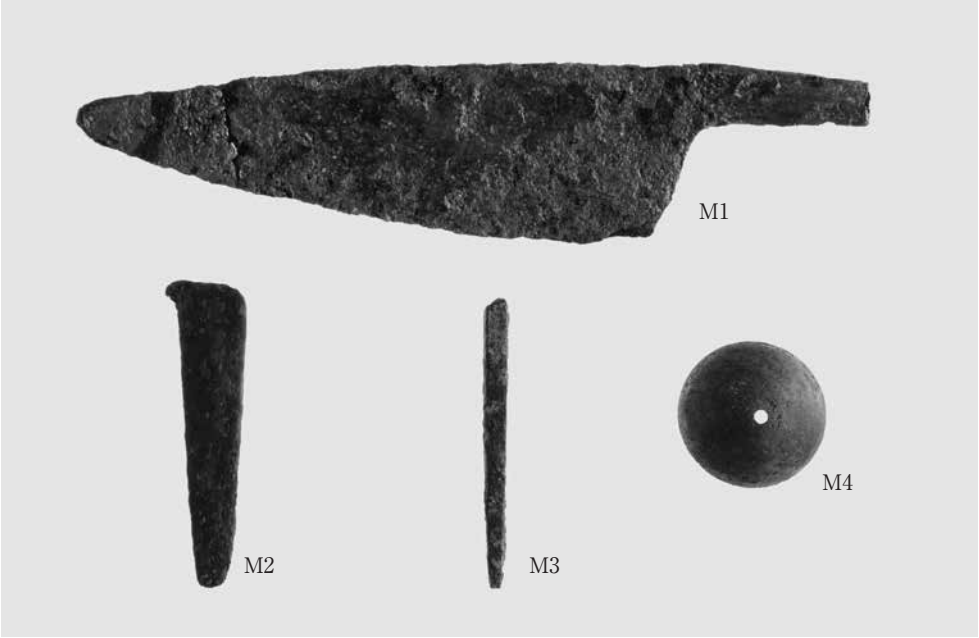


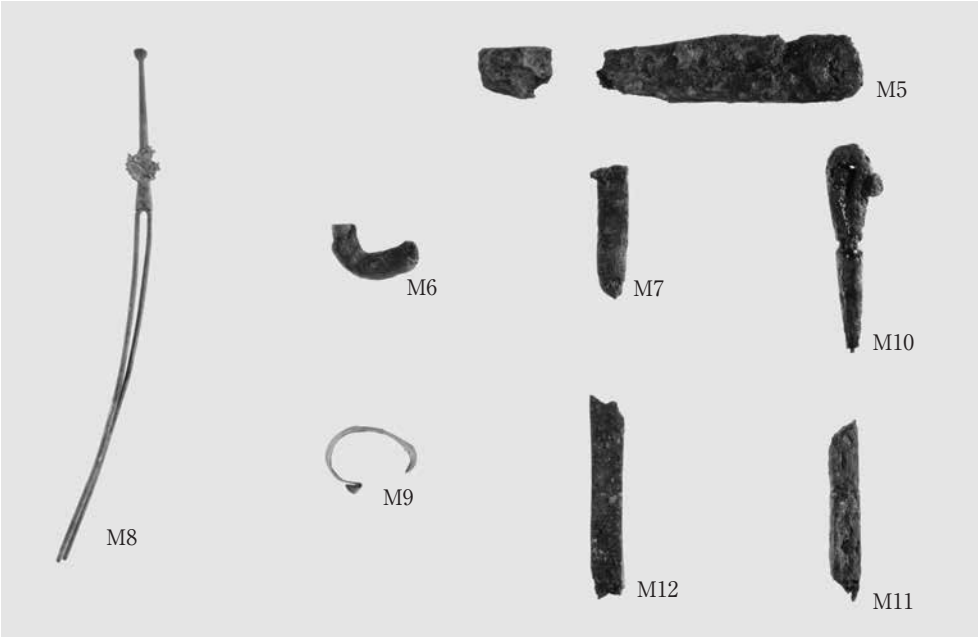
出土木器②

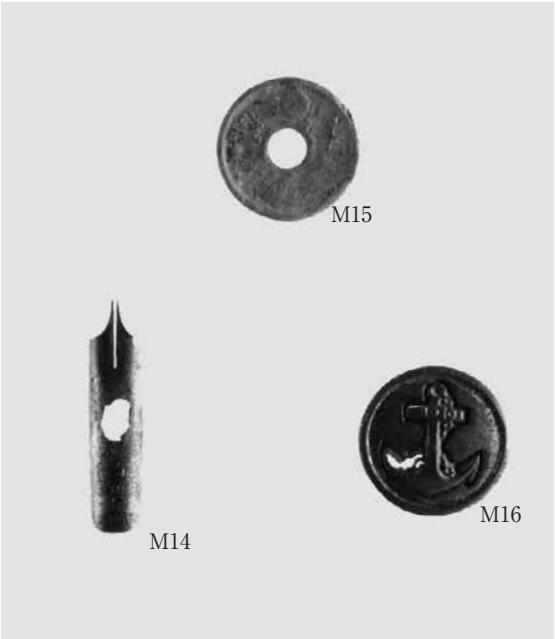


出土木器③

出土木器④







出土金属器

報告書抄録

ふりがな	おおいけのみなみいせき
書　　名	大池ノ南遺跡
副　書　名	県営三田大池住宅第２期建替事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
シリーズ名	兵庫県文化財調査報告
シリーズ番号	第 451 冊
編著者名	久保弘幸　　深江英憲　　渡辺　昇
編集機関	公益財団法人兵庫県まちづくり技術センター埋蔵文化財調査部
所　在　地	〒 675 － 0142　兵庫県加古郡播磨町大中１丁目１番１号（兵庫県立考古博物館内） TEL 079 － 437 － 5561
発行機関	兵庫県教育委員会
所　在　地	〒 650 － 8567　兵庫県神戸市中央区下山手通５丁目 10 番１号　TEL 078 － 362 － 3784
発行年月日	平成 25（2013）年３月 28 日
資料保管機関	兵庫県立考古博物館
所　在　地	〒 675 － 0142　兵庫県加古郡播磨町大中１丁目１番１号　TEL 079 － 437 － 5589

所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間（遺跡調査番号）	調査面積（㎡）	発掘原因
		市町村	遺跡番号					
大池ノ南遺跡	兵庫県三田市西山１丁目	28219	820923	34° 53′ 4″	135° 13′ 16″	20080714 ～ 20080924（2008079）	847㎡	記録保存調査
						20101005 ～ 20101022（2010151）	375㎡	

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
大池ノ南遺跡	集落	弥生時代		太型蛤刃石斧	
		奈良時代	土坑	土師器、須恵器	
		平安時代	掘立柱建物、土坑墓、柱穴	土師器、須恵器	
		江戸時代	掘立柱建物、土坑、溝、木桶、埋甕	陶磁器、青磁、瓦、庖丁、杓文字、下駄、硯、砥石、簪	

要約	大池ノ南遺跡は、武庫川西岸に位置し、周知の三田城跡の南側に水を湛える大池の南向かいに広がる台地上に立地する。当該調査箇所は、吉田茂の側近として戦後日本の復興に尽力した白洲次郎の祖父であり、幕末の三田藩政を担った白洲退蔵の屋敷跡とされる所を含めた武家屋敷跡である。今回の調査では、江戸時代の屋敷境を示す南北の溝の東側で、柱穴や木桶、丹波焼の埋甕、井戸等を検出し、当該箇所が武家屋敷跡であることを示している。A 地区の南西隅では、木杭と竹を組み合わせた護岸を持つ、堀跡と思われる落ち込みを検出した。その他、遺跡からは、奈良時代の土坑、中世前半の掘立柱建物や墓、三田高等女学校の校舎基礎等も認められた。出土遺物は、丹波焼の甕や徳利、三田青磁の皿等の地元産焼物、肥前系、瀬戸系、京都系等の焼物の他、硯・太型蛤刃石斧等の石器、簪・庖丁等の金属器、下駄・杓文字・墨書木札等の木器がある。

兵庫県文化財調査報告　第451冊

三田市

大 池 ノ 南 遺 跡

－県営三田大池住宅第２期建替事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－

平成25（2013）年３月28日　発行

編集：公益財団法人兵庫県まちづくり技術センター埋蔵文化財調査部
〒675-0142　兵庫県加古郡播磨町大中１丁目１番１号
（兵庫県立考古博物館内）

発行：兵　庫　県　教　育　委　員　会
〒650-8567　兵庫県神戸市中央区下山手通５丁目10番１号

印刷：株式会社神戸新聞総合印刷
〒650-0044　神戸市中央区東川崎町１－５－７